

奈良県保育士実態調査等 報告書

平成26年3月

奈良県

目 次

I 奈良県保育士実態調査	
I-1 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査項目	1
4. 回収結果	4
5. 報告書の見方	4
I-2 調査結果	5
1 保育士登録者用調査	5
1. 回答者の属性	5
2. 保育士として勤務している人の状況	17
3. 現任保育士で退職経験がある人の状況	53
4. 無職もしくは保育士以外の仕事に就いている人の状況	68
2 保育施設用調査	97
1. 回答施設の属性	97
2. 施設の定員・現員数	100
3. 施設の職員体制	100
4. 保育職員の職場定着に向けた取組状況	107
5. 保育士の確保に向けた採用状況	115
6. 潜在保育士の採用状況	126
II 奈良県指定保育士養成施設調査	
II-1 調査の概要	143
1. 調査目的	143
2. 調査対象・回収結果	143
II-2 調査結果	144
1 施設用調査	144
1. 認可保育所に就職した学生の状況	144
2. 実施している就職支援策	145
3. 卒業生に対する就職支援策	145
4. 自由意見	146

2 学生用調査	147
1. 保育士としての就職希望	147
2. 保育士として就職を希望しない理由と今後の希望	148
3. 保育士の就労や労働環境についての意見等	150
Ⅲ 保育施設ヒアリング調査	
Ⅲ-1 ヒアリング調査の概要	151
1. 調査目的	151
2. 調査対象施設	151
3. ヒアリング実施時期	151
Ⅲ-2 ヒアリング調査結果	152
Ⅳ 奈良県保育士実態調査有識者検討会	
1. 第1回検討会	163
2. 第2回検討会	166
Ⅴ 奈良県の保育士確保対策について	
1. 基本的な考え方	171
2. 具体的な取組み方策	172
(1) 保育士人材バンクの設置運営	172
(2) 県における保育士の養成	173
3. 継続的な検討が必要事項	174
資 料	
1. 保育士登録者用調査票	175
2. 保育施設用調査票	188
3. 保育士養成施設用調査票	199

I 奈良県保育士実態調査

I 奈良県保育士実態調査

I - 1 調査の概要

1. 調査目的

平成27年度からの本格実施が予定されている子ども・子育て支援新制度への移行に向けた保育需要の増大に対応するため、「潜在保育士（現在は離職している保育士資格取得者）」の実態や就労意向、並びに現任保育士の勤務実態を把握し、保育士の再就職や職場定着等に向けた支援方策を検討するための基礎資料を得る。

2. 調査設計

本調査は「保育士登録者用調査」と「保育施設用調査」の2種類の調査を実施した。各調査の対象と実施方法等は次のとおりである。

(1) 保育士登録者用調査

- ・調査対象： 奈良県に保育士として登録している者、17,260人の中から6,000人を無作為抽出
- ・抽出方法： 市町村ごとの系統抽出
- ・調査方法： 郵送による調査票の配布、回収
- ・調査期間： 平成25年9月6日～9月20日

(2) 保育施設用調査

- ・調査対象： 県内の認可保育所（公立109施設、私立99施設）及び認可外保育施設77施設（悉皆調査）
- ・調査方法： 郵送による調査票の配布、回収
- ・調査期間： 平成25年9月6日～9月20日

3. 調査項目

(1) 保育士登録者用調査

調査項目	質問項目
① 回答者の属性	<ul style="list-style-type: none">・年齢、性別・保育士資格取得年月と取得方法・現在の住所地・配偶者の有無・主たる生計者・子どもの有無、家族介護の有無・保育士以外に取得している資格・免許、保育士としての通算就業年数、保育士として勤務した認可保育所の箇所数・所得を伴う就業の有無

調査項目	質問項目
② 保育士として勤務している人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の就業先、担当クラス ・現職場での就業年数 ・雇用形態 ・週あたりの平均的な労働時間 ・勤務地と通勤時間の現状と希望 ・年収 ・現在の労働条件や労働環境に対する評価 ・仕事に関する不満や悩み等の相談機関の利用希望 ・やりがいに感じる事 ・保育現場で対応が難しいと感じている事 ・保育士になってから支援・活用した制度等 ・今後の就業意向／保育士として働きたい理由、働きたくない・働かない理由
③ 現任保育士で退職経験がある人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間 ・直近に退職した勤務先、退職理由 ・現在の職場を選んだ理由 ・求職の際利用した・就職に結びついた施設や媒体 ・現在の職場で利用した支援や制度等 ・再就職前後での研修受講状況 ・再就職時に希望した雇用形態、再就職時に希望した週あたりの労働時間
④ 無職もしくは保育士以外の仕事に就いている人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士として就業経験の有無、就業先・就業先の退職理由、保育士の仕事をしていない理由 ・今後の就業希望、〈希望なし〉就業希望がない理由、〈希望あり〉保育士として働きたい理由、再就職の希望時期・希望勤務施設、希望雇用形態、希望する週あたりの労働時間、希望する勤務地と通勤時間 ・再就職に際し不安に思う事 ・再就職に必要な支援・制度等 ・保育士登録制度の活用意向 ・再就職時の研修受講希望 ・求職の際利用している・利用したい施設や媒体 ・求職活動の取組みの状況、就職できない理由・求職活動をしなない理由
⑤ 保育士の就労や労働環境等に関する意見等（自由記述）	

(2) 保育施設用調査

調査項目	質問項目
① 回答施設の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所在市町村 ・ 施設種類 ・ 設置主体、運営主体 ・ 設置年月
② 施設の定員・現員数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員・現員数
③ 施設の職員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職種・雇用形態・常勤・非常勤別職員数 ・ 常勤正職員・保育士の週あたりの平均的な実働時間 ・ 常勤保育士の平均年齢・勤続年数・給与等 ・ 常勤非正規・保育士の配置状況、雇用形態別の平均年齢・勤続年数・給与等
④ 保育職員の職場定着に向けた取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度中の自己都合による退職人数 ・ 保育士の職場定着のための取組内容、今後の取り組みたいこと ・ 保育士を安定的に雇用するために望む公的支援
⑤ 保育士の確保に向けた採用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の新卒・新卒外の採用予定数・採用数 ・ 採用意向のあった雇用区分・理由と実際の応募状況 ・ 求人しているスタッフのタイプ、保育士に求める技術・知識、新卒外での採用の場合の保育士実務経験の程度、非採用の理由 ・ 実施している求人手段と効果評価 ・ 保育士確保の困難度
⑥ 潜在保育士の採用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直近3年間の潜在保育士の雇用有無、〈雇用あり〉雇用形態・スタッフのタイプ・性別・年代・実務経験の程度・雇用の際の工夫点、〈雇用なし〉雇用しない・できない理由、雇用条件・形態等のミスマッチの理由 ・ 潜在保育士の雇用で効果があると思う取組 ・ 保育士の雇用に関し望む支援 ・ 潜在保育士雇用のメリット・デメリット ・ 保育士有資格者が保育士として就労しない理由
⑦ 保育行政に関する意見等（自由記述）	

4. 回収結果

	発送数	回収数	無効票	有効回収数	有効回収率
保育士登録者用調査	6,000	2,981	0	2,981	49.7%
保育施設用調査	285	232	0	232	81.4%

5. 報告書の見方

- (1) 図中の n (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (n) を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は100.0%を超える。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0%」と示している。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- (5) 図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 - ・ 5 LA % (5 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを5つ以内で選択する場合

I - 2 調査結果

1 保育士登録者用調査

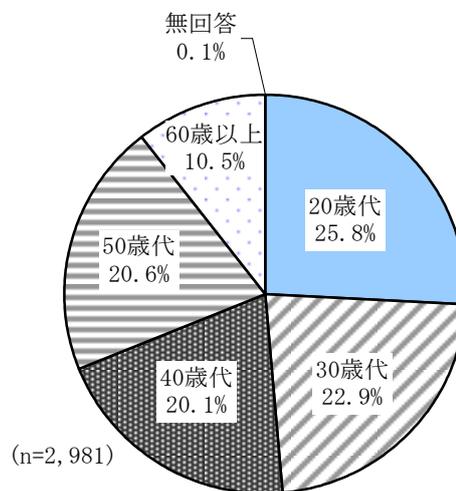
1. 回答者の属性

問1 あなたご自身のことについておうかがいします。

(1) 回答者の年齢

回答者の年齢は、20歳代が25.8%で最も多く、次いで30歳代が22.9%、50歳代が20.6%となっている。(図II1-1)

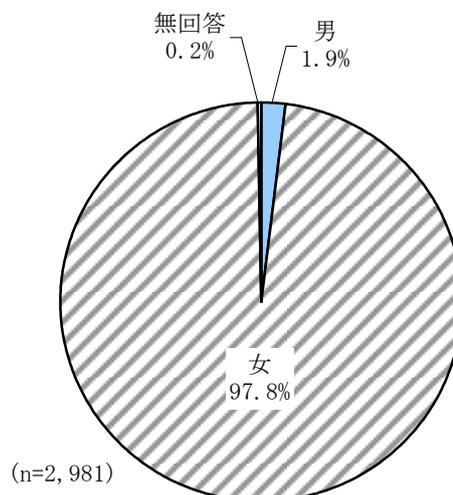
【図II1-1 回答者の年齢】



(2) 回答者の性別

回答者の性別は、「女」が97.8%に対し「男」は1.9%と少ない。(図II1-2)

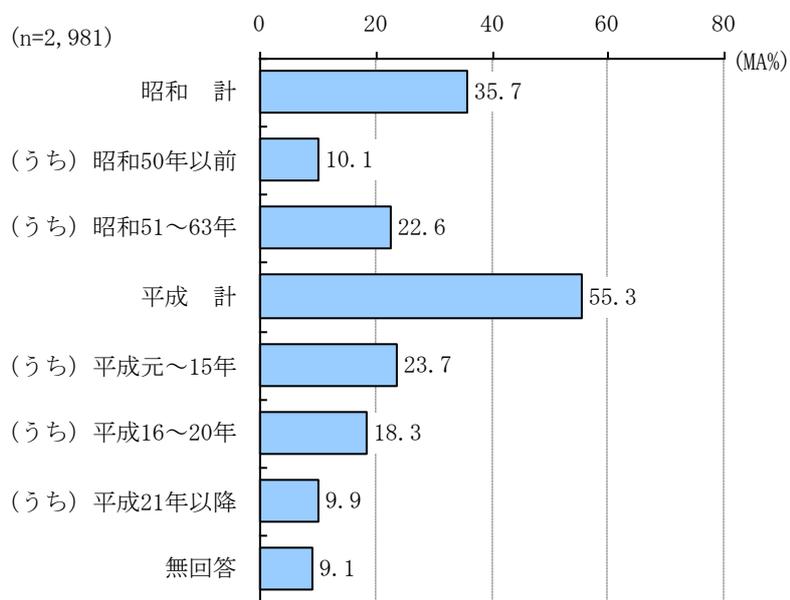
【図II1-2 回答者の性別】



(3) 保育士資格取得年月と取得方法

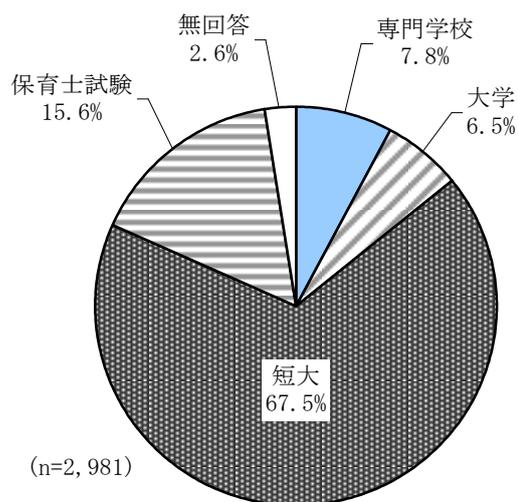
保育士資格の取得年月は、「平成元～15年」が23.7%で最も多く、次いで「昭和51～63年」が22.6%、「平成16～20年」が18.3%となっている。(図Ⅱ1-3)

【図Ⅱ1-3 保育士資格取得年月】



保育士資格の取得方法は、「短大」が67.5%で最も多く、次いで「保育士試験」が15.6%、「専門学校」が7.8%となっている。(図Ⅱ1-4)

【図Ⅱ1-4 保育士資格取得方法】



(4) 居住地

回答者の居住地を圏域で見ると、「奈良圏域」が56.1%で最も多く、次いで「中和圏域」が15.1%、「西和圏域」が10.7%となっている。(図Ⅱ1-6)

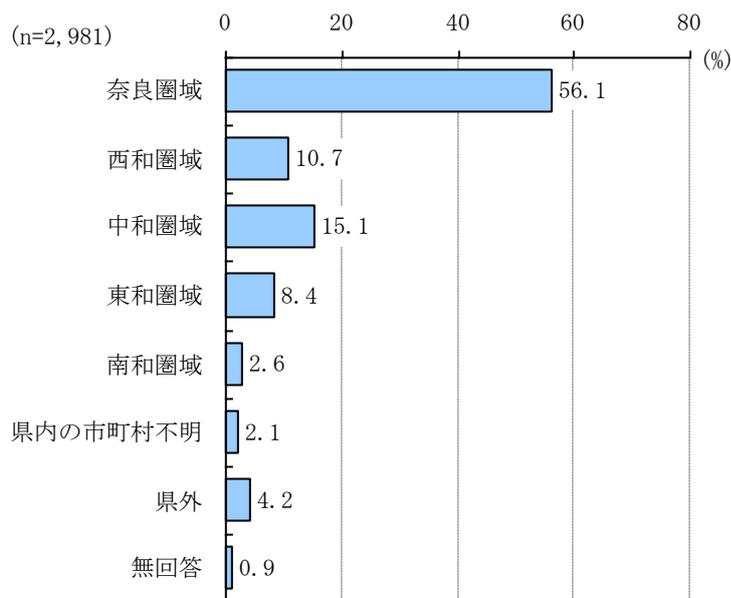
【図Ⅱ1-5 居住地】

n	西和											中和			
	奈良市	大和郡山市	生駒市	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町	大和高田市	橿原市	御所市	香芝市	
2,981	56.1	3.3	3.5	0.7	0.5	0.7	0.2	0.6	0.7	0.5	2.1	5.0	1.7	3.1	

中和				東和								南和	
葛城市	高取町	明日香村	広陵町	天理市	桜井市	宇陀市	山添村	川西町	三宅町	田原本町	曾爾村	御杖村	五條市
1.5	0.2	0.1	1.4	2.7	2.3	1.5	0.2	0.3	0.3	0.9	0.1	-	1.1

南和											明	県内	県外	無回答
吉野町	大淀町	下市町	黒滝村	天川村	野迫川村	十津川村	下北山村	上北山村	川上村	東吉野村	明	県内	県外	無回答
0.3	0.8	0.1	0.1	-	-	0.1	-	-	-	0.1	2.1	4.2	0.9	

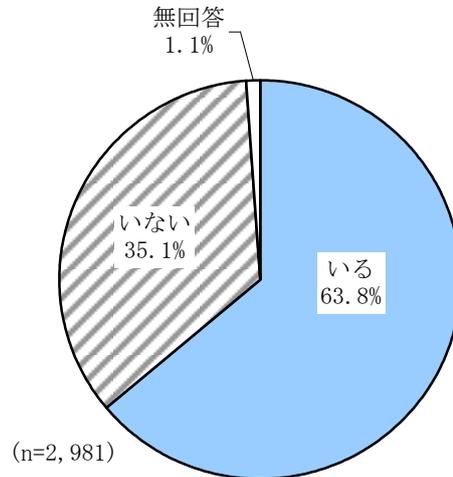
【図Ⅱ1-6 居住圏域】



(5) 配偶者の有無

配偶者がいる回答者は63.8%に対し、いないが35.1%となっている。(図Ⅱ1-7)

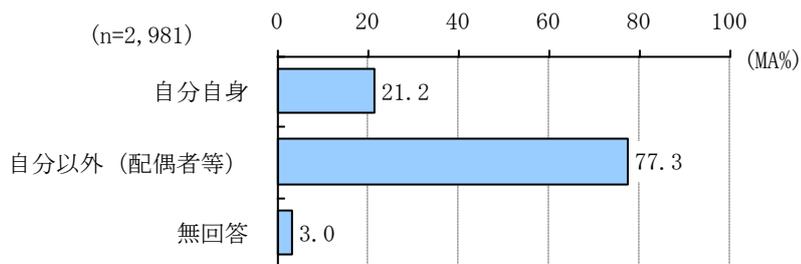
【図Ⅱ1-7 配偶者の有無】



(6) 家計の主たる生計者

家計の主たる生計者は、「自分以外(配偶者等)」が77.3%に対し、「自分自身」は21.2%となっている。(図Ⅱ1-8)

【図Ⅱ1-8 家計の主たる生計者】



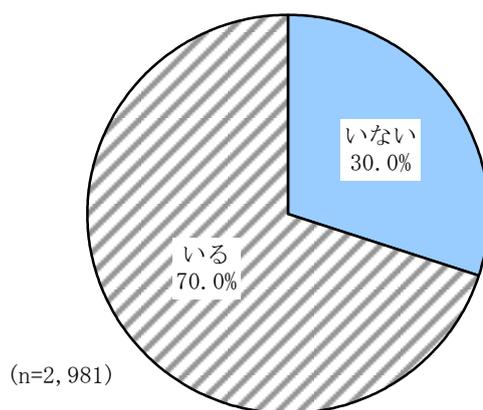
(7) 子どもの有無

①子どもの人数と末子の年齢

問2 お子さんがいる場合はその人数と末子の年齢をご記入ください。

子どもの有無について、「いる」が70.0%に対し、「いない」が30.0%となっている。
(図Ⅱ1-9①)

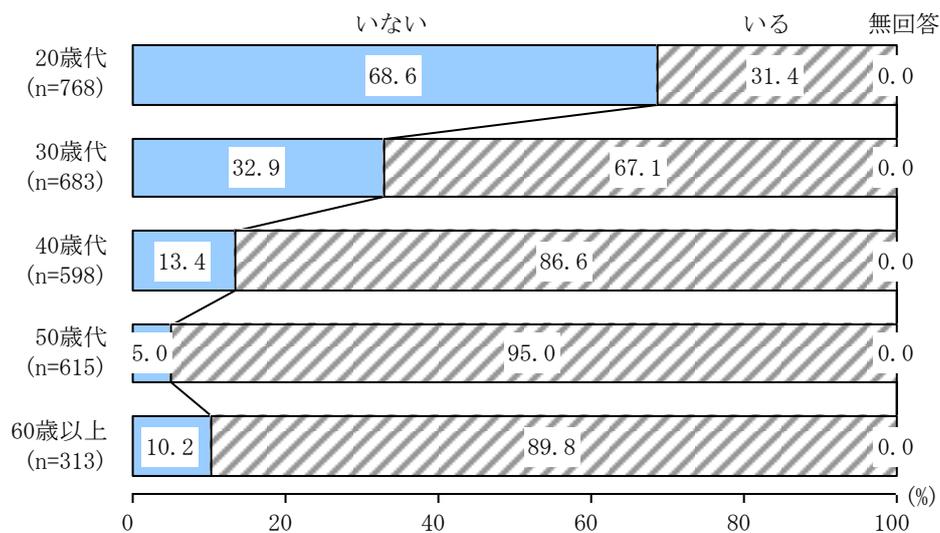
【図Ⅱ1-9① 子どもの有無】



【年齢別】

子どもがいる割合は、年齢が上がるとともに上昇し、20歳代で子どもがいる人は3人に1人(31.4%)、30歳代では3人に2人(67.1%)となっている。(図Ⅱ1-9②)

【図Ⅱ1-9② 年齢別 子どもの有無】

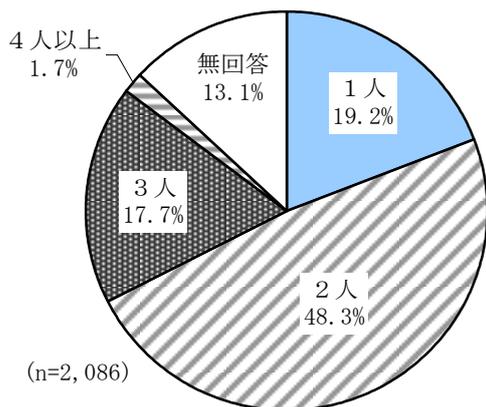


「いる」と回答した人に子どもの人数をたずねると、「2人」が48.3%で最も多く、次いで「1人」が19.2%、「3人」が17.7%で、平均人数は2.0人となっている。(図Ⅱ1-10)

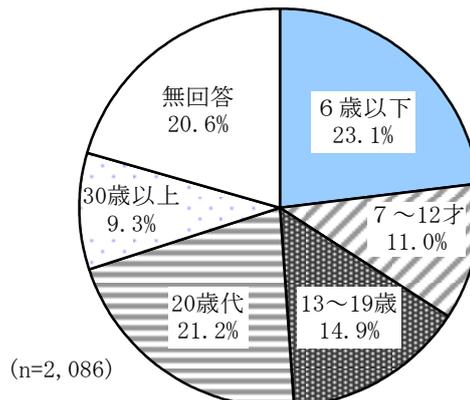
末子の年齢は、「6歳以下」が23.1%で最も多く、次いで「20歳代」が21.2%、「13～19歳」が14.9%で、平均年齢は15.5歳となっている。(図Ⅱ1-11①)

回答者の年齢別で末子の平均年齢をみると、20歳代は1.0歳、30歳代は3.7歳、それ以上の年代では12歳以上となっている。

【図Ⅱ1-10 子どもの人数】



【図Ⅱ1-11② 末子の年齢】



【図Ⅱ1-11② 回答者の年齢別 末子の年齢】

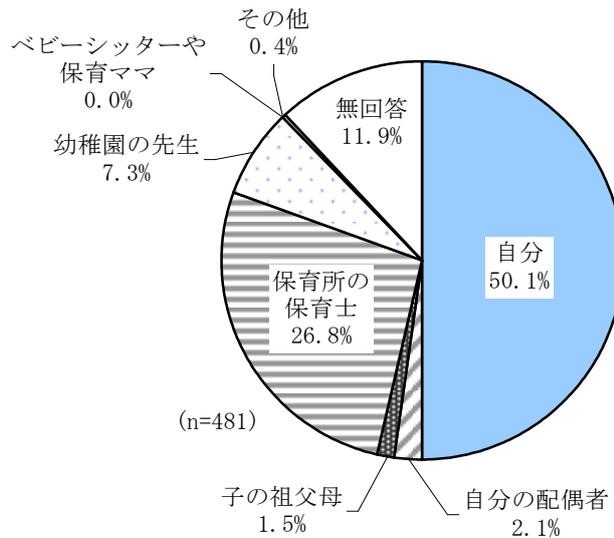
	回答者の年齢					
	全 体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
n 数	1,657	125	359	449	510	214
末子の平均年齢(歳)	15.5	1.0	3.7	12.3	23.1	32.2

②就学前の子どもの日中の主な保育者

問2-1 小学校就学前のお子さんがある方におうかがいします。末子のお子さんの日中の主な保育者はどなたですか。(休日を除く。○は1つ)

就学前の子どもの日中の主な保育者は、「自分(回答者自身)」が50.1%で最も多く、次いで「保育所の保育士」が26.8%、「幼稚園の先生」が7.3%となっている。(図Ⅱ1-12①)

【図Ⅱ1-12① 就学前の子どもの日中の主な保育者】



【年齢別】

就学前の子どもの日中の主な保育者について、回答者の年齢別でみると、末子に就学前の子どもが多い20・30歳代では「自分(回答者自身)」が最も多く、20歳代では69.1%、30歳代では47.9%を占めている。これに次いで20・30歳代とも「保育所の保育士」が多くなっているが、30・40歳代に比べ20歳代のその割合は低くなっている。(図Ⅱ1-12②)

【図Ⅱ1-12② 年齢別 就学前の子どもの日中の主な保育者】

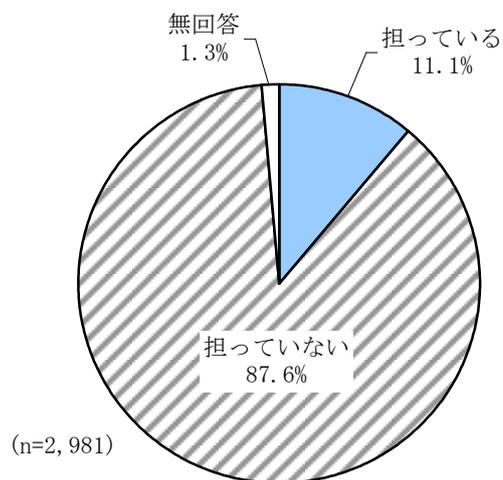
	n	自分	自分の配偶者	子の祖父母	保育所の保育士	幼稚園の先生	やベビーシッターや保育ママ	その他	無回答
20歳代	123	69.1	3.3	2.4	17.1	-	-	-	8.1
30歳代	288	47.9	2.1	1.0	29.2	8.7	-	0.7	10.4
40歳代	66	27.3	-	1.5	36.4	15.2	-	-	19.7
50歳代	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
60歳以上	3	-	-	-	-	-	-	-	100.0

(8) 家族介護の有無

問3 あなたは家族の介護を担っていますか。

家族介護を「担っている」が11.1%に対し、「担っていない」は87.6%となっている。
(図Ⅱ1-13①)

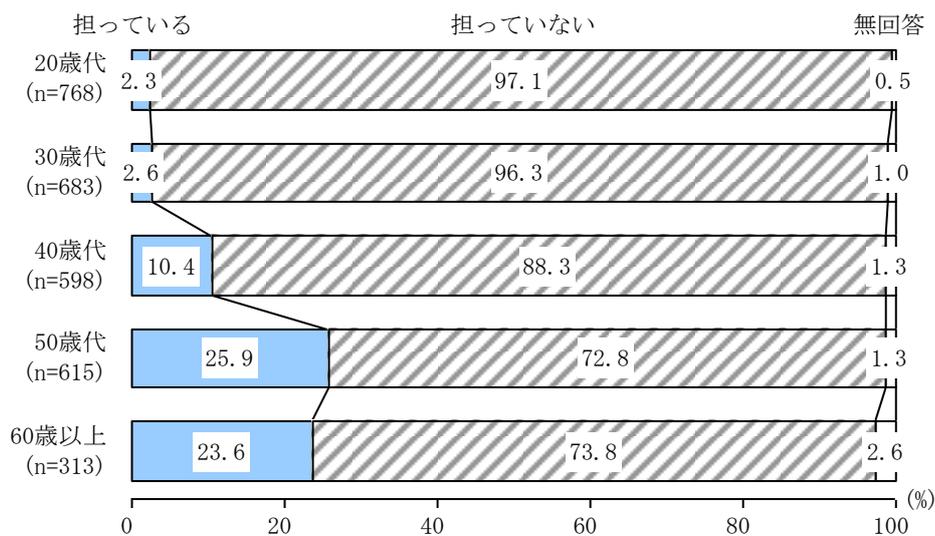
【図Ⅱ1-13① 家族介護の有無】



【年齢別】

家族介護を担っている割合は、50歳以上の各年代で高く、ほぼ4人に1人となっている。
(図Ⅱ1-13②)

【図Ⅱ1-13② 年齢別 家族介護の有無】

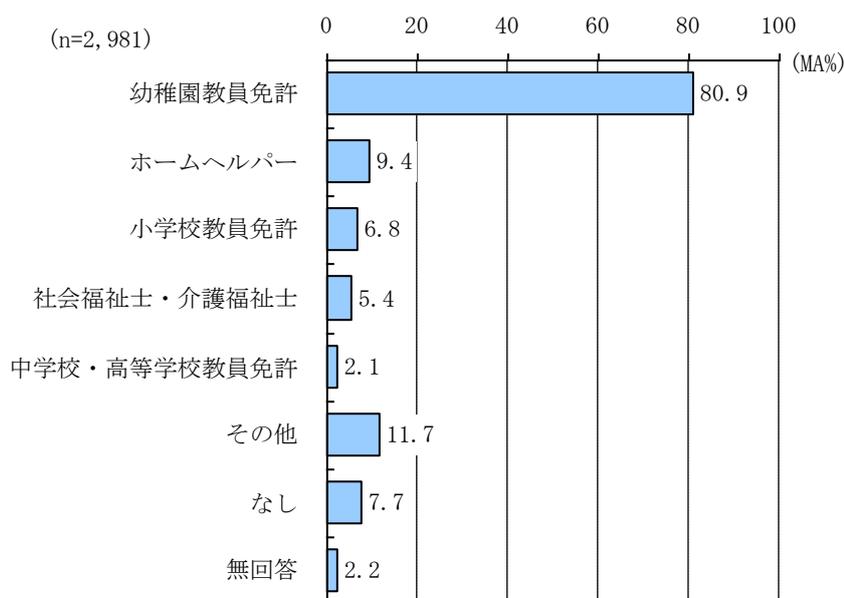


(9) 保育士以外に取得している資格・免許

問4 あなたが保育士以外に取得している資格・免許は次のどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

保育士以外に取得している資格・免許は、「幼稚園教員免許」が80.9%で最も多く、次いで「ホームヘルパー」が9.4%、「小学校教員免許」が6.8%となっている。(図Ⅱ1-14)

【図Ⅱ1-14 保育士以外に取得している資格・免許】

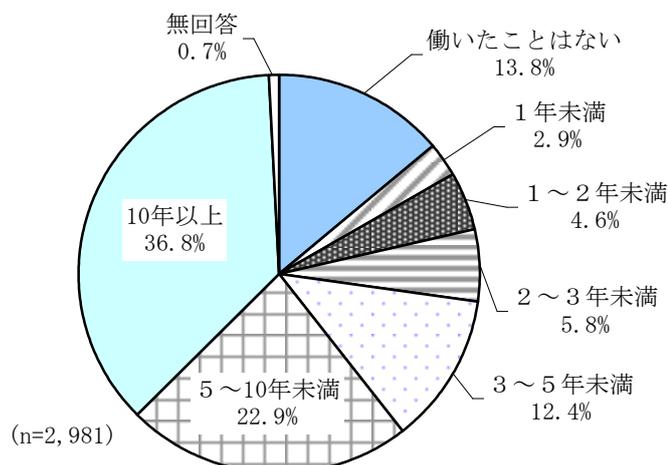


(10) 保育士勤務の通算就業年数

問5 あなたが保育士として働いたことがある場合、通算就業年数はどれぐらいですか。(〇は1つ)

保育士としての通算就業年数は、「10年以上」が36.8%で最も多く、次いで「5～10年未満」が22.9%となっており、5年以上が約6割を占める。一方、「働いたことはない」との回答が13.8%となっている。(図Ⅱ1-15)

【図Ⅱ1-15 保育士勤務の通算就業年数】

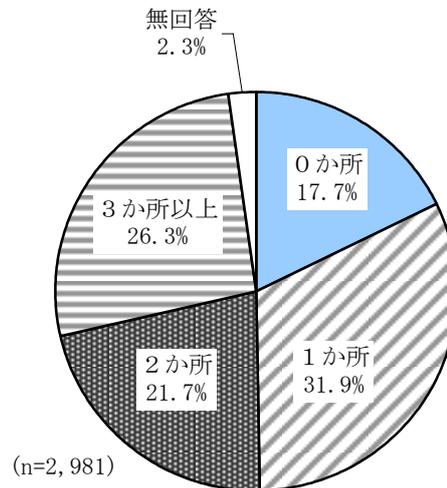


(11) 勤務した認可保育所数

問6 あなたが、これまで保育士として勤務した認可保育所は何か所ですか。(○は1つ)

勤務経験のある保育所数は、「1か所」が31.9%で最も多く、次いで「3か所以上」が26.3%、「2か所」が21.7%となっている。(図Ⅱ1-16)

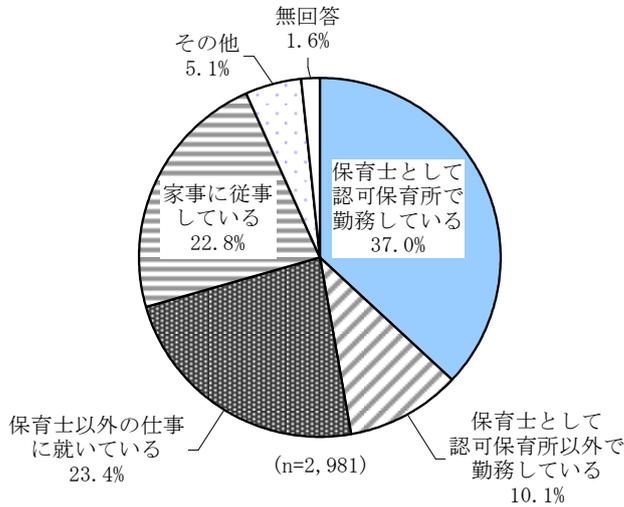
【図Ⅱ1-16 勤務した認可保育所数】



(12) 現在の就業状況

問7 あなたは、現在、所得を伴う仕事（パート、アルバイト等を含む）に就いていますか。（〇は1つ）

【図Ⅱ1-17① 現在の就業状況】

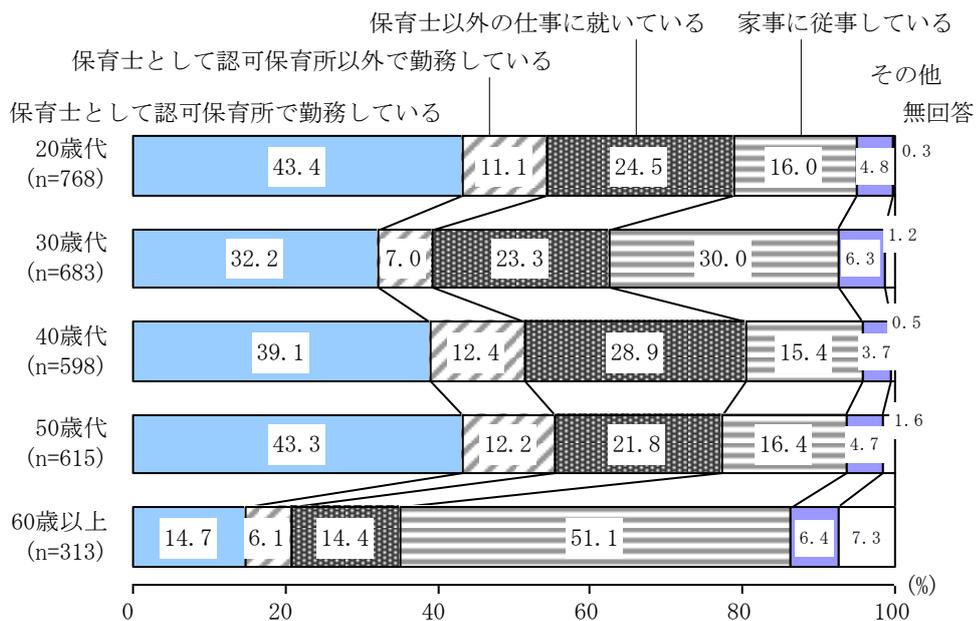


現在の就業状況について、「保育士として認可保育所で勤務している」が37.0%で最も多い。「保育士として認可保育所以外で勤務している」の10.1%を合わせると、保育士として就業している割合は47.1%である。一方、「保育士以外の仕事に就いている」は23.4%、「家事に従事している」が22.8%で、保育士の仕事に就いていない割合も半数となっている。（図Ⅱ1-17①）

【年齢別】

保育士として就業している割合は、20～50歳代で4～5割を占めているが、子育て期である30歳代で就業割合は39.2%に落ち込み、「家事に従事している」が30.0%と高くなっている。また「保育士以外の仕事に就いている」割合は、40歳代が28.9%で最も高くなっている。60歳以上で保育士として勤務する人は20.8%と60歳未満の年代に比べ低く、「家事に従事している」が51.1%を占めている。（図Ⅱ1-17①）

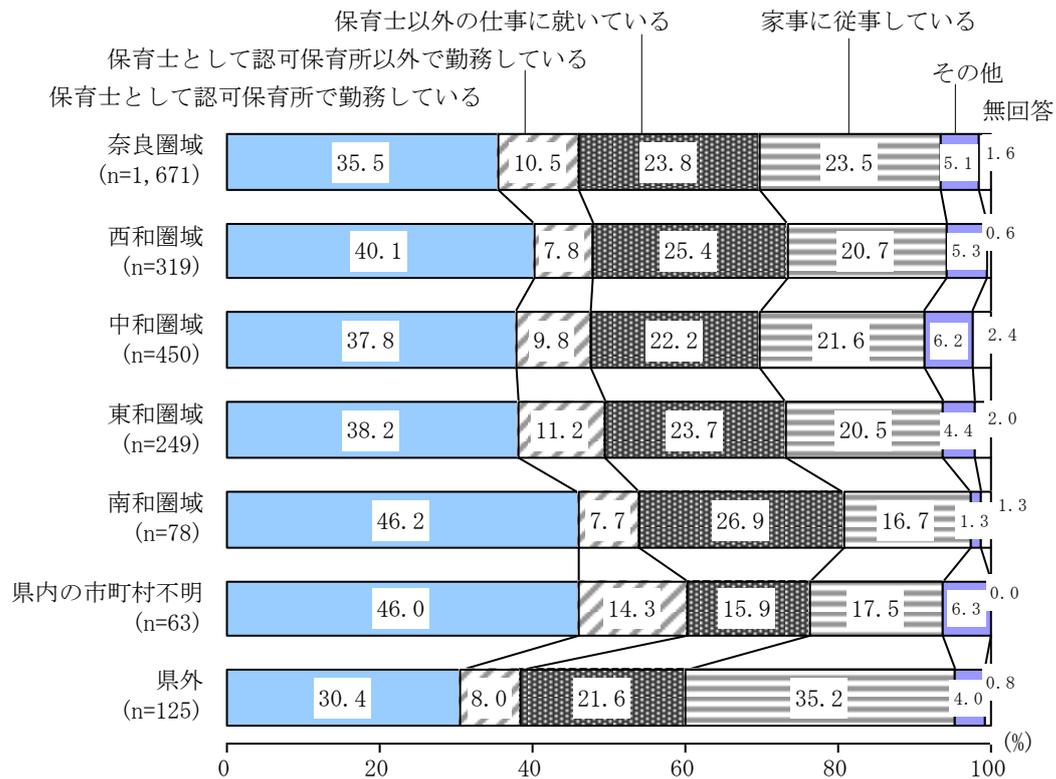
【図Ⅱ1-17② 年齢別 現在の就業状況】



【圏域別】

「保育士として認可保育所で勤務している」割合は、南和圏域が46.2%で最も高く、「保育士として認可保育所以外で勤務している」の7.7%を合わせると、保育士として就業している割合は53.9%を占めている。一方、「保育士以外の仕事に就いている」は南和圏域が26.9%で、5圏域中、最も高くなっている。「家事に従事している」割合は、奈良圏域が23.5%で、5圏域中、最も高い。(図Ⅱ1-17③)

【図Ⅱ1-17③ 圏域別 現在の就業状況】

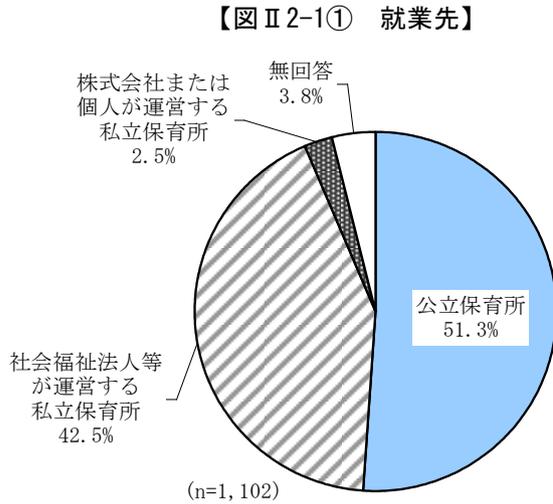


2. 保育士として勤務している人の状況

(1) 認可保育所勤務者の現在の就業状況

①就業先

問8 問7で「1 保育士として認可保育所で勤務している」と回答した方におうかがいします。現在の就業先はどちらですか。(主たる勤務場所について○は1つ)

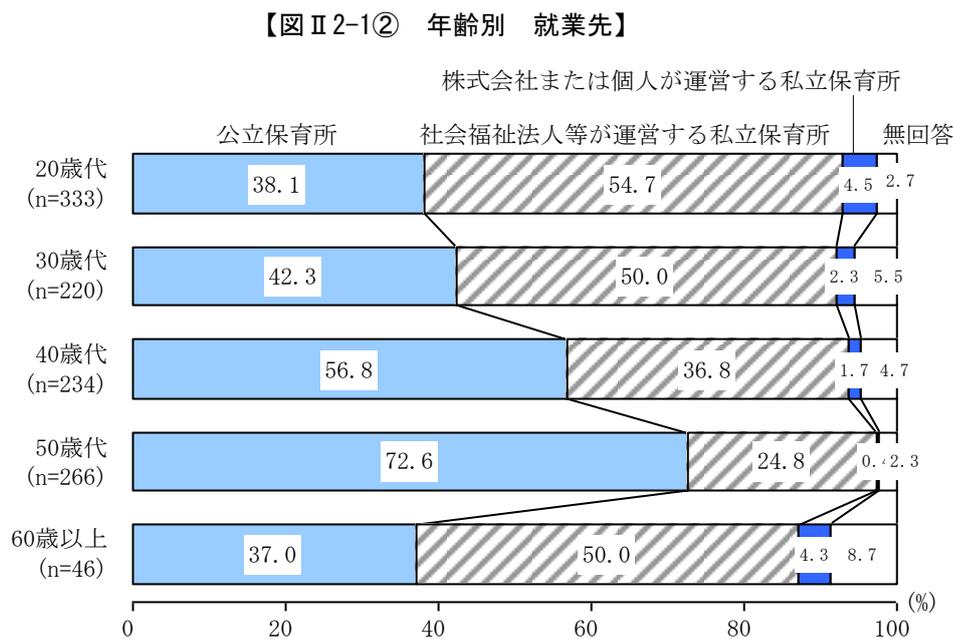


現在、保育士として認可保育所で勤務していると回答した人に、現在の就業先をたずねると、「公立保育所」が51.3%で最も多く、次いで「社会福祉法人等が運営する私立保育所」が42.5%となっている。(図Ⅱ2-1①)

【年齢別】

若い世代ほど「社会福祉法人等が運営する私立保育所」の割合が高く、20歳代では54.7%を占めている。「公立保育所」の割合は、50歳代が72.6%で最も高い。

また、60歳以上の年代で、「社会福祉法人等が運営する私立保育所」に就業する割合が50.0%となっている。(図Ⅱ2-1②)

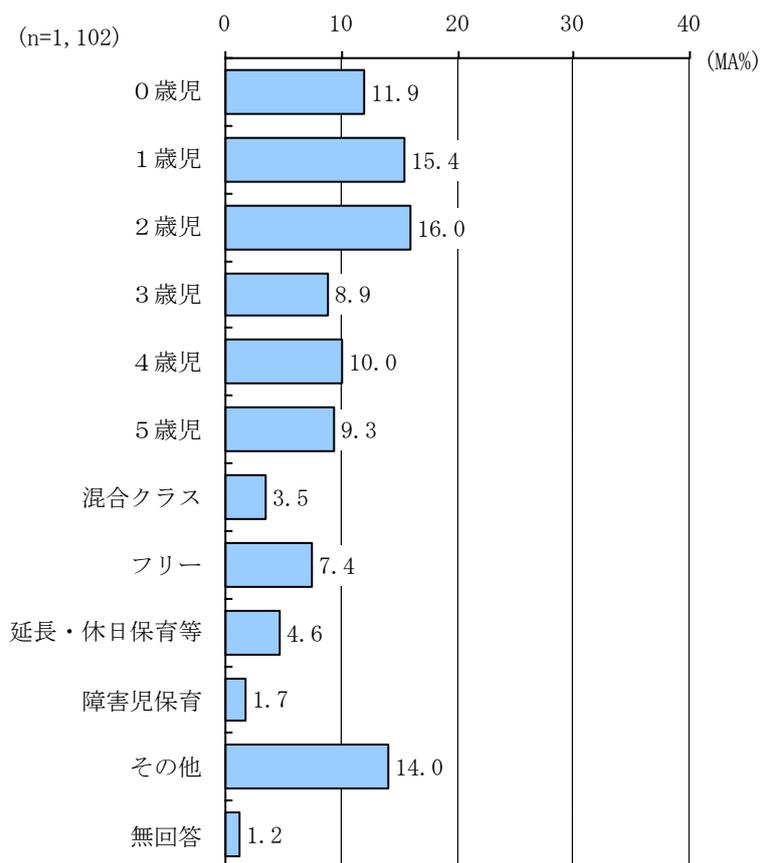


②担当クラス

問 8-1 担当クラス等に○を付けてください。(○はあてはまるものすべて)

担当クラスは、「2歳児」が16.0%で最も多く、次いで「1歳児」が15.4%、「0歳児」が11.9%で、0～2歳児までが全体の43.3%を占める。(図Ⅱ2-2)

【図Ⅱ2-2 担当クラス】

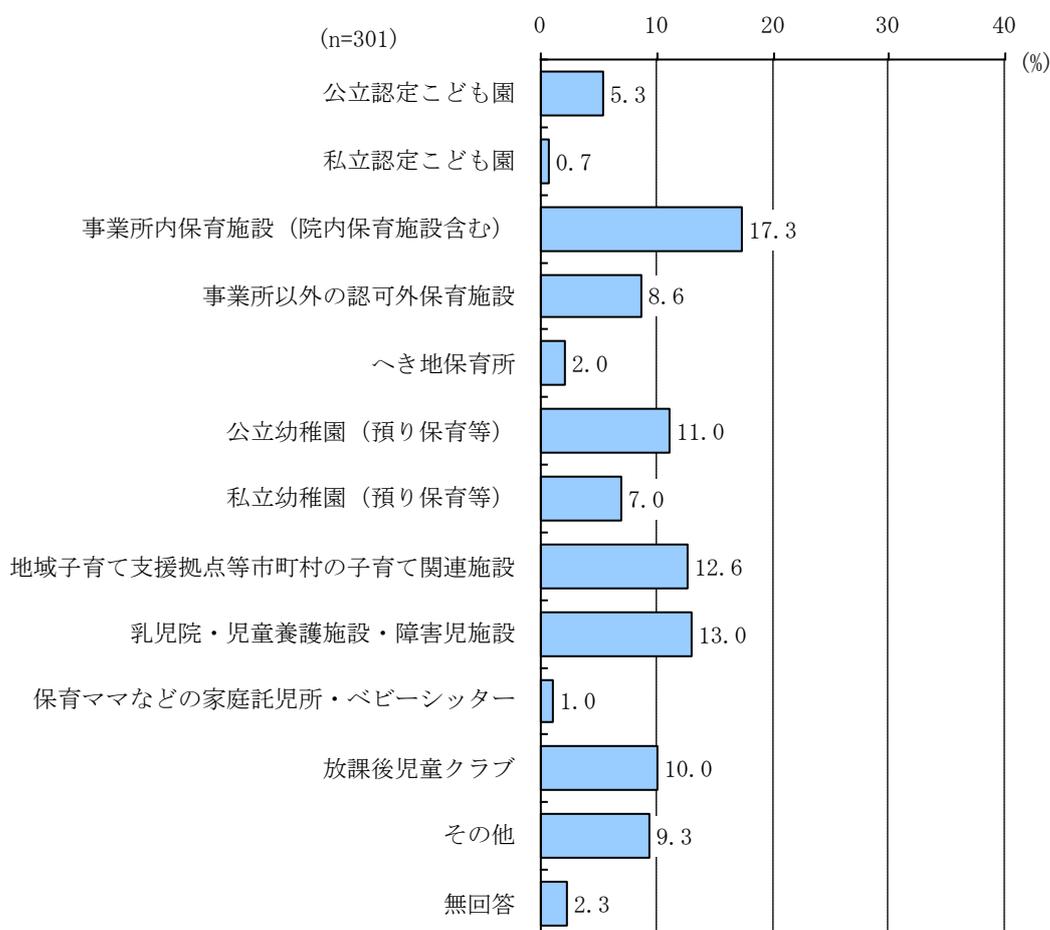


(2) 認可保育所以外の勤務者の就業先

問9 問7で「2 保育士として認可保育所以外で勤務している」と回答した方におうかがいします。現在の就業先はどちらですか。(主たる勤務場所について○は1つ)

保育士として認可保育所以外に勤務していると回答した人に、現在の就業先についてたずねると、「事業所内保育施設（院内保育施設含む）」が17.3%で最も多い。これに次いで「乳児院・児童養護施設・障害児施設」が13.0%、「地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設」が12.6%となっている。（図Ⅱ2-3①）

【図Ⅱ2-3① 認可保育所以外の勤務者の就業先】



【年齢別】

20歳代は「事業所内保育施設（院内保育施設含む）」が23.5%で最も多く、次いで「私立幼稚園（預り保育等）」の15.3%、「乳児院・児童養護施設・障害児施設」の14.1%となっている。30歳代は「乳児院・児童養護施設・障害児施設」が20.8%で最も多く、次いで「事業所内保育施設（院内保育施設含む）」の18.8%となっている。40歳代は「地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設」（17.6%）が、50歳以上の各年代は、「地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設」や「放課後児童クラブ」がそれぞれ多くなっている。（図Ⅱ2-3②）

【図Ⅱ2-3② 年齢別 認可保育所以外の勤務者の就業先】

	n	公立認定こども園	私立認定こども園	事業所内保育施設（院内保育施設含む）	事業所以外の認可外保育施設	へき地保育所	公立幼稚園（預り保育等）	私立幼稚園（預り保育等）	地域の子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設	乳児院・児童養護施設・障害児施設	保育ママなどの家庭託児所（ベビーシッター）	放課後児童クラブ	その他	無回答
20歳代	85	7.1	1.2	23.5	5.9	-	11.8	15.3	5.9	14.1	1.2	4.7	4.7	4.7
30歳代	48	6.3	2.1	18.8	6.3	-	10.4	10.4	8.3	20.8	2.1	4.2	10.4	-
40歳代	74	5.4	-	12.2	14.9	4.1	14.9	-	17.6	14.9	-	5.4	9.5	1.4
50歳代	75	2.7	-	16.0	8.0	4.0	9.3	2.7	13.3	8.0	1.3	18.7	13.3	2.7
60歳以上	19	5.3	-	10.5	5.3	-	-	5.3	31.6	-	-	31.6	10.5	-

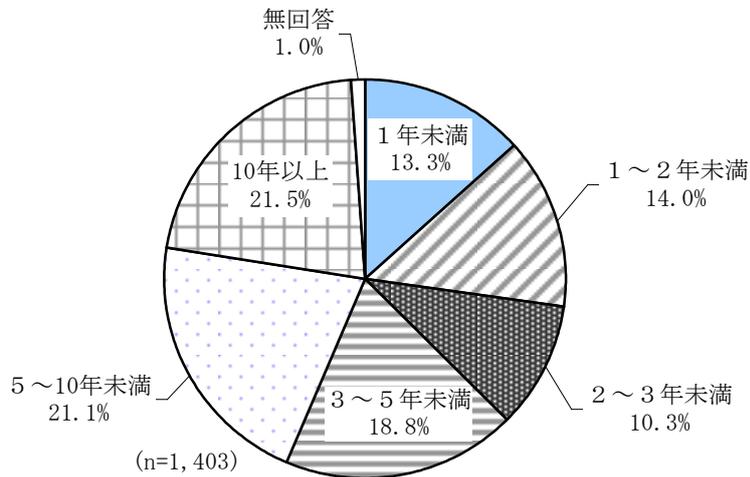
(%)

(3) 現在の職場での就業年数

問10 あなたは現在の職場で何年程度働いていますか。(〇は1つ)

現在の職場での就業年数は、「10年以上」が21.5%で最も多く、次いで「5～10年未満」が21.1%となっており、5年以上が全体の42.6%を占める。(図Ⅱ2-4①)

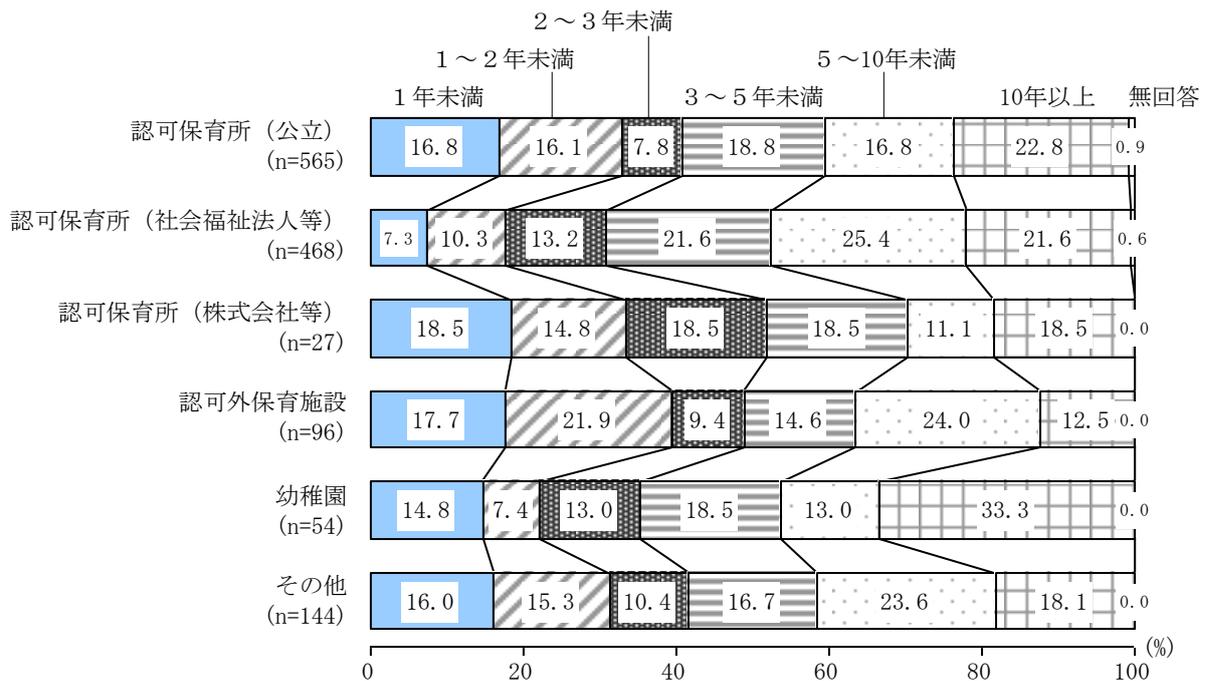
【図Ⅱ2-4① 現在の職場での就業年数】



【就業保育施設別】

認可保育所（社会福祉法人等）及び幼稚園では、5年以上の割合が高く、幼稚園では「10年以上」の割合が33.3%で最も高くなっている。認可外保育施設では、2年未満までの割合が他の施設に比べ高くなっている。(図Ⅱ2-4②)

【図Ⅱ2-4② 就業保育施設別 現在の職場での就業年数】

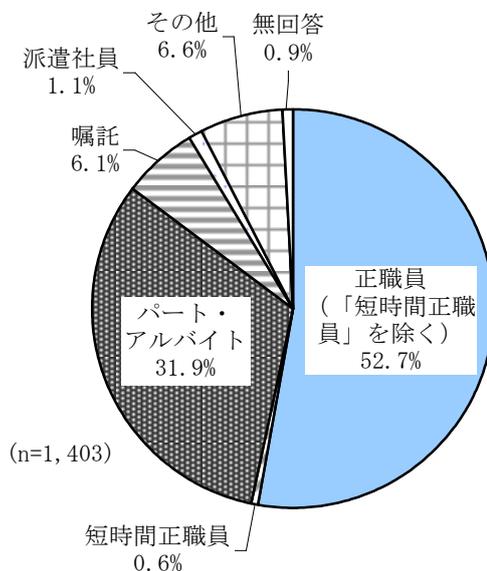


(4) 現在の雇用形態

問11 現在の雇用形態についてお答えください。(〇は1つ)

現在の雇用形態は、「正職員（「短時間正職員」を除く）」が52.7%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が31.9%、「嘱託」が6.1%となっている。(図Ⅱ2-5①)

【図Ⅱ2-5① 現在の雇用形態】

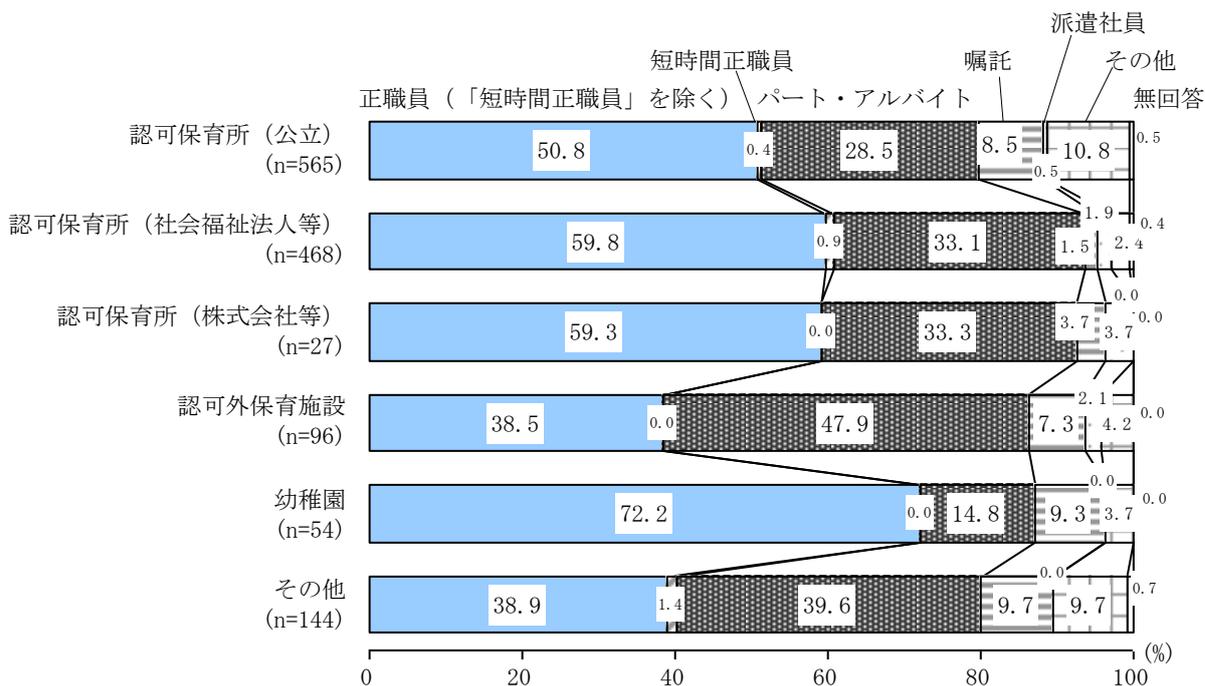


【就業保育施設別】

「正職員（「短時間正職員」を除く）」の割合は、幼稚園が72.2%で最も高い。認可保育所でも半数以上は正職員となっている。

一方、認可外保育施設では「パート・アルバイト」が47.9%で最も多く、嘱託や派遣社員を含む非正規雇用者が57.3%を占める。(図Ⅱ2-5②)

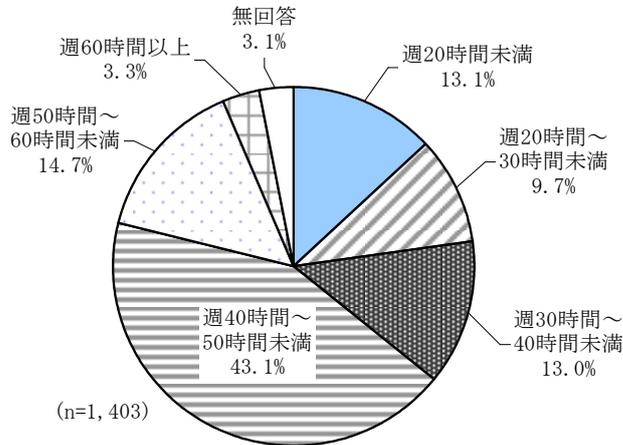
【図Ⅱ2-5② 就業保育施設別 現在の雇用形態】



(5) 昨年度の週あたりの平均労働時間

問12 昨年度の時間外勤務を含めた、1週あたりの平均的な労働時間は何時間ですか。
(○は1つ)

【図Ⅱ2-6① 昨年度の週あたりの平均労働時間】



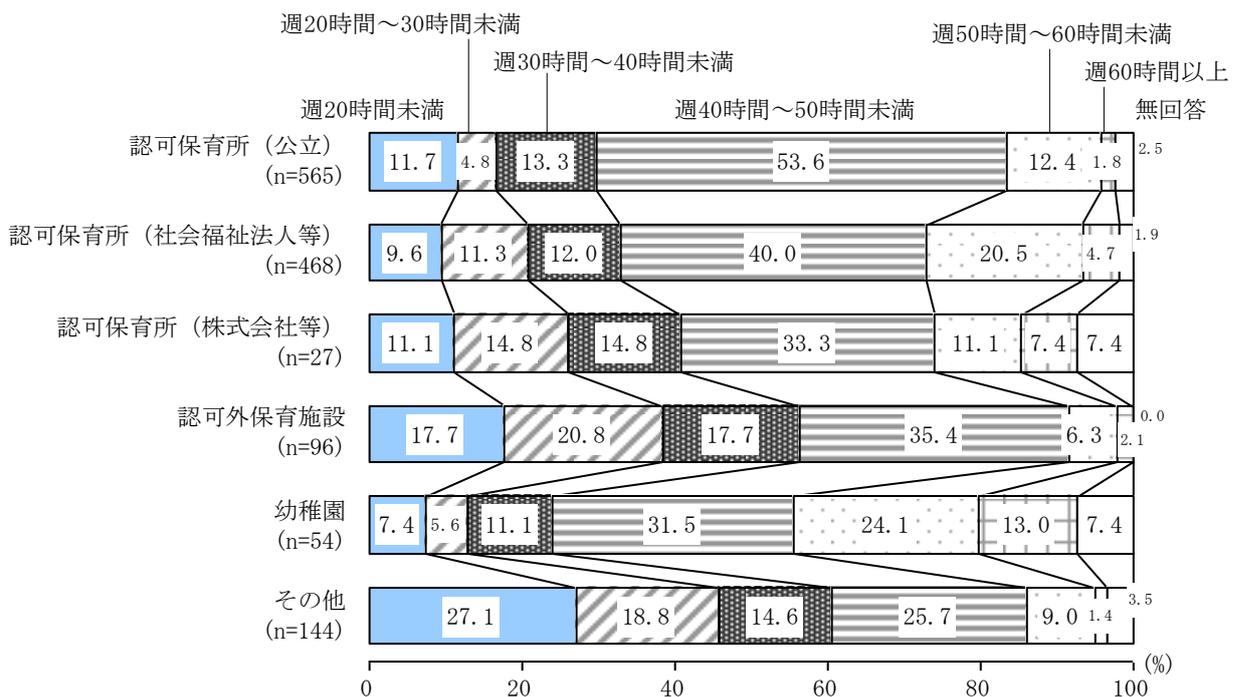
昨年度の週あたりの平均労働時間は、「週40時間～50時間未満」が43.1%で最も多く、次いで「週50時間～60時間未満」が14.7%、「週20時間～30時間未満」が13.1%となっている。
(図Ⅱ2-6①)

【就業保育施設別】

週あたりの平均労働時間が40時間を超えている施設は、認可外保育所、幼稚園で、特に認可保育所（公立）では「週40時間～50時間未満」が53.6%で最も高くなっている。また、幼稚園では「週50時間～60時間未満」が24.1%、「週60時間以上」が13.0%と他の施設に比べ高く、労働時間が長くなっている。

これに対し認可外保育施設は40時間未満が56.2%を占め、認可保育所や幼稚園に比べ労働時間は短くなっている。(図Ⅱ2-6②)

【図Ⅱ2-6② 就業保育施設別 昨年度の週あたりの平均労働時間】



(6) 勤務地と通勤時間の現在の状況と今後の希望

問13 あなたの勤務地と通勤時間について(1)現在の状況と、(2)今後の希望(通勤時間は許容できる上限)を、それぞれ該当する番号を下の選択肢の中から選んで枠内に○を付けてください。

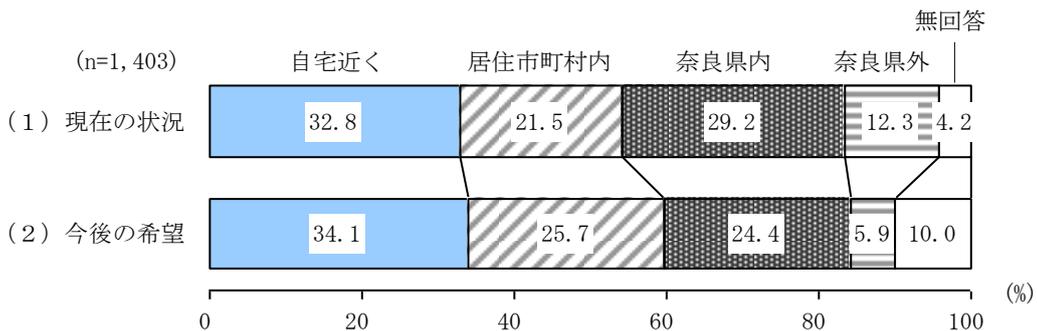
勤務地について現在の状況をみると、「自宅近く」が32.8%で最も多く、「居住市町村内」の21.5%を合わせると、居住市町村に勤務地がある割合は54.3%となっている。(図Ⅱ2-7①)

今後の希望は、「自宅近く」が34.1%、「居住市町村内」が25.7%で、居住市町村での勤務希望は59.8%となっている。(図Ⅱ2-7①)

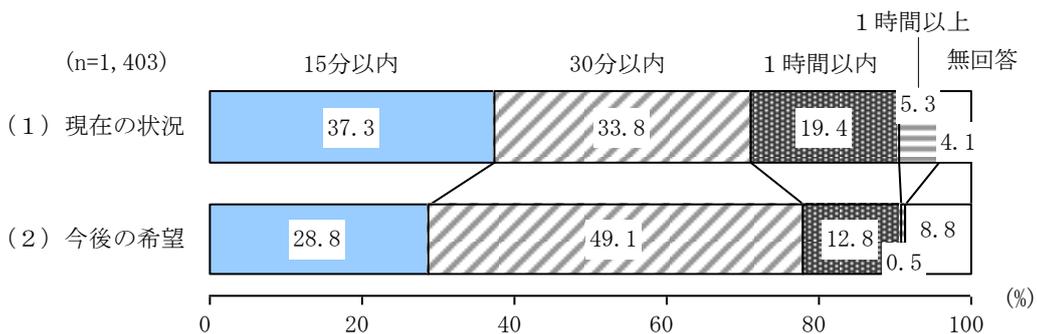
通勤時間について現在の状況をみると、「15分以内」が37.3%、「30分以内」が33.8%で全体の71.1%を占める。(図Ⅱ2-7②)

今後の希望では、「30分以内」が49.1%で最も多く、現在に比べ15.3ポイント高くなっている。これに次いで「15分以内」が28.8%で、30分までが全体の77.9%を占める。(図Ⅱ2-7②)

【図Ⅱ2-7① 勤務地】



【図Ⅱ2-7② 通勤時間】



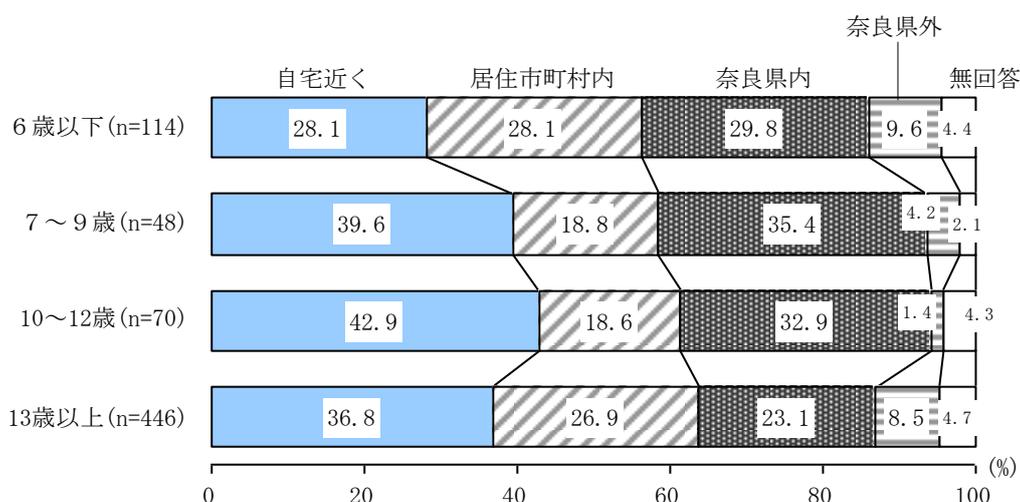
■現在の状況

【末子の年齢別】

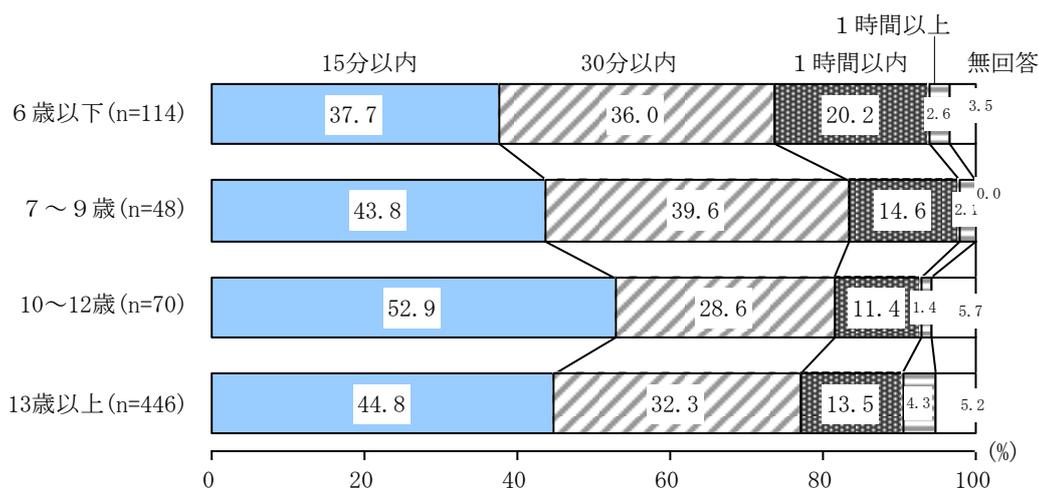
末子の年齢別で勤務地をみると、末子が6歳以下の場合は「自宅近く」「居住市町内」「奈良県内」がそれぞれ3割程度を占め、比較的分散している。7～12歳までの各年代の場合は、「自宅近く」の割合が4割前後と高く、「奈良県内」も3割台となっている。末子が13歳以上の場合も「自宅近く」が多い。(図Ⅱ2-8①)

通勤時間は、末子の年齢に関係なく、概ね30分以内が多く、10～12歳では「15分以内」が52.9%で最も高い。また、末子が6歳以下では「1時間以内」が20.2%で他に比べ高くなっている。(図Ⅱ2-8②)

【図Ⅱ2-8① 末子の年齢別 勤務地（現在の状況）】



【図Ⅱ2-8② 末子の年齢別 通勤時間（現在の状況）】

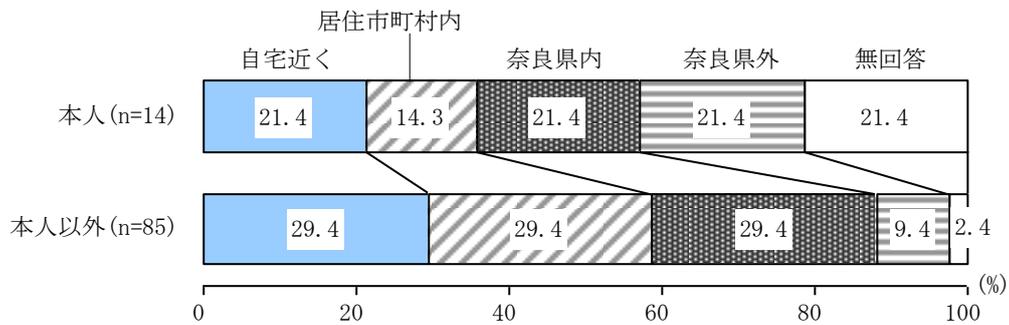


【日中の主な保育者別】

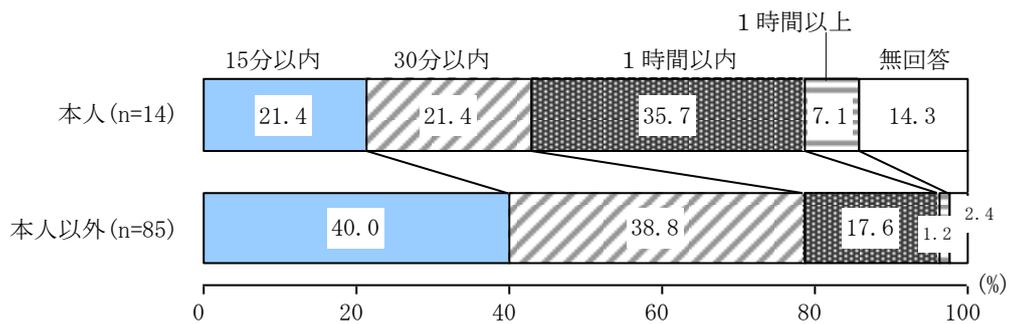
日中の保育者が回答者本人以外の場合の勤務地は、「自宅近く」「居住市町村内」「奈良県内」が各々3割程度で分散している。(図Ⅱ2-8③)

勤務時間は、保育者が本人以外の場合では、30分以内が78.8%を占め、比較的自宅に近い場所で勤務を行っている。(図Ⅱ2-8④)

【図Ⅱ2-8③ 日中の主な保育者別 勤務地（現在の状況）】



【図Ⅱ2-8④ 日中の主な保育者別 通勤時間（現在の状況）】



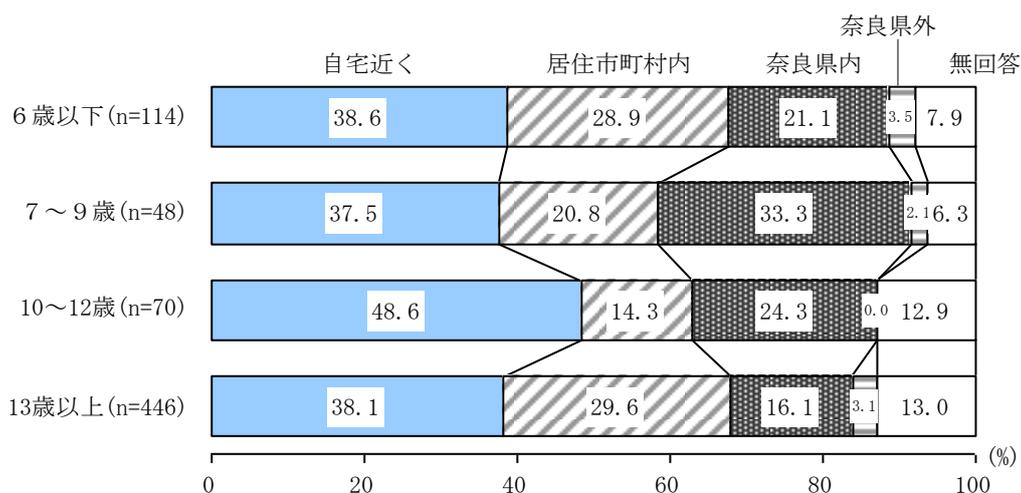
■今後の希望

【末子の年齢別】

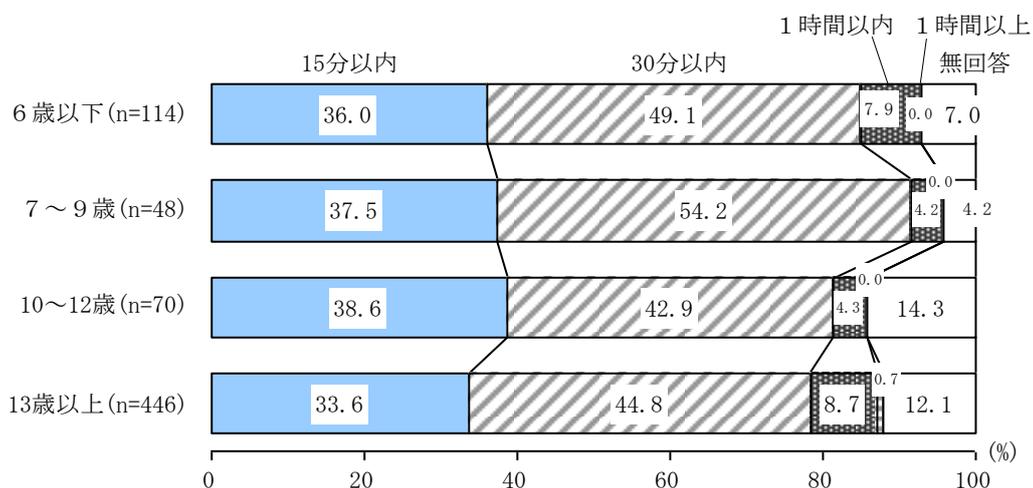
今後の勤務地の希望について末子の年齢別でみると、年齢に関係なく「自宅近く」の希望が最も多い。特に10～12歳では48.6%を占める。「奈良県内」を希望する割合は、7～9歳が33.3%で高くなっている。(図Ⅱ2-8⑤)

今後の通勤時間の希望は、末子の年齢に関係なく、「30分以内」が半数程度を占めている。(図Ⅱ2-8⑥)

【図Ⅱ2-8⑤ 末子の年齢別 勤務地（今後の希望）】



【図Ⅱ2-8⑥ 末子の年齢別 通勤時間（今後の希望）】

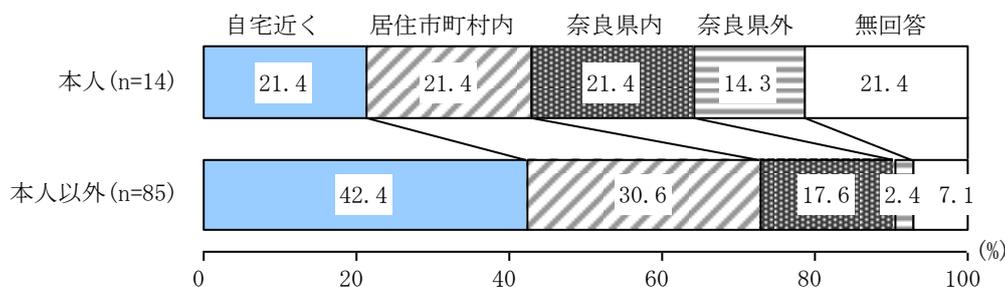


【日中の主な保育者別】

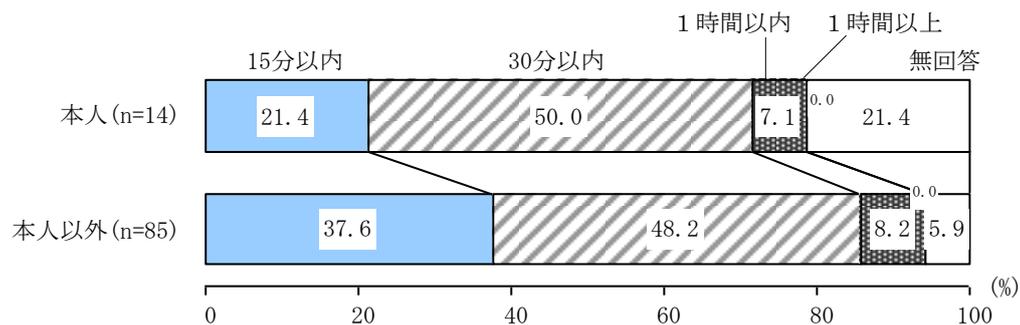
保育者が回答者本人以外の場合の勤務地の希望は、「自宅近く」が42.4%で最も多く、次いで「居住市町村内」の30.6%である。(図Ⅱ2-8⑦)

また、通勤時間の希望は、保育者が回答者本人以外の場合では、「30分以内」が48.2%で最も多く、次いで「15分以内」の37.6%である。(図Ⅱ2-8⑧)

【図Ⅱ2-8⑦ 日中の主な保育者別 勤務地（今後の希望）】



【図Ⅱ2-8⑧ 日中の主な保育者別 通勤時間（今後の希望）】



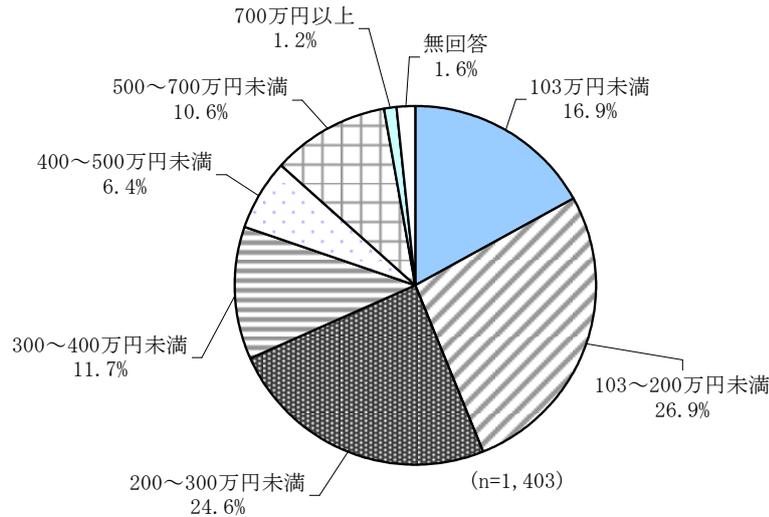
(7) 給与の状況

①現在の年収

問14 現在の給与について年収ベースでお答えください。(〇は1つ)

現在の年収は、「103～200万円未満」が26.9%で最も多く、次いで「200～300万円未満」が24.6%、「103万円未満」が16.9%で、200万円未満が43.8%を占めている。(図Ⅱ2-9①)

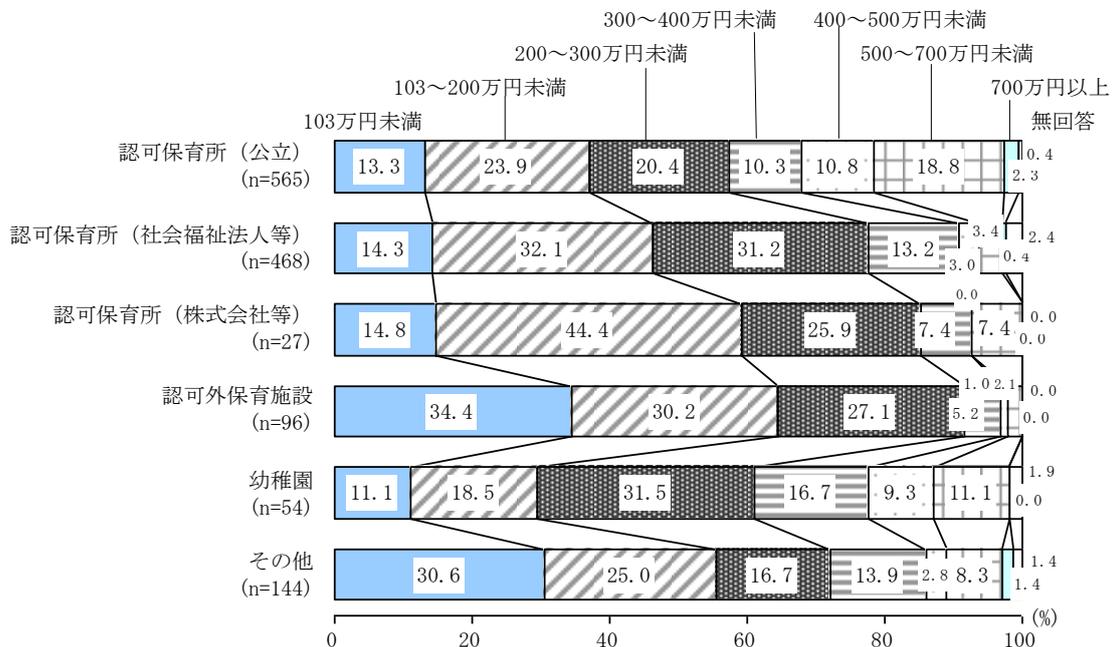
【図Ⅱ2-9① 現在の年収】



【就業保育施設別】

認可保育所は公立・民間に関係なく、「103～200万円未満」が最も多く、株式会社が運営主体の認可保育所では44.4%を占め、また、認可外保育施設では「103万円未満」の割合が34.4%で最も高くなっている。公立を除く認可保育所及び認可外保育施設では、300万円未満までで7割以上を占めている。(図Ⅱ2-9②)

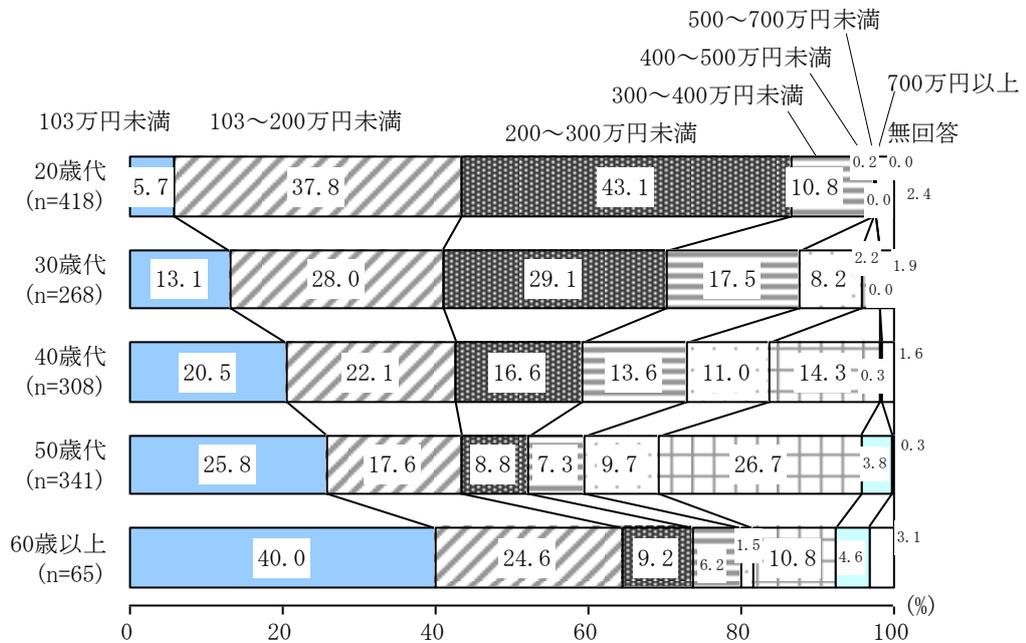
【図Ⅱ2-9② 就業保育施設別 現在の年収】



【年齢別】

20歳代は「103～200万円未満」(37.8%)と「200～300万円未満」(43.1%)で80.9%を占める。年齢が上がるとともに、「103万円未満」の割合が上昇し、103～300万円未満の割合が低下しているが、一方で50歳代では「500～700万円未満」の割合が高くなっている。(図Ⅱ2-9③)

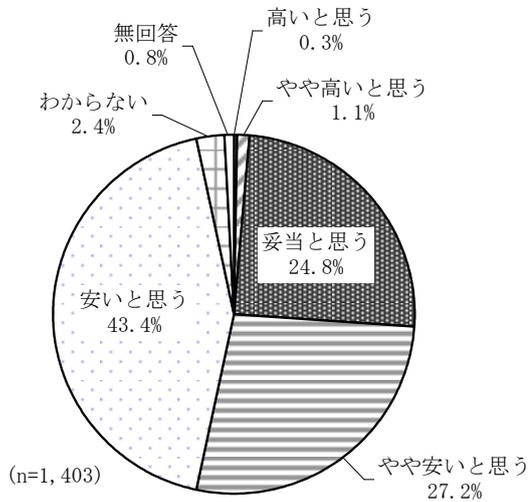
【図Ⅱ2-9③ 年齢別 現在の年収】



②現在の給与に対する評価

問14-1 現在の給与は勤務内容に比べ妥当だと感じていますか。(〇は1つ)

【図Ⅱ2-10① 現在の給与に対する評価】

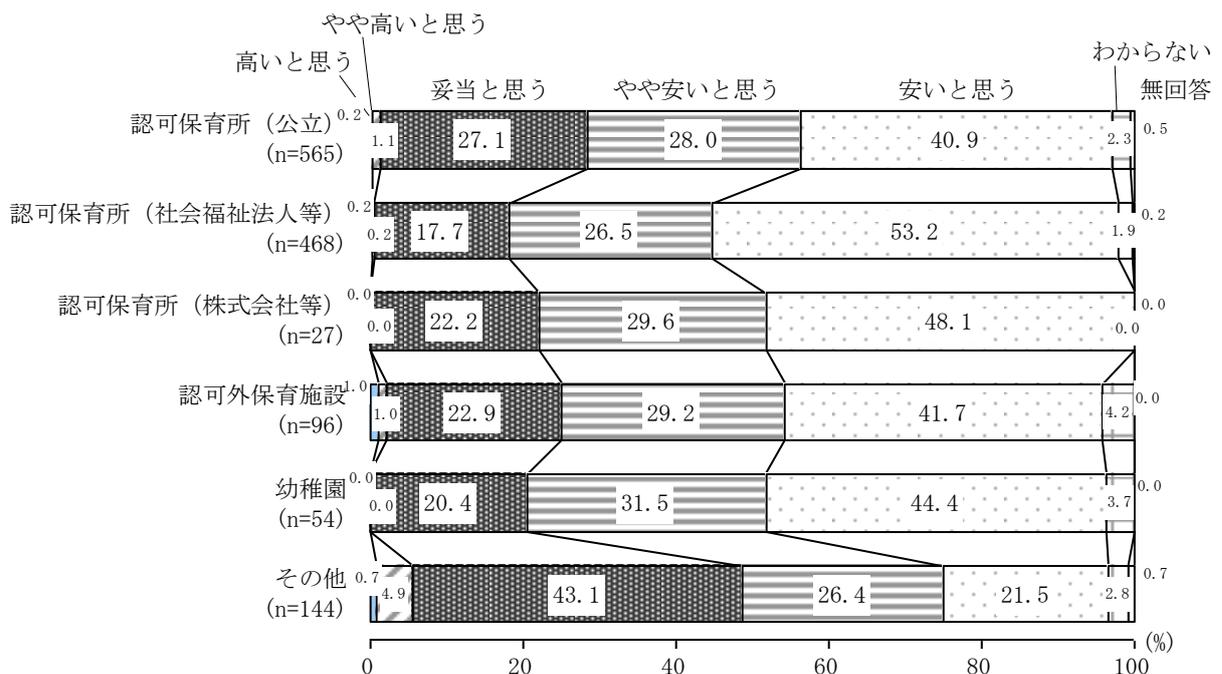


現在の給与について、「安いと思う」が43.4%、「やや安いと思う」が27.2%で、『安いと思う』との評価が70.6%となっている。(図Ⅱ2-10①)

【就業保育施設別】

現在の年収について、全体的に安いとの評価の割合のほうが高く、特に認可保育所(社会福祉法人等)では「安いと思う」が53.2%で、「やや安いと思う」を合わせると、安いとの評価が79.7%にのぼる。これに次いで幼稚園でも安いとの評価が75.9%を占めている。(図Ⅱ2-9②)

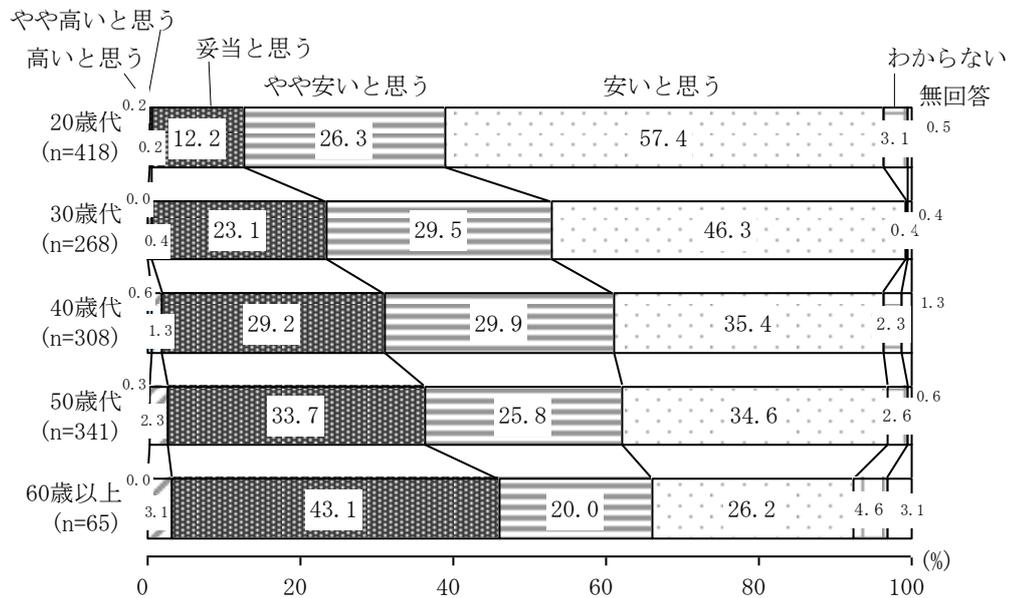
【図Ⅱ2-10② 就業保育施設別 現在の給与に対する評価】



【年齢別】

回答者の年齢別でみると、安いとの評価の割合は若い年代ほど高く、20歳代では83.7%を占めている。一方、年代があがるとともに「妥当と思う」の割合が上昇し、60歳以上の年代では43.1%を占めている。(図Ⅱ2-10③)

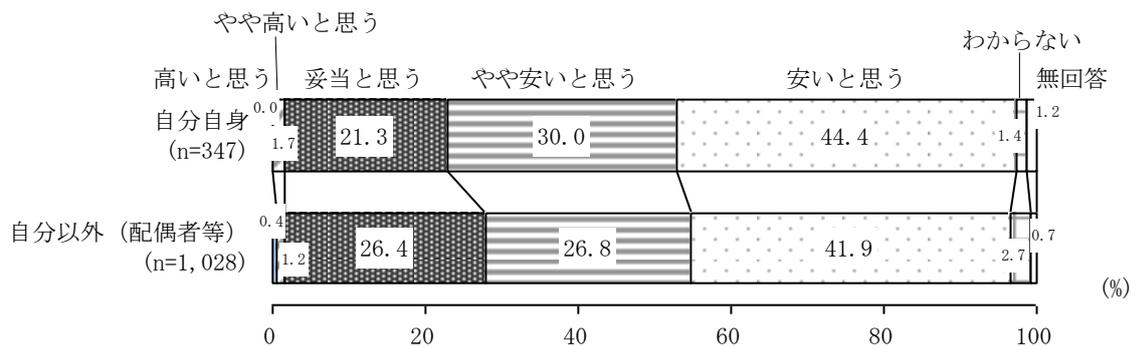
【図Ⅱ2-10③ 年齢別 現在の給与に対する評価】



【家計の主たる生計者別】

回答者自身が主たる生計者であるほうが安いとの評価の割合が生計者でない人に比べやや高くなっている。(図Ⅱ2-10④)

【図Ⅱ2-10④ 家計の主たる生計者別 現在の給与に対する評価】



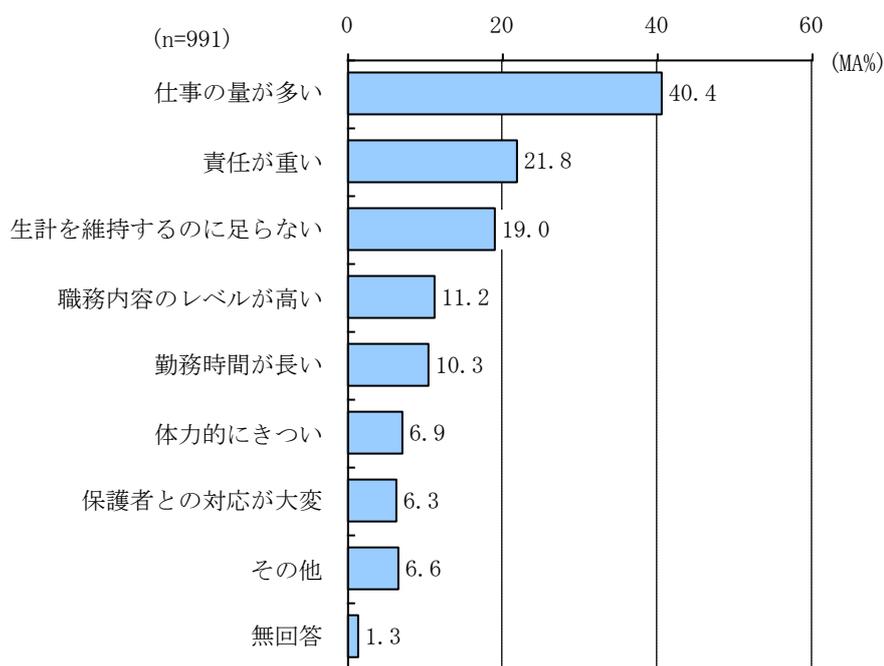
③給与が安いと思う主な理由

問14-2 問14-1で「4 やや安いと思う」「5 安いと思う」と回答した方におうかがいします。（それ以外の方は問15へお進みください。）

その主な理由は次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

勤務内容に比べて給与が安いと思うと回答した人に、その理由についてたずねると、「仕事の量が多い」が40.4%で最も多い。これに次いで「責任が重い」が21.8%、「生計を維持するのに足りない」が19.0%となっている。（図Ⅱ2-11①）

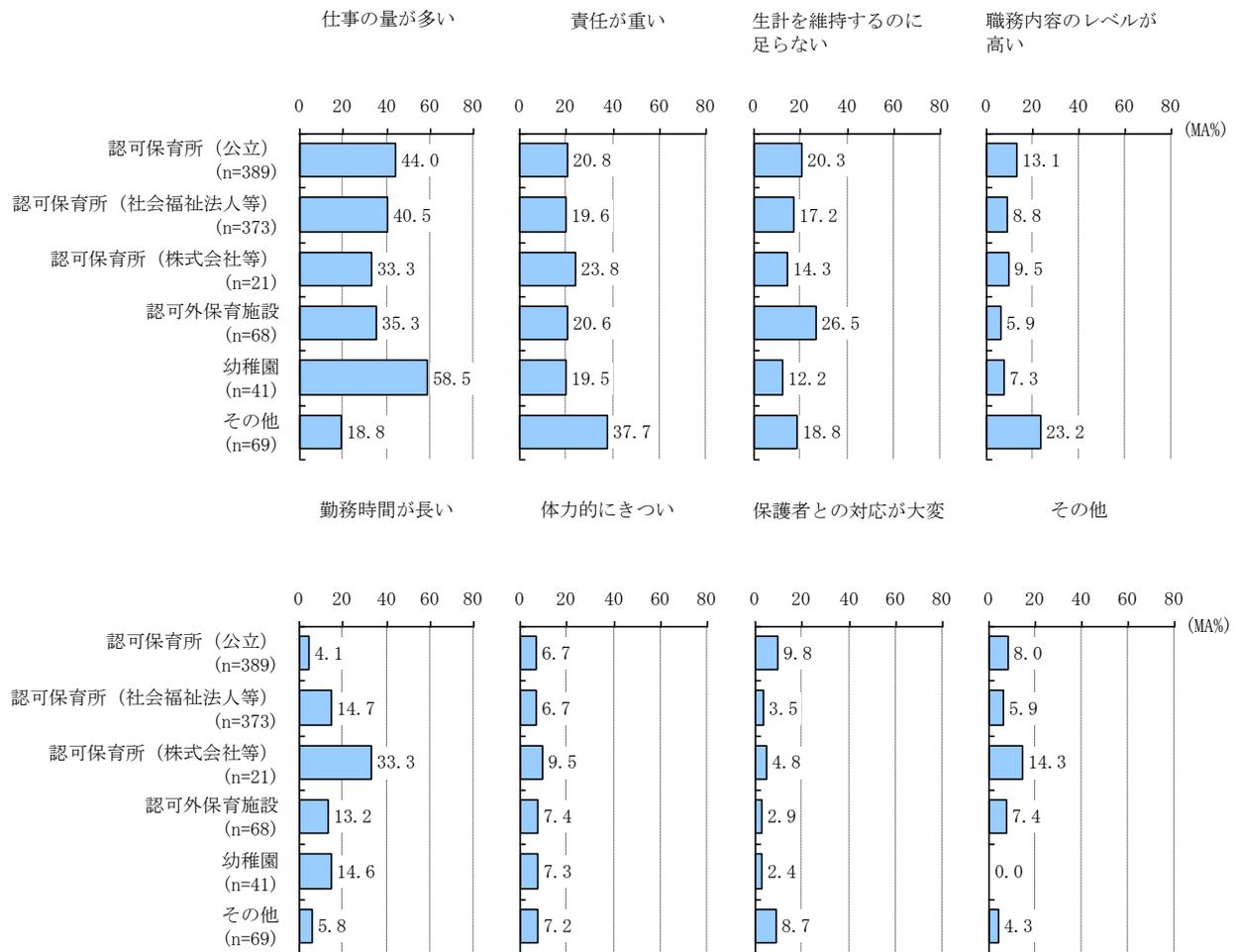
【図Ⅱ2-11① 給与が安いと思う主な理由】



【就業保育施設別】

いずれの施設も「仕事の量が多い」が上位であり、特に幼稚園では58.5%と最も高くなっている。また、認可保育所（株式会社）では「勤務時間が長い」が33.3%と最も高い。（図Ⅱ2-11②）

【図Ⅱ2-11② 就業保育施設別 給与が安いと思う主な理由】



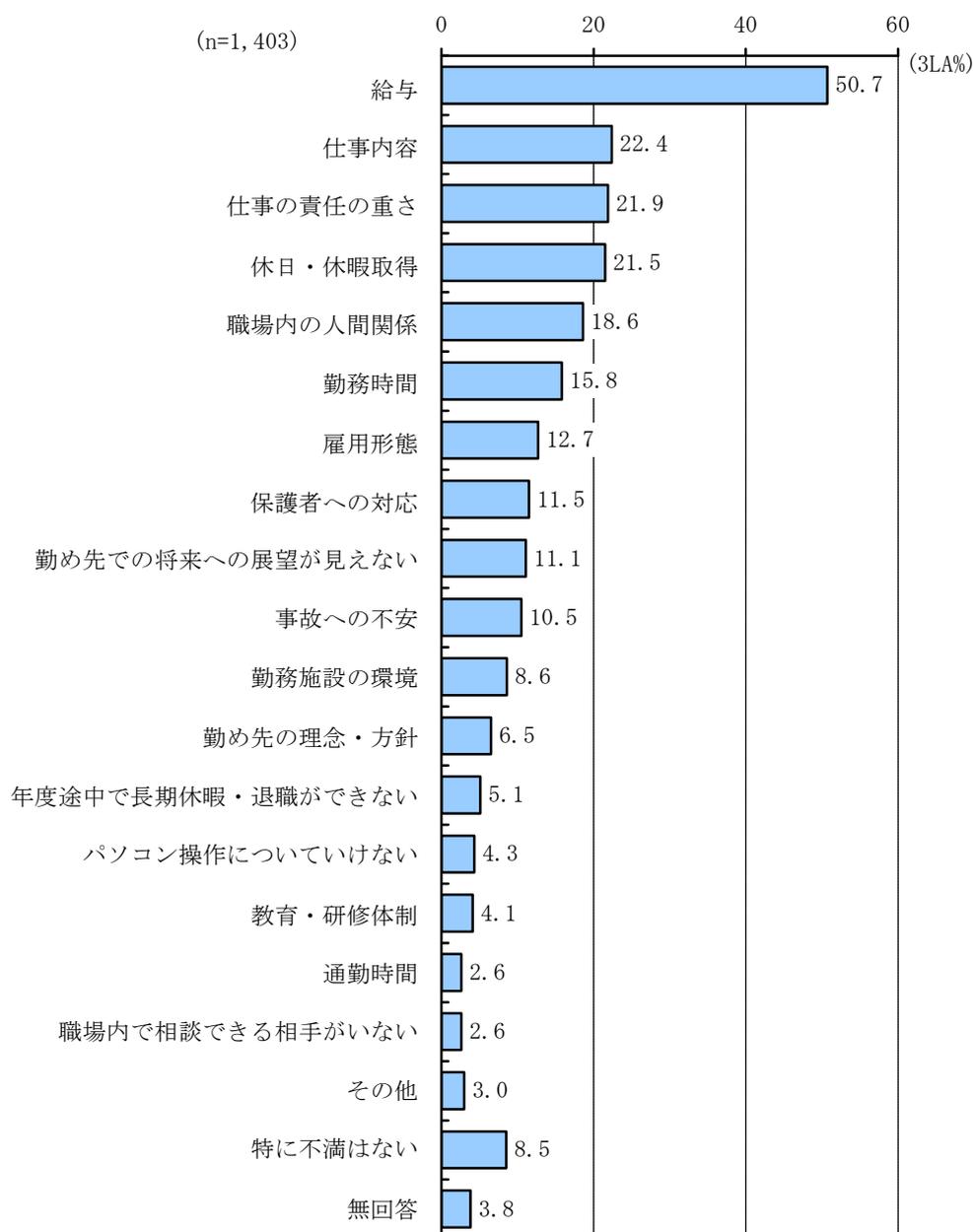
(8) 現在の労働条件や労働環境に対する評価や相談相手

問15 現在の労働条件や労働環境について、(ア) 特にご不満に感じておられることを下のアの選択肢の中から3つまで選び枠内に記入してください。また、(イ) それらについて相談した相手についてイの選択肢中から該当する番号を選んで、それぞれの該当枠内に記入してください。(3つ選択)

① 現在の労働条件や労働環境で不満に感じること

現在の労働条件や労働環境で不満に感じることは、「給与」が50.7%で最も多い。これに次いで「仕事内容」が22.4%で、以下、「仕事の責任の重さ」が21.9%、「休日・休暇取得」が21.5%、「職場内の人間関係」が18.6%となっている。(図Ⅱ2-12)

【図Ⅱ2-12 現在の労働条件や労働環境で不満に感じること】



② 不満の相談相手

現在の労働条件や労働環境で不満に感じることに對する相談相手は、給与、勤務時間、仕事内容、休日・休暇取得、勤務施設の環境、仕事の責任の重さ、事故への不安、パソコン操作についていけない、教育・研修体制、保護者への対応は「職場の同僚」が最も多く、雇用形態、通勤時間、勤め先での将来への展望が見えないは「家族（パートナー）・親族」、年度途中で長期休暇・退職ができない、職場内の人間関係、職場内で相談できる相手がない、勤め先の理念・方針は「友人・知人」が最も多くなっている。（表Ⅱ2-13）

【表Ⅱ2-13 不満の相談相手】

	調査数 (n)	職場の 上司	職場の 同僚	職場の 人事担当 者	産 業 医	・家 族 （ パ ー ト ナ ー）	友 人 ・ 知 人	そ の 他	相 談 先 が い な い ・	無 回 答
全 体	4209	8.3	22.5	0.3	0.0	16.6	14.9	0.6	8.0	28.7
給与	711	11.5	41.1	0.8	-	19.5	9.8	0.6	13.5	3.1
勤務時間	222	9.9	32.0	0.5	-	25.2	13.1	-	11.3	8.1
仕事内容	314	12.4	35.0	0.3	-	19.7	15.9	0.3	6.7	9.6
雇用形態	178	6.2	21.3	-	0.6	23.6	19.1	1.1	11.8	16.3
休日・休暇取得	302	8.3	24.8	0.3	-	19.9	19.2	0.7	11.9	14.9
年度途中で長期休暇・退職ができない	72	6.9	13.9	-	-	20.8	26.4	1.4	16.7	13.9
勤務施設の環境	121	17.4	30.6	0.8	-	17.4	14.0	1.7	5.0	13.2
通勤時間	36	2.8	16.7	-	-	30.6	27.8	2.8	8.3	11.1
仕事の責任の重さ	307	11.7	23.8	0.3	-	21.8	19.9	0.7	9.4	12.4
事故への不安	148	18.2	22.3	-	0.7	17.6	12.2	-	7.4	21.6
パソコン操作についていけない	61	8.2	31.1	-	-	16.4	16.4	-	6.6	21.3
職場内の人間関係	261	6.9	20.3	-	-	23.4	29.1	1.9	5.0	13.4
職場内で相談できる相手がない	36	-	2.8	-	-	13.9	30.6	-	27.8	25.0
教育・研修体制	58	10.3	31.0	1.7	-	19.0	8.6	3.4	6.9	19.0
勤め先での将来への展望が見えない	156	1.9	15.4	-	-	26.3	22.4	0.6	9.0	24.4
勤め先の理念・方針	91	4.4	19.8	-	-	12.1	30.8	-	6.6	26.4
保護者への対応	161	17.4	23.0	0.6	-	10.6	21.1	-	6.2	21.1
その他	42	7.1	23.8	2.4	-	11.9	16.7	4.8	9.5	23.8
特に不満はない	131	3.1	7.6	-	-	4.6	5.3	-	9.2	70.2

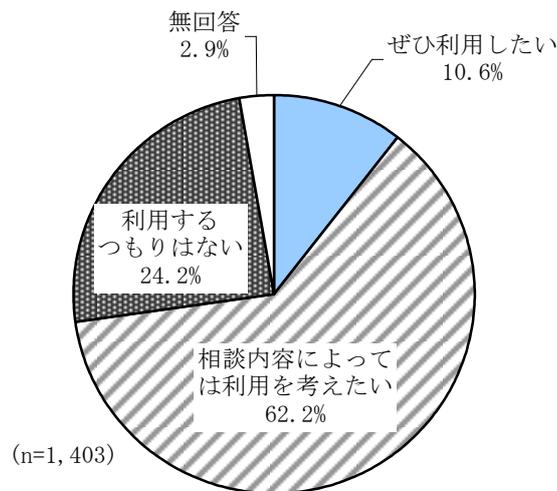
(3LA%)

(9) 外部の相談機関の利用意向

問16 あなたは、仕事に関する不満や悩み・困ったことなどについて、外部で相談できる機関があれば利用したいと思いますか。(○は1つ)

外部の相談機関について、「相談内容によっては利用を考えたい」が62.2%で最も多い。「ぜひ利用したい」は10.6%で、「相談内容によっては利用を考えたい」を合わせた利用意向がある人は72.8%を占めている。これに対し、「利用するつもりはない」は24.2%となっている。(図Ⅱ2-14)

【図Ⅱ2-14 外部の相談機関の利用意向】

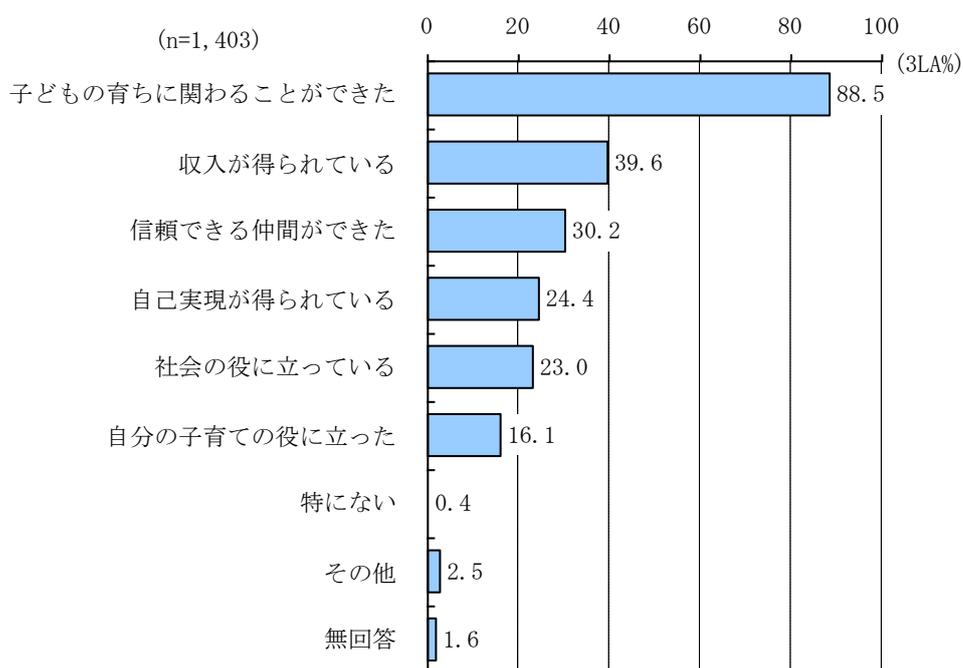


(10) 保育士勤務でやりがいを感じること

問17 あなたが保育士として働いてこられた中で、やりがいに感じることは何ですか。
(〇は主なもの3つまで)

保育士勤務でやりがいを感じることは、「子どもの育ちに関わることができた」が88.5%で最も多い。これに次いで「収入が得られている」が39.6%で、以下、「信頼できる仲間ができた」が30.2%、「自己実現が得られている」が24.4%、「社会の役に立っている」が23.0%となっている。(図Ⅱ2-15①)

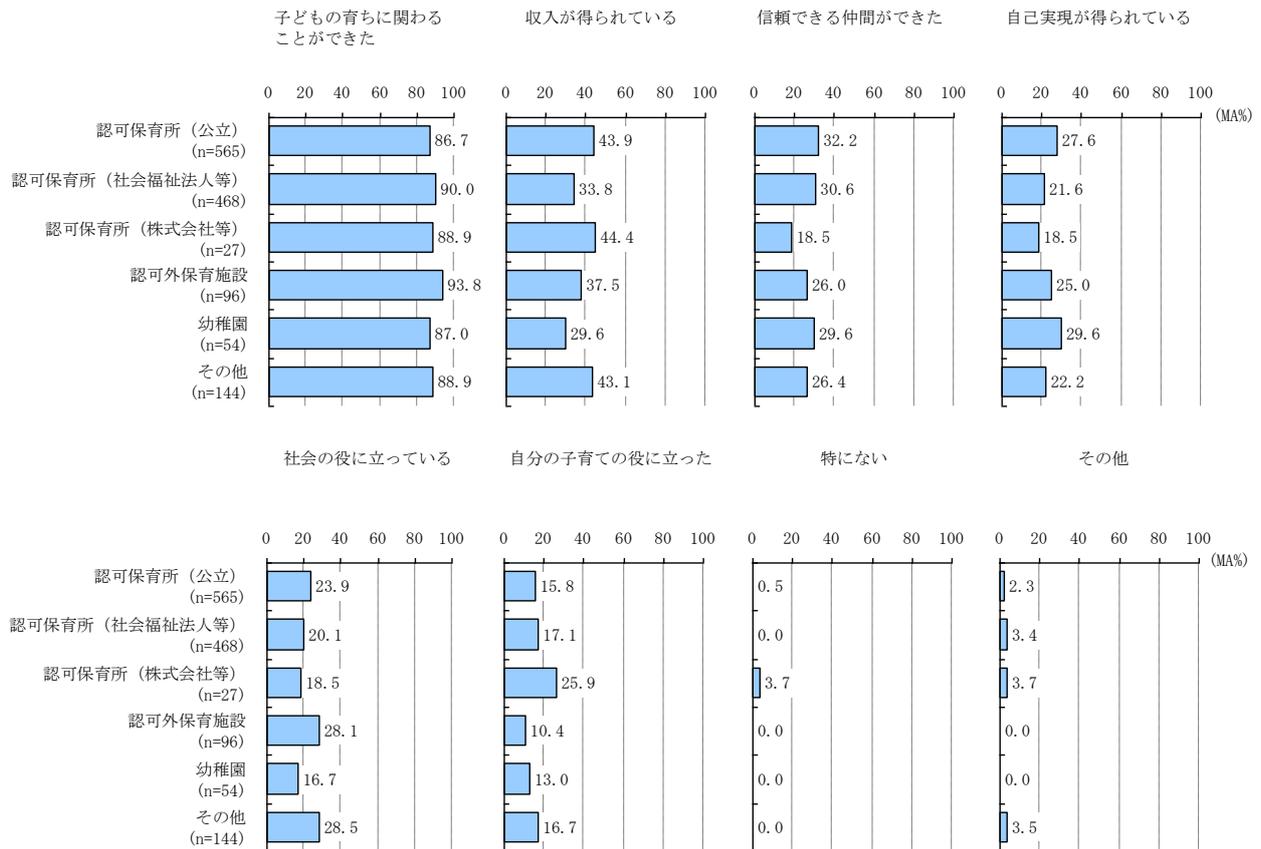
【図Ⅱ2-15① 保育士勤務でやりがいを感じること】



【就業保育施設別】

保育士勤務でやりがいを感じることは、いずれの施設も「子どもの育ちに関わることができた」が最も多い。これに次いで「収入が得られている」が多く、認可保育所（公立）及び認可保育所（社会福祉法人等）の割合が高い。認可保育所（株式会社等）では、「信頼できる仲間ができた」や「自己実現が得られている」の各割合は低く、「自分の子育てに役立った」が25.9%で高くなっている。（図Ⅱ2-15②）

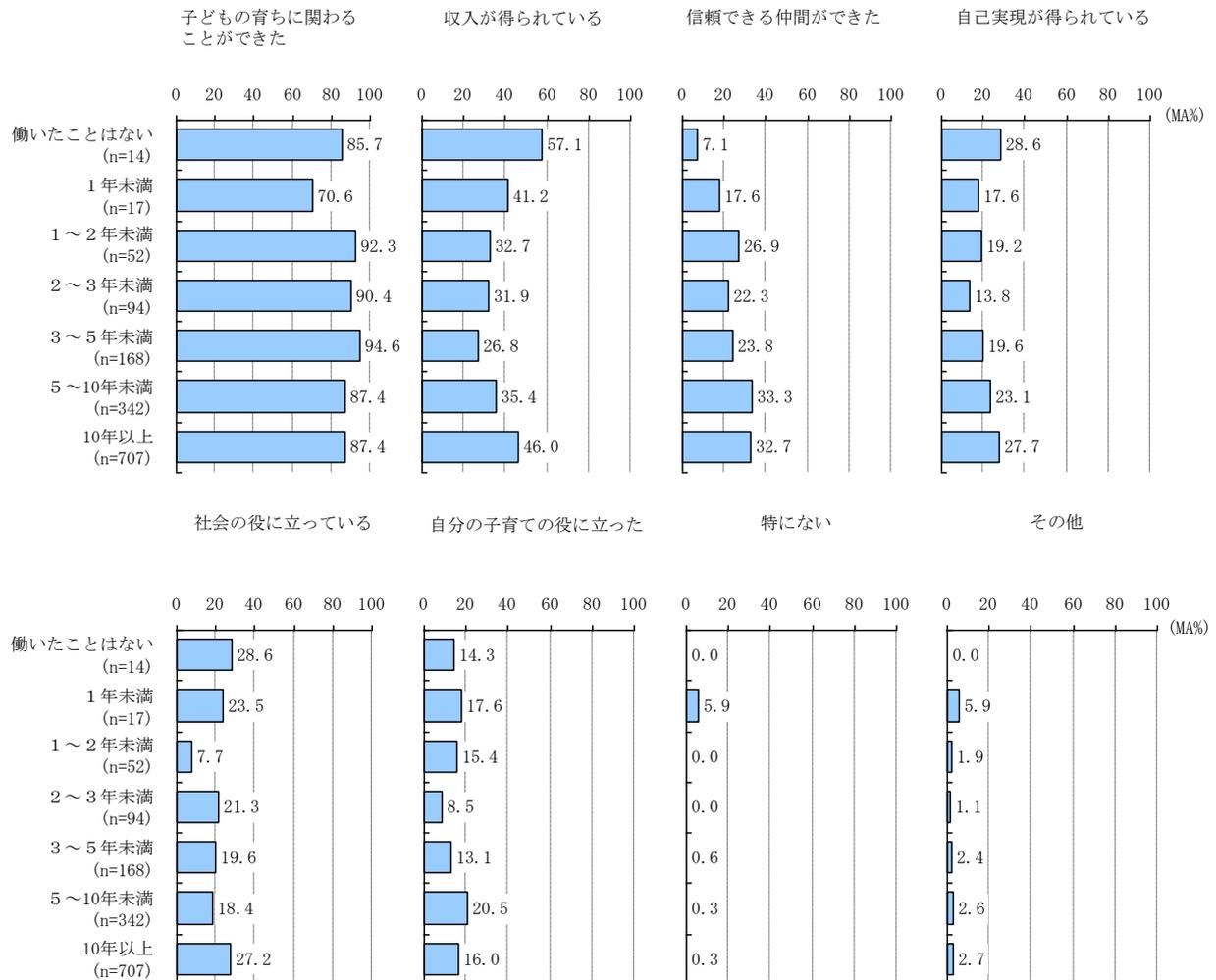
【図Ⅱ2-15② 就業保育施設別 保育士勤務でやりがいを感じること】



【保育士としての通算就業年数別】

保育士としての就業年数の長短に関わらず、「子どもの育ちに関わることができた」が最も多く、特に1～5年未満の年数では90%を超えている。また、「信頼できる仲間ができた」は、5年以上の就業者の割合が高くなっている。(図Ⅱ2-15③)

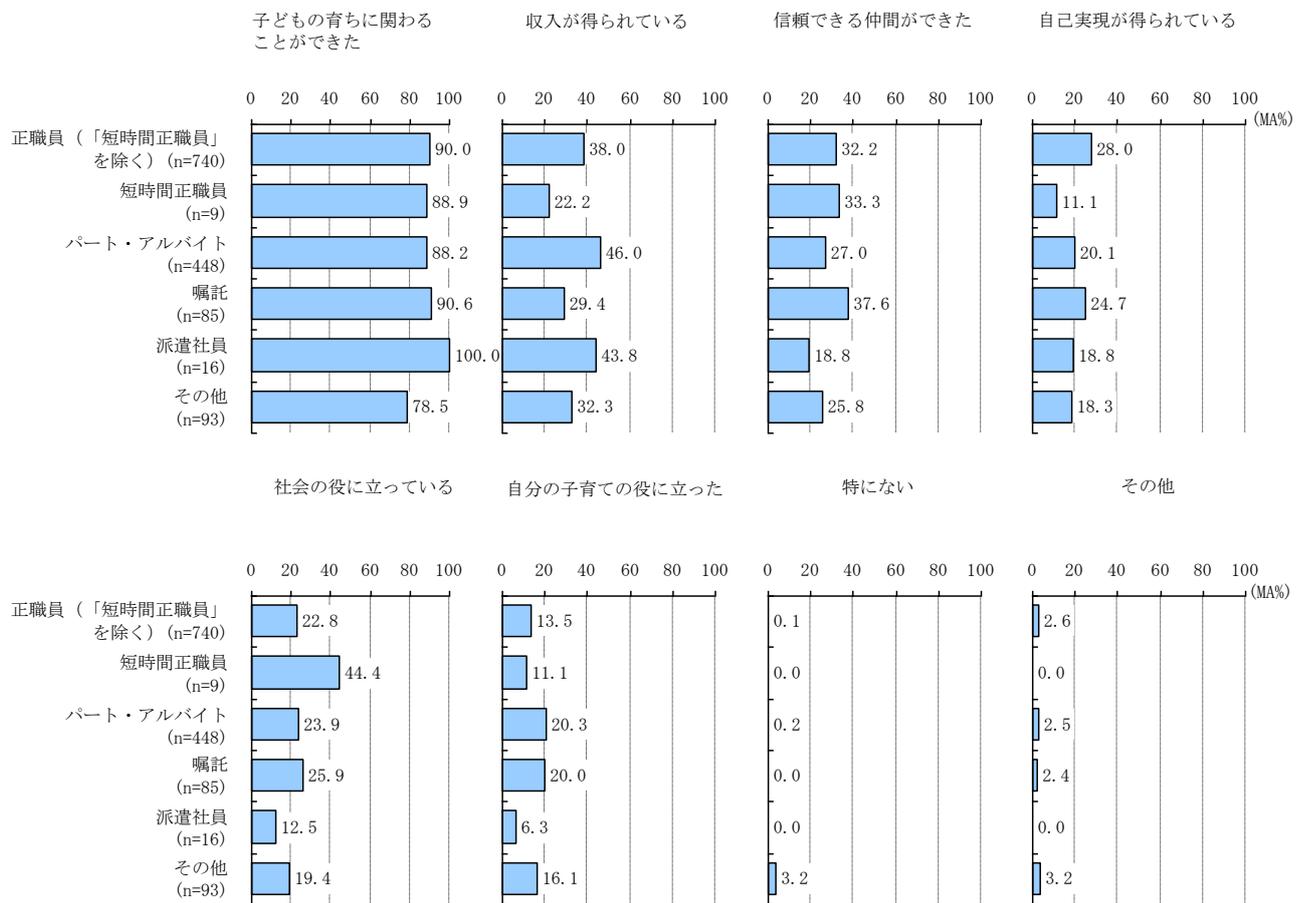
【図Ⅱ2-15③ 保育士としての通算就業年数別 保育士勤務でやりがいを感じること】



【現在の雇用形態別】

雇用形態に関係なく、「子どもの育ちに関わることができた」が最も多い。正職員では「信頼できる仲間ができた」や「自己実現が得られている」の割合が高い。「収入が得られている」は、パート・アルバイトの割合が46.0%で最も高くなっている。(図Ⅱ2-15④)

【図Ⅱ2-15④】現在の雇用形態別 保育士勤務でやりがいを感じること】

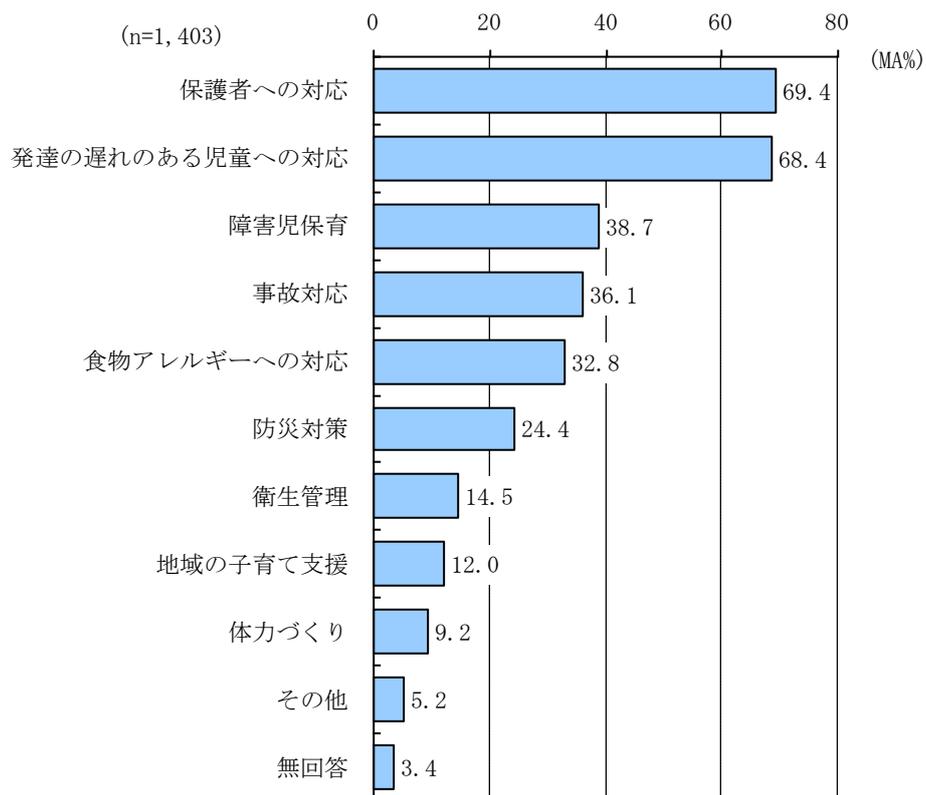


(11) 現在保育の現場で対応が難しいと感じること

問18 あなたは、現在保育の現場で対応が難しいと感じていることは何ですか。(あてはまるものすべて)

現在保育の現場で対応が難しいと感じることは、「保護者への対応」が69.4%で最も多く、次いで「発達の遅れのある児童への対応」が68.4%、「障害児保育」が38.7%となっている。(図Ⅱ2-16①)

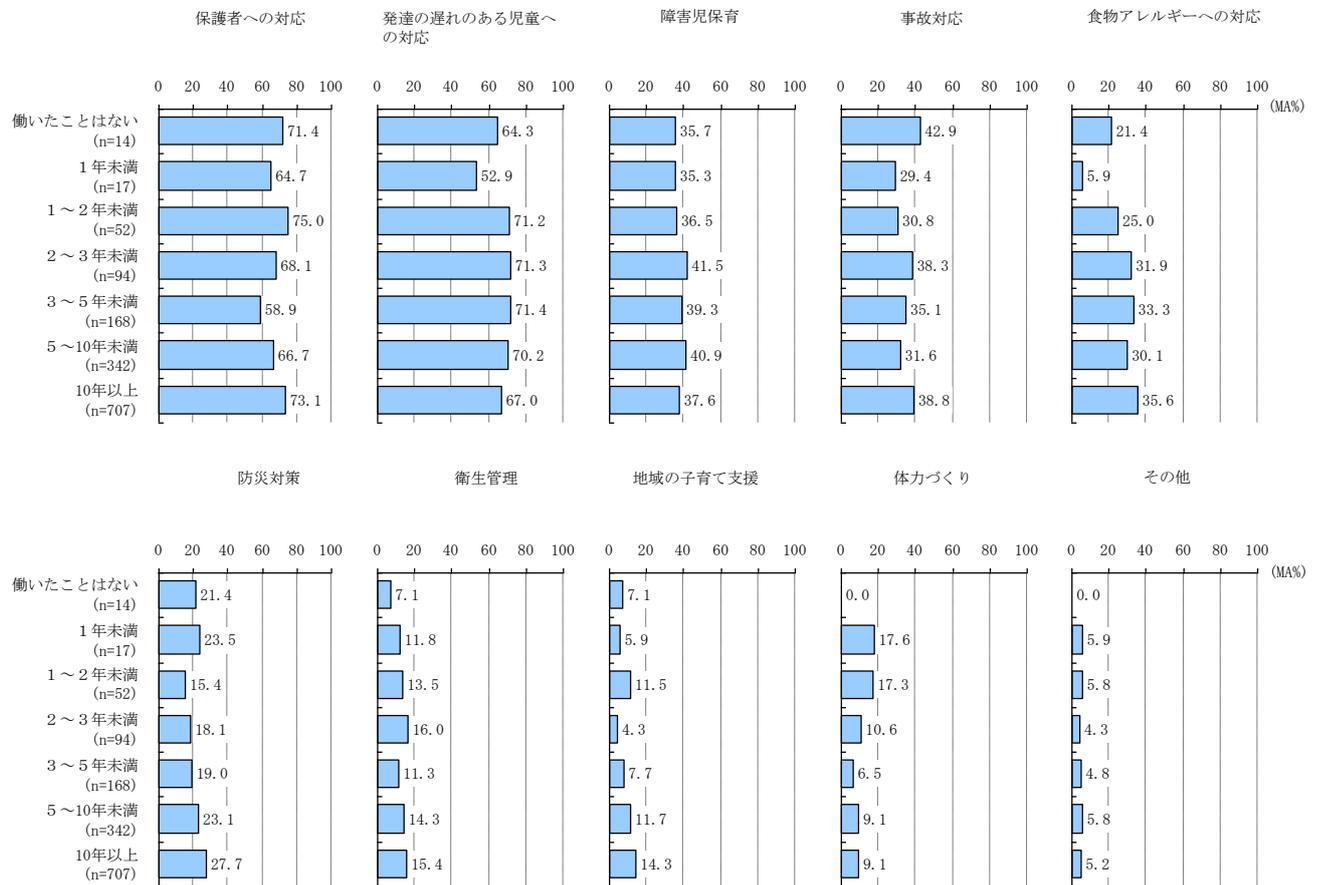
【図Ⅱ2-16① 現在保育の現場で対応が難しいと感じること】



【保育士としての通算就業年数別】

就業年数が2年未満の場合は、「保護者への対応」が最も多く、2年以上になると「発達の遅れのある児童への対応」が多くなっている。(図Ⅱ2-16②)

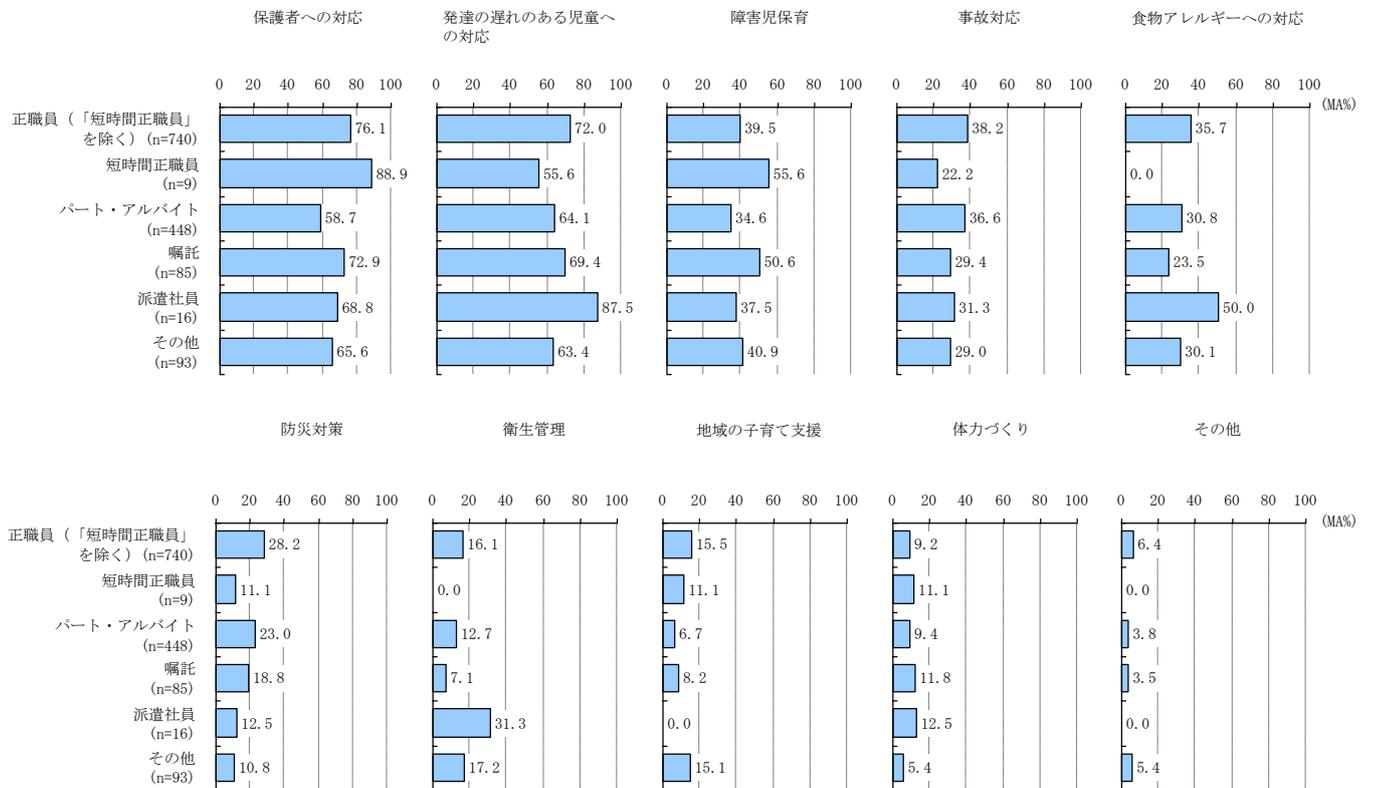
【図Ⅱ2-16② 保育士としての通算就業年数別 現在保育の現場で対応が難しいと感じること】



【現在の雇用形態別】

雇用形態に関係なく、「保護者への対応」や「発達の遅れのある児童への対応」が多くなっている。(図Ⅱ2-16③)

【図Ⅱ2-16③ 現在の雇用形態別 現在保育の現場で対応が難しいと感じること】



(12) 保育士になってから利用した支援・制度等

問19 保育士になってからこれまでに受けた支援・活用した制度等を、それぞれの時期①～④について、主なもの3つまでを以下の1～14の中から選んで記入してください。

また、受けたかったが受けられなかった支援・制度等についても、それぞれの時期①～④について以下の1～14の中から3つまで選んで記入してください。

保育士になってからの支援・制度の利用状況についてたずねた。

①第1子の妊娠・出産・育児の際に受けた支援・制度は、「両親等、家族による育児の支援」が19.2%で最も多く、次いで「育児休業」が17.5%、「認可保育所」が9.8%となっている。一方、受けたかったが受けられなかった支援・制度は、「子の看護休暇」が6.8%で最も多く、次いで「短時間勤務」が6.0%、「時間外勤務の免除」が5.9%と続いている。

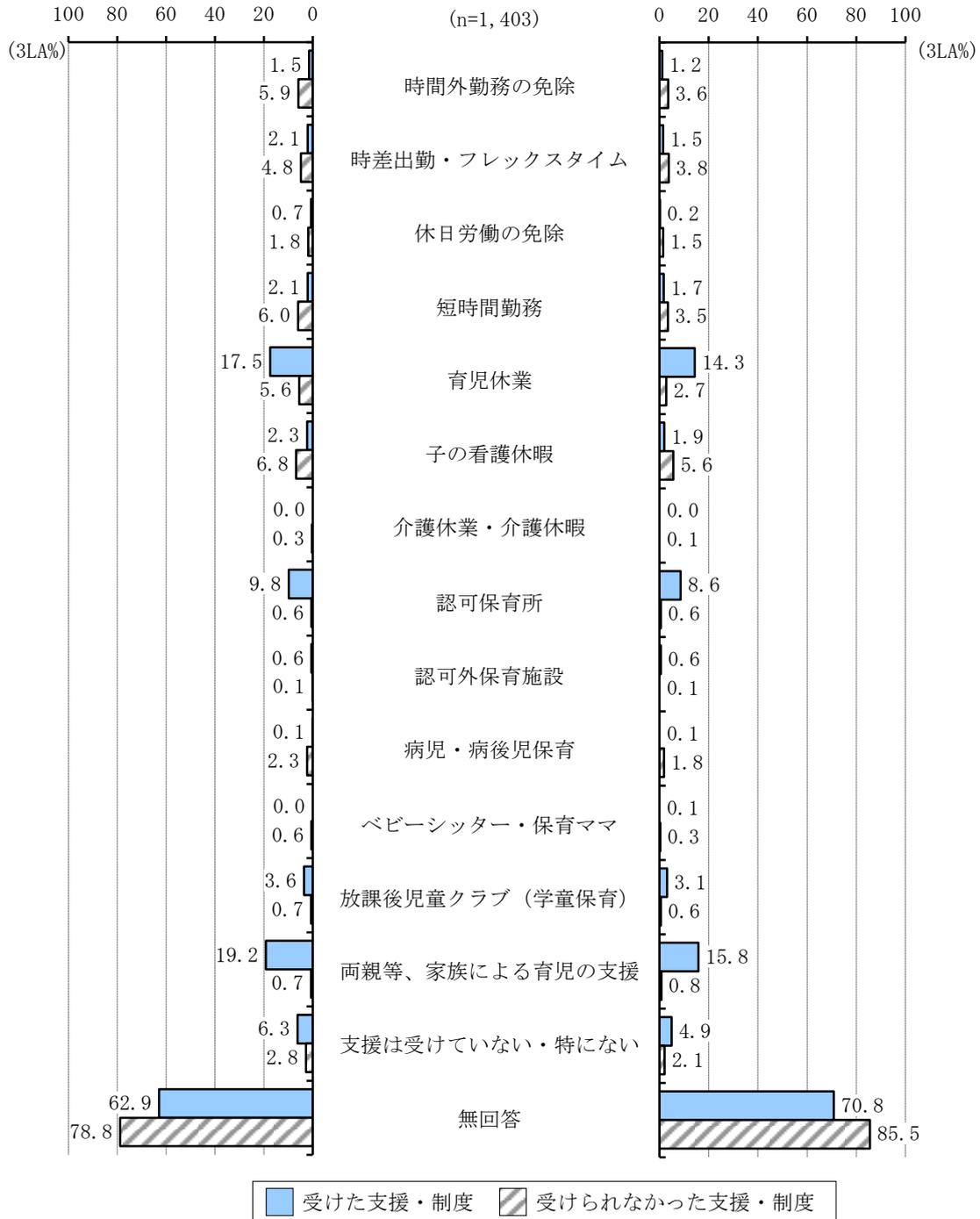
②第2子以降の妊娠・出産・育児の際に受けた支援・制度は、「両親等、家族による育児の支援」が15.8%で最も多く、次いで「育児休業」が14.3%、「認可保育所」が8.6%となっており、第1子と同じ順位となっている。一方、受けたかったが受けられなかった支援・制度は、「子の看護休暇」が5.6%で最も多くなっている。

③家族の介護の際に受けた支援・制度については、「支援は受けていない・特にない」が8.5%で最も多く、受けた支援・制度では「介護休業・介護休暇」が1.0%で最も多く、それ以外の項目はいずれも1%未満となっている。一方、受けたかったが受けられなかった支援・制度は、「介護休業・介護休暇」が4.8%で最も多くなっている。(図Ⅱ2-17①②)

【図Ⅱ2-17 保育士になってから利用した支援・制度等①】

①第1子の妊娠・出産・育児の際

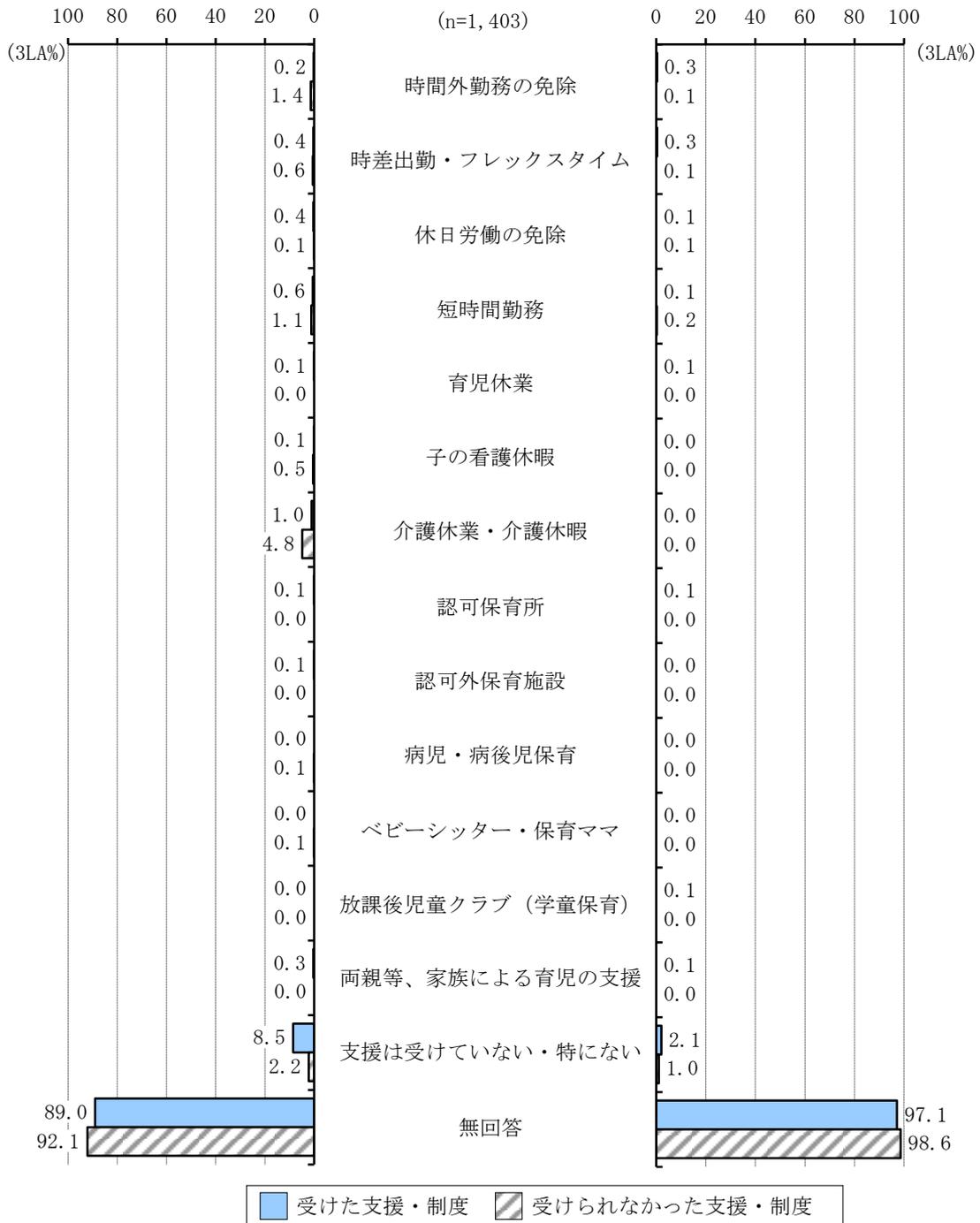
②第2子以降の妊娠・出産・育児の際



【図Ⅱ2-17 保育士になってから利用した支援・制度等②】

③家族の介護の際

④その他

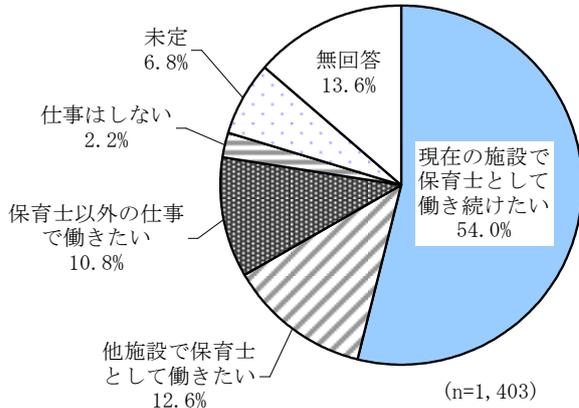


(13) 今後の就業に対する考え

①就業意向

問21 今後の就業意向について、あなたの考えにもっとも近いもの1つに○をつけてください。

【図Ⅱ2-18① 今後の就業意向】

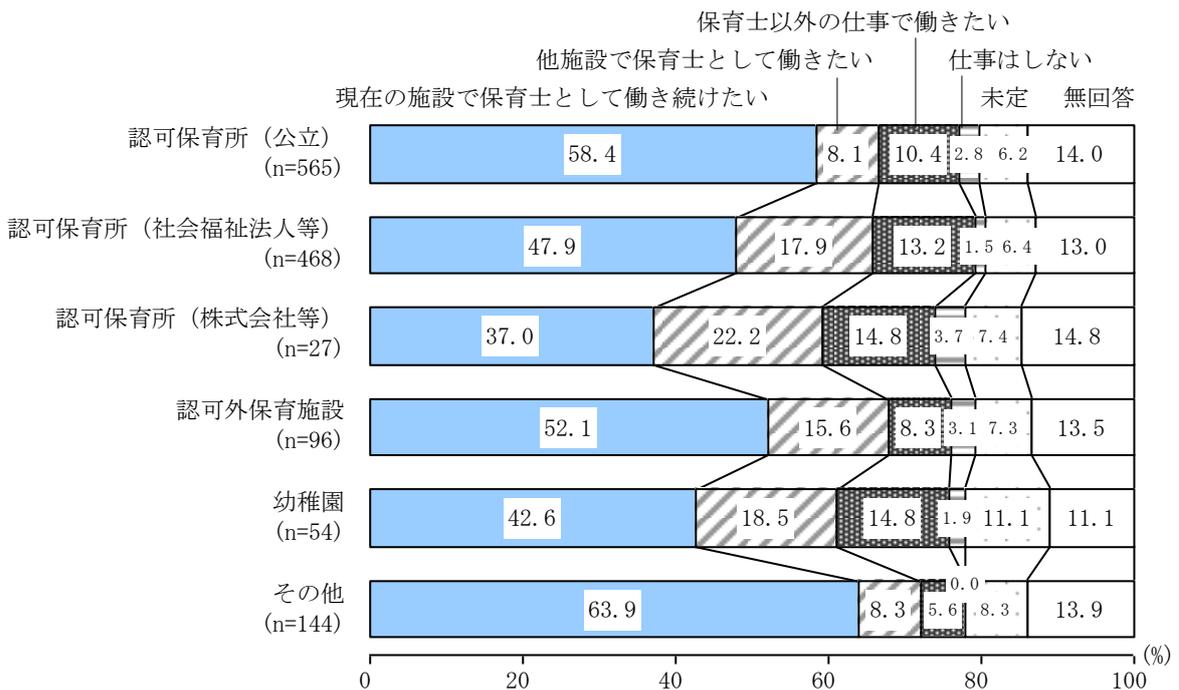


今後、保育士として就業意向がある割合は66.6%で、そのうち「現在の施設で保育士として働きたい」が54.0%、「他施設で保育士として働きたい」が12.6%となっている。一方、「保育士以外の仕事で働きたい」は10.8%である。(図Ⅱ2-18①)

【就業保育施設別】

「現在の施設で保育士として働きたい」割合は、認可保育所（公立）が58.4%で最も高い。これに対し、認可保育所（株式会社）では37.0%と最も低く、「他施設で保育士として働きたい」が22.2%と高くなっている。「保育士以外の仕事で働きたい」の割合も認可保育所（株式会社）において高く、幼稚園とともに14.8%となっている。(図Ⅱ2-18②)

【図Ⅱ2-18② 就業保育施設別 今後の就業意向】



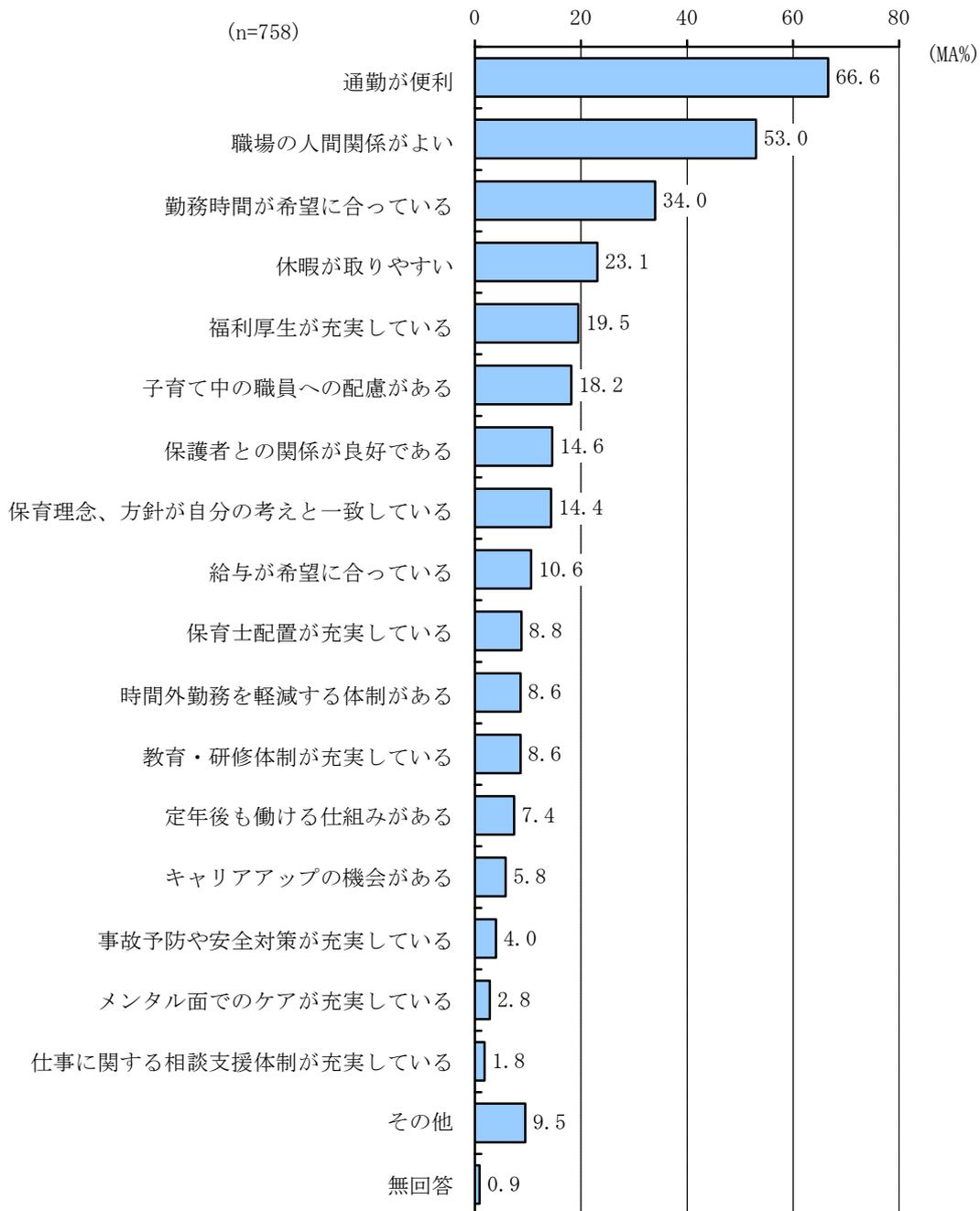
②現在の施設で保育士として働きたい理由

問22 問21で「1 現在の施設で保育士として働き続けたい」と回答した方におうかがいします。

現在の施設で保育士として働きたい理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

現在の施設で保育士として働き続けたいと回答した人に、その理由をたずねると、「通勤が便利」が66.6%で最も多く、次いで「職場の人間関係がよい」が53.0%、「勤務時間が希望に合っている」が34.0%となっている。(図Ⅱ1-19①)

【図Ⅱ2-19① 現在の施設で保育士として働きたい理由】



【就業保育施設別】

現在就業する保育施設に関係なく、「通勤が便利」が第1位となっている(その他除く)。

これに次いで「職場の人間関係がよい」「勤務時間が希望に合っている」が上位項目である。(図Ⅱ1-19②)

【図Ⅱ2-19② 就業保育施設別 現在の施設で保育士として働きたい理由(上位5項目)】

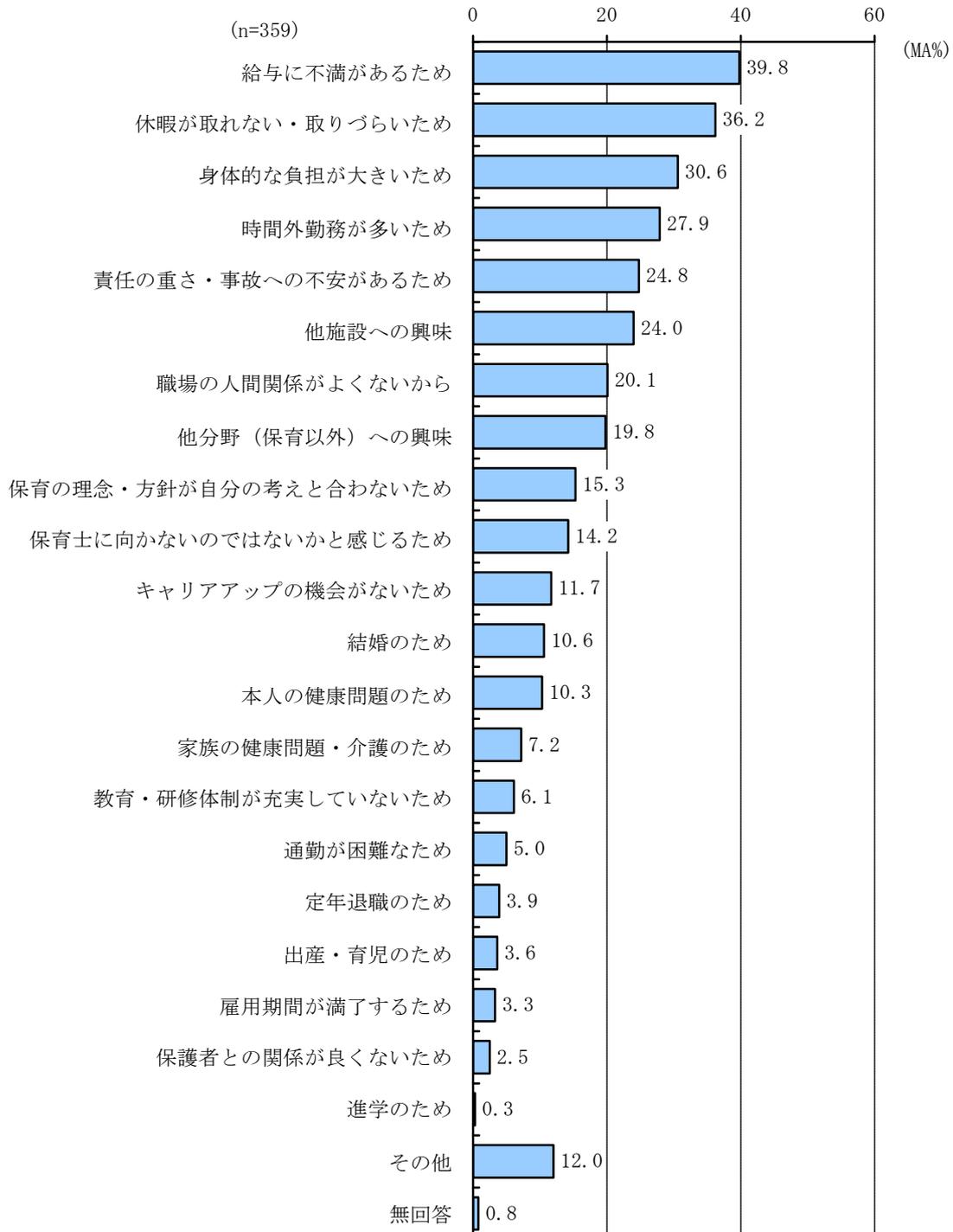
						(MA%)
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
認可保育所 (公立)	330	通勤が便利 70.6	職場の人間関係がよい 48.8	勤務時間が希望に合っている 32.7	福利厚生が充実している 26.1	休暇が取りやすい 18.5
認可保育所 (社会福祉法人等)	224	通勤が便利 64.7	職場の人間関係がよい 54.5	勤務時間が希望に合っている 34.8	子育て中の職員への配慮がある 27.2	休暇が取りやすい 23.2
認可保育所 (株式会社等)	10	通勤が便利、職場の人間関係がよい 70.0		勤務時間が希望に合っている 50.0	福利厚生が充実している、休暇が取りやすい 40.0	
認可外保育施設	50	通勤が便利 70.0	職場の人間関係がよい 58.0	休暇が取りやすい 38.0	勤務時間が希望に合っている 26.0	保護者との関係が良好である 22.0
幼稚園	23	通勤が便利 69.6	職場の人間関係がよい 60.9	保護者との関係が良好である 30.4	勤務時間が希望に合っている 21.7	福利厚生が充実している、保育理念、方針が自分の考えと一致している 13.0
その他	92	職場の人間関係がよい 57.6	通勤が便利 56.5	勤務時間が希望に合っている 44.6	休暇が取りやすい 34.8	給与が希望に合っている 16.3

③現在の施設で働きたくない理由

問23 問20で「2 他施設で保育士として働きたい」「3 保育士以外の仕事で働きたい」「4 仕事はしない」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

今後、他施設で働きたい、保育士以外の仕事で働きたい、仕事はしないと回答した人に、現在の施設で働きたくない理由についてたずねた。「給与に不満があるため」が39.8%で最も多く、次いで「休暇が取れない・取りづらいため」が36.2%、「身体的な負担が大きいため」が30.6%、「時間外勤務が多いため」が27.9%となっている。(図Ⅱ2-20①)

【図Ⅱ2-20① 現在の施設で働きたくない理由】



【就業保育施設別】

認可保育所（公立）の第1位は、「身体的な負担が大きい」（39.7%）である。これに次いで「休暇が取れない・取りづらいため」（34.7%）、「責任の重さ・事故への不安があるため」（32.2%）となっている。認可保育所（社会福祉法人等）の第1位は「給与に不満があるため」（51.6%）で、以下、「休暇が取れない・取りづらいため」（43.1%）、「時間外勤務が多いため」（32.0%）となっている。認可外保育施設でも「給与に不満があるため」（46.2%）が第1位となっている。（図Ⅱ2-20②）

【図Ⅱ2-20② 就業保育施設別 現在の施設で働きたくない理由（上位5項目）】

(MA%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
認可保育所 (公立)	121	身体的な負担が大きい ため 39.7	休暇が取れない・取りづらいため 34.7	責任の重さ・事故への不安があるため 32.2	給与に不満があるため 28.9	職場の人間関係がよくないから、時間外勤務が多いため 20.7
認可保育所 (社会福祉法人等)	153	給与に不満があるため 51.6	休暇が取れない・取りづらいため 43.1	時間外勤務が多いため 32.0	他施設への興味 29.4	身体的な負担が大きい ため 26.1
認可保育所 (株式会社等)	11	休暇が取れない・取りづらいため 63.6	給与に不満があるため 63.6	キャリアアップの機会がないため 36.4	時間外勤務が多いため 27.3	身体的な負担が大きい ため 27.3
認可外保育施設	26	給与に不満があるため 46.2	他分野（保育以外）への興味 26.9	時間外勤務が多いため 26.9	休暇が取れない・取りづらいため、責任の重さ・事故への不安があるため 26.9	
幼稚園	19	身体的な負担が大きい ため 52.6	時間外勤務が多いため 47.4	責任の重さ・事故への不安があるため 42.1	他施設への興味、休暇が取れない・取りづらいため、給与に不満があるため 31.6	
その他	20	他施設への興味 40.0	他分野（保育以外）への興味 25.0	身体的な負担が大きい ため 25.0	時間外勤務が多いため、給与に不満があるため、教育・研修体制が充実していないため 20.0	

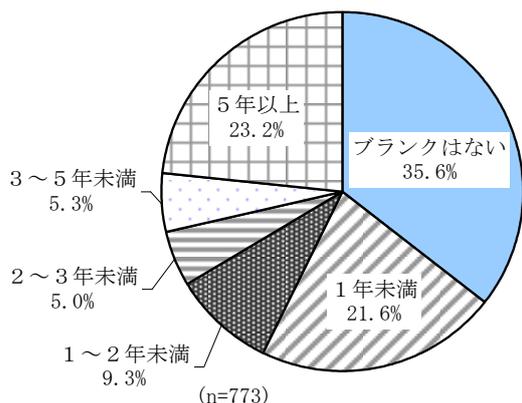
3. 現任保育士で退職経験がある人の状況

(1) 現在の勤務先に就業するまでの状況

①直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間

問24 直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間についてお答えください。(〇は1つ)

【図Ⅱ3-1 直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間】



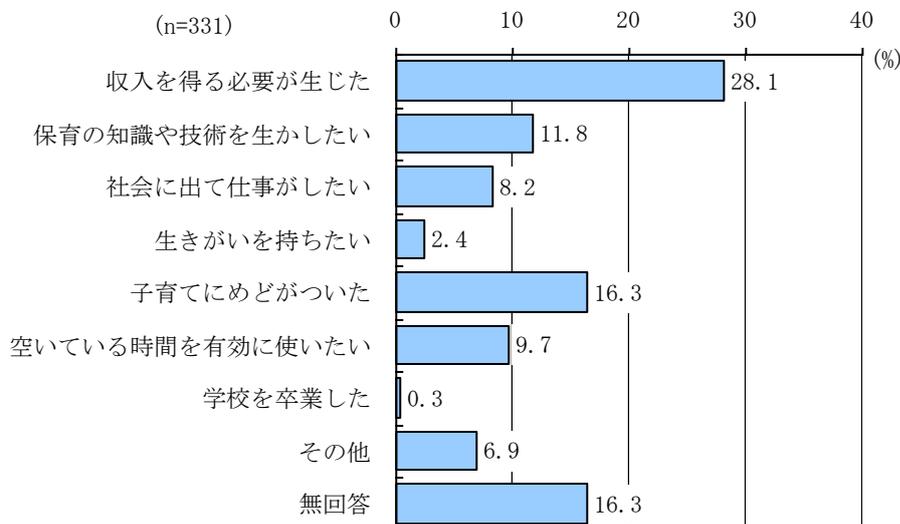
直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間は、「ブランクはない」が35.6%で最も多い。期間が空いた場合は、「5年以上」が23.2%で最も多く、次いで「1年未満」が21.6%となっている。1年未満での再就職が多くなっている。(図Ⅱ3-1)

②再就職までの期間が1年以上の場合の再就職理由

問24-1 再就職までの期間が1年以上の方におうかがいします。(それ以外の方は問25へお進みください。)
再就職した最大の理由は何ですか。(〇は1つ)

再就職までに1年以上かかった人に、再就職した最大理由をたずねたところ、「収入を得る必要が生じた」が28.1%で最も多く、次いで「子育てにめどがついた」が16.3%、「保育の知識や技術を生かしたい」が11.8%となっている。(図Ⅱ3-2)

【図Ⅱ3-2 再就職した最大の理由】

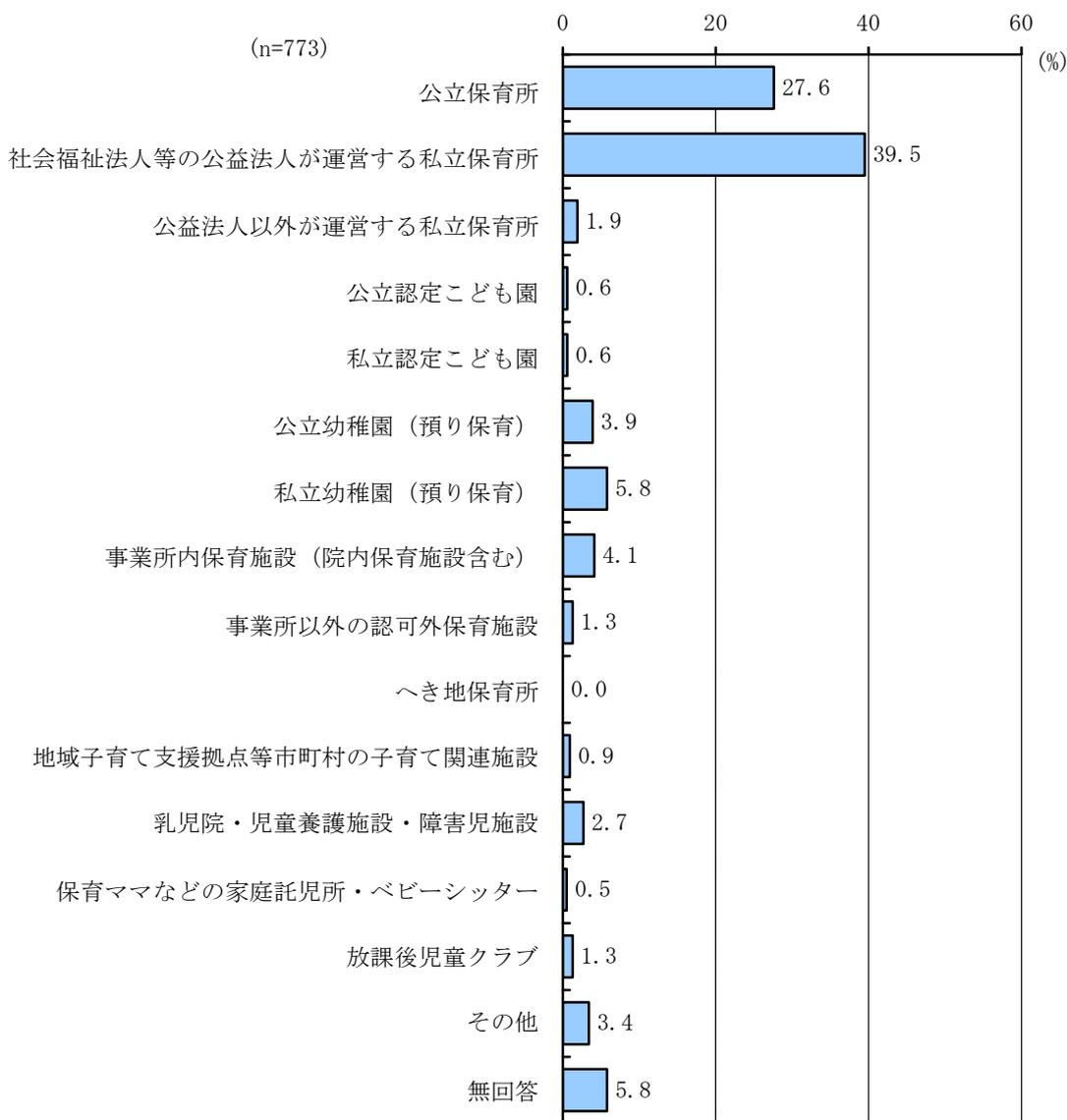


(2) 直近に退職した勤務先

問25 直近に退職した勤務先はどちらですか。(〇は1つ)

直近に退職した勤務先は、「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」が39.5%で最も多く、次いで「公立保育所」が27.6%、「私立幼稚園（預り保育）」が5.8%となっている。(図Ⅱ3-3①)

【図Ⅱ3-3① 直近に退職した勤務先】



【就業保育施設別】

現在、認可保育所（公立）で就業する人では、直近で「公立保育所」を退職した人が36.0%、「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」を退職した人が36.6%となっている。これに対し認可保育所（社会福祉法人等）で就業する人では、「公立保育所」を退職した人は17.4%、認可保育所（株式会社等）に就業する人で「公立保育所」を退職した人は13.3%であり、認可保育所（公立）に比べ、公立保育所からの移行は少なくなっている。（図Ⅱ3-3②）

【図Ⅱ3-3② 就業保育施設別 直近に退職した勤務先】

(%)

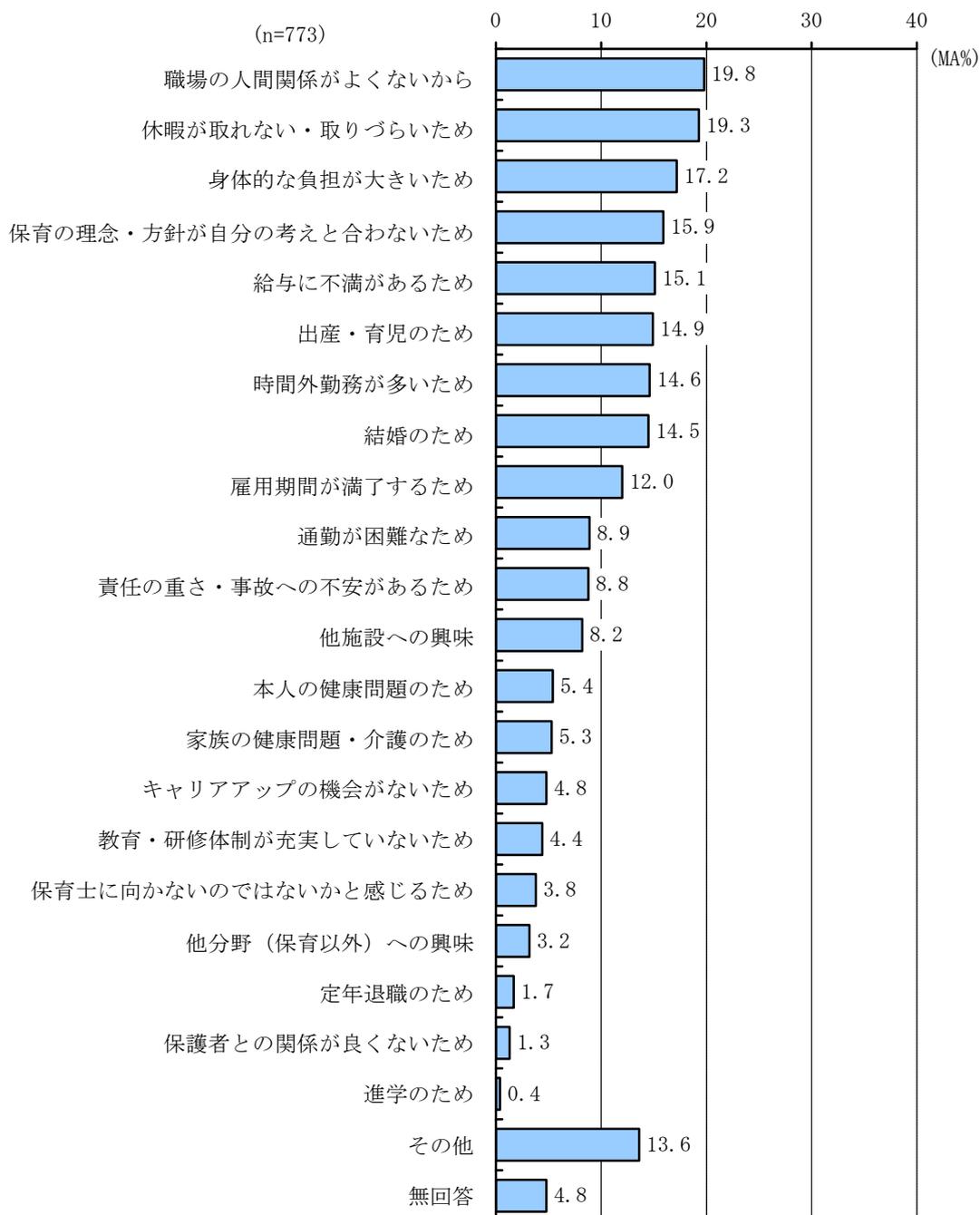
	n	公立保育所	社会福祉法人等が運営する私立保育所の公益法人	公益法人以外が運営する私立保育所	公立認定子ども園	私立認定子ども園	公立幼稚園（預り保育）	私立幼稚園（預り保育）	事業所内保育施設（院内保育施設含む）	事業所以外の認可外保育施設	その他	無回答
認可保育所（公立）	292	36.0	36.6	1.0	1.4	-	4.5	4.8	2.1	0.7	7.2	5.8
認可保育所（社会福祉法人等）	241	17.4	51.5	2.5	-	1.2	2.9	5.8	3.7	0.8	7.4	6.6
認可保育所（株式会社等）	15	13.3	26.7	13.3	-	6.7	6.7	13.3	6.7	-	-	13.3
認可外保育施設	74	25.7	37.8	1.4	-	1.4	1.4	6.8	9.5	2.7	10.9	2.7
幼稚園	24	20.8	20.8	-	-	-	12.5	33.3	4.2	-	0.0	8.3
その他	102	31.4	27.5	2.9	1.0	-	2.9	1.0	7.8	2.9	19.7	2.9

(3) 退職理由

問26 勤務先を退職した理由は何でしたか。(あてはまるものすべて)

勤務先を退職した理由は、「職場の人間関係がよくないから」が19.8%で最も多く、次いで「休暇が取れない・取りづらいため」が19.3%、「身体的な負担が大きい」ため」が17.2%、「保育の理念・方針が自分の考えと合わないため」が15.9%となっている。(図Ⅱ3-4①)

【図Ⅱ3-4① 退職理由】



【就業保育施設別】

認可保育所（公立）に就業する人で前勤務先を退職した理由は、「休暇が取れない・取りづらいため」が21.6%で第1位である。次いで、「職場の人間関係がよくないから」（20.5%）、「時間外勤務が多いため」（18.8%）が上位項目となっている。

認可保育所（社会福祉法人等）及び認可保育所（株式会社等）では、「職場の人間関係がよくないから」がそれぞれ第1位で、以下、認可保育所（社会福祉法人等）では、「結婚のため」（17.0%）、「休暇が取れない・取りづらいため」（16.6%）、「保育の理念・方針が自分の考えと合わないため」（16.2%）が上位項目となっている。認可保育所（株式会社等）では、「通勤が困難」や「身体的な負担が大きい」「保育士に向かないのではないかと感じた」（各20.0%）などが多い。

認可外保育施設では、「休暇が取れない・取りづらいため」（20.3%）、「給与に不満があるため」（17.6%）、「雇用期間が満了するため」（16.2%）などが多い。

幼稚園の場合は、「責任の重さ・事故への不安があるため」（33.3%）、「休暇が取れない・取りづらいため」（29.2%）、「身体的な負担が大きい」（29.2%）が上位となっている。（図Ⅱ3-4②）

【図Ⅱ3-4② 就業保育施設別 退職理由（上位5項目）】

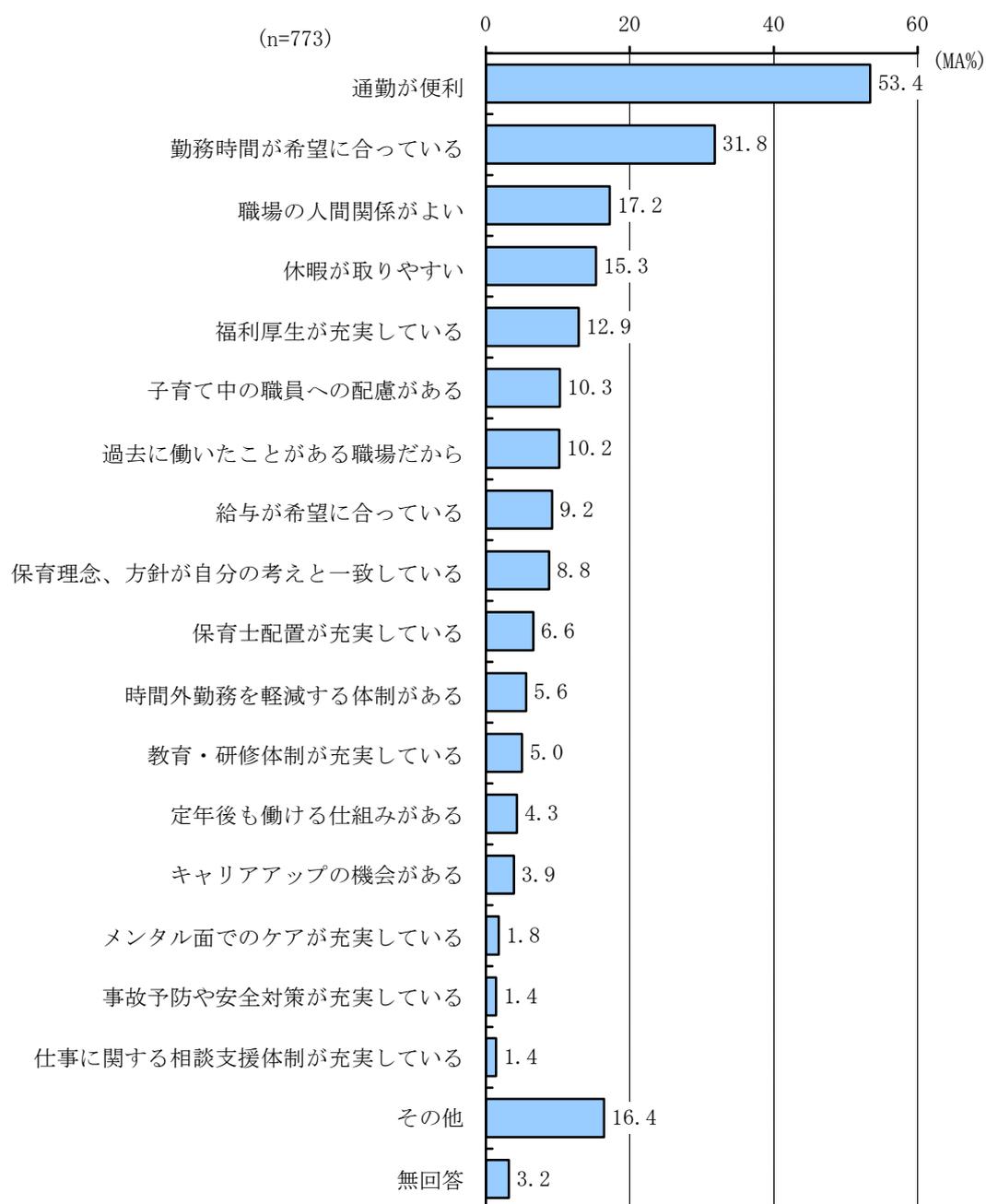
(MA%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
認可保育所 (公立)	292	休暇が取れない・取りづらいため 21.6	職場の人間関係がよくないから 20.5	時間外勤務が多いため 18.8	身体的な負担が大きい 17.5	給与に不満があるため 16.8
認可保育所 (社会福祉法人等)	241	職場の人間関係がよくないから 19.1	結婚のため 17.0	休暇が取れない・取りづらいため 16.6	保育の理念・方針が自分の考えと合わないため 16.2	出産・育児のため 15.4
認可保育所 (株式会社等)	15	職場の人間関係がよくないから 33.3	結婚のため、通勤が困難なため、身体的な負担が大きい、保育士に向かないのではないかと感じるため 20.0			
認可外保育施設	74	休暇が取れない・取りづらいため 20.3	給与に不満があるため 17.6	職場の人間関係がよくないから、雇用期間が満了するため 16.2	身体的な負担が大きい 14.9	
幼稚園	24	責任の重さ・事故への不安があるため 33.3	休暇が取れない・取りづらいため、身体的な負担が大きい 29.2	給与に不満があるため、保育の理念・方針が自分の考えと合わないため 25.0		
その他	102	身体的な負担が大きい 23.5	職場の人間関係がよくないから 20.6	休暇が取れない・取りづらいため 17.6	保育の理念・方針が自分の考えと合わないため 16.7	出産・育児のため 15.7

(4) 現在の職場を選んだ理由

問27 現在の職場を選んだ理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

現在の職場を選んだ理由は、「通勤が便利」が53.4%で最も多い。これに次いで「勤務時間が希望に合っている」が31.8%で、以下、「職場の人間関係がよい」が17.2%、「休暇が取りやすい」が15.3%、「福利厚生が充実している」が12.9%となっている。(図Ⅱ3-5①)

【図Ⅱ3-5① 現在の職場を選んだ理由】



【就業保育施設別】

いずれの就業先施設も、「通勤が便利」が最も多くなっている。これに次いで「勤務時間が希望に合っている」であり、これらが2大理由となっている。認可保育所（社会福祉法人等）で「保育の理念・方針が自分の考えと合わないため」が第5位に入っているが、就業先までの利便性や融通性のほうが重視されている。（図Ⅱ3-5②）

【図Ⅱ3-5② 就業保育施設別 現在の職場を選んだ理由（上位5項目）】

		(MA%)				
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
認可保育所 (公立)	292	通勤が便利 60.3	勤務時間が希望に 合っている 31.8	福利厚生が充実して いる 17.1	職場の人間関係がよ い 13.7	休暇が取りやすい 13.4
認可保育所 (社会福祉法人 等)	241	通勤が便利 49.0	勤務時間が希望に 合っている 29.0	職場の人間関係がよ い 18.7	過去に働いたことが ある職場だから 15.8	保育理念、方針が自 分の考えと一致して いる 14.1
認可保育所 (株式会社等)	15	通勤が便利 40.0	勤務時間が希望に 合っている 40.0	休暇が取りやすい 26.7	職場の人間関係がよ い 20.0	福利厚生が充実して いる、子育て中の職 員への配慮がある、 時間外勤務を軽減す る体制がある、定年 後も働ける仕組みが ある 13.3
認可外保育施設	74	通勤が便利 51.4	勤務時間が希望に 合っている 25.7	職場の人間関係がよ い 24.3	福利厚生が充実して いる 17.6	
幼稚園	24	通勤が便利 58.3	勤務時間が希望に 合っている 20.8	福利厚生が充実して いる、保育理念、方 針が自分の考えと一 致している 16.7	子育て中の職員への 配慮がある、職場の 人間関係がよい、教 育・研修体制が充実 している 12.5	
その他	102	通勤が便利 46.1	勤務時間が希望に 合っている 43.1	休暇が取りやすい 19.6	職場の人間関係がよ い 17.6	給与が希望に合っ ている 13.7

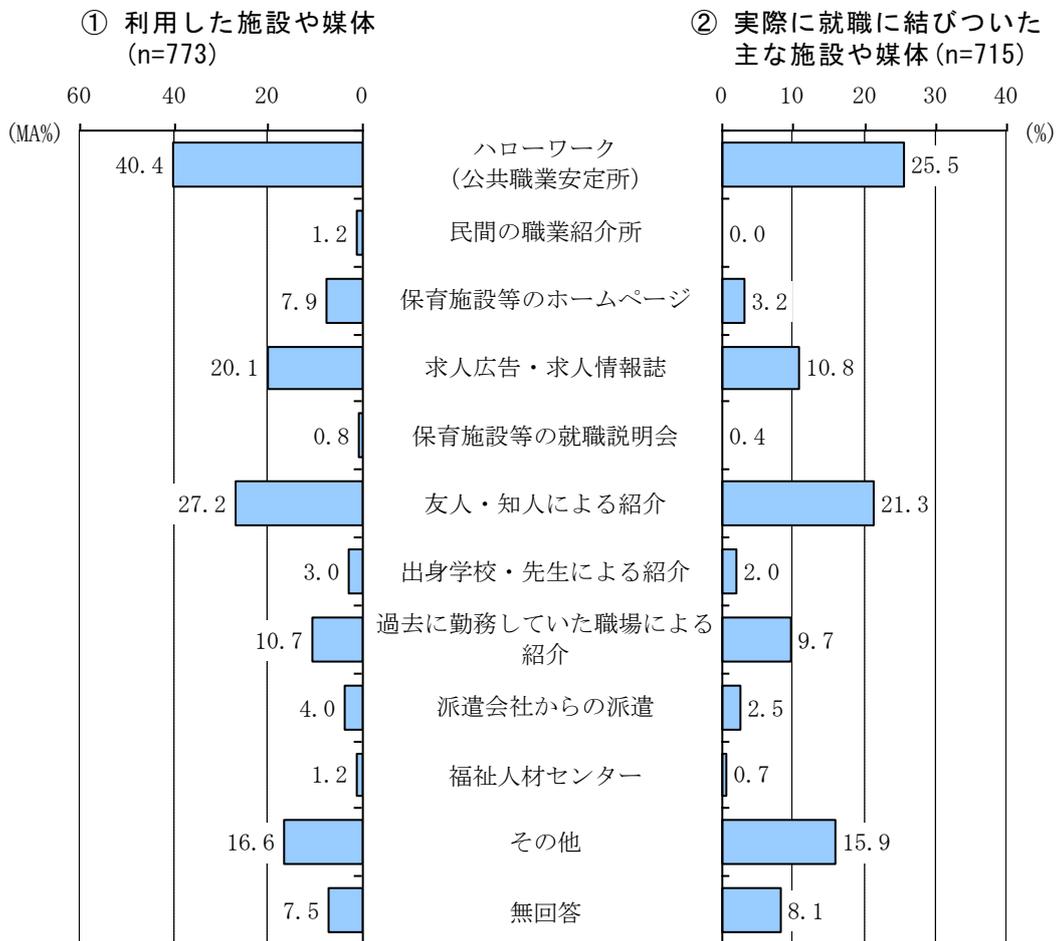
(5) 現在の職場を探す際に利用した施設や媒体

問28 現在の職場を探す際、①利用した施設や媒体は何ですか。(あてはまるものすべて)
また、②実際に就職に結びついた主な施設や媒体はどれですか。(〇は主なもの1つ)

現在の職場を探す際に利用した施設や媒体は、「ハローワーク（公共職業安定所）」が40.4%で最も多く、次いで「友人・知人による紹介」が27.2%、「求人広告・求人情報誌」が20.1%となっている。

また、実際に就職に結びついた施設や媒体は、「ハローワーク（公共職業安定所）」が25.5%で最も多く、次いで「友人・知人による紹介」が21.3%、「求人広告・求人情報誌」が10.8%となっている。(図Ⅱ3-6)

【図Ⅱ3-6 現在の職場を探す際に利用した施設や媒体】

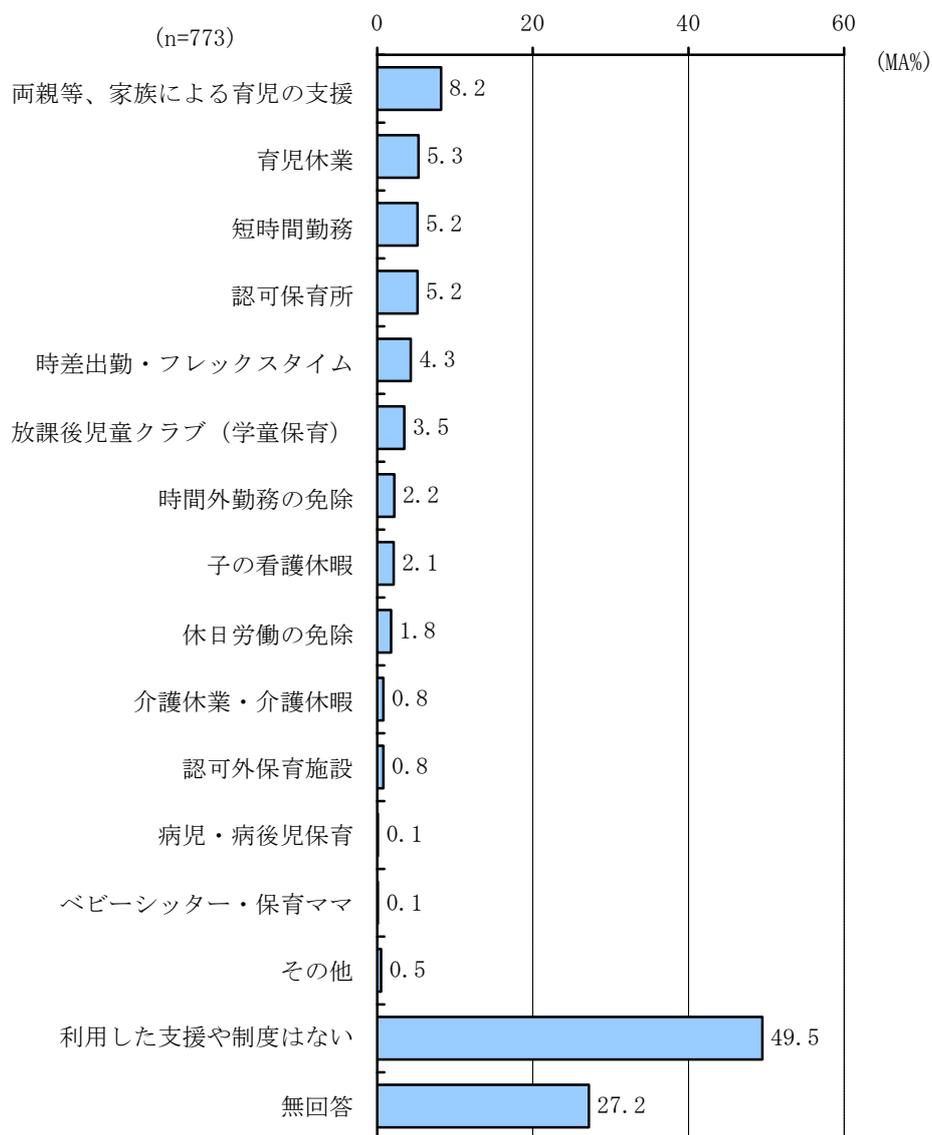


(6) 現在の職場において利用した支援や制度等

問29 現在の職場において利用した支援や制度等がありますか。(あてはまるものすべて)

現在の職場において利用した支援や制度については、「利用した支援や制度はない」が49.5%で最も多い。利用した支援や制度では、「両親等、家族による育児の支援」が8.2%で最も多く、次いで「育児休業」が5.3%、「短時間勤務」と「認可保育所」がともに5.2%となっている。(図Ⅱ3-7)

【図Ⅱ3-7 現在の職場において利用した支援や制度】



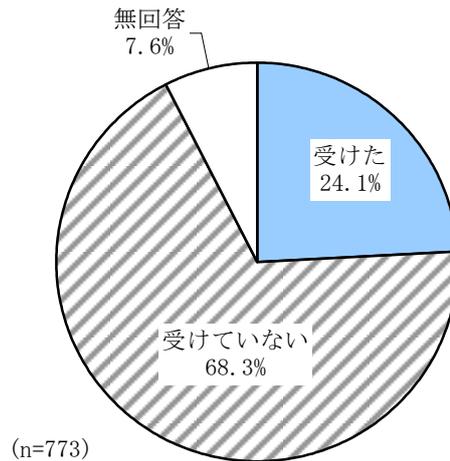
(7) 再就職時の研修の受講状況

①現在の職場に再就職した際の研修の受講有無

問30 現在の職場への再就職前後に1日(全日)以上の研修を受けましたか。(○は1つ)

現在の職場への再就職前後に1日以上研修を「受けた」という人が24.1%に対し、「受けていない」は68.3%となっている。(図Ⅱ3-8①)

【図Ⅱ3-8① 現在の職場に再就職した際の研修の受講有無】

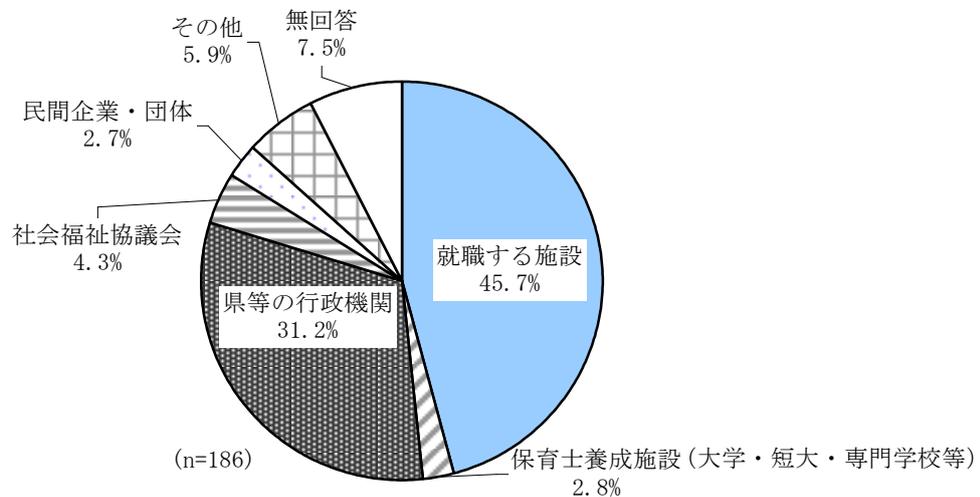


②研修を受講した機関

問30-1 問30で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。
どちらで研修を受けましたか。(○は主なもの1つ)

研修を受けたと回答した人の受講機関は、「就職する施設」が45.7%で最も多く、次いで「県等の行政機関」が31.2%となっている。(図Ⅱ3-9)

【図Ⅱ3-9 研修を受けた機関】



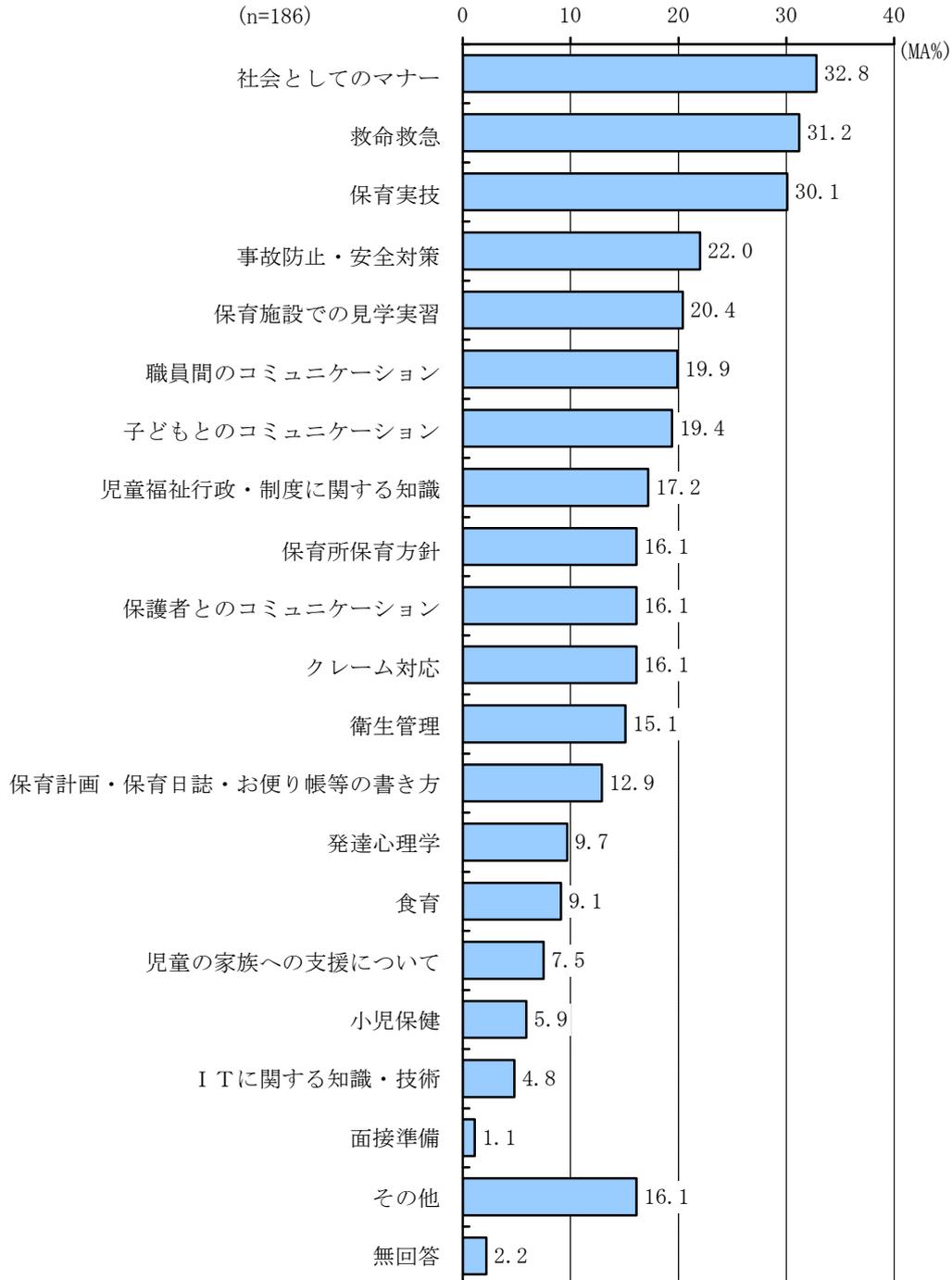
③研修内容

問30-2 問30で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。

どのような内容の研修を受けましたか。(あてはまるものすべて)

研修内容は、「社会としてのマナー」が32.8%で最も多く、次いで「救命救急」が31.2%、「保育実技」が30.1%となっている。(図Ⅱ3-10)

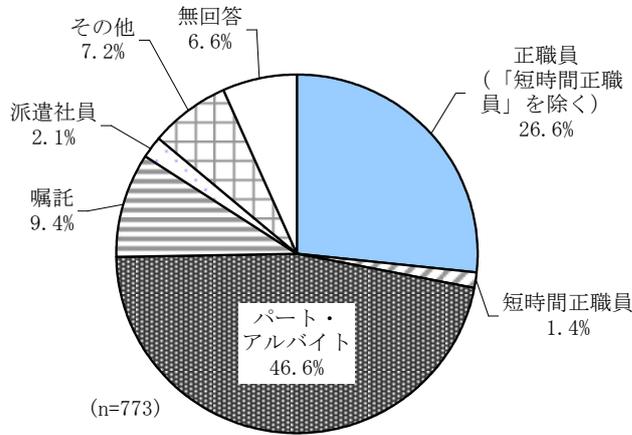
【図Ⅱ3-10 研修内容】



(8) 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態

問31 現在の職場への再就職時に希望した雇用形態を次の中から選んでください。(○は1つ)

【図Ⅱ3-11① 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態】

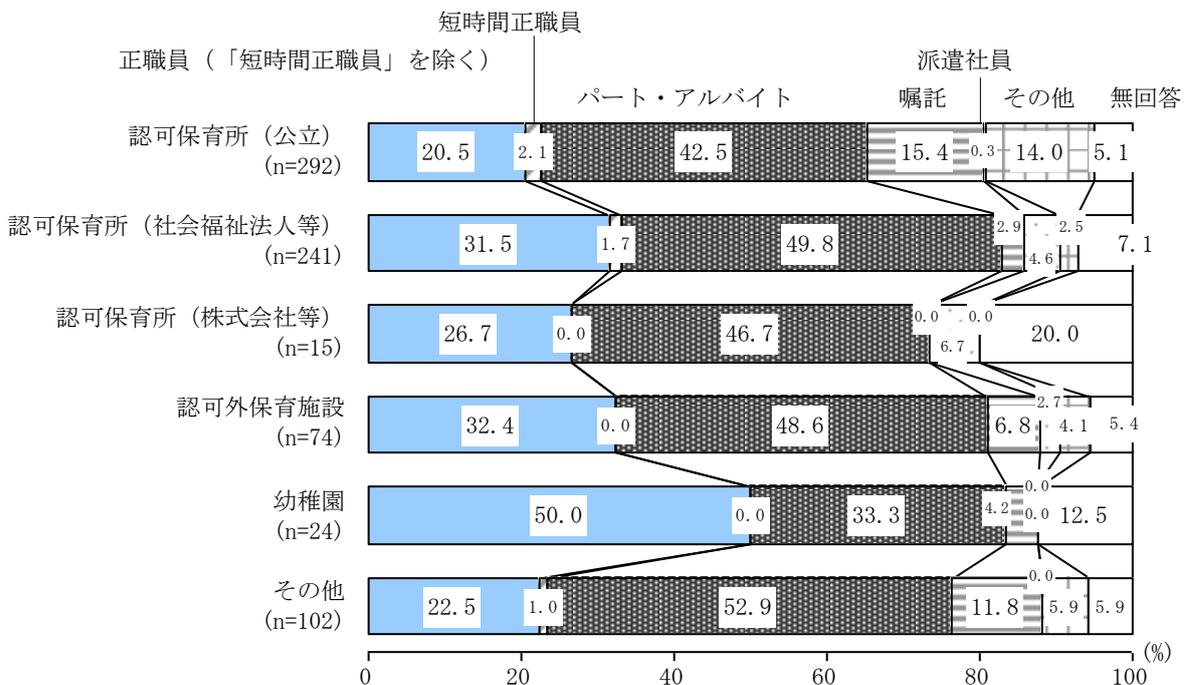


現在の職場への再就職時に希望した雇用形態は、「パート・アルバイト」が46.6%で最も多い。これに次いで「正職員 (「短時間正職員」を除く)」が26.6%、「嘱託」が9.4%となっている。(図Ⅱ3-11①)

【就業保育施設別】

幼稚園を除く各保育施設では、「正職員」よりも「パート・アルバイト」を希望した割合のほうが高くなっている。(図Ⅱ3-11①)

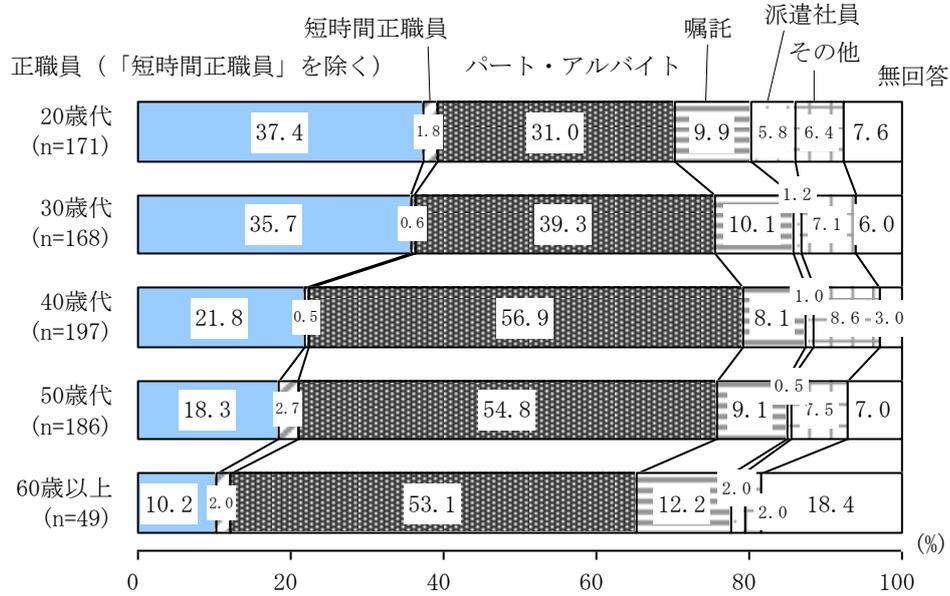
【図Ⅱ3-11② 就業保育施設別 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態】



【年齢別】

若い世代ほど「正職員」の希望割合が高く、20・30歳代では3割を占める。一方、年齢が上がるとともに、「パート・アルバイト」の割合が上昇し、40歳以上の各年代の2人に1人がパートでの再就労を希望している。(図Ⅱ3-11③)

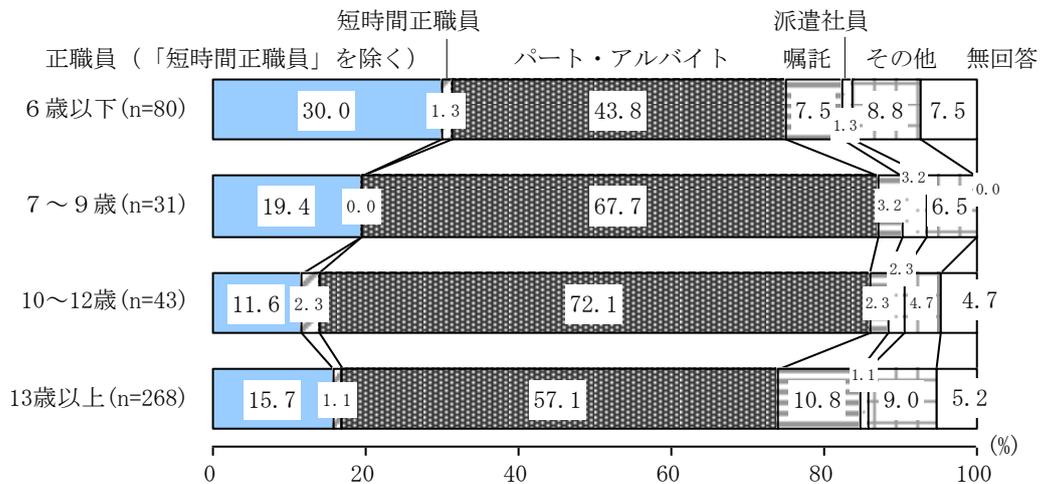
【図Ⅱ3-11③ 年齢別 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態】



【末子の年齢別】

末子の年齢別では、いずれも「パート・アルバイト」を希望する人が多い。特に末子が10～12歳では72.1%を占めている。これに対し、6歳以下の子どもを養育する保護者では「正職員」の希望割合が高くなっている。(図Ⅱ3-11④)

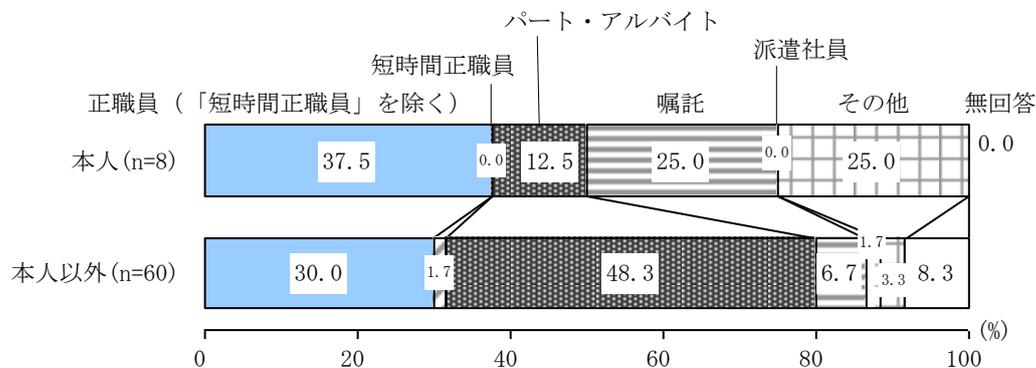
【図Ⅱ3-11④ 末子の年齢別 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態】



【日中の主な保育者別】

日中の主な保育者が回答者以外の場合、「パート・アルバイト」が48.3%で、「正職員」の割合を大きく超えている。(図Ⅱ3-11⑤)

【図Ⅱ3-11⑤】 日中の主な保育者別 現在の職場に再就職した時に希望した雇用形態

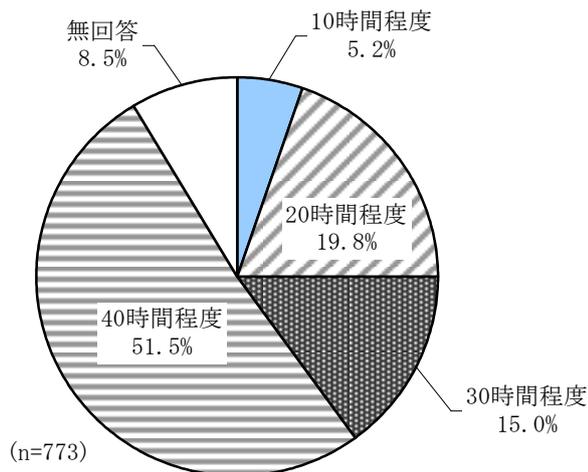


(9) 現在の職場に再就職した時に希望した週あたりの労働時間

問32 現在の職場への再就職時に希望した1週間あたりの労働時間はどれくらいでしたか。(○は1つ)

現在の職場への再就職時に希望した週あたりの労働時間は、「40時間程度」が51.5%で最も多く、次いで「20時間程度」が19.8%、「30時間程度」が15.0%となっている。(図Ⅱ3-12①)

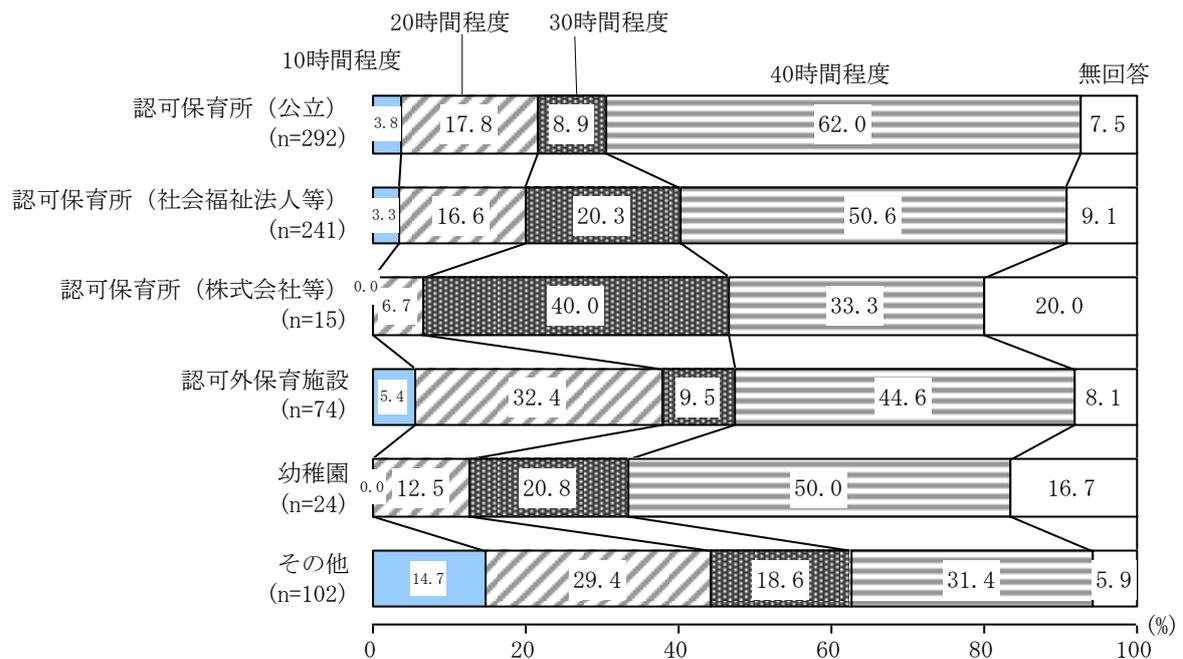
【図Ⅱ3-12①】 現在の職場への再就職時に希望した1週間あたりの労働時間



【就業保育施設別】

認可保育所（公立）で就業している人の再就職時の希望労働時間（週当たり）は、「40時間程度」が62.0%で最も多い。認可保育所（社会福祉法人等）でも「40時間程度」が50.6%を占めている。認可保育所（株式会社等）及び「認可外保育施設」では「20時間程度」もしくは「30時間程度」の勤務希望が高くなっている。（図Ⅱ3-12②）

【図Ⅱ3-12② 就業保育施設別 現在の職場への再就職時に希望した1週間あたりの労働時間】



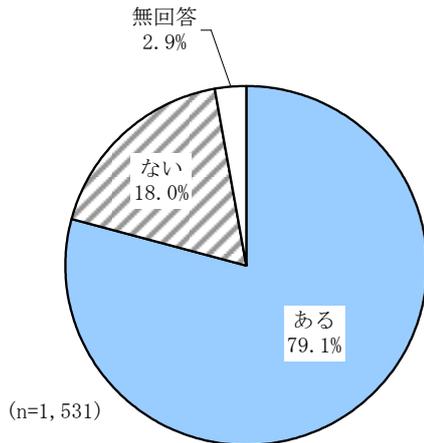
4. 無職もしくは保育士以外の仕事に就いている人の状況

(1) 保育に関する仕事の従事経験者の状況

① 保育に関する仕事の経験の有無

問33 あなたは、過去に保育に関する仕事をしたことがありますか。(○は1つ)

【図Ⅱ4-1① 保育に関する仕事の経験の有無】

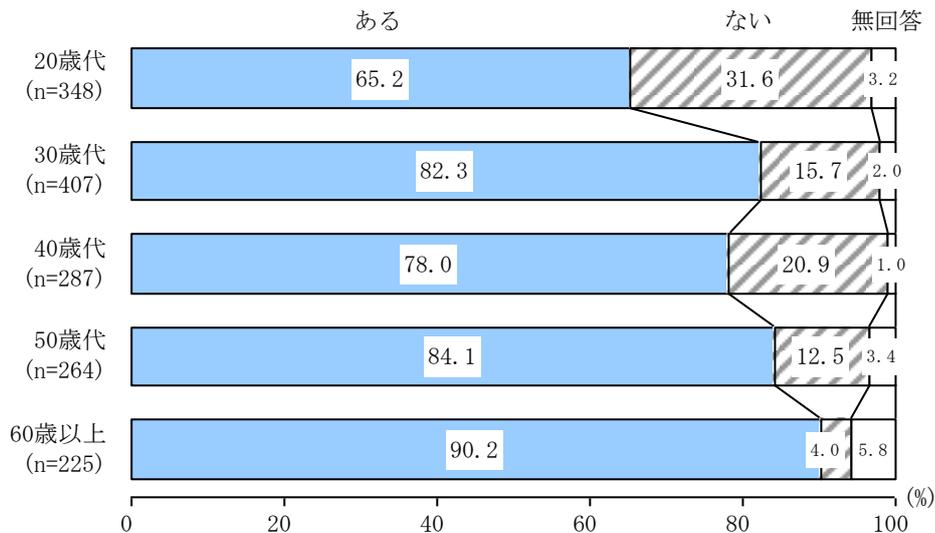


保育に関する仕事をしたことがあるは79.1%に対し、「ない」は18.0%となっている。(図Ⅱ4-1①)

【年齢別】

30歳以上の各年代では保育に関する仕事をした経験がある割合は8割前後、60歳以上では90.2%を占めている。これに対し、20歳代は、保育士資格をもちながら経験のない人が3人に1人となっている。(図Ⅱ4-1②)

【図Ⅱ4-1② 年齢別 保育に関する仕事の経験の有無】



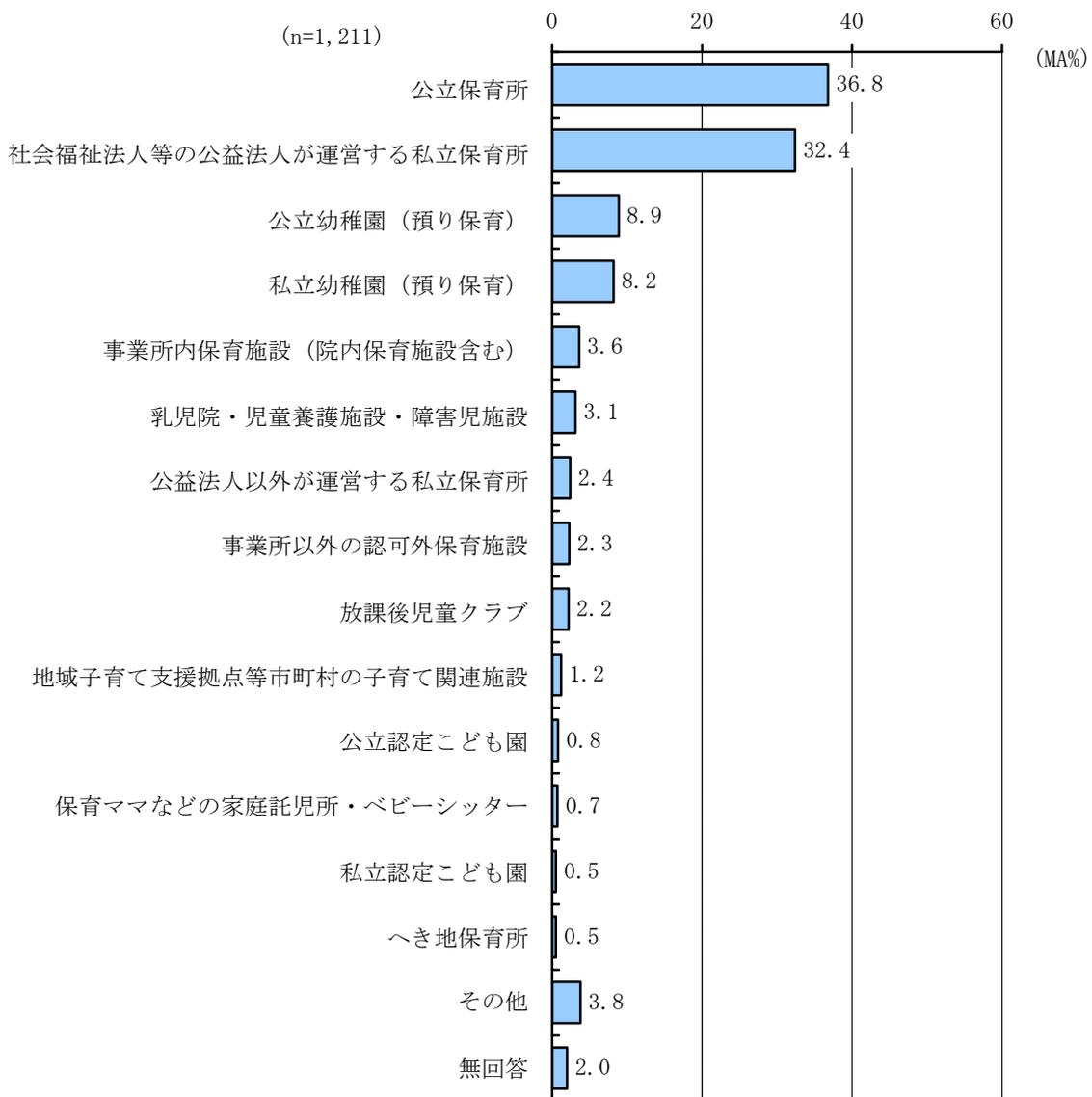
②保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先

問33-1 問33で「1 ある」と回答した方におうかがいします。

保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先はどちらですか。(あてはまるものすべて)

保育に関する仕事の経験があると回答した人に、保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先についてたずねると、「公立保育所」が36.8%で最も多く、次いで「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」が32.4%、「公立幼稚園（預り保育）」が8.9%となっている。(図Ⅱ4-2①)

【図Ⅱ4-2① 保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先】



【年齢別】

保育に関する仕事の経験がある人の直近に勤めていた就業先について年齢別でみると、20・30歳代は、「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」が多く、年齢が上がるとともに、「公立保育所」の割合が上昇している。60歳以上の人では「公立保育所」が70.0%を占める。(図Ⅱ4-2②)

【図Ⅱ4-2② 年齢別 保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先】

		(%)											
	n	公立保育所	社会福祉法人等が運営する私立保育所	公益法人以外が運営する私立保育所	公立認定子ども園	私立認定子ども園	公立幼稚園(預り保育)	私立幼稚園(預り保育)	へき地保育所	事業所内保育施設(院内保育施設含む)	事業所以外の認可外保育施設	その他	無回答
20歳代	227	20.3	44.1	4.0	0.9	0.9	10.1	13.2	-	2.2	2.6	9.2	2.2
30歳代	335	29.9	36.7	1.8	0.9	0.3	9.3	7.8	0.6	4.2	2.4	11.1	2.7
40歳代	224	31.3	32.6	2.2	-	0.9	11.2	9.8	-	4.5	2.7	13.4	0.4
50歳代	222	39.6	29.3	1.8	1.4	-	8.6	6.3	0.9	4.1	3.2	11.3	1.8
60歳以上	203	70.0	15.3	2.5	1.0	0.5	4.9	3.4	1.0	2.5	0.5	9.5	2.5

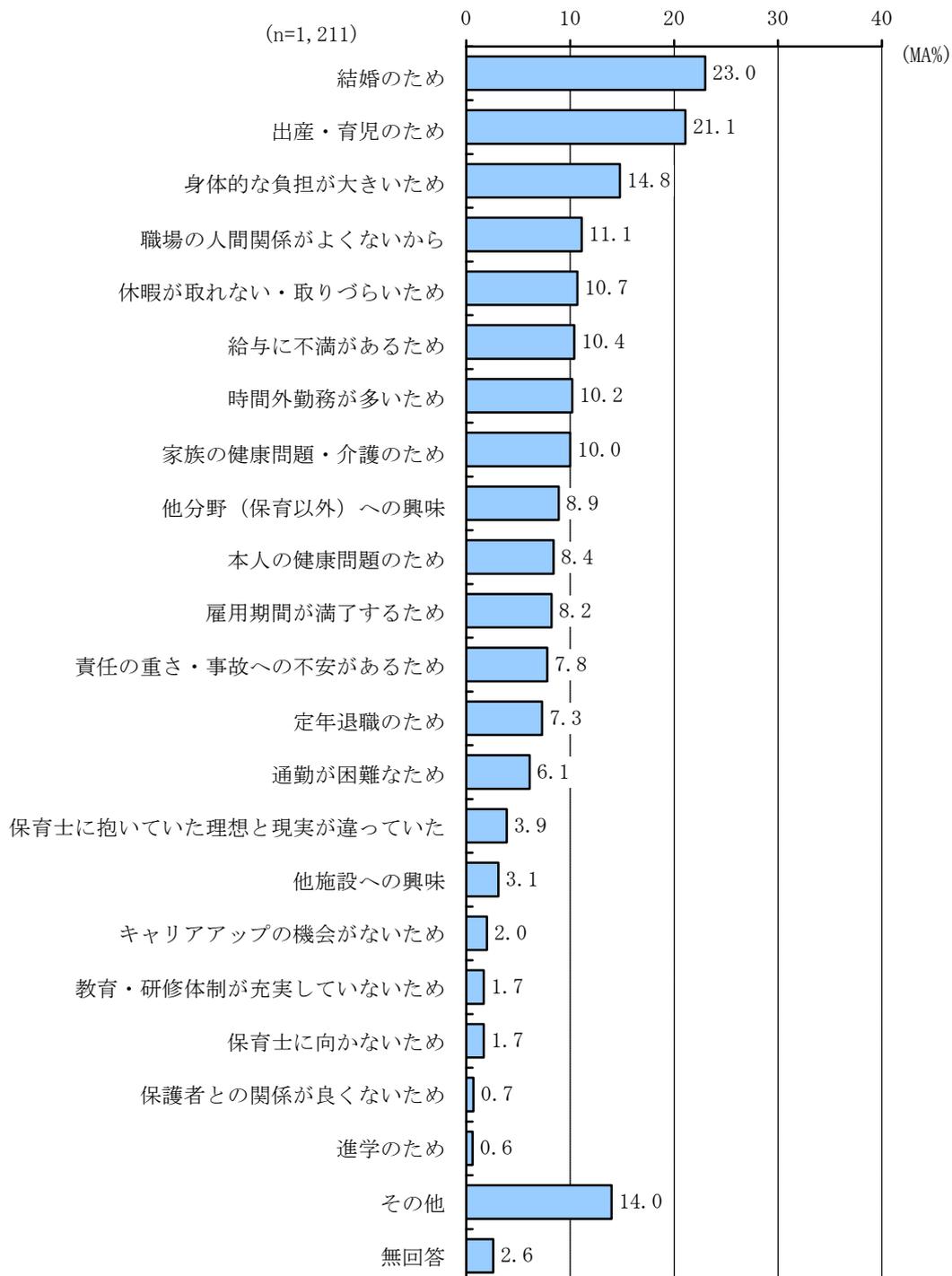
③保育に関する仕事の就業先を退職した理由

問33-2 問33で「1 ある」と回答した方におうかがいします。

問33-1の就業先を退職した理由は何でしたか。(あてはまるものすべて)

保育に関する仕事の経験があると回答した人に、保育に関する仕事の就業先を退職した理由についてたずねると、「結婚のため」が23.0%で最も多く、次いで「出産・育児のため」が21.1%、「身体的な負担が大きいため」が14.8%となっている。(図Ⅱ4-3①)

【図Ⅱ4-3① 保育に関する仕事の就業先を退職した理由】



【年齢別】

20～40歳代の各年代では「結婚のため」「出産・育児のため」が2大退職理由である。50歳代は「家族の健康問題・介護のため」(23.9%)、「身体的な負担が大きいため」(14.0%)が、60歳以上は「定年退職のため」(43.8%)、「家族の健康問題・介護のため」(18.2%)、「身体的な負担が大きいため」(9.9%)が、それぞれ退職理由の上位となっている。(図Ⅱ4-3②)

【図Ⅱ4-3② 年齢別 保育に関する仕事の就業先を退職した理由（上位5項目）】

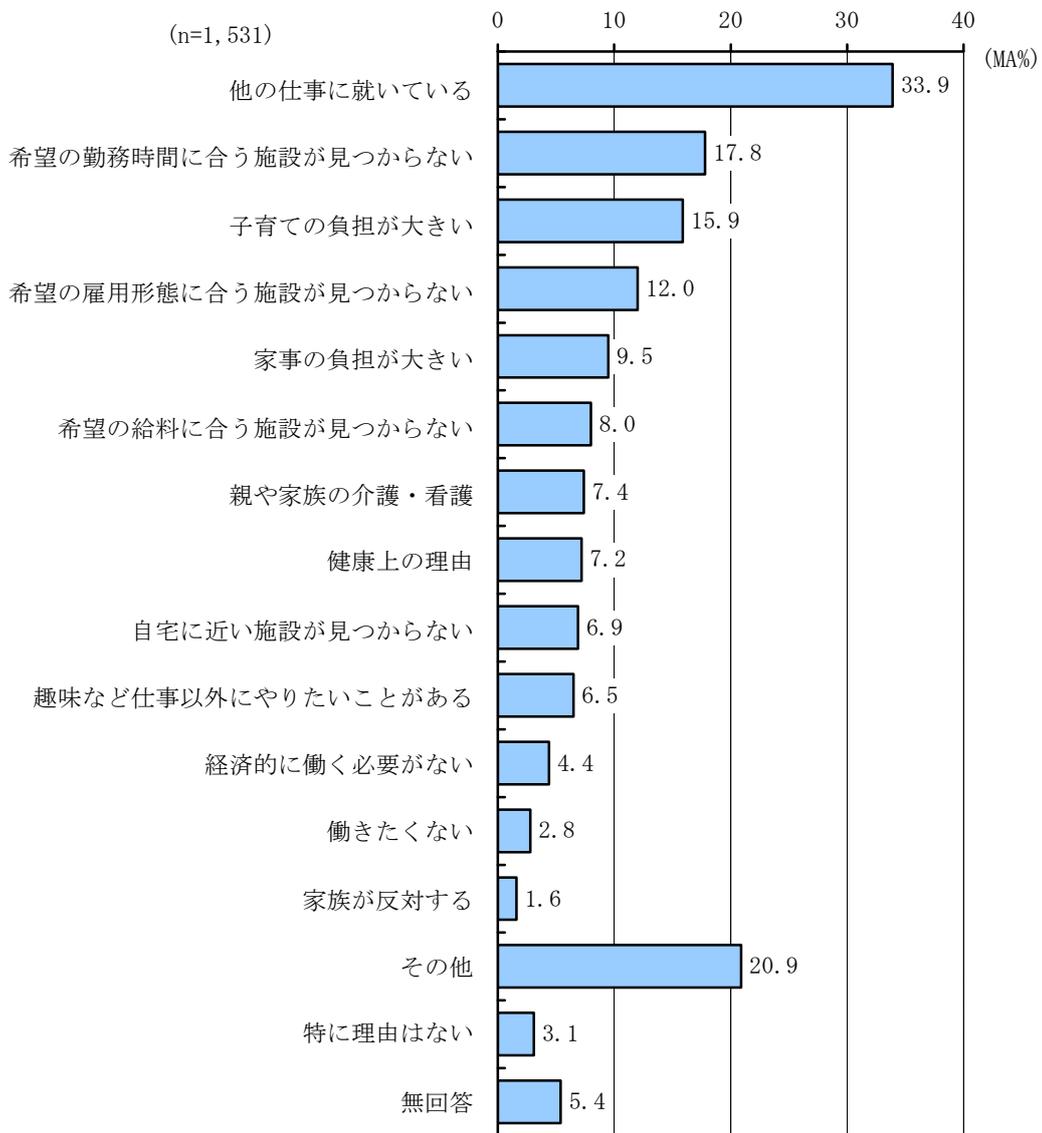
						(MA%)
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代	227	結婚のため 28.2	出産・育児のため 26.4	職場の人間関係がよくないから、時間外勤務が多いため 20.3		給与に不満があるため 19.4
30歳代	335	結婚のため 36.4	出産・育児のため 28.4	身体的な負担が大きいため 14.6	時間外勤務が多いため 12.5	他分野（保育以外）への興味、給与に不満があるため 11.6
40歳代	224	出産・育児のため 26.3	結婚のため 23.7	身体的な負担が大きいため 17.9	休暇が取れない・取りづらいため 14.7	職場の人間関係がよくないから 12.9
50歳代	222	家族の健康問題・介護のため 23.9	身体的な負担が大きいため 14.0	出産・育児のため、結婚のため 13.1		本人の健康問題のため 12.2
60歳以上	203	定年退職のため 43.8	家族の健康問題・介護のため 18.2	身体的な負担が大きいため 9.9	本人の健康問題のため 8.4	雇用期間が満了するため 6.9

④保育士の仕事を現在していない理由

問34 現在、保育士の仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

保育士の仕事を現在していない理由は、「他の仕事に就いている」が33.9%で最も多い。これに次いで「希望の勤務時間に合う施設が見つからない」が17.8%で、以下、「子育ての負担が大きい」が15.9%、「希望の雇用形態に合う施設が見つからない」が12.0%、「家事の負担が大きい」が9.5%となっている。(図Ⅱ4-4①)

【図Ⅱ4-4① 保育士の仕事を現在していない理由】



【年齢別】

20歳代では、「他の仕事に就いている」が39.9%で最も多く、次いで「子育ての負担が大きい」(18.4%)、「希望の給料に合う施設が見つからない」(13.2%)が上位項目となっている。30～50歳代でも、第1位は、「他の仕事に就いている」で、30歳代は「子育ての負担が大きい」(31.0%)、40歳代は「希望の勤務時間に合う施設が見つからない」(33.1%)や「希望の雇用形態に合う施設が見つからない」(19.5%)、50歳以上は「親や家族の介護・看護」などが理由の上位となっている。(図Ⅱ4-4②)

【図Ⅱ4-4② 年齢別 保育士の仕事を現在していない理由（上位5項目）】

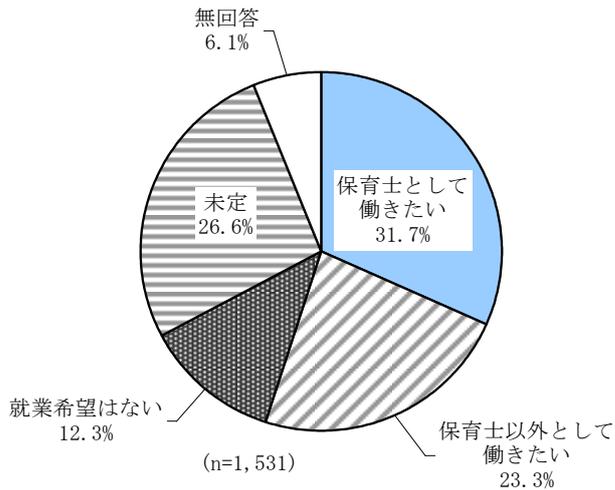
		(MA%)				
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代	348	他の仕事に就いている 39.9	子育ての負担が大きい 18.4	希望の給料に合う施設が見つからない 13.2	希望の雇用形態に合う施設が見つからない 11.8	希望の勤務時間に合う施設が見つからない 10.6
30歳代	407	子育ての負担が大きい、他の仕事に就いている 31.0	希望の勤務時間に合う施設が見つからない 25.3	家事の負担が大きい 14.7	希望の雇用形態に合う施設が見つからない 14.5	
40歳代	287	他の仕事に就いている 43.9	希望の勤務時間に合う施設が見つからない 33.1	希望の雇用形態に合う施設が見つからない 19.5	子育ての負担が大きい 17.4	自宅に近い施設が見つからない 12.2
50歳代	264	他の仕事に就いている 37.1	親や家族の介護・看護 17.0	健康上の理由 12.5	希望の勤務時間に合う施設が見つからない 11.7	趣味など仕事以外にやりたいことがある 8.3
60歳以上	225	親や家族の介護・看護 18.2	趣味など仕事以外にやりたいことがある 14.7	他の仕事に就いている 13.3	健康上の理由 12.4	経済的に働く必要がない 6.2

(2) 今後の就業に対する考え

①就業意向

問35 今後の就業希望について、あなたの考えにもっとも近いもの1つに○をつけてください。

【図Ⅱ4-5① 今後の就業希望】

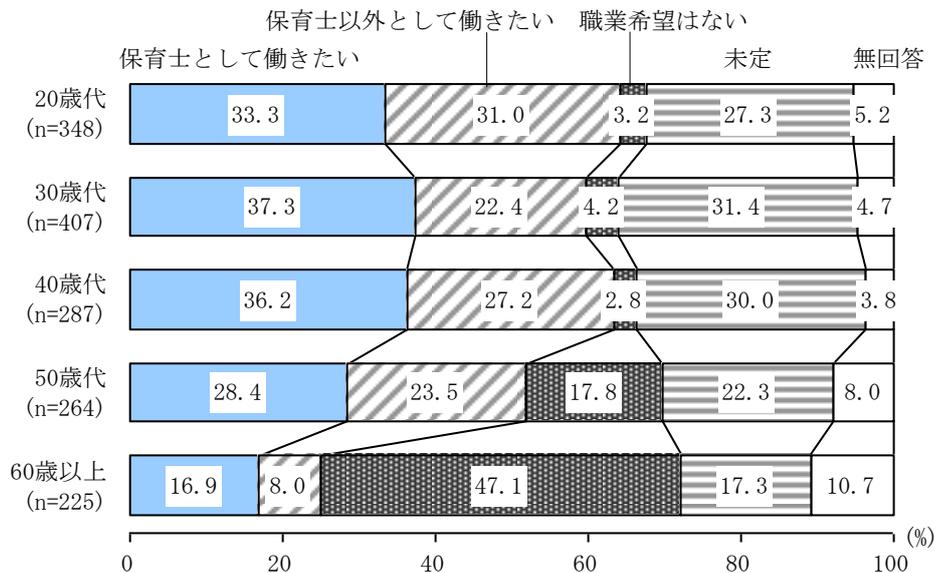


今後の就業希望は、「保育士として働きたい」が31.7%で最も多い。「未定」が26.6%で全体の4分の1を占め、「保育士以外として働きたい」は23.3%となっている。(図Ⅱ4-5①)

【年齢別】

「保育士として働きたい」の割合は30・40歳代で高い。20歳代でも33.3%は保育士として働く意向があるが、一方で「保育士以外として働きたい」の割合が31.0%と高くなっている。(図Ⅱ4-5②)

【図Ⅱ4-5② 年齢別 今後の就業希望】

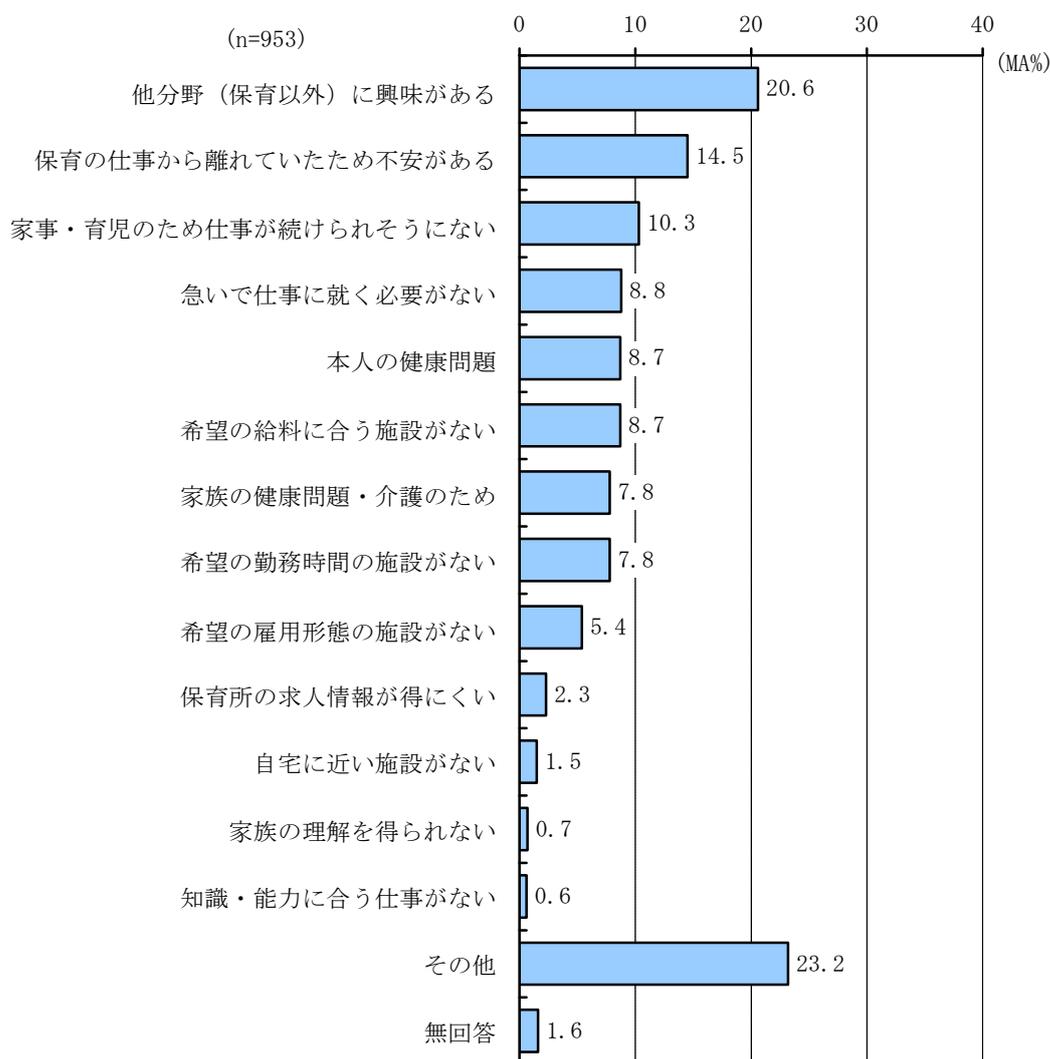


②保育士として働きたくない理由

問36 問35で「2 保育士以外として働きたい」「3 就業希望はない」「4 未定」と回答した方におうかがいします。その最大の理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

今後の就業希望で、保育士以外として働きたい、就業希望はない、未定と回答した人に、その理由をたずねると、「他分野（保育以外）に興味がある」が20.6%で最も多く、次いで「保育の仕事から離れていたため不安がある」が14.5%、「家事・育児のため仕事が続けられそうにない」が10.3%となっている。（図Ⅱ4-6①）

【図Ⅱ4-6① 保育士として働きたくない理由】



【年齢別】

20歳代は「他分野（保育以外）に興味がある」（29.9%）が第1位で、次いで「保育の仕事から離れていたため不安がある」（18.2%）、「希望の給料に合う施設がない」（14.5%）となっている。30歳代は「家事・育児のため仕事が続けられそうにない」（20.8%）が第1位で、「他分野（保育以外）に興味がある」（20.3%）、「保育の仕事から離れていたため不安がある」（15.3%）が上位項目となっている。40歳代も「他分野（保育以外）に興味がある」（23.8%）、「保育の仕事から離れていたため不安がある」（21.5%）が多くなっている。50歳以上の各年代は、「家族の健康問題・介護のため」「本人の健康問題」「他分野（保育以外）に興味がある」が理由の上位3項目となっている。（図Ⅱ4-6②）

【図Ⅱ4-6② 年齢別 保育士として働きたくない理由】

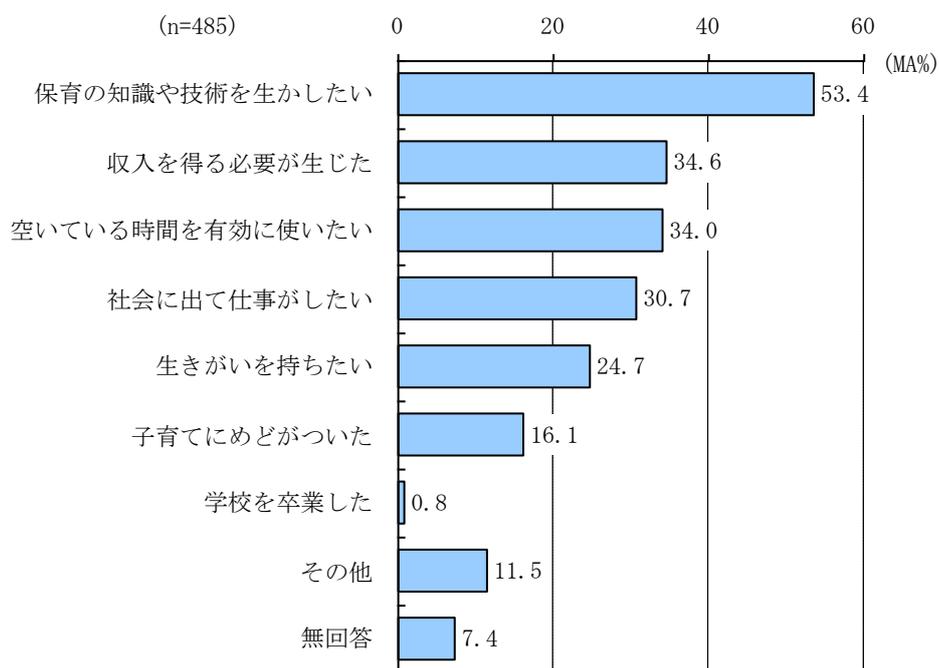
		(MA%)				
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代	214	他分野（保育以外）に興味がある 29.9	保育の仕事から離れていたため不安がある 18.2	希望の給料に合う施設がない 14.5	家事・育児のため仕事が続けられそうにない 13.1	急いで仕事に就く必要がない 6.1
30歳代	236	家事・育児のため仕事が続けられそうにない 20.8	他分野（保育以外）に興味がある 20.3	保育の仕事から離れていたため不安がある 15.3	希望の給料に合う施設がない、希望の勤務時間の施設がない 13.1	
40歳代	172	他分野（保育以外）に興味がある 23.8	保育の仕事から離れていたため不安がある 21.5	希望の勤務時間の施設がない 14.5	家事・育児のため仕事が続けられそうにない、希望の給料に合う施設がない 9.3	
50歳代	168	家族の健康問題・介護のため 17.9	本人の健康問題 16.1	他分野（保育以外）に興味がある 14.3	保育の仕事から離れていたため不安がある 13.7	急いで仕事に就く必要がない 11.3
60歳以上	163	家族の健康問題・介護のため 20.9	本人の健康問題 16.6	他分野（保育以外）に興味がある 11.7	急いで仕事に就く必要がない 10.4	家事・育児のため仕事が続けられそうにない、保育所の求人情報が得にくい 2.5

③保育士として今後働きたい理由

問37 今後、保育士として働きたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

保育士として今後働きたい理由は、「保育の知識や技術を生かしたい」が53.4%で最も多い。これに次いで「収入を得る必要が生じた」が34.6%で、以下、「空いている時間を有効に使いたい」が34.0%、「社会に出て仕事がしたい」30.7%、「生きがいを持ちたい」が24.7%となっている。(図Ⅱ4-7①)

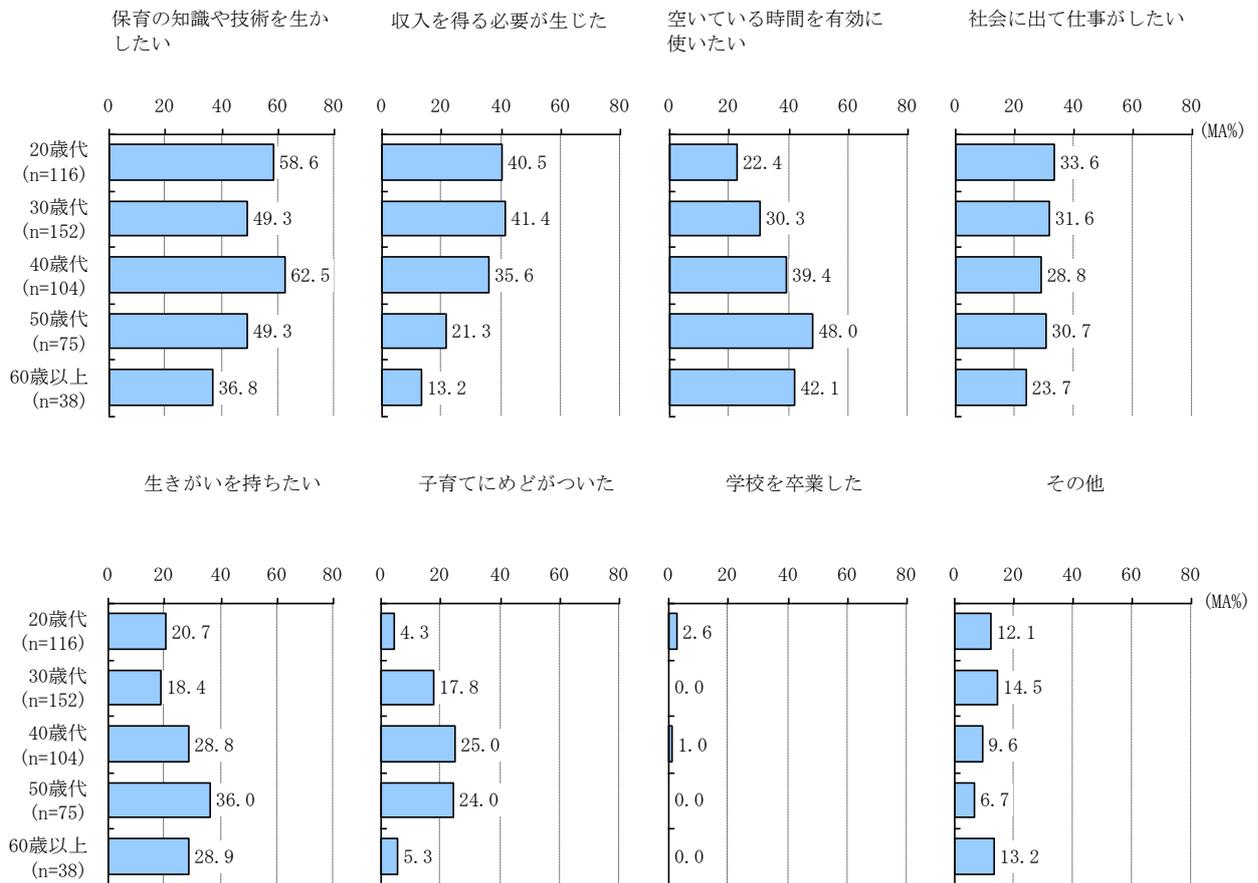
【図Ⅱ4-7① 保育士として今後働きたい理由】



【年齢別】

50歳代までは、「保育の知識や技術を生かしたい」が最も多く、60歳以上の年代は、「空いている時間を有効に使いたい」が多い。「収入を得る必要が生じた」は20～40歳代で4割前後を占め、「生きがいを持ちたい」は40歳以上の各年代が、「子育てにめどがついた」は40・50歳代の割合が高くなっている。(図Ⅱ4-7②)

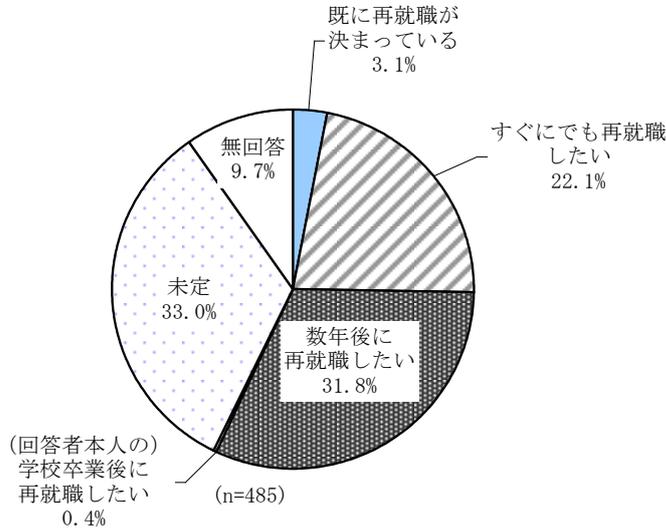
【図Ⅱ4-7② 年齢別 保育士として今後働きたい理由】



④再就職を希望する時期

問38 いつごろ再就職を希望していますか。最も希望する時期を1つ選んで○をつけてください。

【図Ⅱ4-8① 再就職を希望する時期】

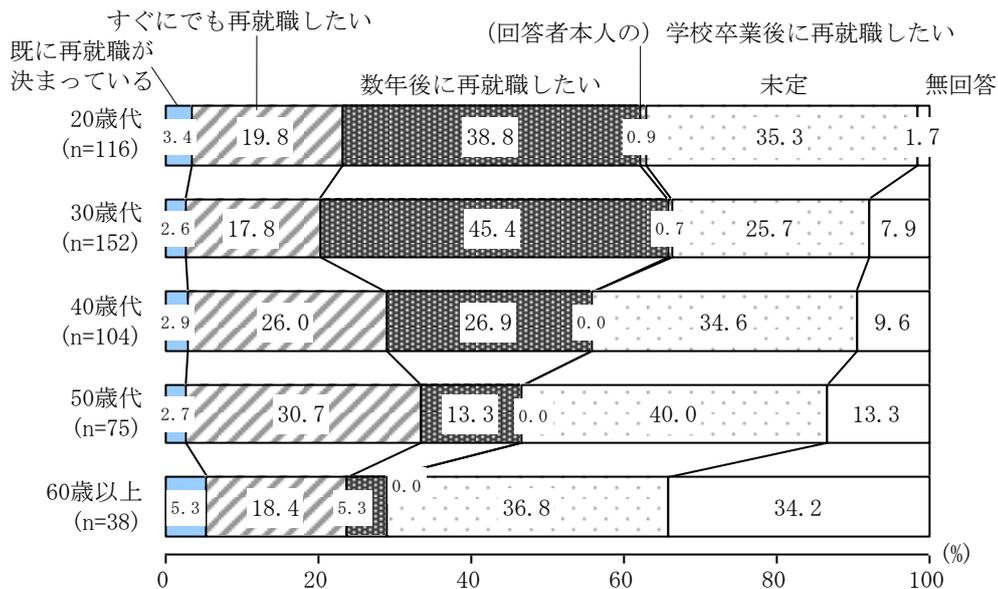


再就職を希望する時期は、「すぐにでも再就職したい」が22.1%で、「未定」が33.0%となっている。また、「数年後に再就職したい」が31.8%となっている。(図Ⅱ4-8①)

【年齢別】

20・30歳代では、「数年後に再就職したい」の割合が高く、すぐに保育士として再就職を希望しているわけではない。「未定」の割合が高いものの、20・30歳代に比べ、40・50歳代の「すぐにでも再就職したい」の割合が高く、再就職意向が強い。(図Ⅱ4-8②)

【図Ⅱ4-8② 年齢別 再就職を希望する時期】

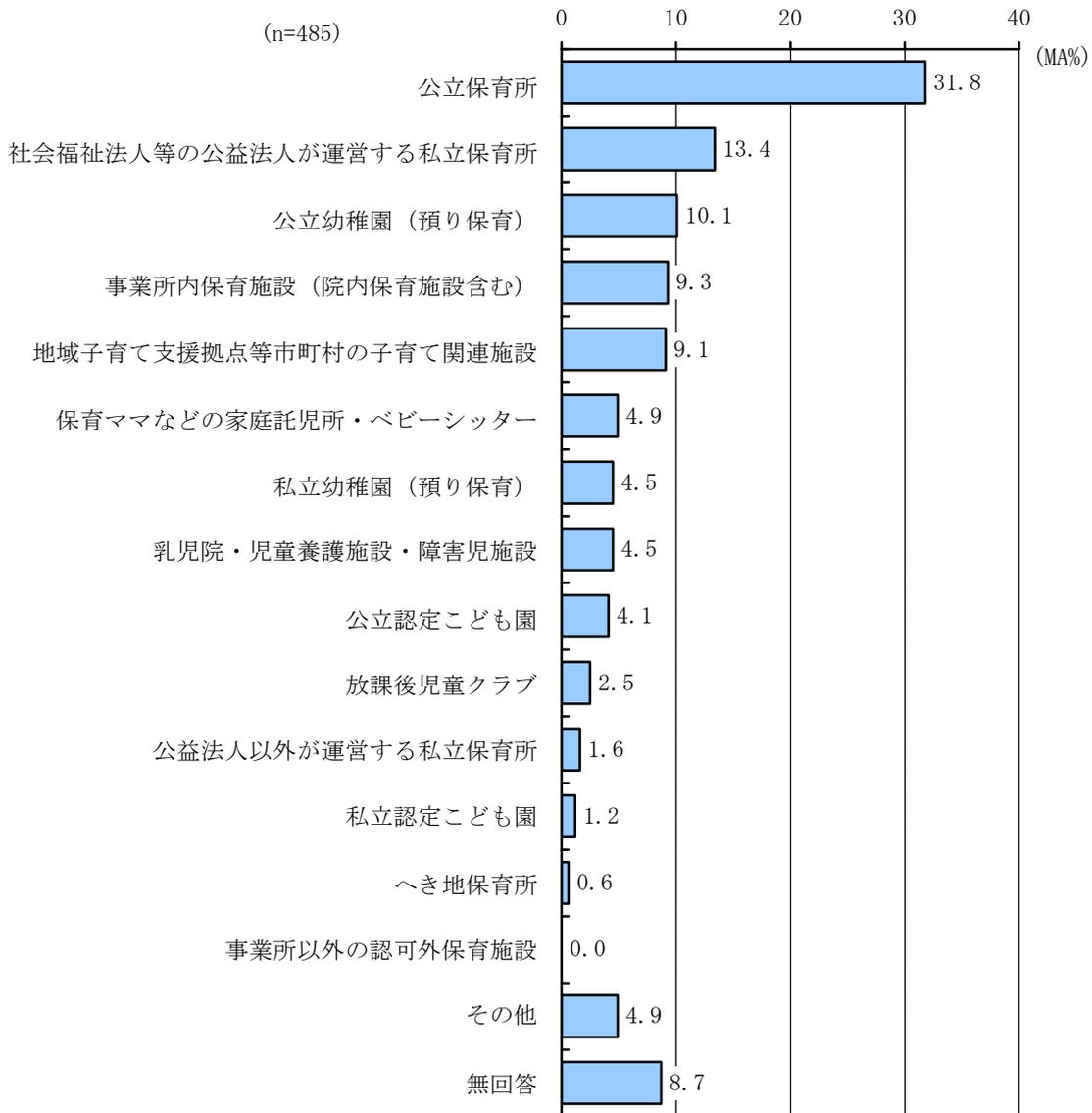


⑤最も希望する勤務施設

問39 勤務施設について、最も希望するものを選んで○をつけてください。(あてはまるものすべて)

最も希望する勤務施設については、「公立保育所」が31.8%で最も多い。これに次いで「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」が13.4%で、以下、「公立幼稚園（預り保育）」が10.1%、「事業所内保育施設（院内保育施設含む）」が9.3%、「地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設」が9.1%となっている。（図Ⅱ4-9①）

【図Ⅱ4-9① 最も希望する勤務施設】



【年齢別】

年齢に関係なく、「公立保育所」を希望する割合が高い。20歳代では「社会福祉法人等の公益法人が運営する私立保育所」の割合も高く、年齢の上昇とともに、これら施設の割合は低下している。60歳以上の年代では、「地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設」(21.1%)や「保育ママなどの過程託児所・ベビーシッター」(10.5%)の割合が高い。(図Ⅱ4-9②)

【図Ⅱ4-9② 年齢別 最も希望する勤務施設】

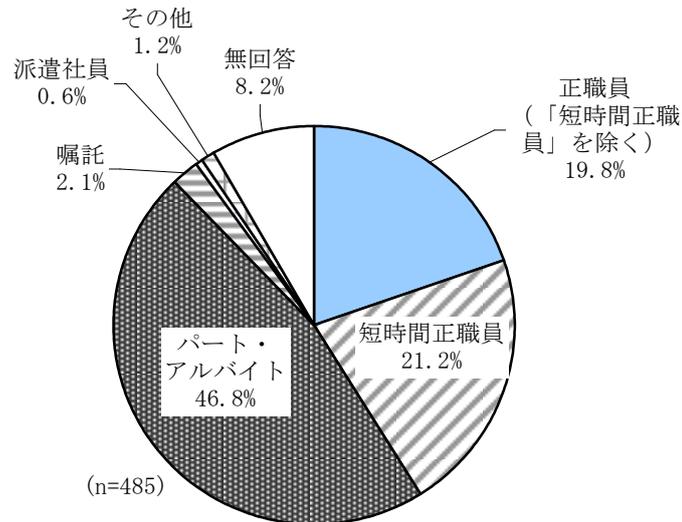
	n	(MA%)															
		公立保育所	社会福祉法人等が運営する私立保育所	公益法人以外が運営する私立保育所	公立認定子ども園	私立認定子ども園	公立幼稚園(預り保育)	私立幼稚園(預り保育)	へき地保育所	事業所内保育施設(院内保育施設含む)	事業所以外の認可外保育施設	地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設	乳児院・児童養護施設・障害児施設	保育ママなどの家庭託児所・ベビーシッター	放課後児童クラブ	その他	無回答
20歳代	116	32.8	22.4	1.7	2.6	0.9	10.3	7.8	-	11.2	-	4.3	6.0	3.4	1.7	2.6	3.4
30歳代	152	40.8	14.5	2.0	5.9	1.3	10.5	3.3	1.3	5.9	-	7.9	3.9	3.3	0.7	2.6	5.9
40歳代	104	35.6	9.6	1.0	4.8	2.9	14.4	4.8	-	9.6	-	10.6	3.8	3.8	1.9	6.7	7.7
50歳代	75	18.7	8.0	2.7	4.0	-	6.7	2.7	1.3	13.3	-	10.7	4.0	9.3	8.0	9.3	12.0
60歳以上	38	7.9	2.6	-	-	-	2.6	2.6	-	7.9	-	21.1	5.3	10.5	2.6	7.9	31.6

⑥最も希望する雇用形態

問40 雇用形態について、最も希望するものを1つ選んで○をつけてください。

最も希望する雇用形態は、「パート・アルバイト」が46.8%で最も多い。これに次いで「短時間正職員」が21.2%、「正職員（「短時間正職員」を除く）」が19.8%となっている。（図Ⅱ4-10）

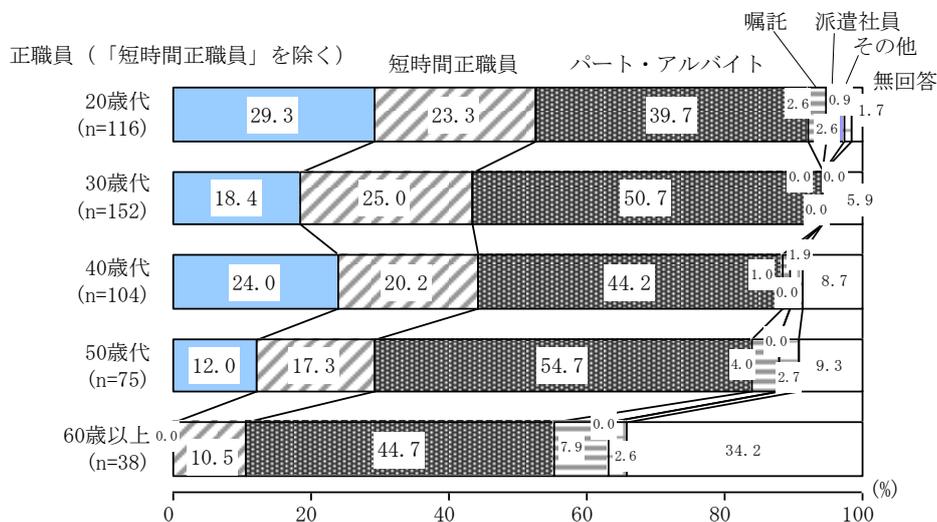
【図Ⅱ4-10 最も希望する雇用形態】



【年齢別】

いずれの年代も「パート・アルバイト」での就労を希望する人が多い。「正職員」での雇用を希望する人は20歳代が29.3%で最も高く、次いで40歳代の24.0%である。また20・30歳代では「短時間正職員」を希望する割合が高い。（図Ⅱ4-10①）

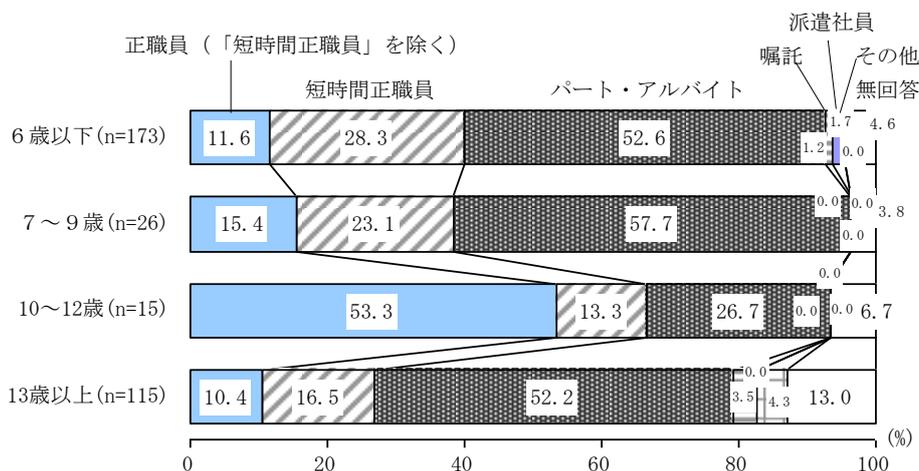
【図Ⅱ4-10① 年齢別 最も希望する雇用形態】



【末子の年齢別】

末子の年齢別では、「正職員」を希望する割合は、10～12歳が53.3%で最も高いが、それ以外の年齢層では、「パート・アルバイト」の割合のほうが高い。また、「短時間正職員」は、末子が6歳以下の子どもを養育する人の割合が28.3%で高くなっている。(図Ⅱ4-10②)

【図Ⅱ4-10② 末子の年齢別 最も希望する雇用形態】

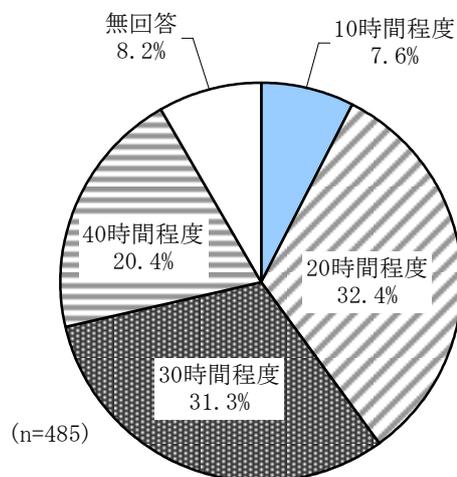


⑦希望する週あたりの労働時間

問41 希望する1週間あたりの労働時間はどれくらいですか (○は1つ)

希望する週あたりの労働時間は、「20時間程度」が32.4%で最も多く、次いで「30時間程度」が31.3%、「40時間程度」が20.4%となっている。(図Ⅱ4-11)

【図Ⅱ4-11 希望する1週間あたりの労働時間】



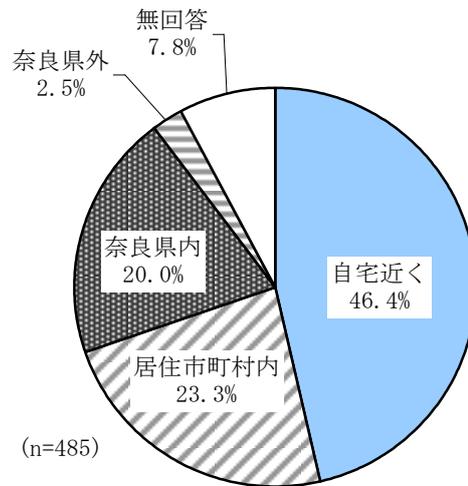
⑧希望する勤務地と通勤時間

問42 希望する勤務地と通勤時間（許容できる上限）について、それぞれ該当する番号を下の選択肢の中から選んで枠内に○を付けてください。（○は1つ）

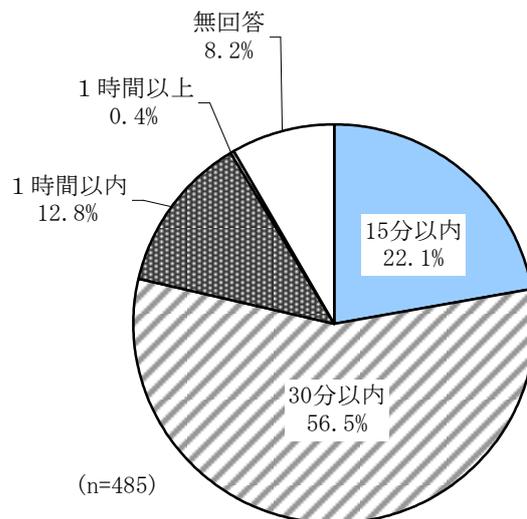
希望する勤務地は、「自宅近く」が46.4%で最も多く、次いで「居住市町村内」が23.3%、「奈良県内」が20.0%となっている。（図Ⅱ4-12①）

希望する通勤時間は、「30分以内」が56.5%で最も多く、次いで「15分以内」が22.1%、「1時間以内」が12.8%となっている。（図Ⅱ4-12②）

【図Ⅱ4-12① 希望する勤務地】



【図Ⅱ4-12② 希望する通勤時間】

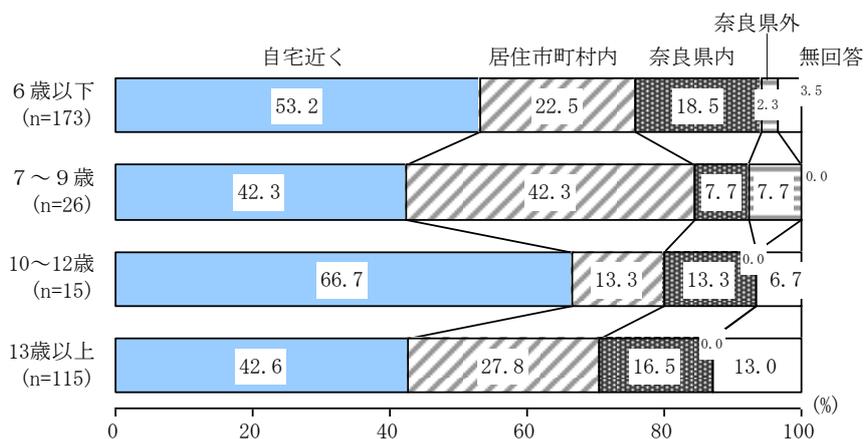


■希望する勤務地

【末子の年齢別】

希望する勤務地について、いずれも「自宅近く」の希望が最も多く、10～12歳では66.7%で最も高くなっている。「居住市町村内」の割合は、7～9歳が42.3%で最も高い。(図Ⅱ4-13①)

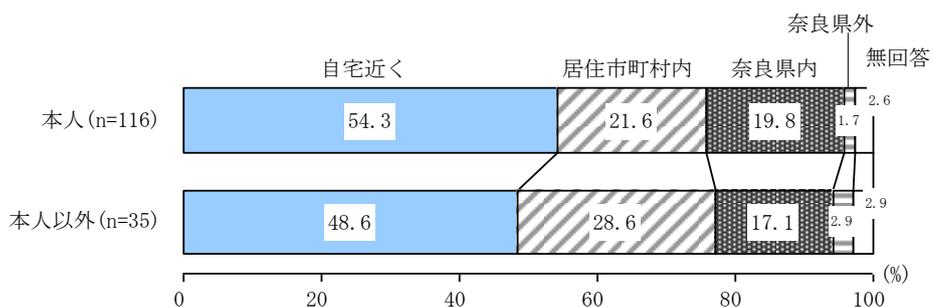
【図Ⅱ4-13① 末子の年齢別 希望する勤務地】



【日中の主な保育者別】

日中の主な保育者が回答者自身、それ以外に関係なく、「自宅近く」の希望が最も多い。(図Ⅱ4-13②)

【図Ⅱ4-13② 日中の主な保育者別 希望する勤務地】

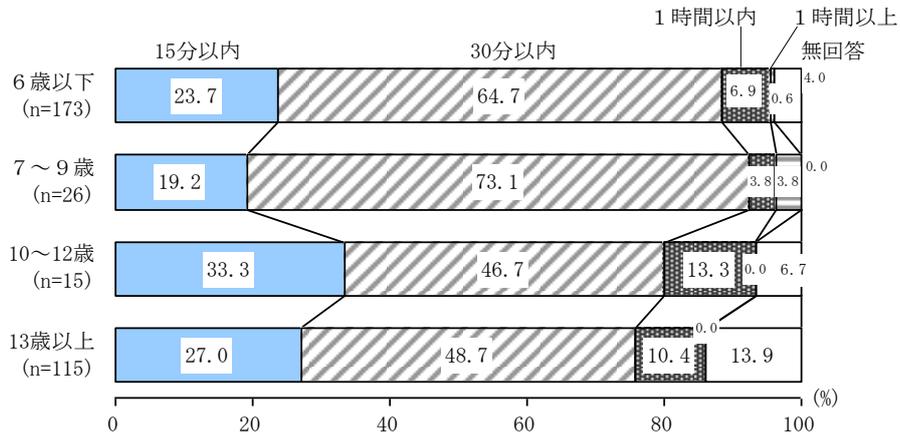


■希望する通勤時間

【末子の年齢別】

希望する通勤時間をみると、9歳までの子どもを養育する人では「30分以内」が多い。10歳以上の年代でも「30分以内」が最も多い一方で、「15分以内」が9歳以下の割合に比べ高くなっている。(図Ⅱ4-13③)

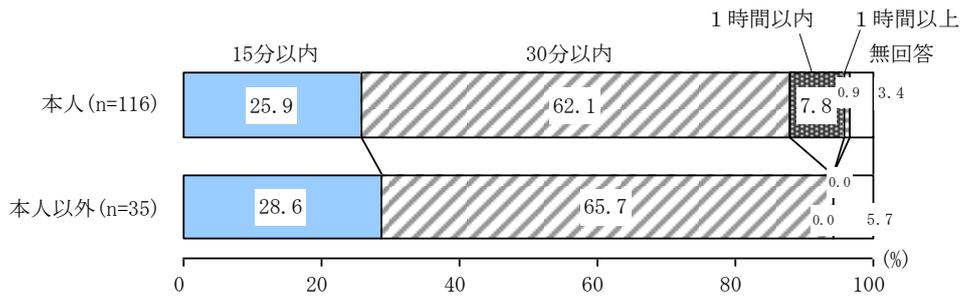
【図Ⅱ4-13③ 末子の年齢別 希望する通勤時間】



【日中の主な保育者別】

日中の主な保育者が回答者自身、それ以外に関係なく、「30分以内」の希望が最も多い。(図Ⅱ4-13④)

【図Ⅱ4-13④ 日中の主な保育者別 希望する通勤時間】

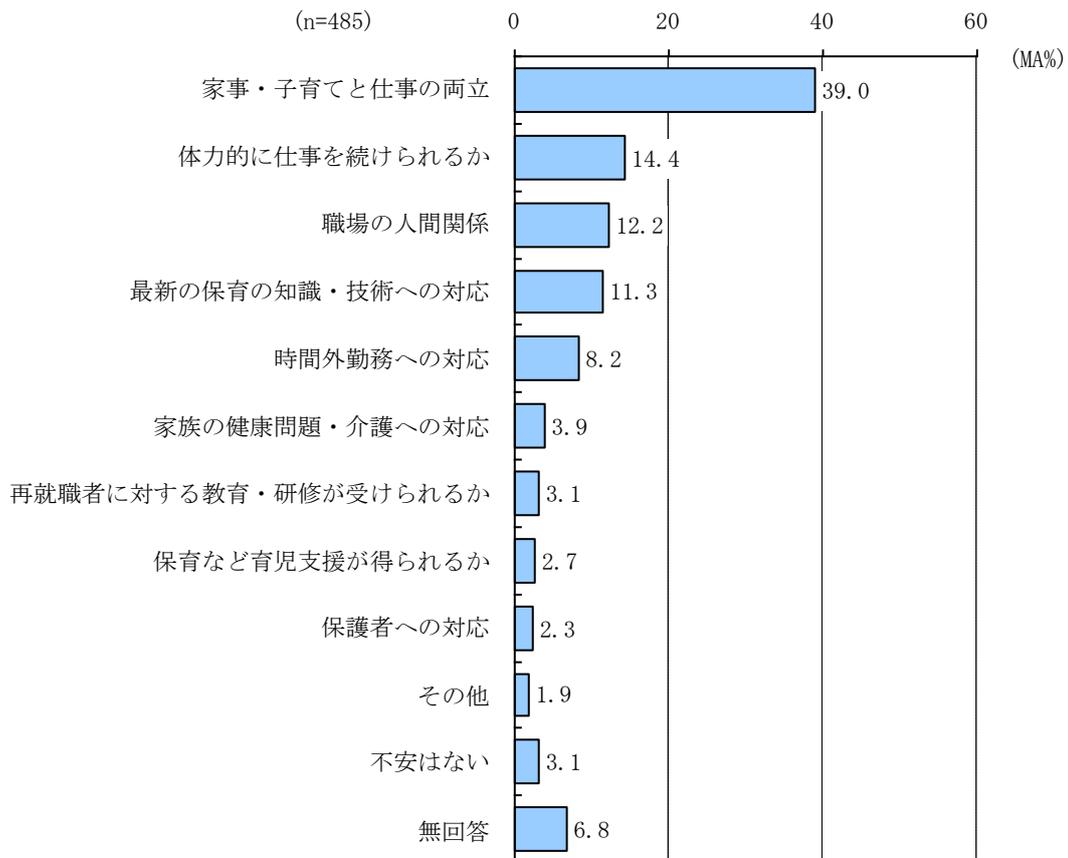


⑨再就職で最も不安に思うこと

問43 再就職に際して、最も不安に思うことを選んで○をつけてください。(あてはまるものすべて)

再就職で最も不安に思うことは、「家事・子育てと仕事の両立」が39.0%で最も多い。これに次いで「体力的に仕事を続けられるか」が14.4%、「職場の人間関係」が12.2%、「最新の保育の知識・技術への対応」が11.3%となっている。(図Ⅲ4-14①)

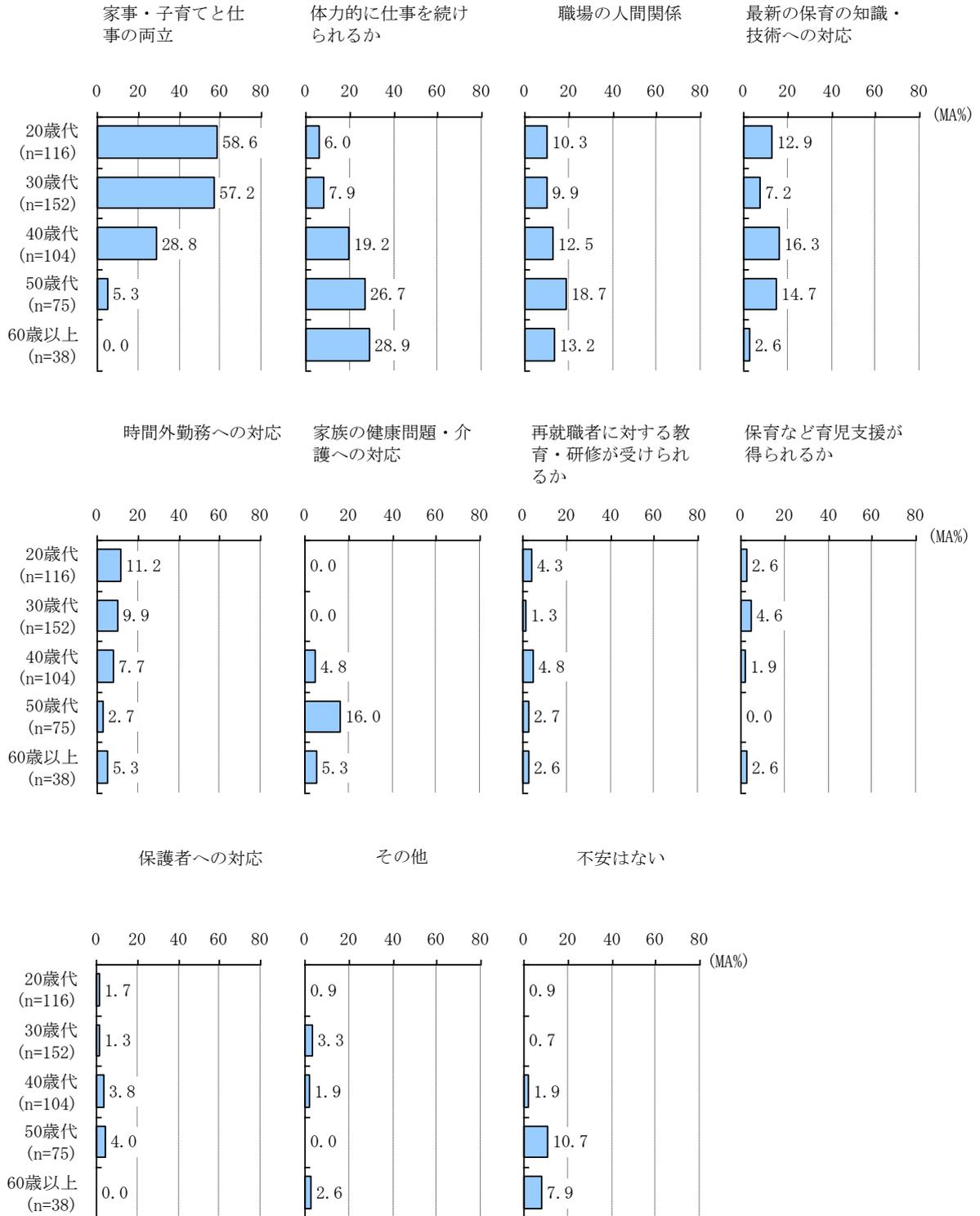
【図Ⅲ4-14① 再就職で最も不安に思うこと】



【年齢別】

20・30歳代は、「家事・子育てと仕事の両立」が6割近くを占め最も多い。40歳以上の各年代では、「体力的に仕事を続けられるか」が多くなっている。(図Ⅲ4-14②)

【図Ⅱ4-14② 年齢別 再就職で最も不安に思うこと】

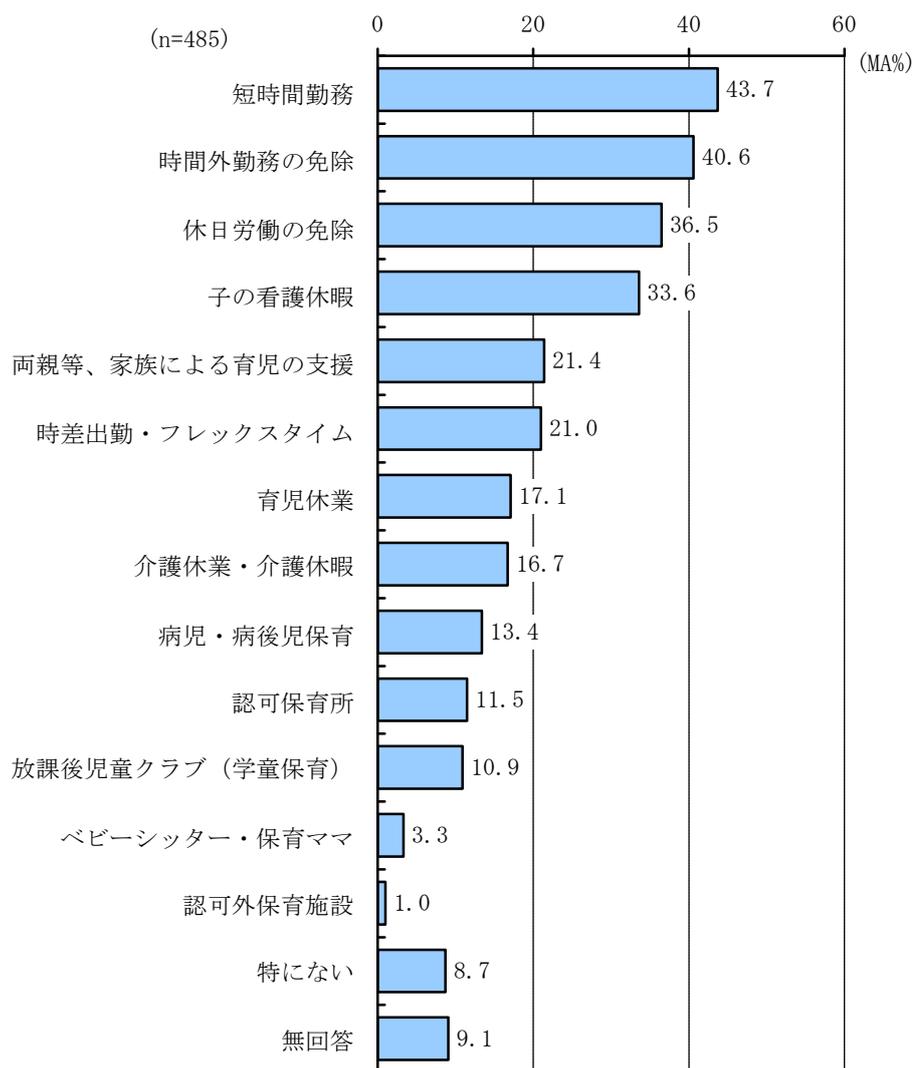


⑩再就職のために必要だと思う支援や制度

問44 再就職のために必要だと思う支援や制度等は何ですか。(あてはまるものすべて)

再就職のために必要だと思う支援や制度は、「短時間勤務」が43.7%で最も多い。これに次いで「時間外勤務の免除」が40.6%で、以下、「休日労働の免除」が36.5%、「子の看護休暇」が33.6%、「両親等、家族による育児の支援」が21.4%、「時差出勤・フレックスタイム」の21.0%となっている。(図Ⅱ4-15)

【図Ⅱ4-15 再就職のために必要だと思う支援や制度】

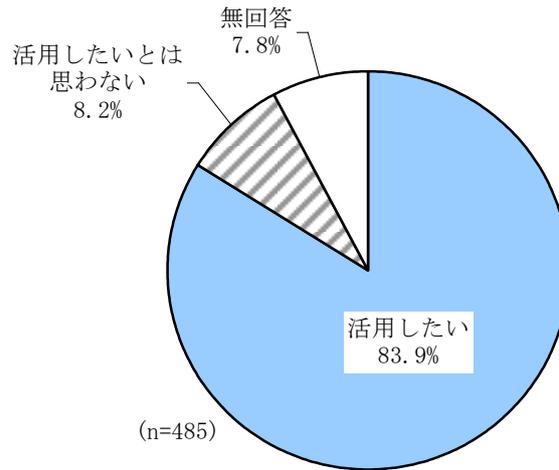


⑪再就職のための人材登録の活用意向

問45 あなたは、再就職のために登録すると、県内の保育所への就職斡旋や情報提供を受けられる仕組み（例：人材バンク）があれば活用したいと思いますか。（○は1つ）

再就職のための人材登録などの活用意向について、「活用したい」が83.9%に対し、「活用したいとは思わない」は8.2%となっている。（図Ⅱ4-16）

【図Ⅱ4-16 再就職のための人材登録の活用意向】



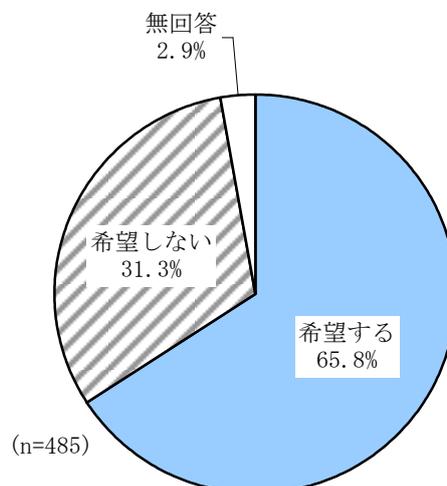
(3) 再就職時の研修受講に対する考え

①研修受講の希望の有無

問46 再就職時に研修受講を希望しますか。（○は1つ）

再就職時の研修受講を「希望する」が65.8%に対し、「希望しない」が31.3%となっている。（図Ⅱ4-17）

【図Ⅱ4-17 研修受講の希望の有無】

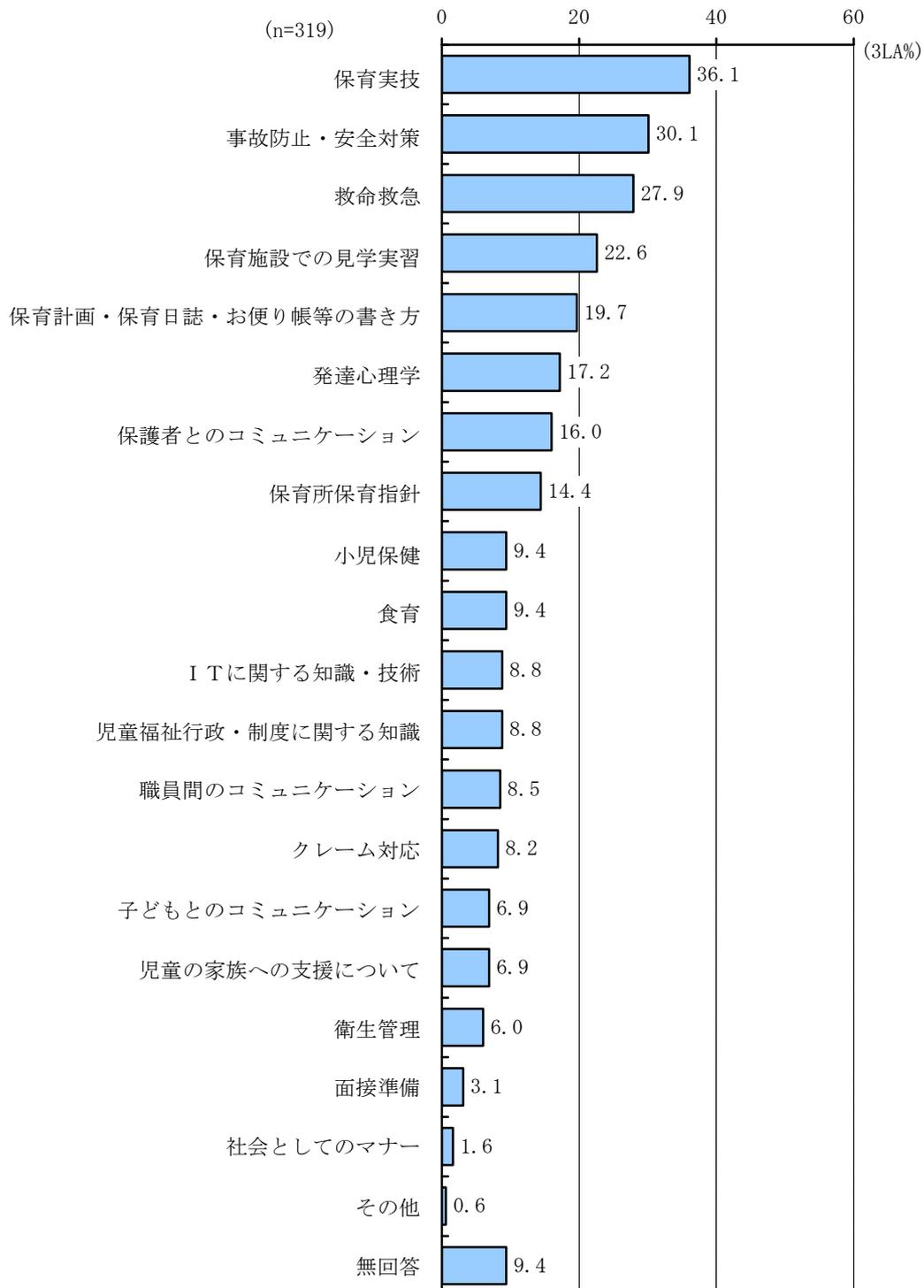


②希望する研修内容

問46-1 問46で「1 希望する」と回答した方におうかがいします。どのような内容の研修を希望しますか。(〇は主なもの3つまで)

再就職時の研修受講を希望すると回答した人に、希望する研修内容についてたずねると、「保育実技」が36.1%で最も多い。これに次いで「事故防止・安全対策」が30.1%で、以下、「救命救急」が27.9%、「保育施設での見学実習」が22.6%、「保育計画・保育日誌・お便り帳等の書き方」が19.7%となっている。(図Ⅱ4-18)

【図Ⅱ4-18 希望する研修内容】

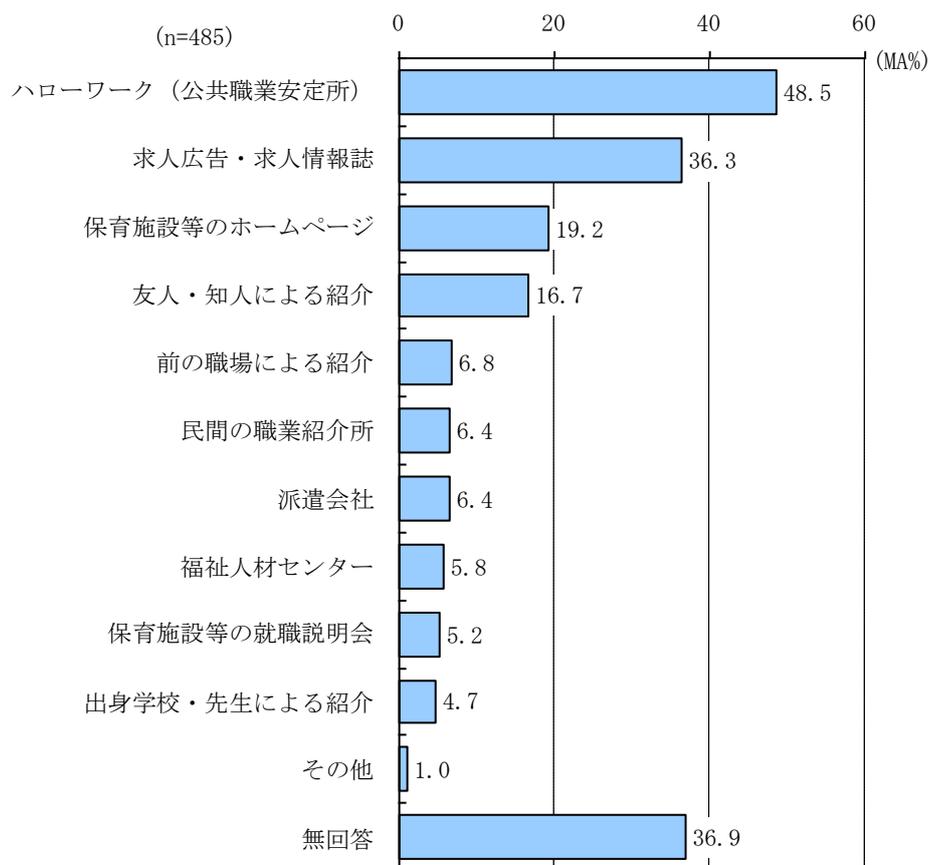


(4) 再就職先を探すために利用している施設や媒体

問47 再就職先を探す際、利用している施設や媒体は何ですか。またはどのような施設や媒体を利用したいですか。(あてはまるものすべて)

再就職先を探すための利用施設や媒体は、「ハローワーク（公共職業安定所）」が48.5%で最も多く、次いで「求人広告・求人情報誌」が36.3%、「保育施設等のホームページ」が19.2%となっている。(図Ⅱ4-19)

【図Ⅱ4-19 再就職先を探すための利用している施設や媒体】



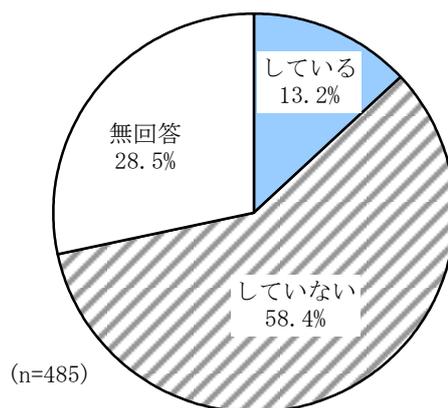
(5) 求職活動の状況

① 求職活動の取組状況

問48 現在、求職活動をしていますか。(○は1つ)

現在の求職を「している」との回答は13.2%に対し、「していない」が58.4%となっている。(図Ⅱ4-20①)

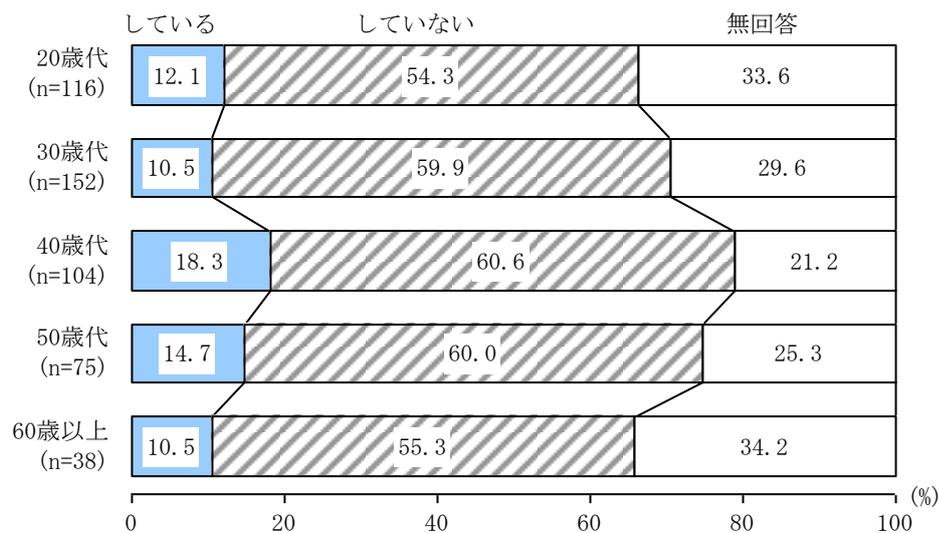
【図Ⅱ4-20① 求職活動の取組状況】



【年齢別】

40歳代で求職活動をしている割合が18.3%で最も高い。いずれも、「していない」が半数以上となっている。(図Ⅱ4-20②)

【図Ⅱ4-20② 年齢別 求職活動の取組状況】

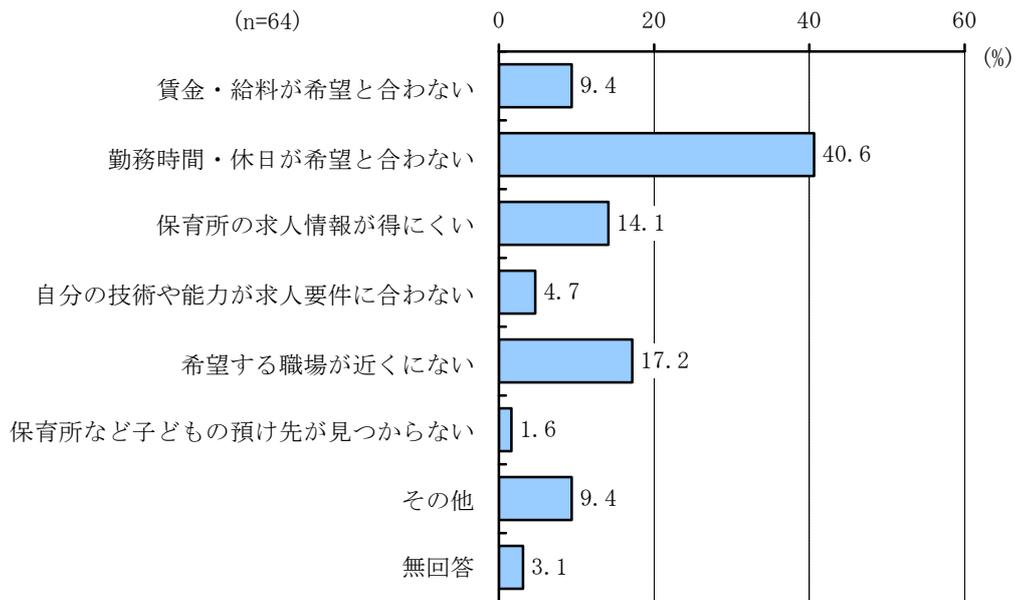


②求職活動をしても就職できない最大の理由

問48-1 問48で「1 している」と回答した方におうかがいします。求職活動をしているが、就職できない最大の理由は何ですか。(最も大きな理由に○を1つ)

現在、求職活動をしていると回答した人に、求職活動をしても就職できない最大の理由をたずねた。「勤務時間・休日が希望と合わない」が40.6%で最も多い。これに次いで「希望する職場が近くくない」が17.2%で、以下、「保育所の求人情報が得にくい」が14.1%、「賃金・給料が希望と合わない」が9.4%となっている。(図Ⅱ4-21)

【図Ⅱ4-21 求職活動をしても就職できない最大の理由】

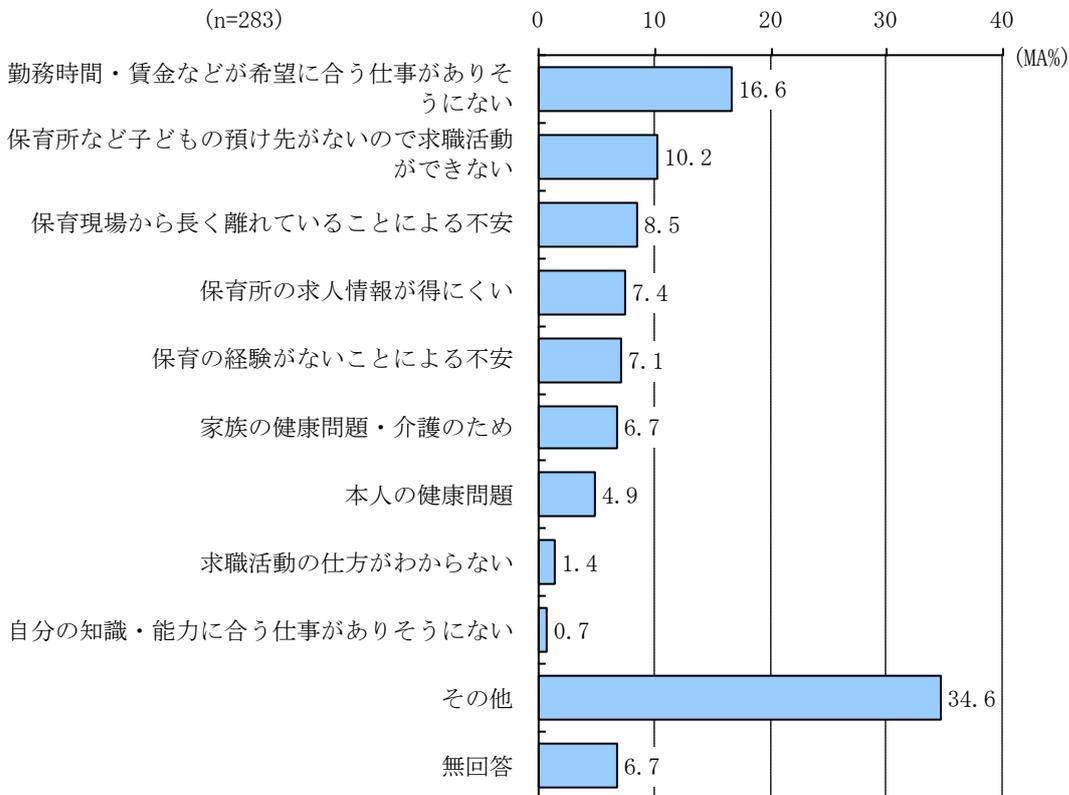


③就職を希望しているが求職活動をしていない最大の理由

問48-2 問48で「2 していない」と回答した方におうかがいします。就職を希望しているのに求職活動をしていない最大の理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

現在、求職活動をしていないと回答した人に、就職を希望しているが求職活動をしていない最大の理由についてたずねた。「勤務時間・賃金などが希望に合う仕事がない」が16.6%で最も多い。これに次いで「保育所など子どもの預け先がないので求職活動ができない」が10.2%で、以下、「保育現場から長く離れていることによる不安」が8.5%、「保育所の求人情報が得にくい」が7.4%となっている。(図Ⅱ4-22)

【図Ⅱ4-22 就職を希望しているが求職活動をしていない最大の理由】



2 保育施設用調査

1. 回答施設の属性

問1 貴施設の設置・運営主体の種類などについておうかがいします。

(1) 施設の所在地

「西和圏域」が26.7%で最も多く、次いで「中和圏域」が25.4%、「奈良圏域」が21.6%となっている。(図Ⅲ1-2)

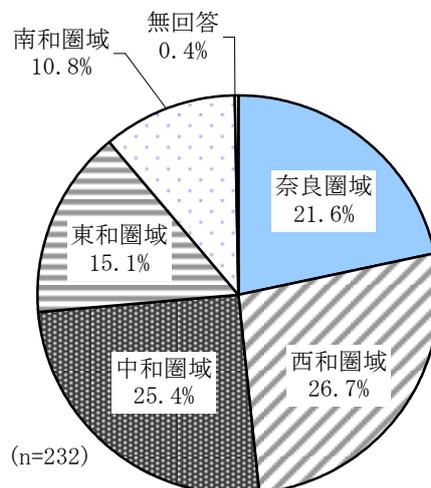
【図Ⅲ1-1 施設の所在地】

n	西和											中和			
	奈良市	大和郡山市	生駒市	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	上牧町	王寺町	河合町	大和高田市	橿原市	御所市	香芝市	
232	21.6	9.1	9.9	0.9	0.4	0.9	0.4	2.6	1.3	1.3	4.7	6.9	5.2	4.7	

中和				東和							南和		
葛城市	高取町	明日香村	広陵町	天理市	桜井市	宇陀市	山添村	川西町	三宅町	田原本町	曾爾村	御杖村	五條市
2.2	0.9	-	0.9	5.2	3.9	2.2	0.9	-	0.4	1.7	0.4	0.4	4.7

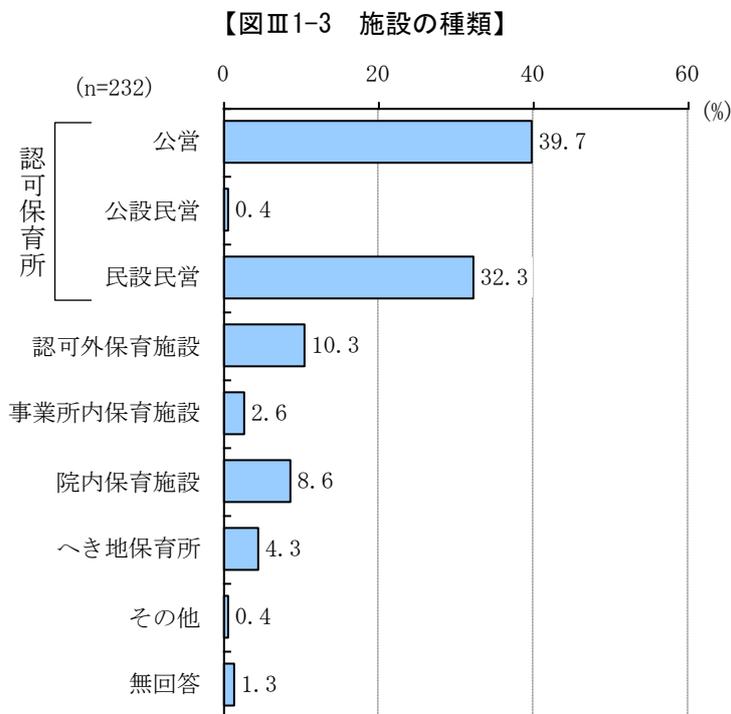
南和											明	県内	県外	無回答
吉野町	大淀町	下市町	黒滝村	天川村	野迫川村	十津川村	下北山村	上北山村	川上村	東吉野村	の市町村不			
0.4	2.2	0.4	-	-	-	1.7	0.4	0.4	0.4	-	-	-	-	0.4

【図Ⅲ1-2 施設の所在圏域】



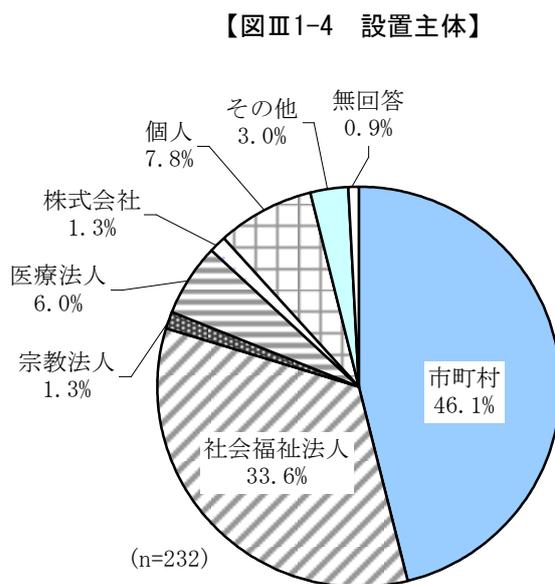
(2) 施設の種類

施設の種類の種類は、認可保育所の「公営」が39.7%で最も多く、次いで認可保育所の「民設民営」が32.3%、「認可外保育施設」が10.3%となっている。(図Ⅲ1-3)



(3) 設置主体

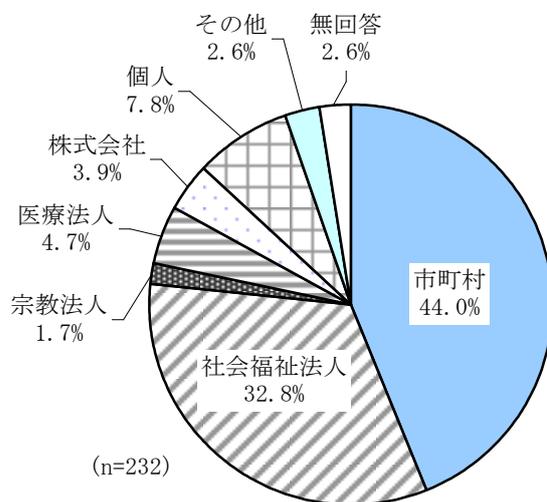
施設の設置主体は、「市町村」が46.1%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が33.6%、「個人」が7.8%となっている。(図Ⅲ1-4)



(4) 運営主体

施設の運営主体は、「市町村」が44.0%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が32.8%、「個人」が7.8%となっている。(図Ⅲ1-5)

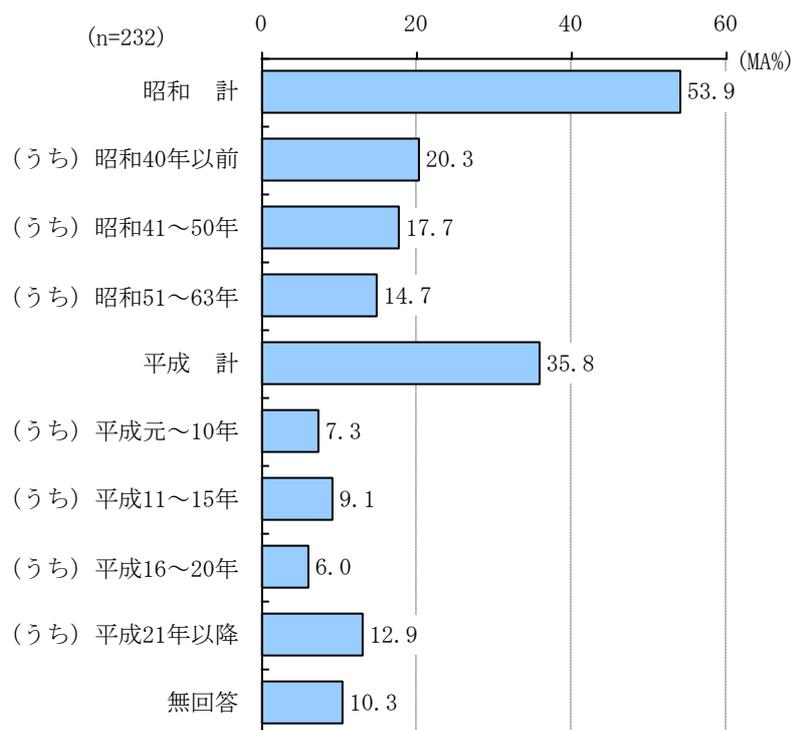
【図Ⅲ1-5 運営主体】



(5) 設置年月

施設の設置年月は、「昭和40年以前」が20.3%で最も多く、次いで「昭和41～50年」が17.7%、「昭和51～63年」が14.7%となっている。(図Ⅲ1-6)

【図Ⅲ1-6 設置年月】



2. 施設の定員・現員数

問2 貴施設の定員・現員とその内訳についておうかがいします。

施設の定員は、平均94.1人で、「5歳」が13.1人で最も多く、次いで「4歳」が13.0人となっている。

現員は、平均88.3人で、「3歳」が17.8人で最も多く、次いで「5歳」が17.4人、「4歳」が17.3人となっている。(表Ⅲ1-7)

【表Ⅲ1-7 施設の定員・現員】

上段：総和、下段：平均値

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定員	1,370	2,046	2,602	2,924	3,019	3,050	21,823
	5.9	8.8	11.2	12.6	13.0	13.1	94.1
現員	1,523	3,096	3,668	4,137	4,006	4,045	20,477
	6.6	13.3	15.8	17.8	17.3	17.4	88.3

(単位：人)

3. 施設の職員体制

(1) 職員数

問3 貴施設の職員体制についておうかがいします。各職種別の職員数をご記入ください。

施設の職員体制についてたずねた。

常勤の平均職員数については、保育士(資格あり)は、正規職員9.6人、非正規職員が8.3人となっている。保健師・看護師は、正規職員0.6人、非正規職員0.4人となっている。

非常勤の平均職員数については、保育士(資格あり)は、正規職員1.7人、非正規職員3.9人となっている。(表Ⅲ2-1)

【表Ⅲ2-1 職員数】

上段：総和、下段：平均値

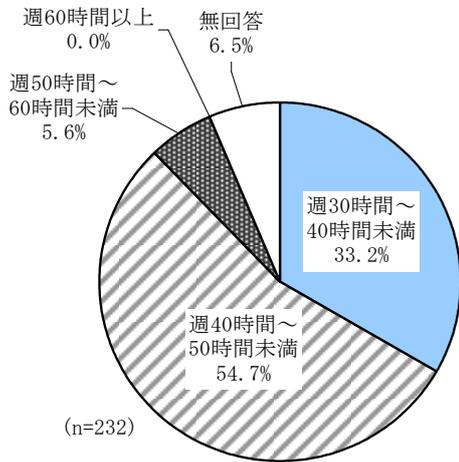
職種	保育士 (資格あり)		保育職員 (資格なし)		保健師・看護師		栄養士・ 管理栄養士		調理員		事務職員		その他職員	
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
常勤	2,086	1,437	21	22	36	19	48	10	174	123	73	28	42	35
	9.6	8.3	0.4	0.5	0.6	0.4	0.8	0.2	1.5	1.4	1.0	0.5	0.7	0.7
非常勤	92	574	18	55	1	11	5	12	29	81	9	15	6	60
	1.7	3.9	0.5	0.9	0.0	0.3	0.2	0.3	0.7	1.2	0.3	0.4	0.2	1.1

(単位：人)

(2) 正規職員（常勤）の保育士の週あたりの平均実働時間

問4 貴施設の正規職員（常勤）である保育士（主任を含む）についておうかがいします。
週あたりの平均的な（時間外労働を含む）実働時間は何時間ですか。（○は1つ）

【図Ⅲ2-2① 正規職員（常勤）の保育士の週あたりの平均実働時間】

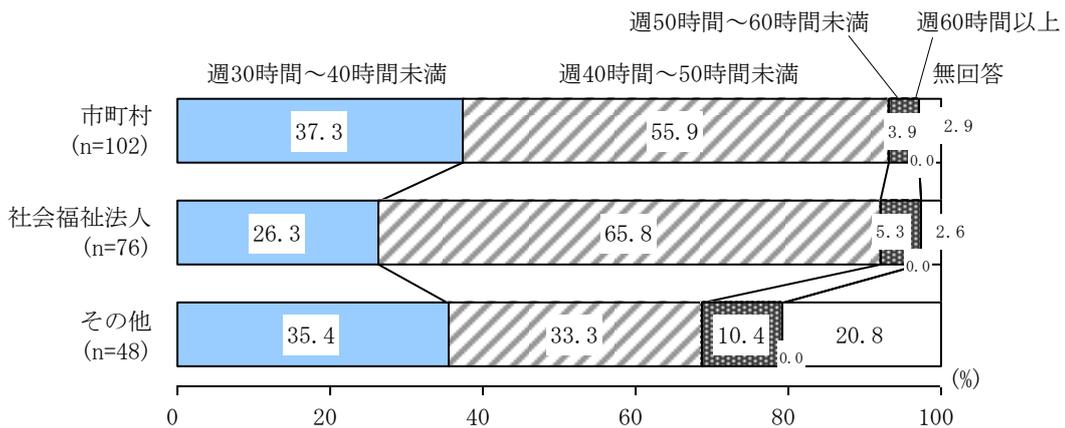


正規職員（常勤）の保育士の週あたりの平均実働時間は、「週40時間～50時間未満」が54.7%で最も多く、次いで「週30時間～40時間未満」が33.2%となっている。（図Ⅲ2-2①）

【運営主体別】

運営主体に関係なく、正規職員（常勤）の保育士の週あたりの平均実働時間は、「週40時間～50時間未満」が最も多く、市町村に比べ社会福祉法人の割合のほうが高い。（図Ⅲ2-2②）

【図Ⅲ2-2② 運営主体別 正規職員（常勤）の保育士の週あたりの平均実働時間】



(3) 正規職員（常勤）の待遇状況

問5 貴施設における正規職員（常勤）の待遇について、該当する数字をご記入ください。
（記入にあたっては、下記の注意書きを参照してください）

正規職員（常勤）の待遇についてたずねた。

初任保育士の給与の平均は251.7万円であり、「240～260万円未満」が14.7%で最も多く、次いで「220～240万円未満」が11.2%、「260～280万円未満」が9.5%となっている。
（表Ⅲ2-3①②）

保育士の平均年齢は37.4歳となっている。（表Ⅲ2-3①）

保育士の勤続年数の平均は153.2か月（12年9.2か月）で、「5～10年未満」が23.3%で最も多く、次いで「20年以上」が19.4%、「5年未満」が17.2%となっている。（表Ⅲ2-3①③）

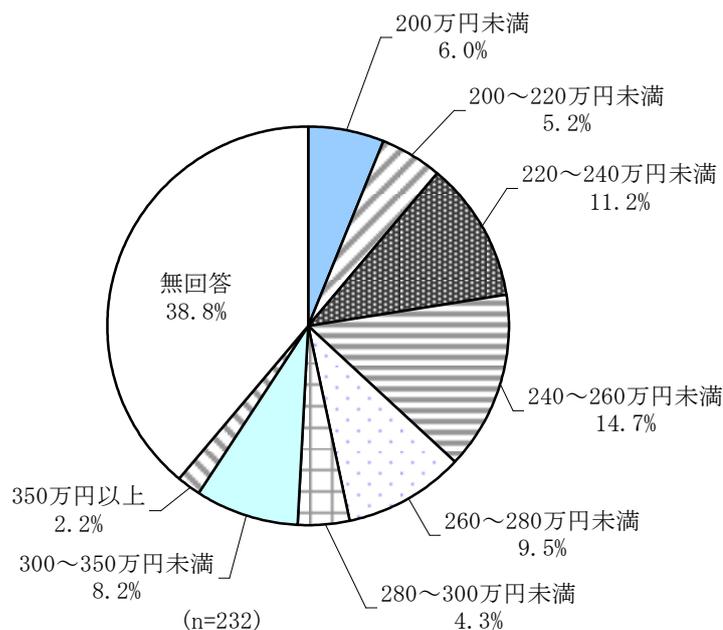
保育士の給与の平均は401.0万円であり、「250～300万円未満」と「400～450万円未満」がともに11.6%で最も多く、次いで「300～350万円未満」と「350～400万円未満」がともに10.8%となっている。（表Ⅲ2-3①④）

【表Ⅲ2-3① 正規職員（常勤）の待遇状況】

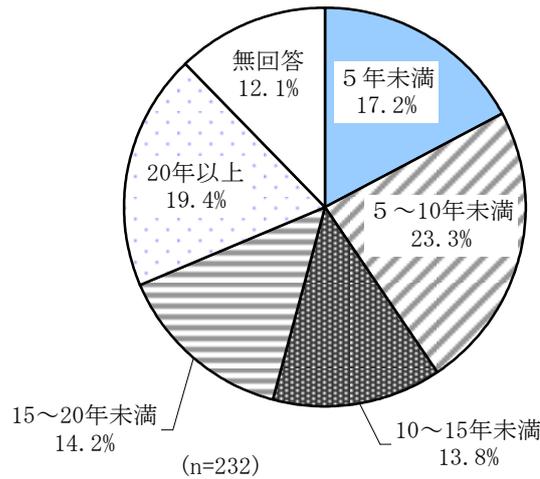
上段：総和、下段：平均値

	(1) 平均年齢 (歳)	(2) 勤続年数 (か月)	(3) 年間の給与等 (万円)
①初任保育士			35,740 251.7
②保育士 (初任・主任を含む)	7,854 37.4	31,249 153.2	71,382 401.0

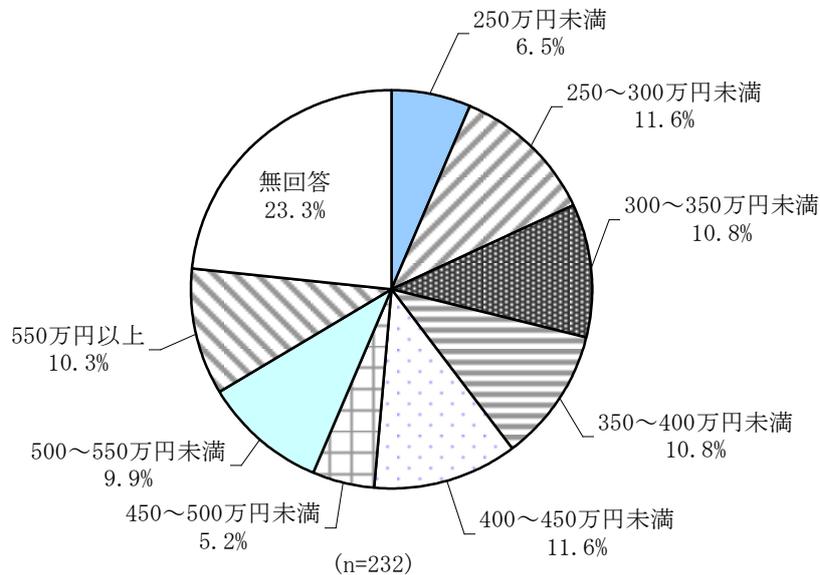
【図Ⅲ2-3② 初任保育士の給与（年間）】



【図Ⅲ2-3③ 保育士の平均勤続年数】



【図Ⅲ2-3④ 保育士の給与（年間）】



【運営主体別】

平均年齢は、市町村42.4歳に対し社会福祉法人は31.5歳で、社会福祉法人のほうが10.9歳若い。勤続年数は、社会福祉法人（7.5年）に比べ市町村（19.4年）のほうが長い。

年間の平均給与は、市町村502.8万円に対し社会福祉法人343.0万円で、市町村のほうが159.8万円多い。（表Ⅲ2-3⑤）

【表Ⅲ2-3⑤ 運営主体別 正規職員（常勤）の待遇状況】

	平均年齢 (歳)	勤続年数 (か・月)	年間の給与等 (万円)	
				初任保育士 (万円)
市町村	42.4	233.0	502.8	250.0
社会福祉法人	31.5	90.5	343.0	269.0
その他	36.2	69.0	284.7	203.8

(4) 非正規職員（常勤）の保育士の配置状況

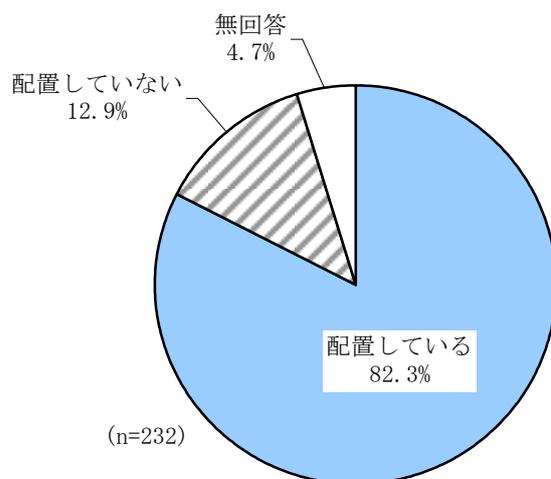
①非正規職員（常勤）の保育士の配置有無

問6 貴施設の非正規職員（常勤）についておうかがいします。

問6-1 雇用形態が非正規（常勤）である保育士（資格あり）を配置していますか。（○は1つ）

非正規職員（常勤）の保育士を「配置している」が82.3%に対し、「配置していない」は12.9%となっている。（図Ⅲ2-4①）

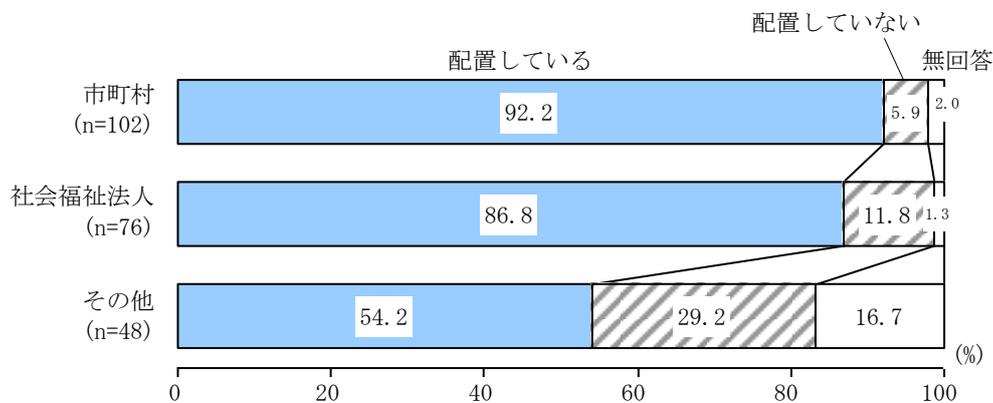
【図Ⅲ2-4① 非正規職員（常勤）の保育士の配置の有無】



【運営主体別】

市町村・社会福祉法人とも「配置している」が9割前後を占め、市町村のほうが5.4ポイント高い。（図Ⅲ2-4②）

【図Ⅲ2-4② 運営主体別 非正規職員（常勤）の保育士の配置の有無】



②配置している非正規職員（常勤）の保育士の待遇状況

問6-2 問6-1で「1. 配置している」と回答した方におうかがいします。

貴施設に勤める非正規職員のうち、保育士資格を持つ保育士について、雇用形態別に(1)平均年齢、(2)勤続年数、(3)給与等をお答えください。(数字は小数点以下第1位を四捨五入して記入してください。)

非正規職員（常勤）の保育士の待遇についてたずねた。

直接契約の保育士の平均年齢は38.0歳となっている。(表Ⅲ2-5①)

直接契約の保育士の勤続年数の平均は62.7か月(5年2.7か月)であり、「2～4年未満」が25.1%で最も多く、次いで「4～6年未満」が23.0%、「6～8年未満」が16.8%となっている。(表Ⅲ2-5①②)

直接契約の保育士の給与の平均は195.6万円であり、「200～220万円未満」が17.8%で最も多く、次いで「220～240万円未満」が13.1%となっている。(表Ⅲ2-5①③)

間接契約の保育士の平均年齢は32.1歳となっている。(表Ⅲ2-8)

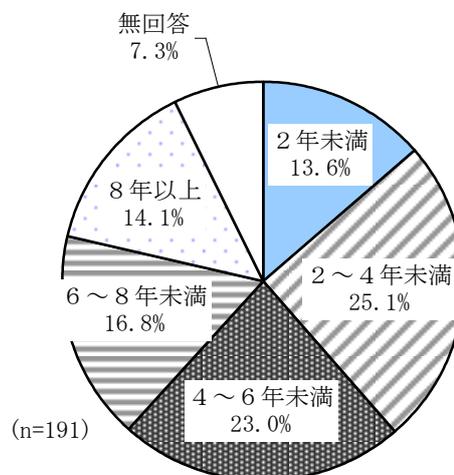
間接契約の保育士の勤続年数の平均は14.3か月(1年2.3か月)であり、「1年未満」が3.7%で最も多くなっている。(表Ⅲ2-5①④)

【表Ⅲ2-5① 非正規職員（常勤）の保育士の待遇】

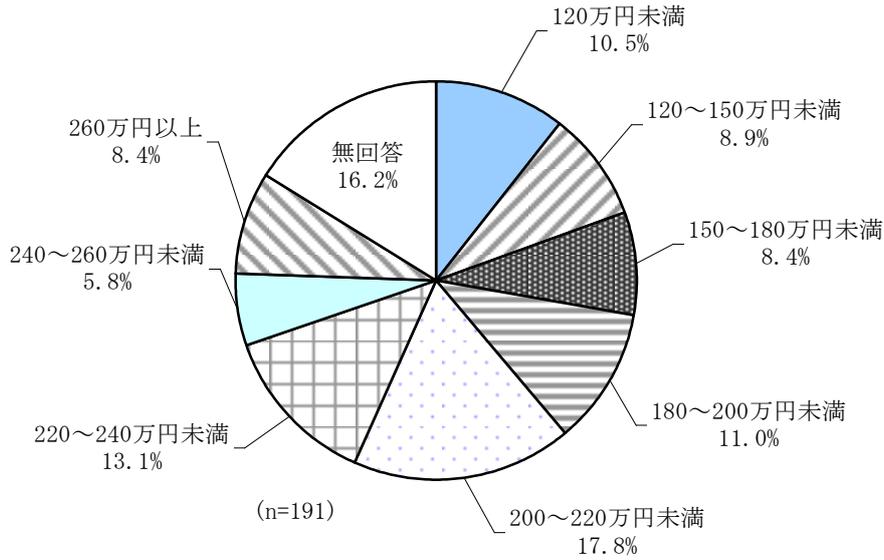
上段：総和、下段：平均値

	(1) 平均年齢 (歳)	(2) 勤続年数 (か月)	(3) 年間の給与等 (万円)
①直接契約 (パート・アルバイト・ 契約職員・嘱託職員)	6,921 38.0	11,092 62.7	31,293 195.6
②間接契約 (派遣職員)	578 32.1	214 14.3	

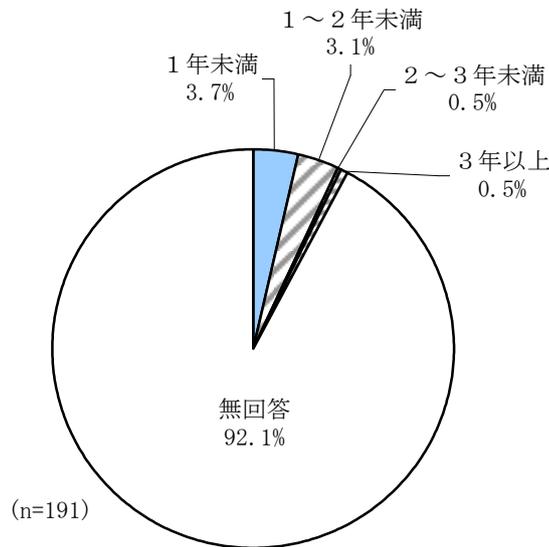
【図Ⅲ2-5② 直接契約の勤続年数】



【図Ⅲ2-5③ 直接契約の給与（年間）】



【図Ⅲ2-5④ 間接契約の勤続年数】



【運営主体別】

直接契約の非正規職員（常勤）の平均年齢は、市町村・社会福祉法人間で大差はないが勤続年数及び年間給与で差がみられ、ともに市町村のほうが社会福祉法人を上回っている。間接契約の保育士については、平均年齢は、社会福祉法人に比べ市町村のほうが高いが、勤続年数の平均は社会福祉法人のほうが長い。（表Ⅲ2-5⑤）

【表Ⅲ2-5⑤ 運営主体別 非正規職員（常勤）の保育士の待遇】

	直接契約			間接契約	
	平均年齢 (歳)	勤続年数 (か月)	年間の給与等 (万円)	平均年齢 (歳)	勤続年数 (か月)
市町村	38.6	69.5	210.5	-	-
社会福祉法人	38.5	58.6	187.8	32.6	10.1
その他	34.7	51.6	166.3	30.3	23.5

4. 保育職員の職場定着に向けた取組状況

(1) 昨年度中に自己都合で退職した保育士数

問7 貴施設で、昨年度中に自己都合で退職した保育士がいる場合、人数をご記入ください。

昨年度中に自己都合で退職した保育士については、正規職員の平均が1.7人、非正規職員の平均が2.4人となっている。非正規職員の退職者のうち、常勤の平均が2.0人、非常勤の平均が1.3人となっている。(表Ⅲ3-1①)

【表Ⅲ3-1① 昨年度中に自己都合で退職した保育士数】

上段：総和、下段：平均値

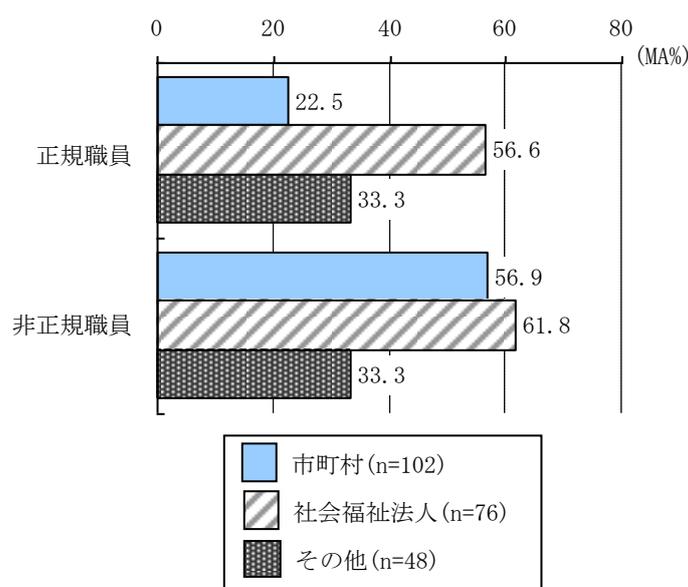
	人数	うち常勤	うち非常勤	うち不明
正規職員	139 1.7			
非正規職員	301 2.4	197 2.0	94 1.3	10 5.0

(単位：人)

【運営主体別】

正職員で自己都合により退職した保育士の割合は、市町村が22.5%に対し社会福祉法人が56.6%と、社会福祉法人のほうが高くなっている。非正規職員の退職割合は、市町村が56.9%、社会福祉法人が61.8%で、こちらのほうも社会福祉法人の割合が高くなっている。(表Ⅲ3-1②)

【表Ⅲ3-1② 運営主体別 昨年度中に自己都合で退職した保育士の割合】



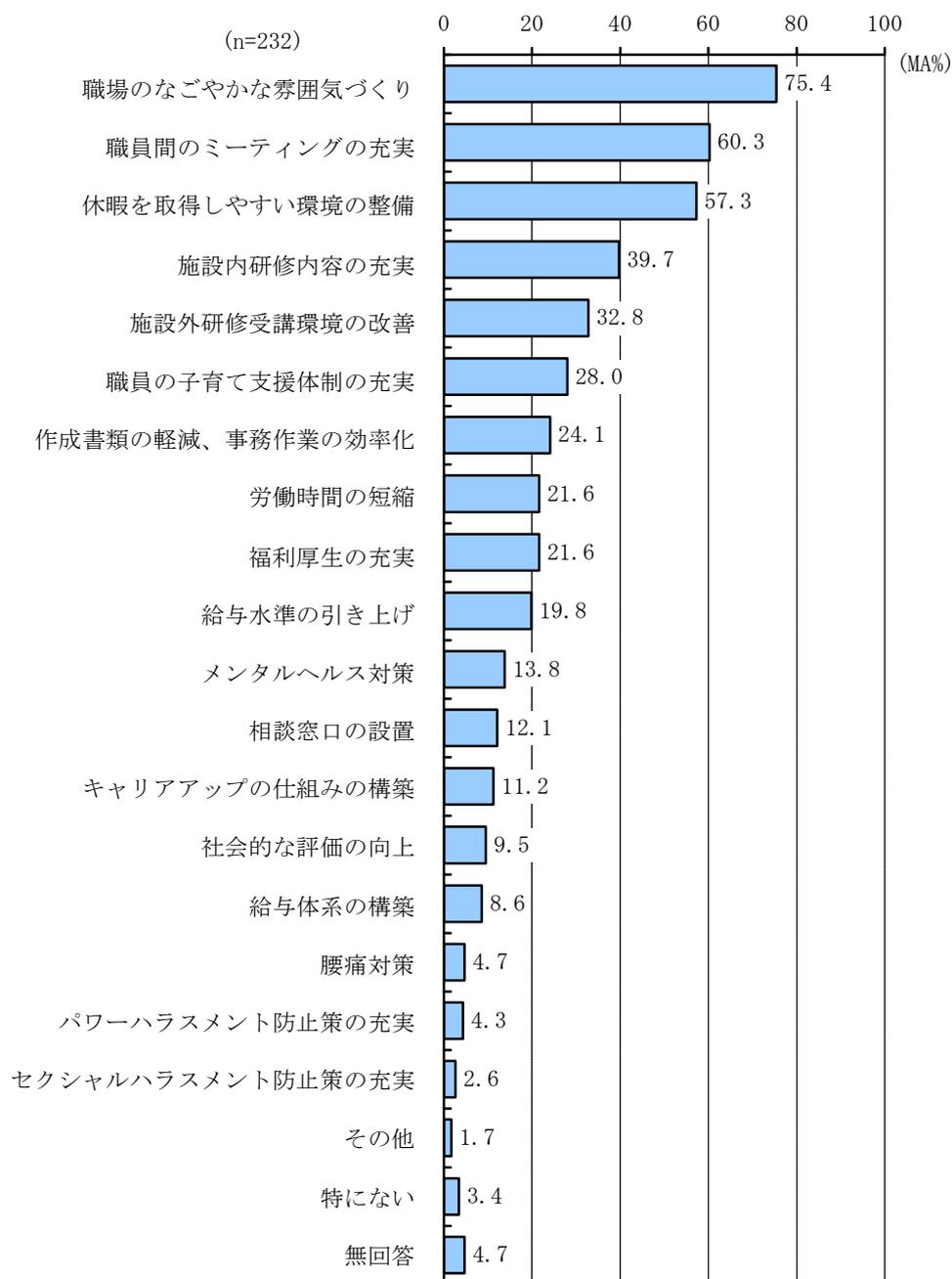
(2) 保育士の職場定着のための取組状況・取組意向

①現在取り組んでいること

問8 貴施設で、現在、保育士の職場定着のために取り組んでいることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

保育士の職場定着のために現在取り組んでいることは、「職場のなごやかな雰囲気づくり」が75.4%で最も多い。これに次いで「職員間のミーティングの充実」が60.3%で、以下、「休暇を取得しやすい環境の整備」が57.3%、「施設内研修内容の充実」が39.7%、「施設外研修受講環境の改善」が32.8%となっている。(図Ⅲ3-2①)

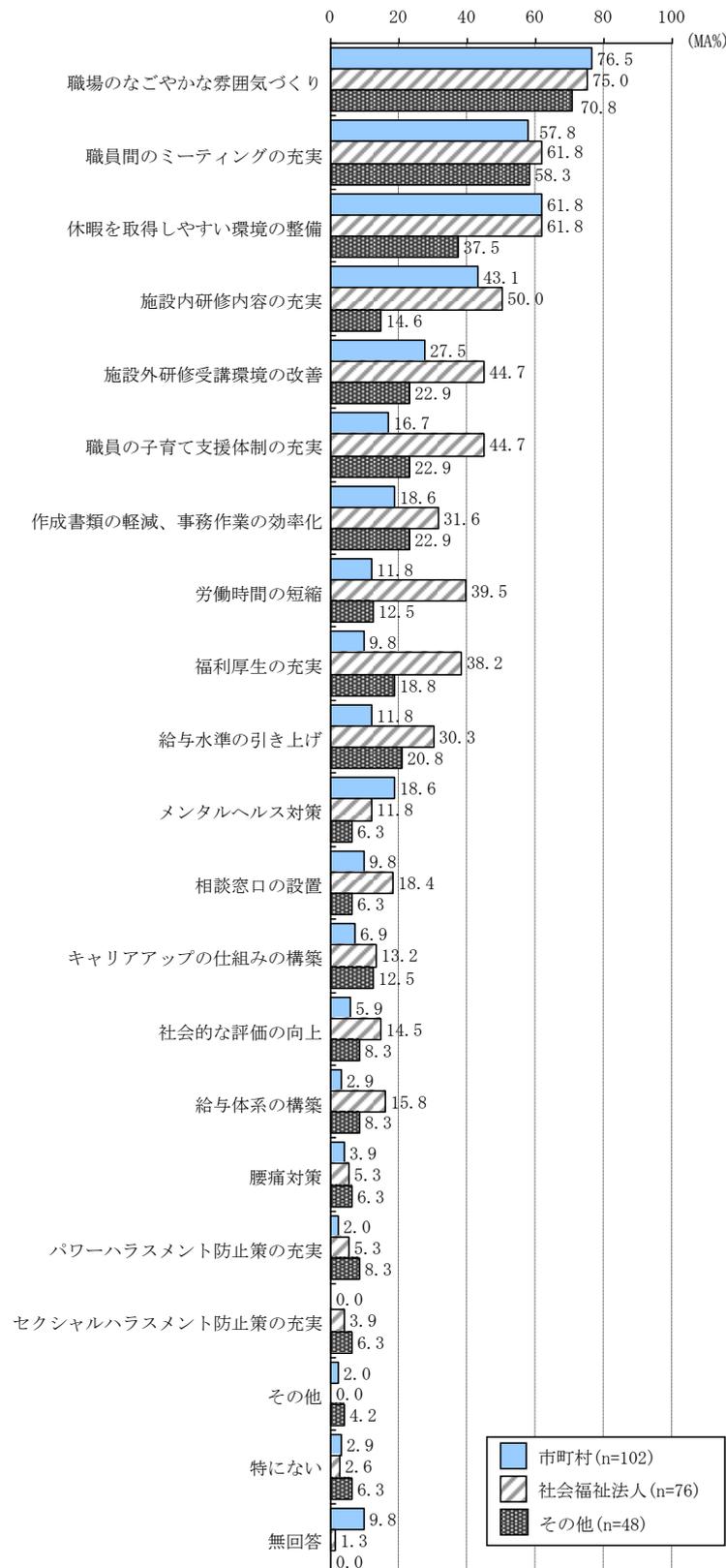
【図Ⅲ3-2① 現在取り組んでいること】



【運営主体別】

運営主体に関係なく、「職場のなごやかな雰囲気づくり」がいずれも最も多い。社会福祉法人では「施設外研修受講環境の改善」「職員の子育て支援体制の充実」「作成書類の軽減、事務作業の効率化」「労働時間の短縮」「福利厚生の実施」「給与水準の引き上げ」など、様々な取組みが行われている。(図Ⅲ3-2②)

【図Ⅲ3-2②】 運営主体別 現在取り組んでいること

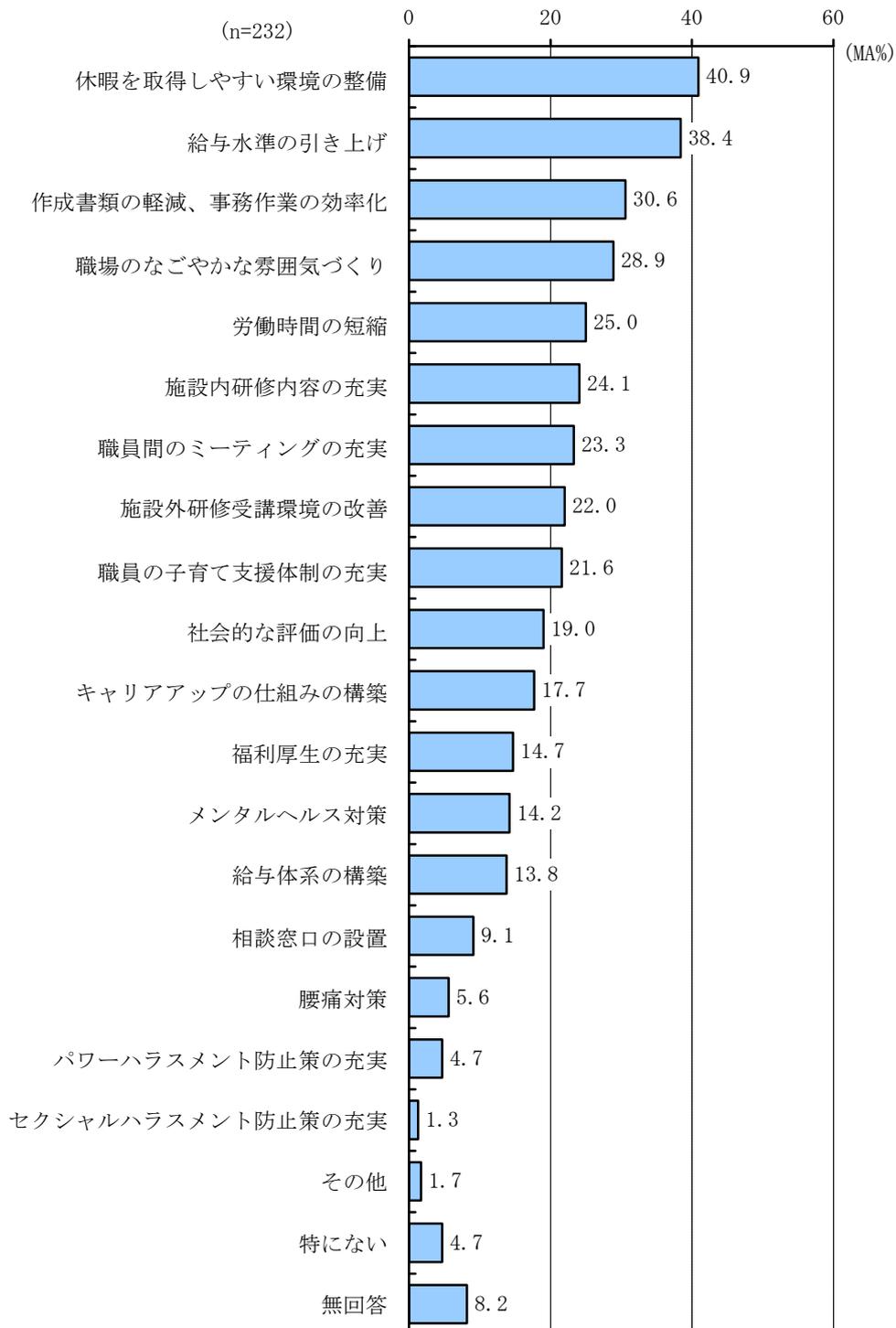


②今後取り組みたいこと

問9 貴施設で、今後、保育士の職場定着のために取り組みたいと思うことは何ですか。
(〇はあてはまるものすべて)

保育士の職場定着のために今後取り組みたいことは、「休暇を取得しやすい環境の整備」が40.9%で最も多い。これに次いで「給与水準の引き上げ」が38.4%で、以下、「作成書類の軽減、事務作業の効率化」が30.6%、「職場のなごやかな雰囲気づくり」が28.9%、「労働時間の短縮」が25.0%、「施設内研修内容の充実」が24.1%となっている。(図Ⅲ3-3①)

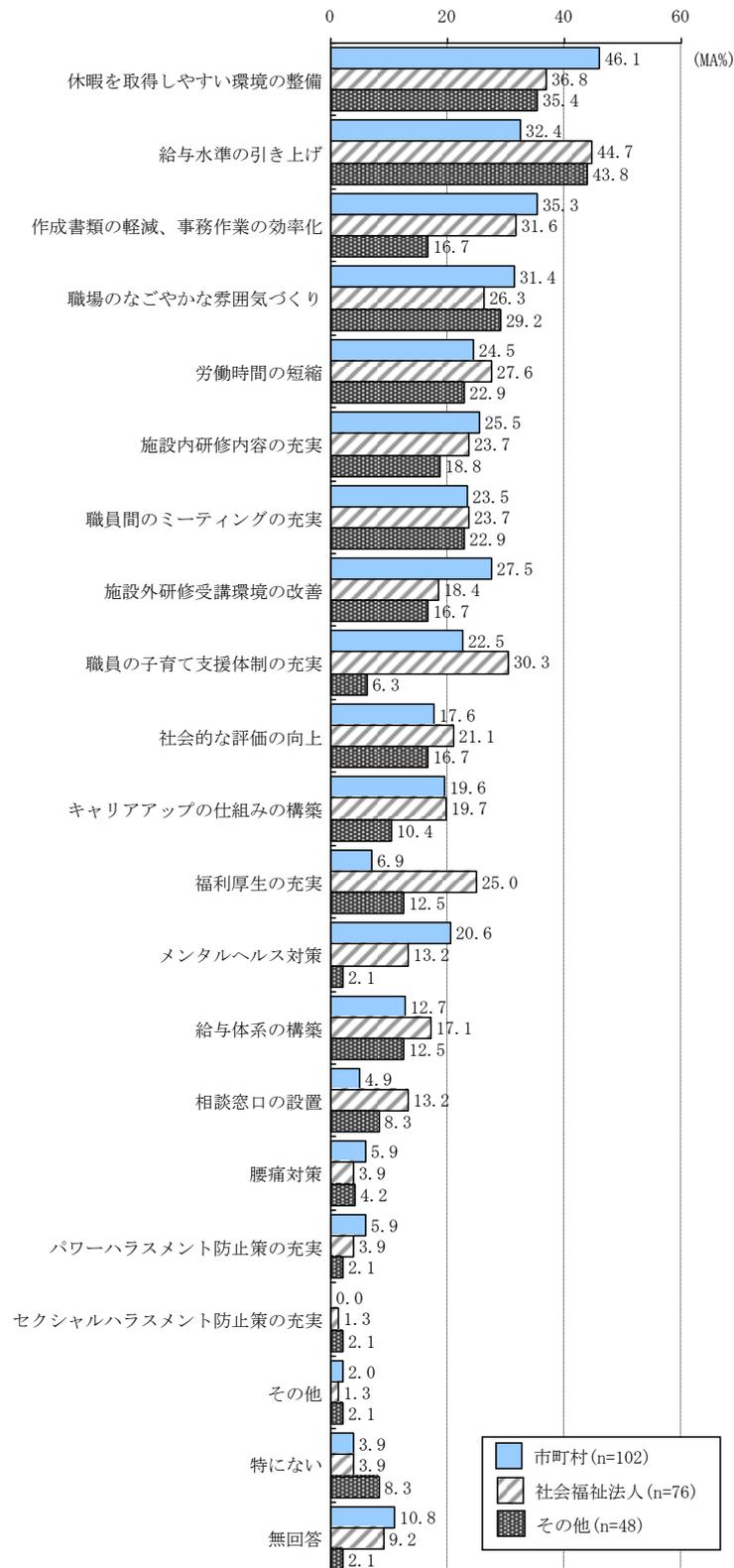
【図Ⅲ3-3① 今後取り組みたいこと】



【運営主体別】

市町村では、「休暇を取得しやすい環境の整備」が46.1%で最も多い。社会福祉法人では「給与水準の引き上げ」が44.7%で最も多く、このほか、「職員の子育て支援体制の充実」や「福利厚生充実」「相談窓口の設置」などが市町村に比べ高くなっている。(図Ⅲ3-3②)

【図Ⅲ3-3② 運営主体別 今後取り組みたいこと】

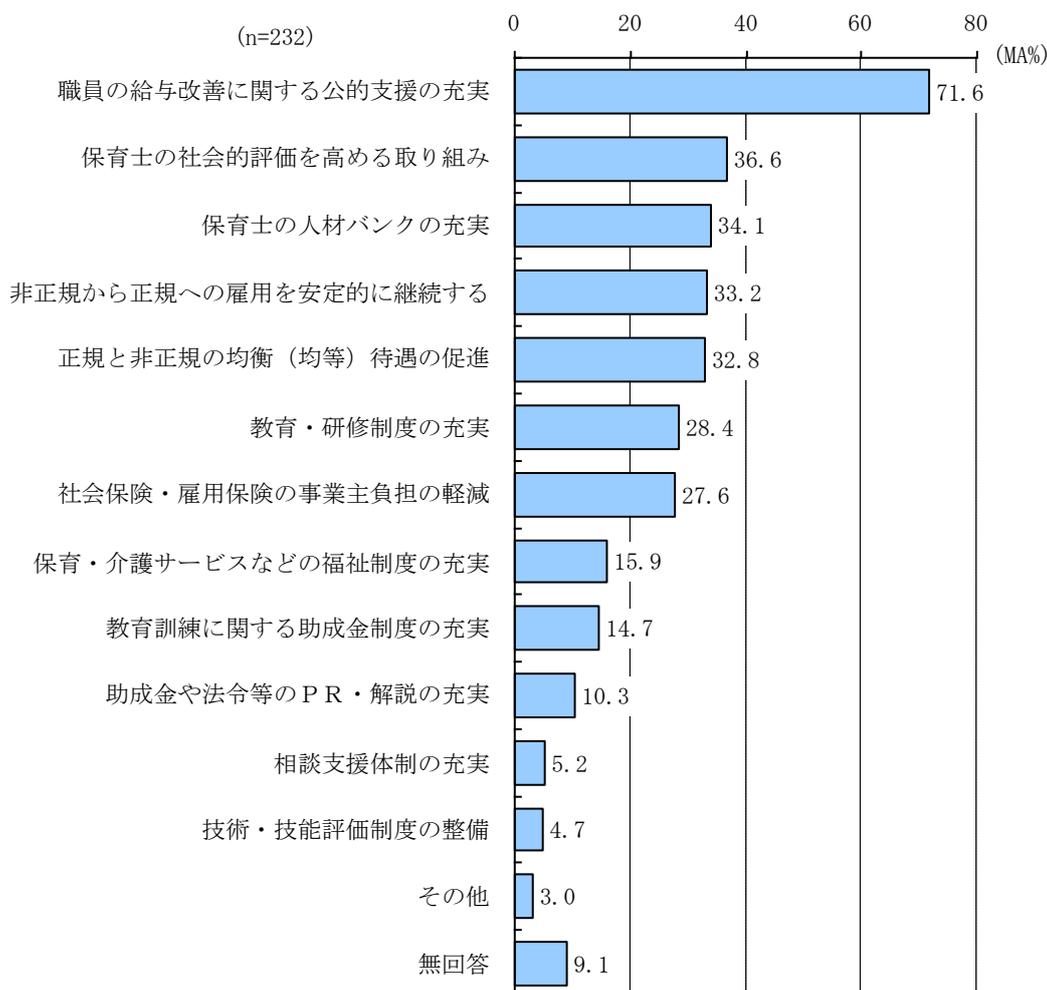


(3) 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援

問10 貴施設において、保育士を安定的に雇用していくために望む公的支援は何ですか。
(あてはまるものすべて)

保育士の安定的な雇用のために望む公的支援は、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が71.6%で最も多い。これに次いで「保育士の社会的評価を高める取り組み」が36.6%で、以下、「保育士の人材バンクの充実」が34.1%、「非正規から正規への雇用を安定的に継続する」が33.2%となっている。(図Ⅲ3-4①)

【図Ⅲ3-4① 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援】

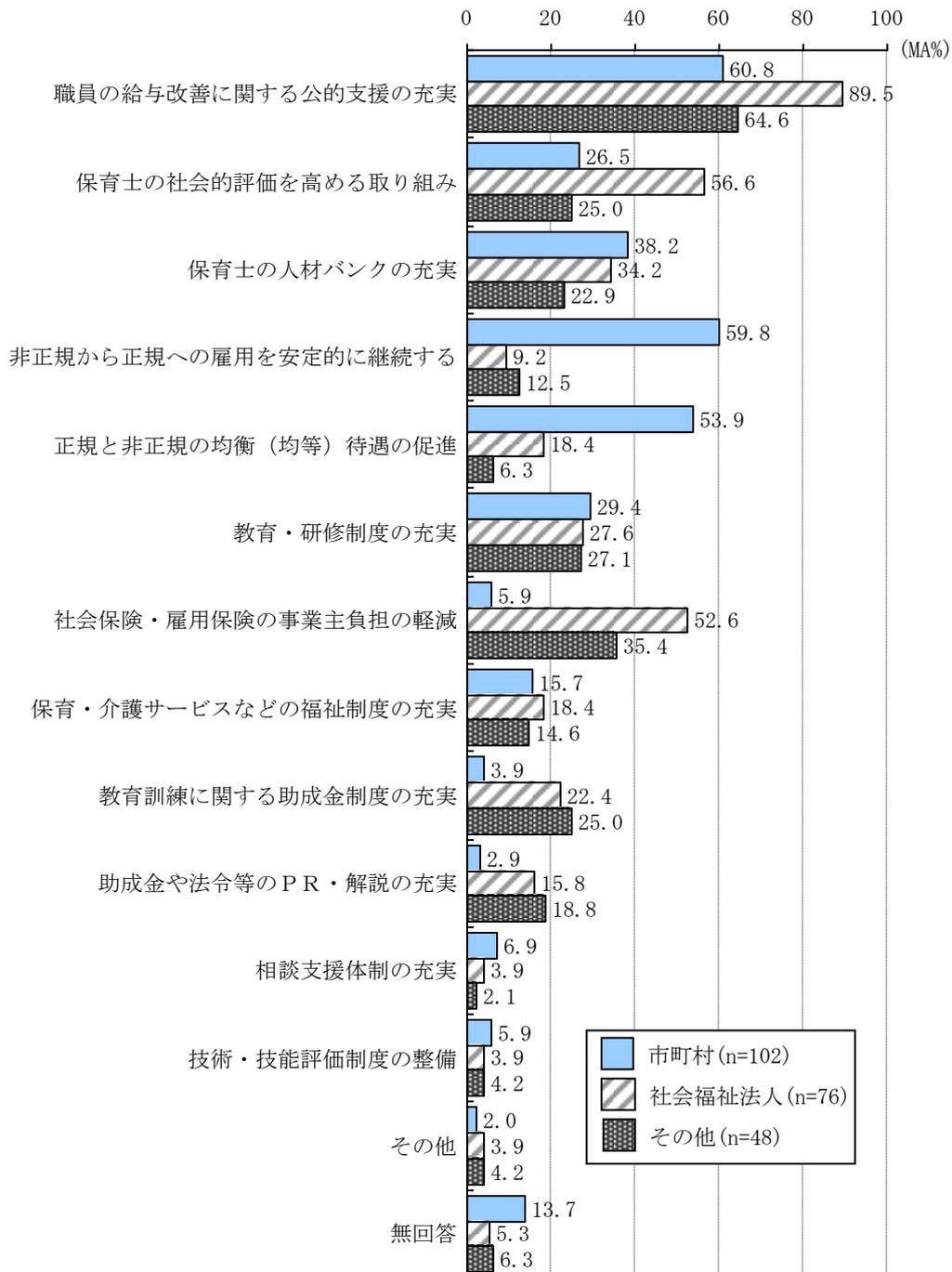


【運営主体別】

社会福祉法人では、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が89.5%で最も多い。また、「保育士の社会的評価を高める取り組み」(56.6%)も市町村に比べ高い。

一方、市町村では、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」(60.8%)とともに「非正規から正規への雇用を安定的に継続する」(59.8%)や「正規と非正規の均衡(均等)待遇の促進」(53.9%)の各割合が高い。(図Ⅲ3-4②)

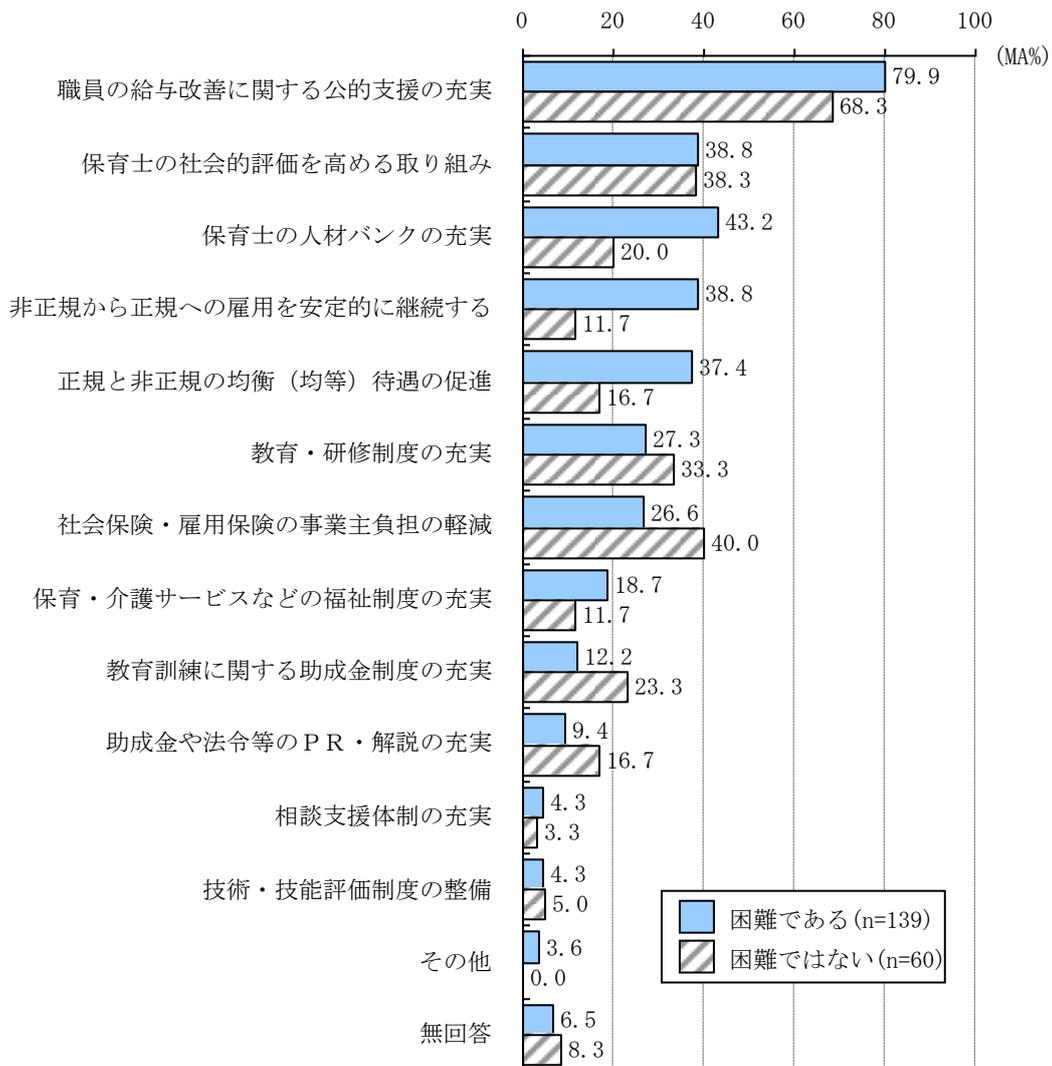
【図Ⅲ3-4② 運営主体別 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援】



【保育士採用の困難さの有無別】

保育士の採用の困難さの有無に関係なく、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が最も多く、特に困難であると考えている施設で高い。そのほか「保育士の人材バンクの充実」や「非正規から正規への雇用を安定的に継続する」「正規と非正規の均衡（均等）待遇の促進」の各割合も保育士の採用が困難であると考えている施設で高い。（図Ⅲ3-4③）

【図Ⅲ3-4③ 保育士採用の困難さの有無別 保育士の安定的な雇用のために望む公的支援】



5. 保育士の確保に向けた採用状況

(1) 昨年度の採用状況

①採用予定数・採用人数

問11 昨年度の(1)「新卒」及び(2)「新卒以外」の採用状況について、該当する数字をご記入ください。

昨年度の採用状況についてたずねた。

正規職員については、新卒の採用数が平均0.7人、新卒以外が平均0.4人となっている。

非正規職員については、常勤の新卒が平均0.3人、新卒以外が平均2.3人となっている。

正規・非正規合わせると、新卒が平均1.0人、新卒以外が平均3.3人で採用予定数の平均2.2人より2.1人多くなっている。(表Ⅲ4-1)

【表Ⅲ4-1 昨年度の採用予定数・採用人数】

上段：総和、下段：平均値

	採用予定数	(1) 新卒				(2) 新卒以外 採用数	
		採用数	うち県内 養成施設	うち県外 養成施設	うち 不明		
正規	232 1.0	159 0.7	80 0.3	79 0.3	- -	97 0.4	
非正規	常勤	173 0.7	41 0.2	13 0.1	8 0.0	20 2.9	528 2.3
	非常勤	90 0.4	2 0.0	2 0.0	0 0.0	- -	143 0.6
計	511 2.2	202 0.9	95 0.4	87 0.4	20 2.9	768 3.3	

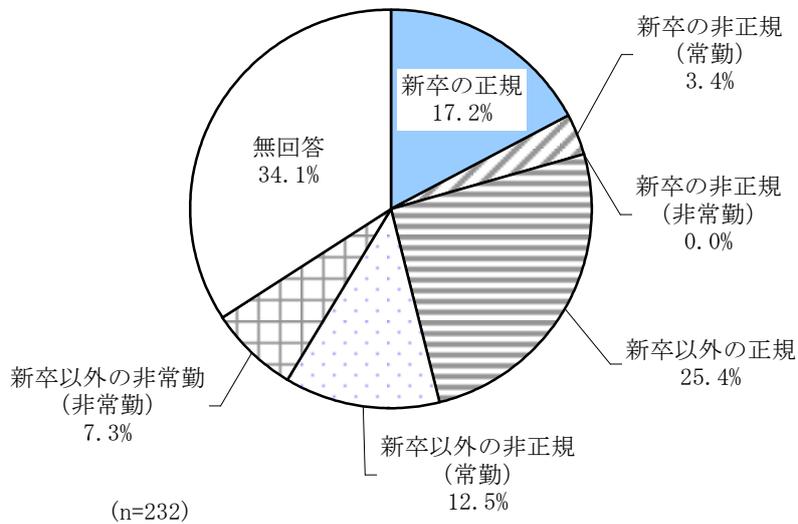
(単位：人)

②採用したかった勤務区分と理由

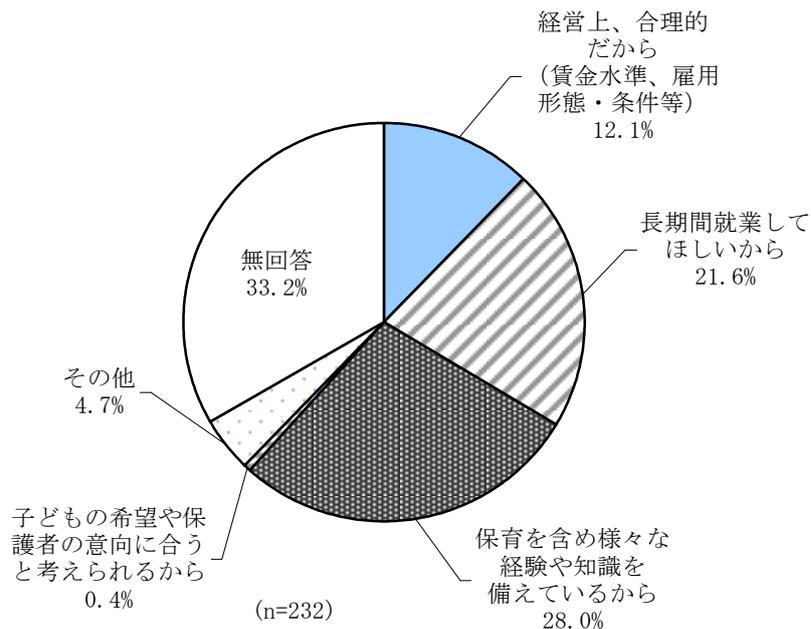
問11-1 昨年度、貴施設において、(1)「採用したかった区分」及び(2)その「理由」について、選択肢より1つだけ選び記入してください。

昨年度に採用したかった勤務区分は、「新卒以外の正規」が25.4%で最も多く、次いで「新卒の正規」が17.2%、「新卒以外の非正規(常勤)」が12.5%となっている。(図Ⅲ4-2)
その理由は、「保育を含め様々な経験や知識を備えているから」が28.0%で最も多く、次いで「長期間就業してほしいから」が21.6%、「経営上、合理的だから(賃金水準、雇用形態・条件等)」が12.1%となっている。(図Ⅲ4-3)

【図Ⅲ4-2 昨年度に採用したかった勤務区分】



【図Ⅲ4-3 理由】

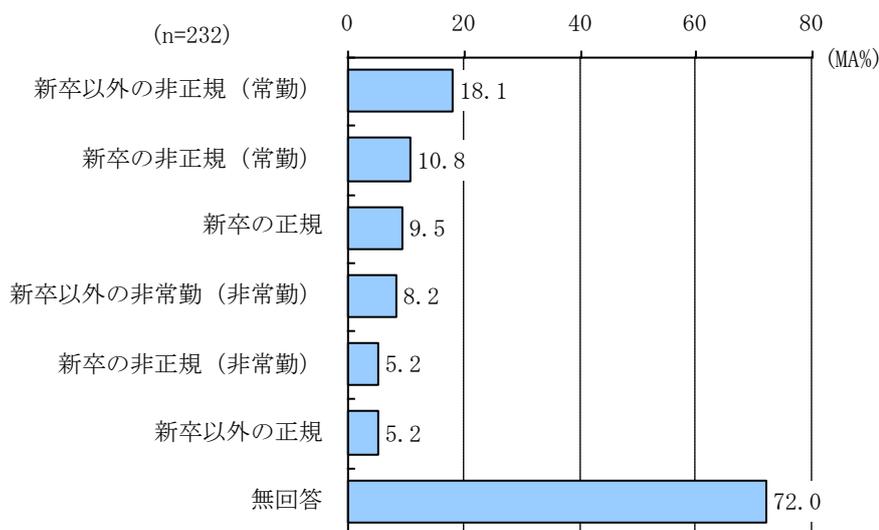


③昨年度の採用で応募がなかった（少なかった）勤務区分

問11-2 昨年度の採用において、募集に対する応募が、「なかった」または、「募集より応募が少なかった」場合があれば、選択肢より選び記入してください。（○はあてはまるものすべて）

昨年度の実験がなかった、または少なかった勤務区分は、「新卒以外の非正規（常勤）」が18.1%で最も多く、次いで「新卒の非正規（常勤）」が10.8%、「新卒の正規」が9.5%となっている。（図Ⅲ4-4）

【図Ⅲ4-4 昨年度の実験が少なかった勤務区分】



(2) 施設の求人像

①求めているスタッフのタイプ

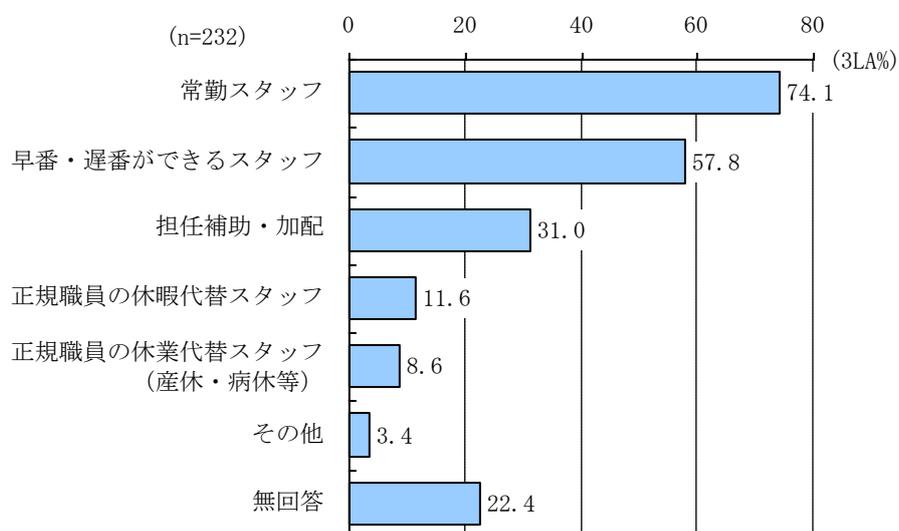
問12 どのようなスタッフを求めているかについて、選択肢より3つまで選び記入してください。

求めているスタッフについてたずねた。

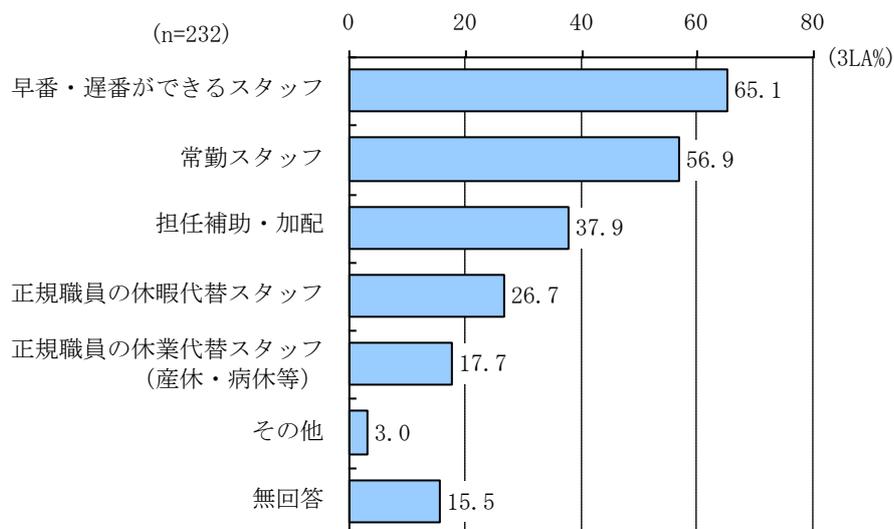
新卒での採用は、「常勤スタッフ」が74.1%で最も多く、次いで「早番・遅番ができるスタッフ」が57.8%、「担任補助・加配」が31.0%となっている。(図Ⅲ4-5)

新卒以外での採用については、「早番・遅番ができるスタッフ」が65.1%で最も多く、次いで「常勤スタッフ」が56.9%、「担任補助・加配」が37.9%となっている。(図Ⅲ4-6)

【図Ⅲ4-5 求めているスタッフのタイプ<①新卒での採用>】



【図Ⅲ4-6 求めているスタッフのタイプ<②新卒以外での採用>】

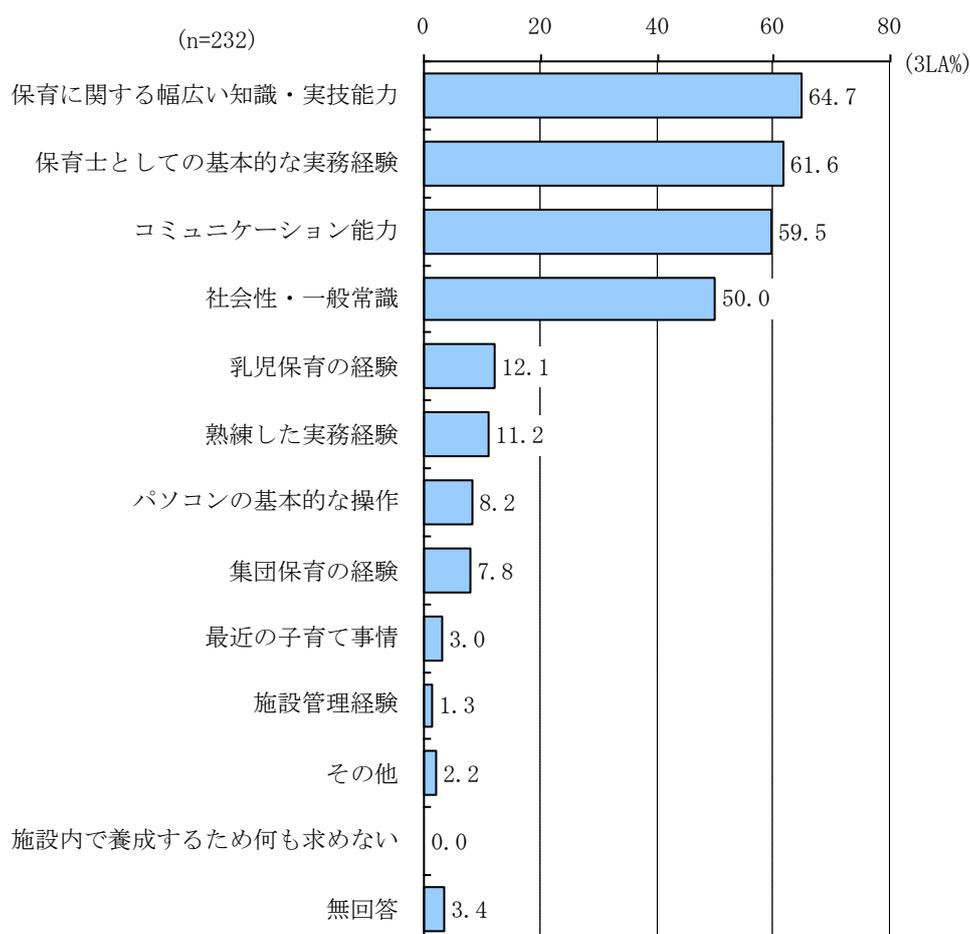


②採用する保育士に求める技術・知識レベル

問12-1 採用する保育士に求める技術・知識についておうかがいします。(○は3つまで)

採用する保育士に求める技術・知識は、「保育に関する幅広い知識・実技能力」が64.7%で最も多く、次いで「保育士としての基本的な実務経験」が61.6%、「コミュニケーション能力」が59.5%となっている。(図Ⅲ4-7)

【図Ⅲ4-7 採用する保育士に求める技術・知識レベル】



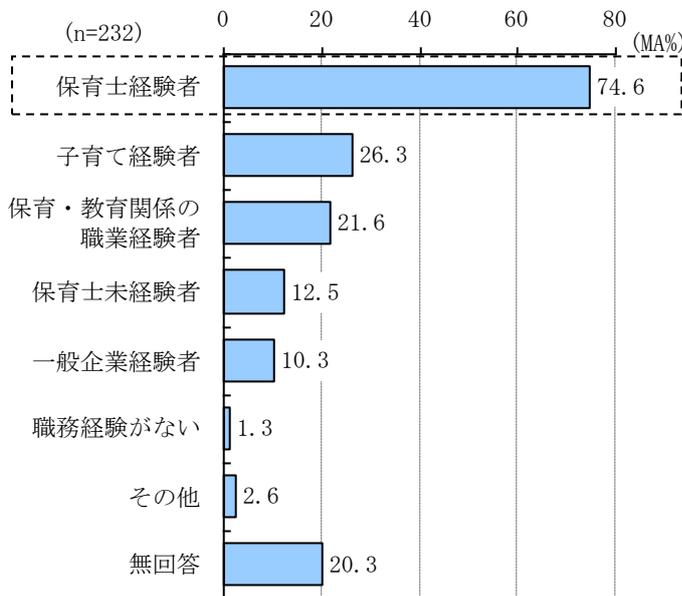
③新卒以外で採用した保育士の実務経験の状況

問12-2 新卒以外で採用した保育士の経験についてお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

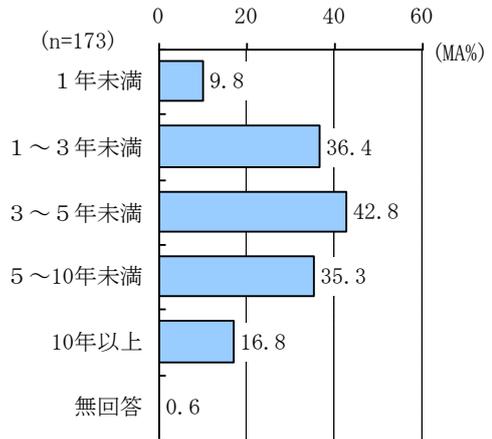
新卒以外で採用した保育士の実務経験は、「保育士経験者」が74.6%で最も多く、次いで「子育て経験者」が26.3%、「保育・教育関係の職業経験者」が21.6%となっている。(図Ⅲ4-8)

「保育士経験者」の実務経験年数をたずねると、「3～5年未満」が42.8%で最も多く、次いで「1～3年未満」が36.4%、「5～10年未満」が35.3%となっている。(図Ⅲ4-9)

【図Ⅲ4-8 新卒以外で採用した保育士の実務経験の状況】



【図Ⅲ4-9 保育士の実務経験年数】

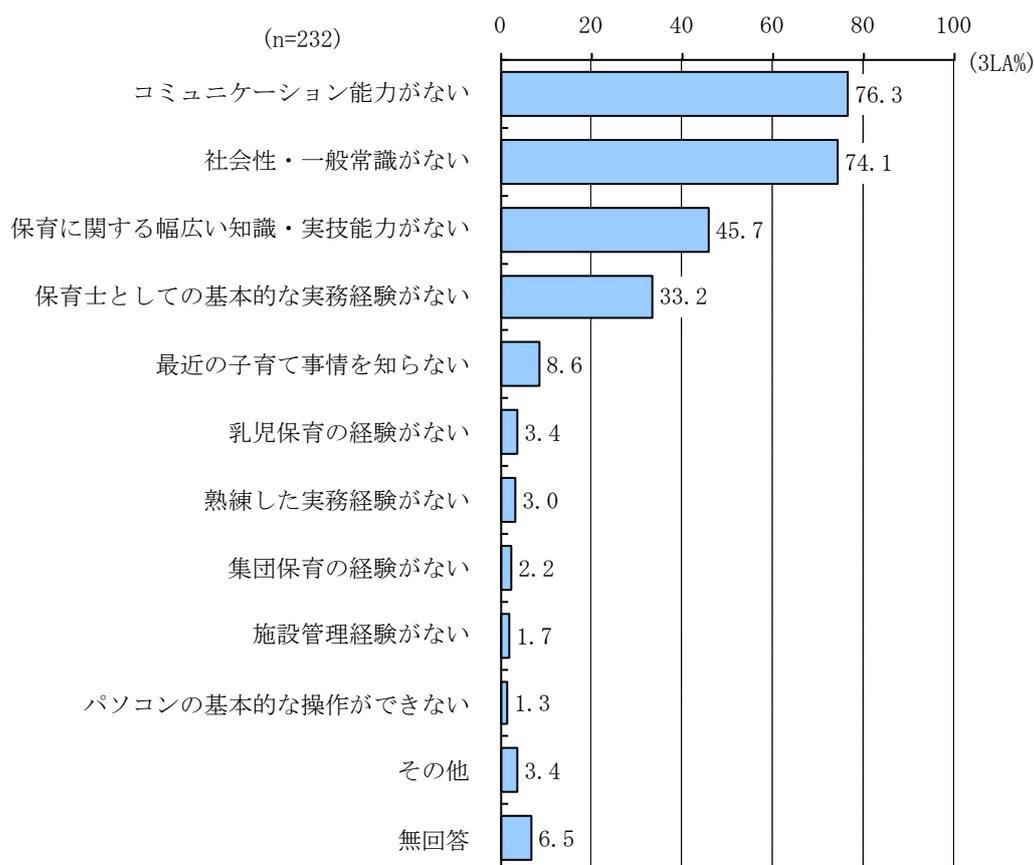


④採用に至らない求職者の特徴

問12-3 採用に至らない方、あるいは採用するには心配な方はどんな方ですか。(〇は3つまで)

採用に至らない応募者の特徴は、「コミュニケーション能力がない」が76.3%で最も多く、次いで「社会性・一般常識がない」が74.1%で、以下、「保育に関する幅広い知識・実技能力がない」が45.7%、「保育士としての基本的な実務経験がない」が33.2%となっている。(図Ⅲ4-10)

【図Ⅲ4-10 採用に至らない求職者の特徴】



(3) 実施している求人手段とその効果評価

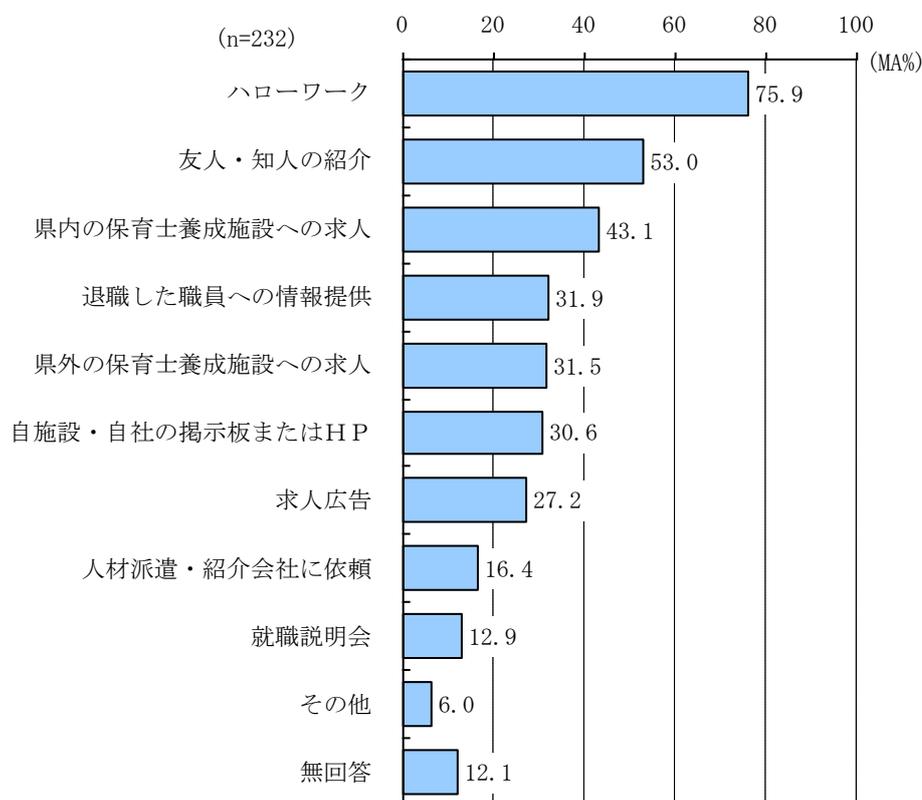
問12-4 (1) 実施している求人手段をお答えください。(○はあてはまるものすべて)
 (2) その効果について4段階で評価してください。(○はそれぞれ1つずつ)

実施している求人手段は、「ハローワーク」が75.9%で最も多く、次いで「友人・知人の紹介」が53.0%、「県内の保育士養成施設への求人」が43.1%となっている。(図Ⅲ4-11)

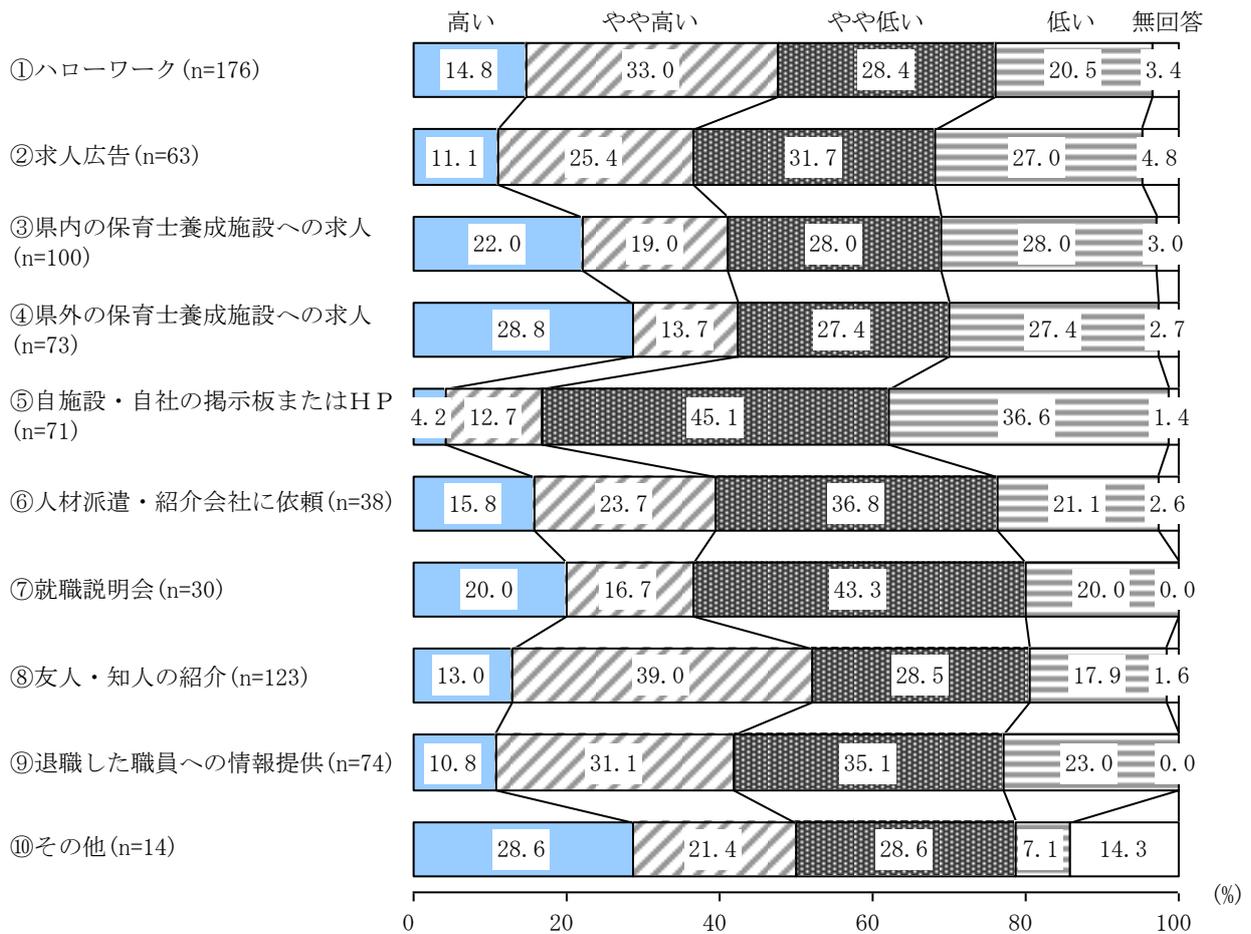
その効果について、「高い」が最も多いのは“県外の保育士養成施設への求人”で28.8%である。「やや高い」をあわせた『高い』は“友人・知人の紹介”が52.0%で最も高く、次いで“ハローワーク”が47.8%、“県外の保育士養成施設への求人”が42.5%となっている。

一方、「やや低い」と「低い」をあわせた『低い』は“自施設・自社の掲示板またはHP”が81.7%で最も高く、次いで“就職説明会”が63.3%となっている。(図Ⅲ4-12)

【図Ⅲ4-11 実施している求人手段】



【図Ⅲ4-12 実施している求人手段の効果評価】

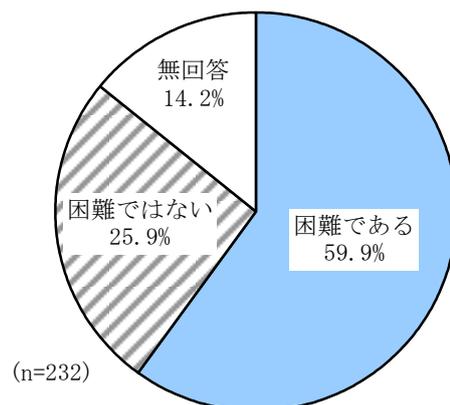


(4) 保育士の採用にあたっての困難度

問12-5 現在、保育士の採用に困難を感じていますか。(○は1つ)
その理由はどんなことですか。

現在、保育士採用が「困難である」と考えている施設が59.9%に対し、「困難ではない」が25.9%となっている。(図Ⅲ4-13)

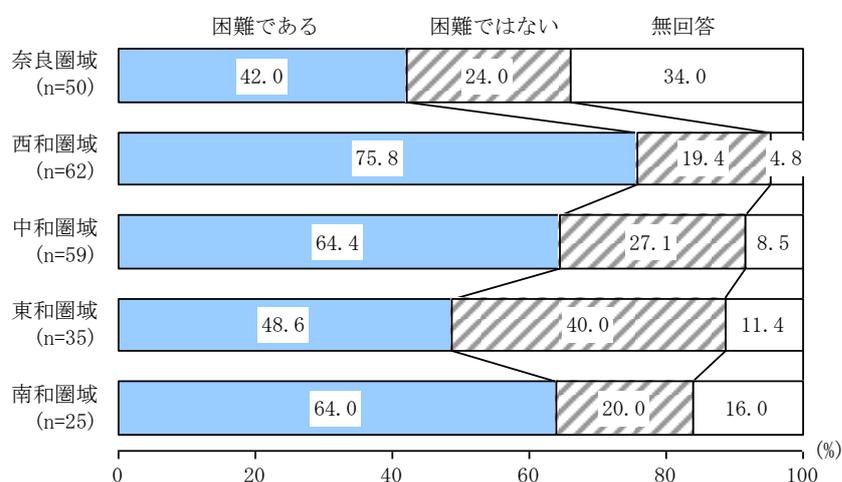
【図Ⅲ4-13 現在の保育士採用の困難度】



【圏域別】

現在、保育士の採用に困難を感じている施設の割合は、西和圏域で最も高く、これに次いで中和圏域が64.4%、南和圏域が64.0%となっている。(図Ⅱ4-13①)

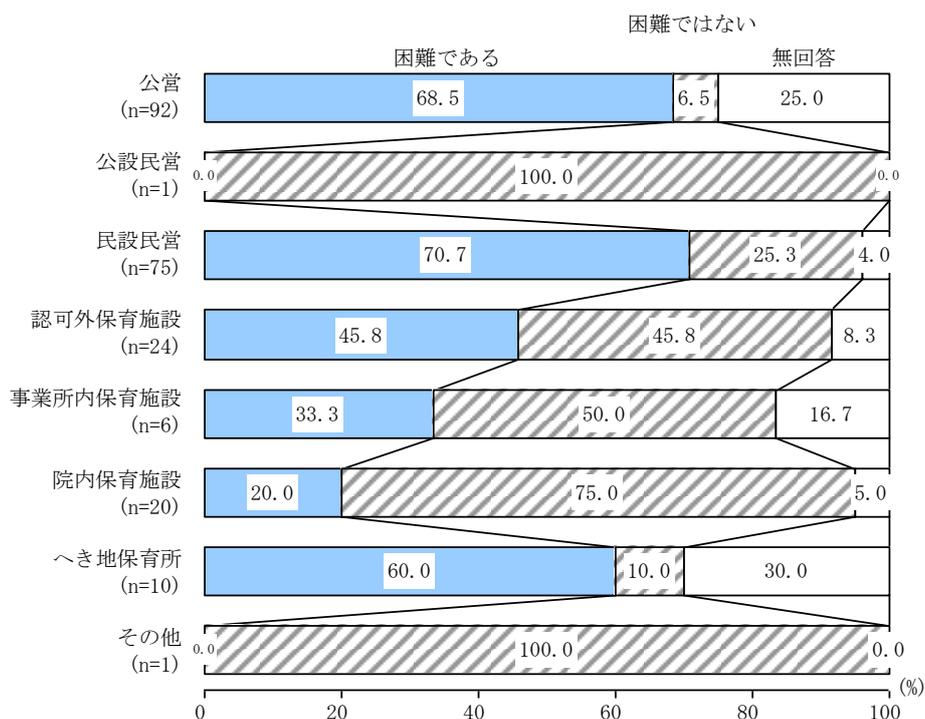
【図Ⅲ4-13① 圏域別 現在の保育士採用の困難度】



【施設種類別】

公営施設及び民設民営施設で、保育士の採用に困難を感じている割合が7割前後を占めている。これに対し、事業所内保育施設や院内保育施設は、困難ではないとの回答割合のほうが高くなっている。(図Ⅱ4-13②)

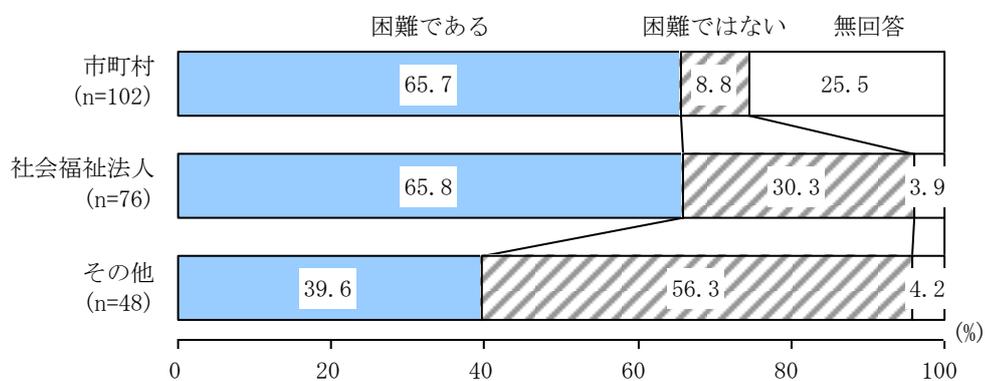
【図Ⅲ4-13② 施設種類別 現在の保育士採用の困難度】



【運営主体別】

運営主体が市町村、社会福祉法人では、「困難である」との回答が60%を超えている。
(図Ⅱ4-13③)

【図Ⅲ4-13③ 運営主体別 現在の保育士採用の困難度】



6. 潜在保育士の採用状況

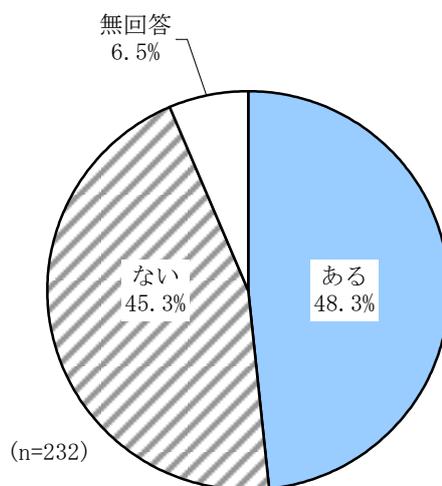
(1) 直近3年間における潜在保育士の雇用状況

①雇用の有無

問13 貴施設において、直近の3年間（平成22年4月以降、現在まで）で潜在保育士を雇用したケースがありますか。（○は1つ）

直近3年間で潜在保育士を雇用したことが「ある」は48.3%に対し、「ない」が45.3%となっている。（図Ⅲ5-1①）

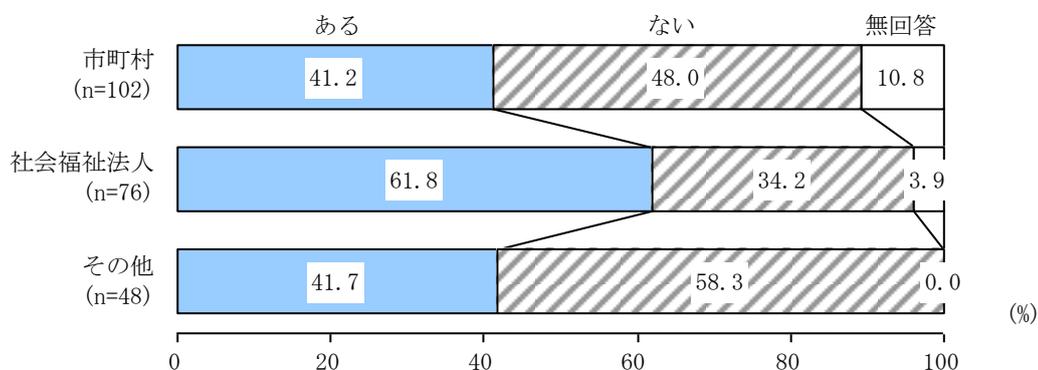
【図Ⅲ5-1① 潜在保育士の雇用の有無】



【運営主体別】

直近3年間で潜在保育士を雇用したことが「ある」との回答は、市町村が41.2%に対し、社会福祉法人は61.8%で、社会福祉法人での雇用経験の割合が高い。（図Ⅲ5-1②）

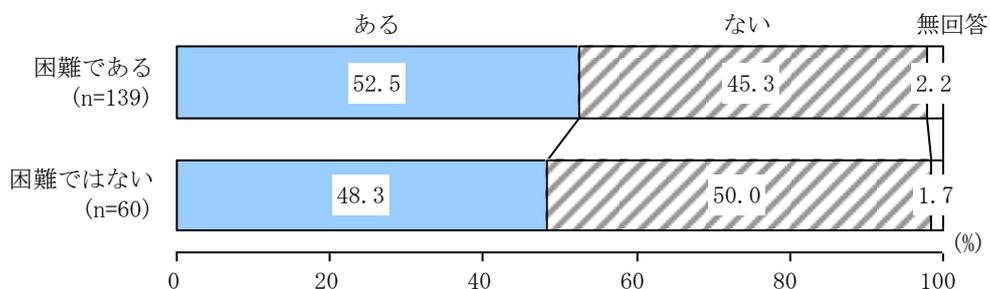
【図Ⅲ5-1② 運営主体別 潜在保育士の雇用の有無】



【保育士採用の困難さの有無別】

保育士の採用の困難さに関係なく、潜在保育士を雇用した経験がある施設が半数前後となっており、困難であると回答した施設の割合がやや高い。(図Ⅲ5-1③)

【図Ⅲ5-1③ 保育士採用の困難さの有無別 潜在保育士の雇用の有無】



②雇用した潜在保育士の雇用形態

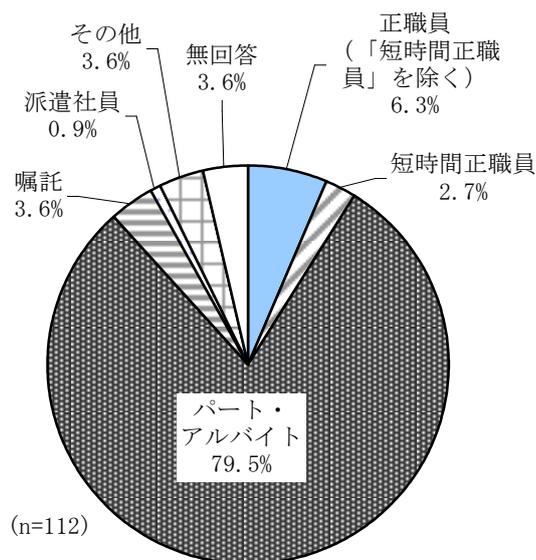
問13で「1. はい」と回答した施設におうかがいします。

雇用した潜在保育士に関し具体的にお答えください。なお、複数名いる場合は直近の方に関してお答えください。

問13-1 雇用した潜在保育士の雇用形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

潜在保育士を雇用したと回答した施設に、雇用した潜在保育士の雇用形態についてたずねると、「パート・アルバイト」が79.5%で最も多く、次いで「正職員（「短時間正職員」を除く）」が6.3%となっている。(図Ⅲ5-2)

【図Ⅲ5-2 雇用した潜在保育士の雇用形態】

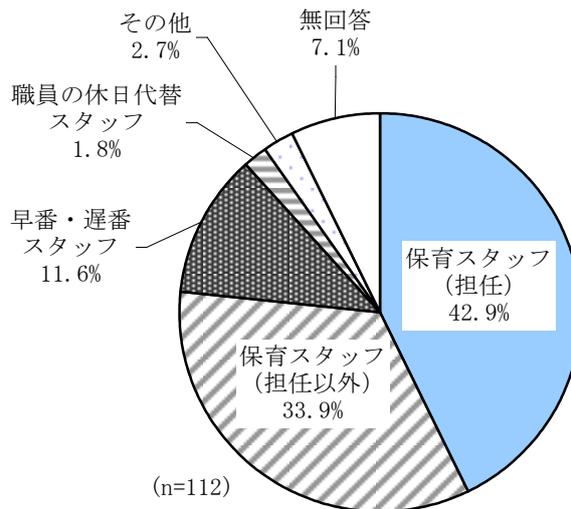


③雇用した潜在保育士の役割

問13-2 雇用した潜在保育士は次のうちのどのスタッフですか。(○は1つ)

雇用した潜在保育士の役割は、「保育スタッフ（担任）」が42.9%で最も多く、次いで「保育スタッフ（担任以外）」が33.9%、「早番・遅番スタッフ」が11.6%となっている。
(図Ⅲ5-3)

【図Ⅲ5-3 雇用した潜在保育士の役割】

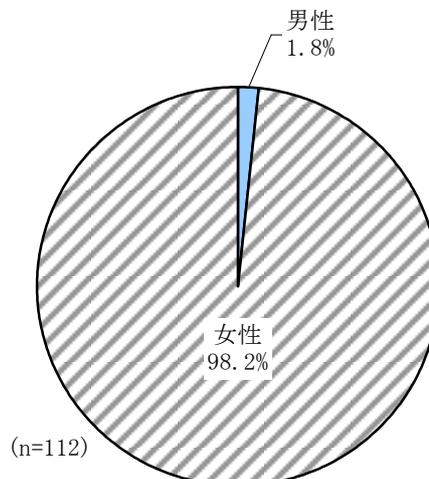


④雇用した潜在保育士の性別

問13-3 性別についてお答えください。(○は1つ)

雇用した潜在保育士の性別は、「女性」が98.2%に対し、「男性」が1.8%となっている。
(図Ⅲ5-4)

【図Ⅲ5-4 雇用した潜在保育士の性別】

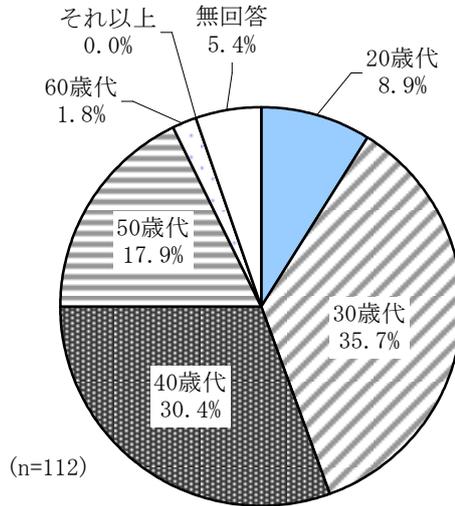


⑤雇用した潜在保育士の年代

問13-4 年代についてお答えください。(〇は1つ)

雇用した潜在保育士の年代は、「30歳代」が35.7%で最も多く、次いで「40歳代」が30.4%、「50歳代」が17.9%となっている。(図Ⅲ5-5)

【図Ⅲ5-5 雇用した潜在保育士の年代】



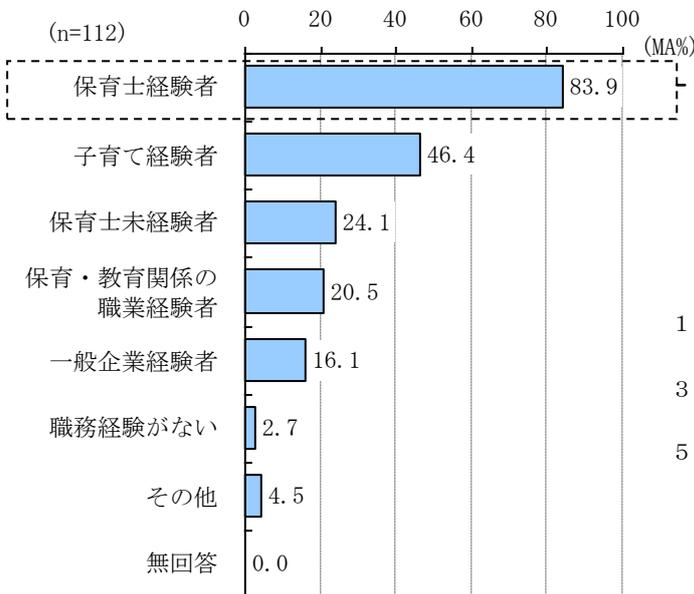
⑥雇用した潜在保育士の実務経験の状況

問13-5 雇用した潜在保育士の実務経験等についてお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

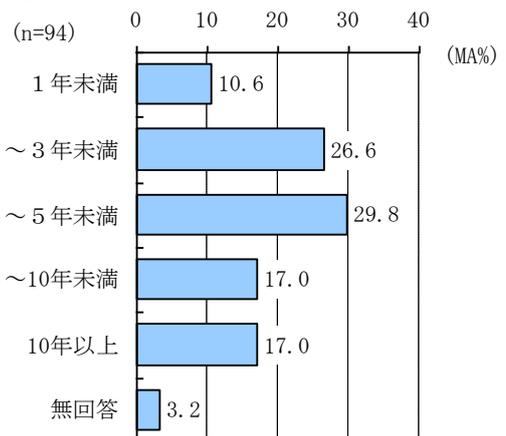
雇用した潜在保育士の実務経験の状況は、「保育士経験者」が83.9%で最も多く、次いで「子育て経験者」が46.4%、「保育士未経験者」が24.1%となっている。(図Ⅲ5-6)

「保育士経験者」の実務経験年数は、「3～5年未満」が29.8%で最も多く、次いで「1～3年未満」が26.6%となっている。(図Ⅲ5-7)

【図Ⅲ5-6 雇用した潜在保育士の経歴】



【図Ⅲ5-7 保育士の実務経験年数】



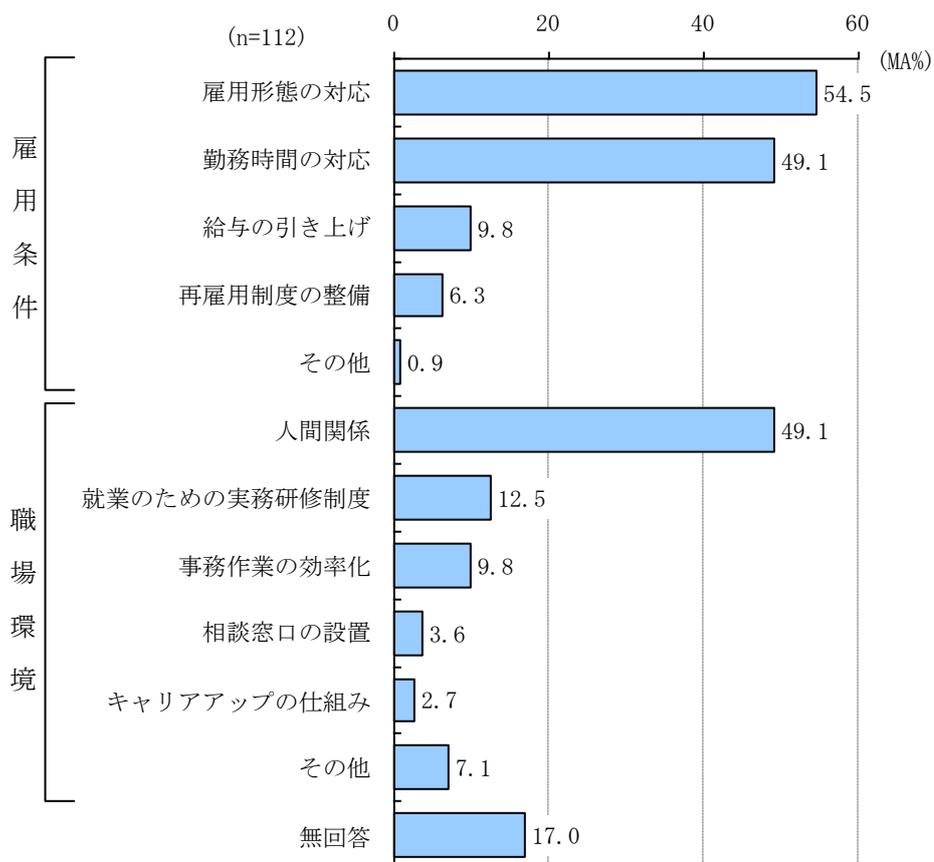
⑦潜在保育士の雇用に工夫したこと

問13-6 潜在保育士の雇用の際、工夫したことはありますか。(○はあてはまるものすべて)

潜在保育士の雇用に工夫したことは、雇用条件では、「雇用形態の対応」が54.5%で最も多く、次いで「勤務時間の対応」が49.1%となっている。

職場環境では、「人間関係」が49.1%で最も多く、次いで「就業のための実務研修制度」が12.5%となっている。(図Ⅲ5-8①)

【図Ⅲ5-8① 潜在保育士の雇用に工夫したこと】

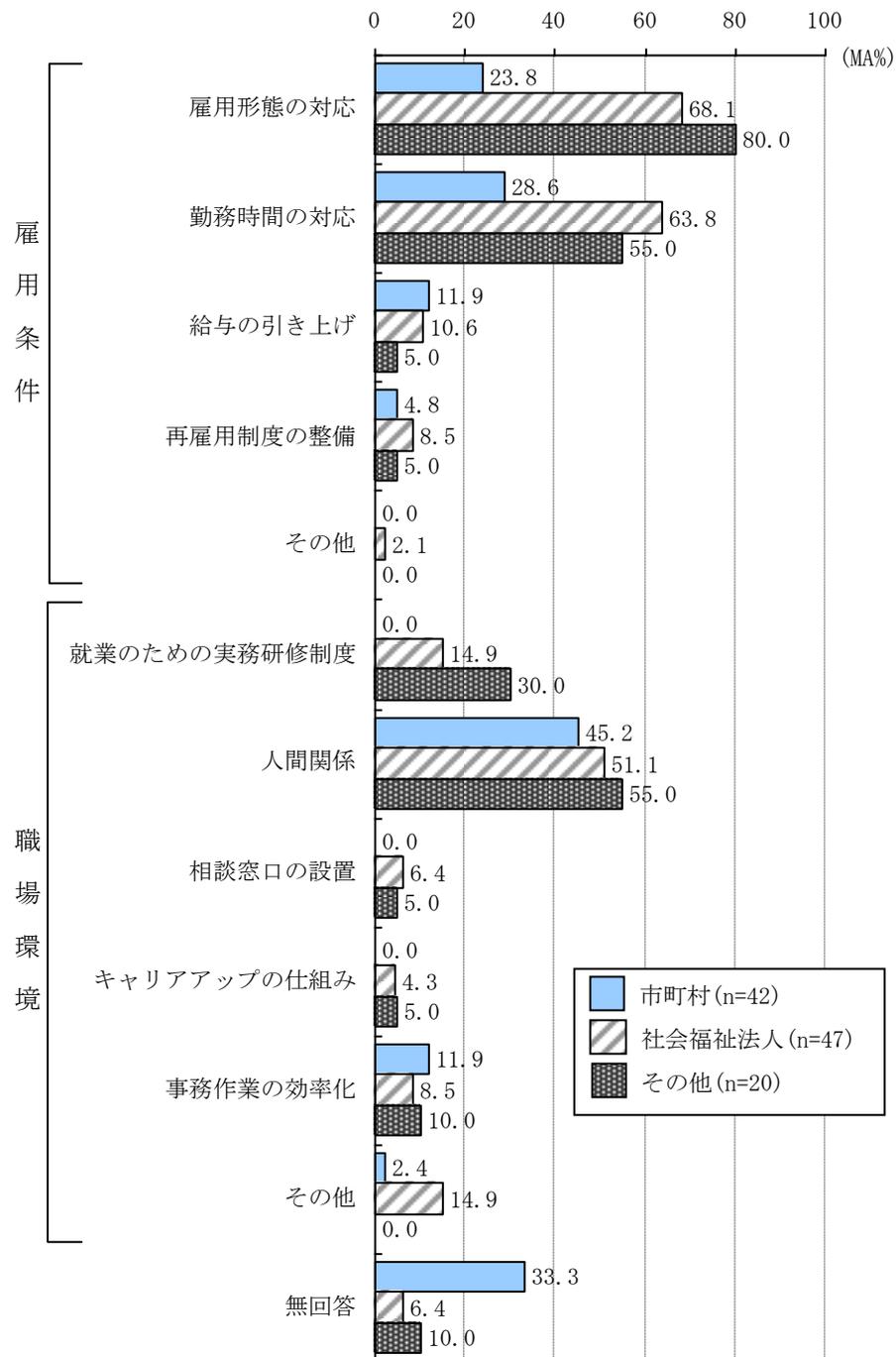


【運営主体別】

雇用条件で工夫したことは、「雇用形態の対応」「勤務時間の対応」について社会福祉法人での割合が高くなっている。

職場環境では、市町村も社会福祉法人も「人間関係」が多く、社会福祉法人のほうが5.9ポイント高い。(図Ⅲ5-8②)

【図Ⅲ5-8② 運営主体別 潜在保育士の雇用に工夫したこと】



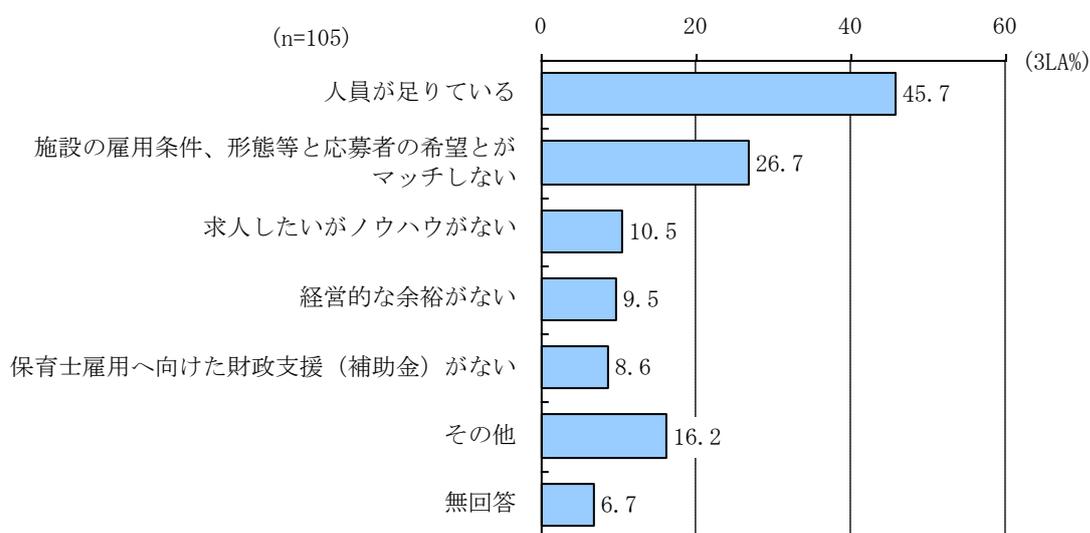
⑧潜在保育士を雇用しない（できない）要因

（ア）雇用しない理由

問14 問13で「2. いいえ」と回答した施設におうかがいします。
雇用しない（またはできない）理由は何ですか。（○は3つまで）

潜在保育士を雇用していないと回答した施設に、雇用しない（できない）理由についてたずねると、「人員が足りている」が45.7%で最も多い。これに次いで「施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない」が26.7%、「求人したいがノウハウがない」が10.5%となっている。（図Ⅲ5-9）

【図Ⅲ5-9 潜在保育士を雇用しない理由】



(イ) 潜在保育士を雇用するにあたって障害となっているもの

問14-1 問14で「3 施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない」と回答した施設におうかがいします。

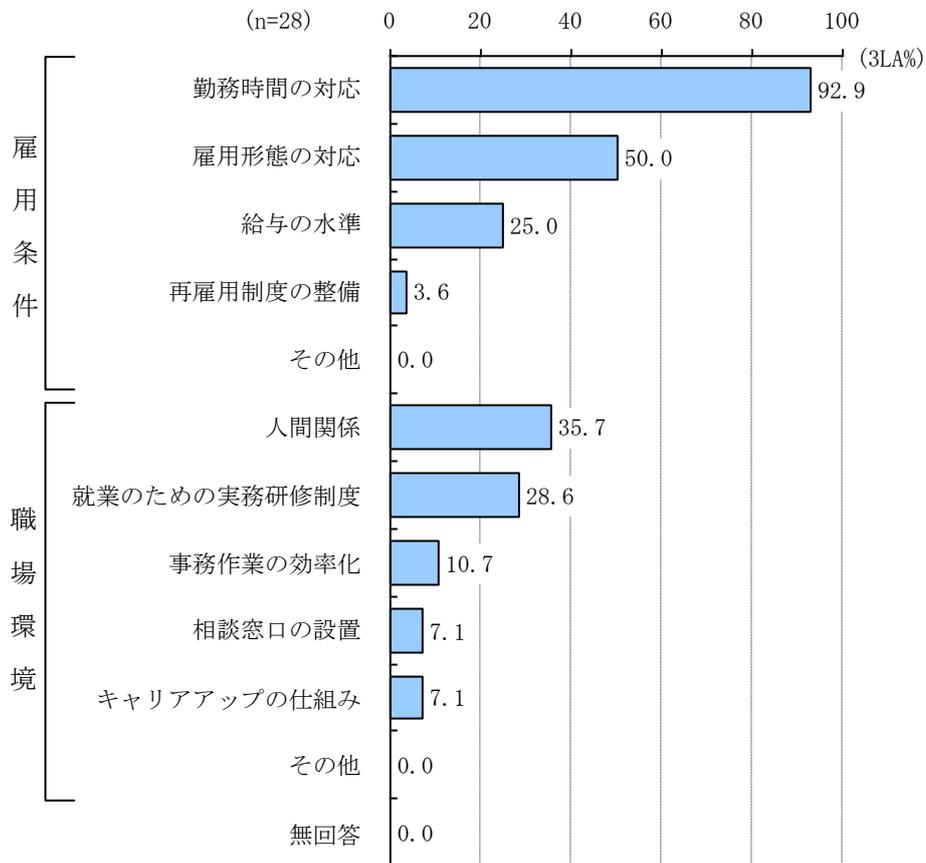
雇用するにあたって障害となっているものは何ですか。(〇は3つまで)

潜在保育士を雇用しない理由のうち、施設の雇用条件と応募者の希望とがマッチしないと回答した施設に、雇用するにあたって障害となるものについてたずねた。

雇用条件では「勤務時間の対応」が92.9%で最も多く、次いで「雇用形態の対応」が50.0%となっている。

職場環境では、「人間関係」が35.7%で最も多く、次いで「就業のための実務研修制度」が28.6%となっている。(図Ⅲ5-10)

【図Ⅲ5-10 潜在保育士を雇用するにあたって障害となっているもの】



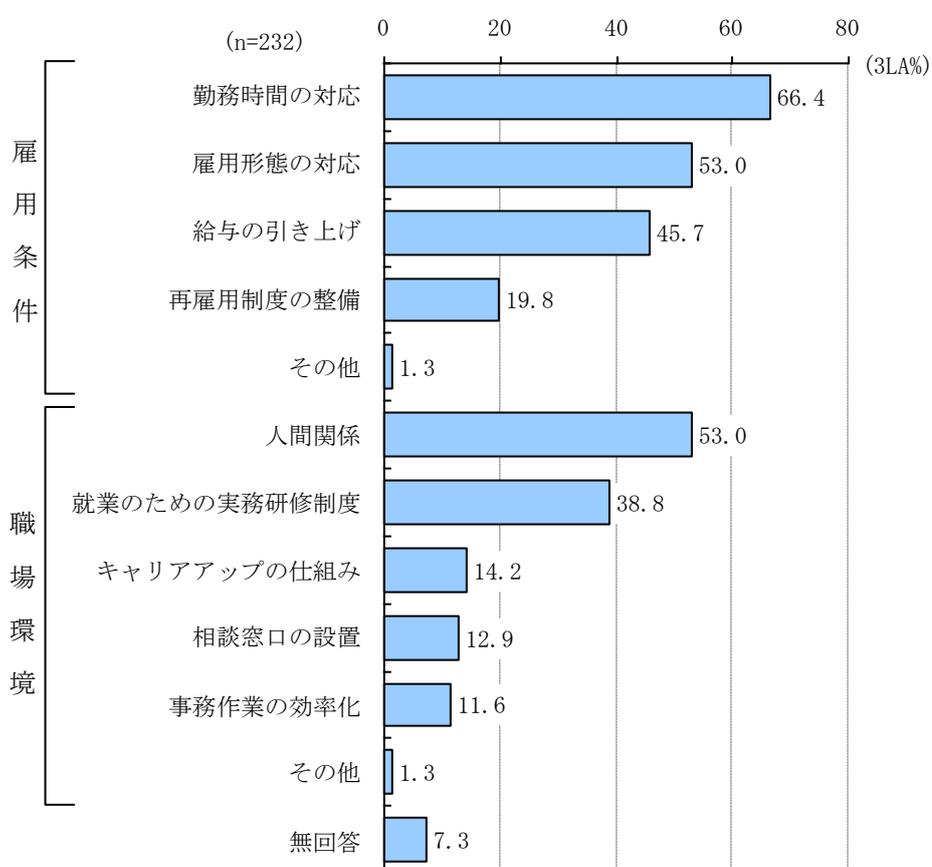
(2) 潜在保育士の雇用にあたって効果があると思われる取組

問15 今後、潜在保育士を雇用するにあたって、効果があると思われる取組についてお答えください。(〇は3つまで)

潜在保育士の雇用に効果があると思われる取組は、雇用条件では「勤務時間の対応」が66.4%で最も多く、次いで「雇用形態の対応」が53.0%、「給与の引き上げ」が45.7%となっている。

職場環境では、「人間関係」が53.0%で最も多く、次いで「就業のための実務研修制度」が38.8%となっている。(図Ⅲ5-11①)

【図Ⅲ5-11① 潜在保育士の雇用にあたって効果があると思われる取組】

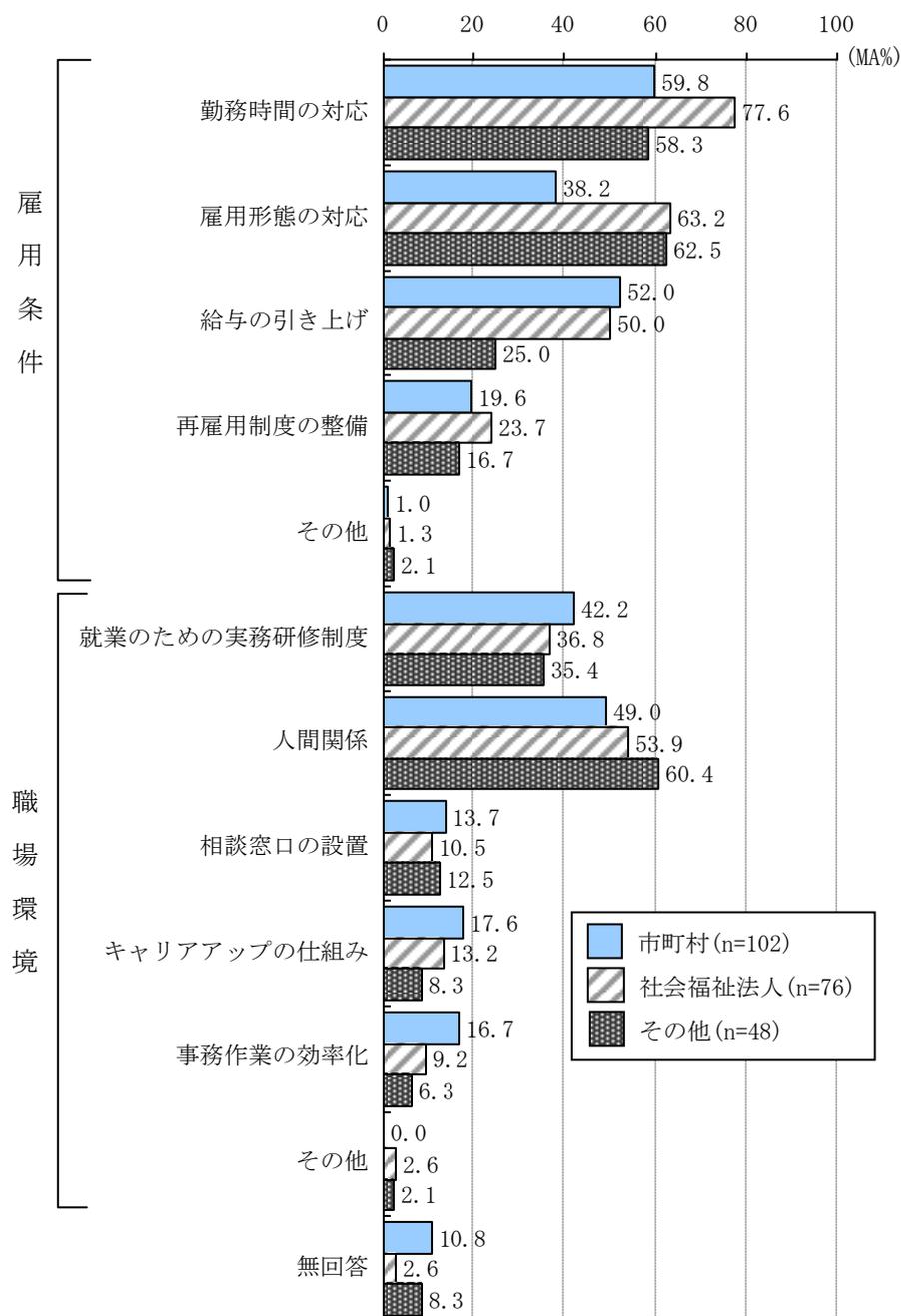


【運営主体別】

雇用条件では、市町村も社会福祉法人も「勤務時間の対応」が多く、市町村に比べ社会福祉法人の割合のほうが17.8ポイント高い。また「雇用形態の対応」についても社会福祉法人のほうが市町村に比べ25.0ポイント高く、これらへの対応が効果的と考えられている。

職場環境では、市町村・社会福祉法人とも「人間関係」が最も多く、市町村に比べ社会福祉法人の割合のほうが高い。これに次いで「就業のための実務研修制度」が多くなっているが、こちらのほうは市町村の割合のほうが高くなっている。(図Ⅲ5-11②)

【図Ⅲ5-11②】 運営主体別 潜在保育士の雇用にあたって効果があると思われる取組



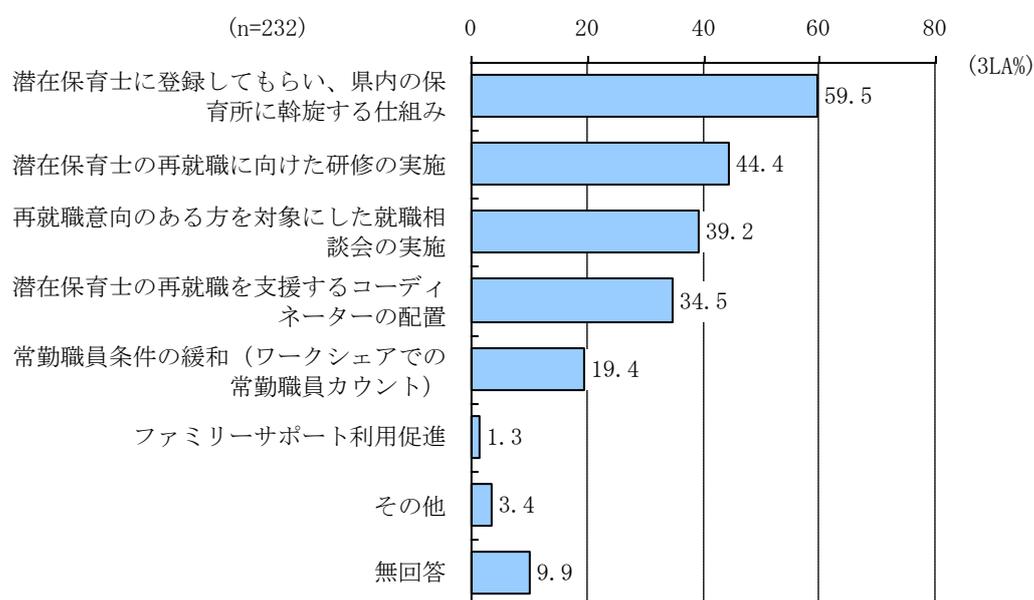
(3) 保育士雇用にあたっての支援

①今後の保育士雇用を求める支援

問16 今後、保育士の雇用に関する支援でどのようなものを求めますか。(〇は3つまで)

今後の保育士雇用を求める支援は、「潜在保育士に登録してもらい、県内の保育所に斡旋する仕組み」が59.5%で最も多い。これに次いで「潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」が44.4%で、以下、「再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施」が39.2%、「潜在保育士の再就職を支援するコーディネーターの配置」が34.5%となっている。(図Ⅲ5-12①)

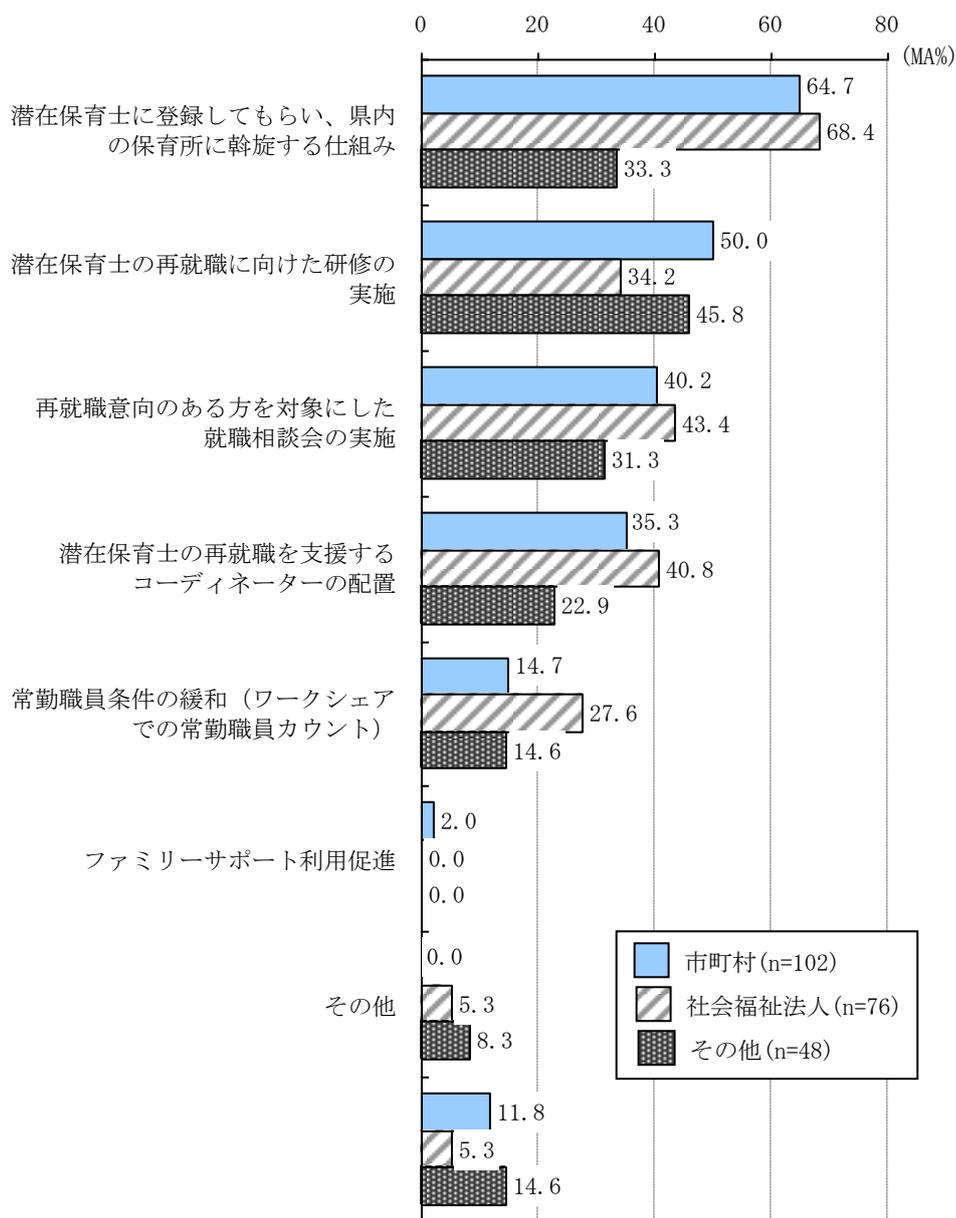
【図Ⅲ5-12① 今後の保育士雇用を求める支援】



【運営主体別】

今後、保育士雇用にあたって求める支援として、市町村も社会福祉法人も「潜在保育士に登録してもらい、県内の保育所に斡旋する仕組み」が最も多くなっている。「潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」は市町村で多く、社会福祉法人は、「再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施」(43.4%)や「潜在保育士の再就職を支援するコーディネーターの配置」(40.8%)が多い。(図Ⅲ5-12②)

【図Ⅲ5-12② 運営主体別 今後の保育士雇用に求める支援】



②潜在保育士を現場に受け入れる際に受けさせたい研修内容

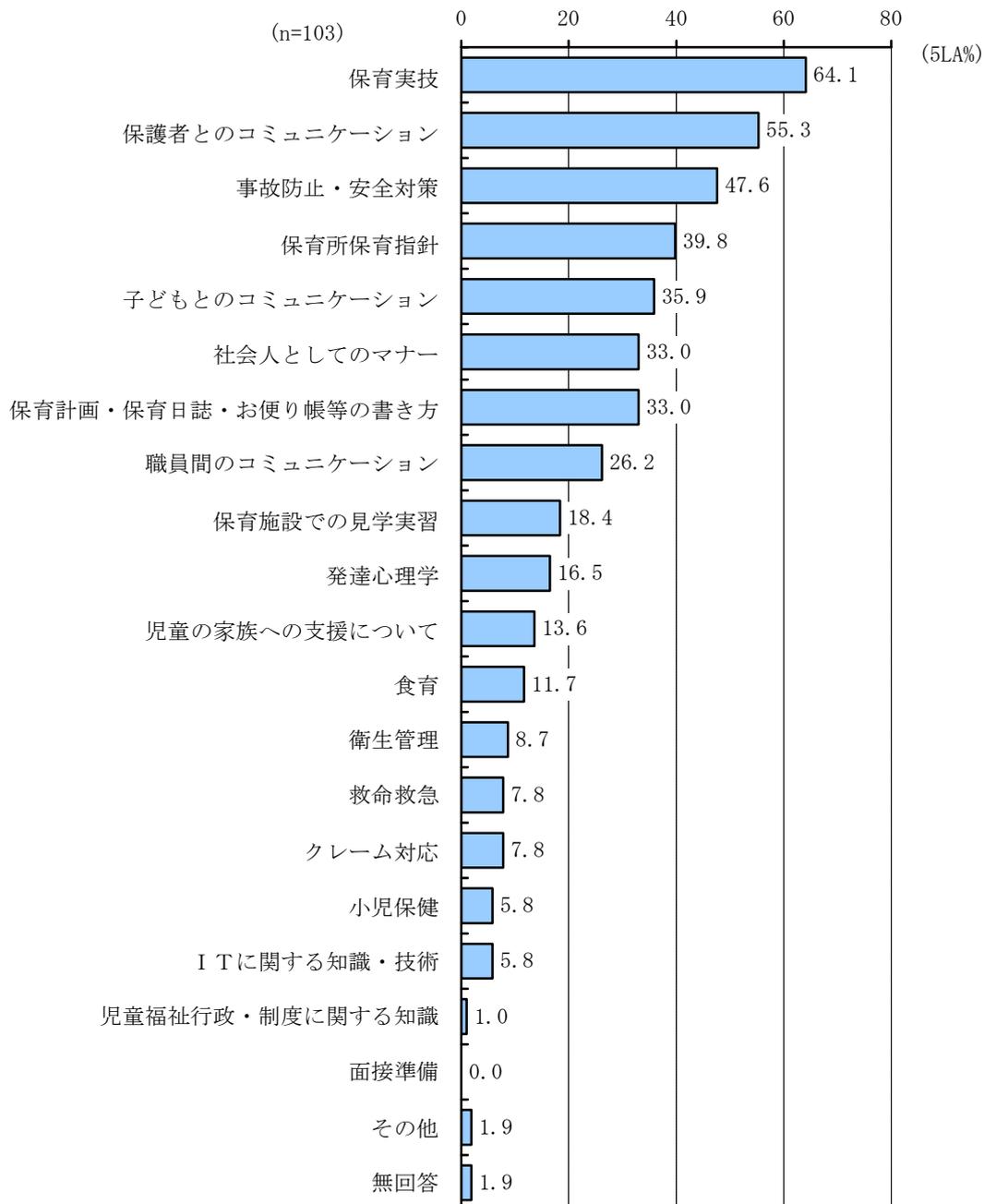
問16-1 問16で「1 潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」と回答した施設におうかがいします。

潜在保育士を現場に受け入れる際に、受けさせたい研修をお選びください。(〇は5つまで)

今後、保育士雇用を求める支援で、潜在保育士の再就職に向けた研修の実施と回答した施設に潜在保育士を現場に受け入れるために受けさせたい研修についてたずねた。

「保育実技」が64.1%で最も多く、次いで「保護者とのコミュニケーション」が55.3%で、以下、「事故防止・安全対策」が47.6%、「保育所保育指針」が39.8%、「子どもとのコミュニケーション」が35.9%となっている。(図Ⅲ5-13)

【図Ⅲ5-13 潜在保育士を現場に受け入れるために受けさせたい研修】



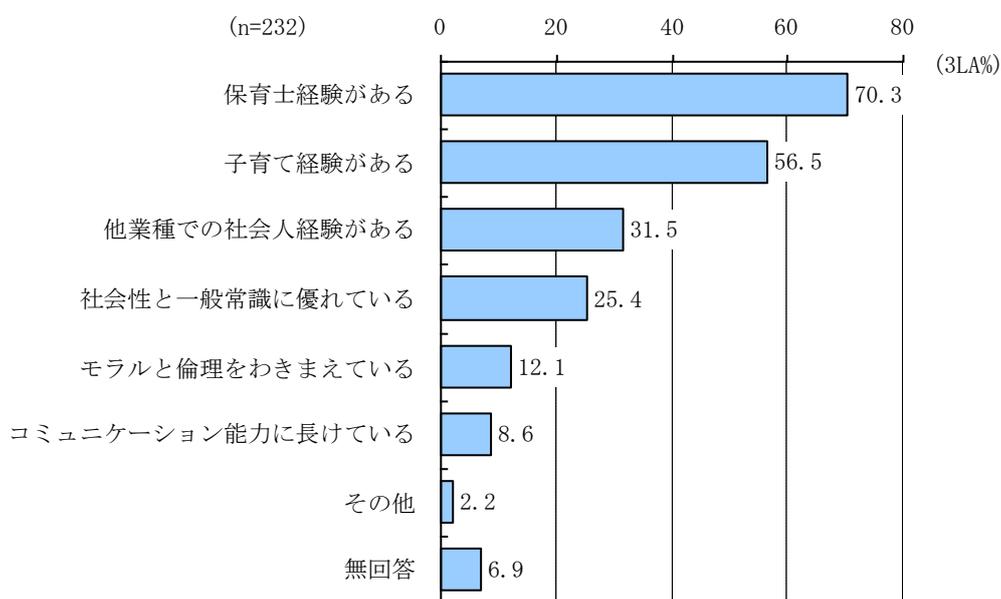
(4) 潜在保育士を雇用することによるメリット

問17 潜在保育士を雇用することによるメリットは何だと思いますか。(〇は3つまで)

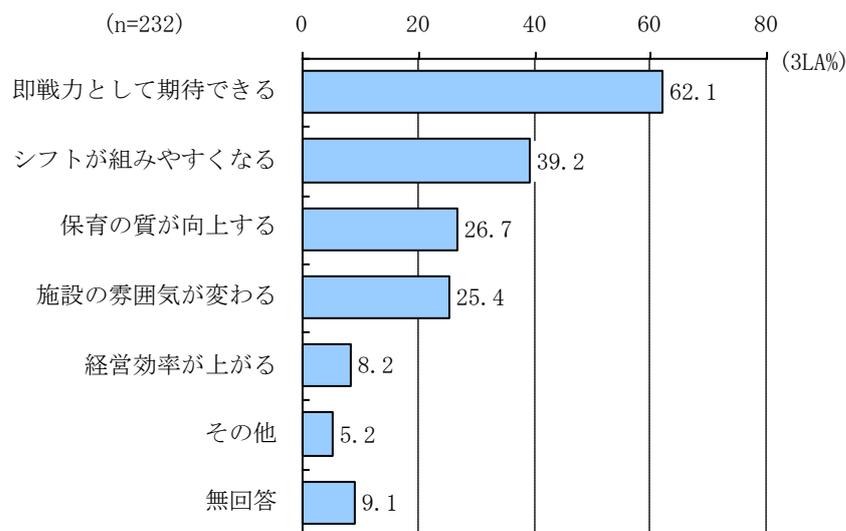
潜在保育士がもつ特性では、「保育士経験がある」が70.3%で最も多く、次いで「子育て経験がある」が56.5%、「他業種での社会人経験がある」が31.5%となっている。(図Ⅲ5-14)

施設に与える影響では、「即戦力として期待できる」が62.1%で最も多く、次いで「シフトが組みやすくなる」が39.2%、「保育の質が向上する」が26.7%となっている。(図Ⅲ5-15)

【図Ⅲ5-14 潜在保育士を雇用することによるメリット<①潜在保育士がもつ特性>】



【図Ⅲ5-15 潜在保育士を雇用することによるメリット<②施設に与える影響>】



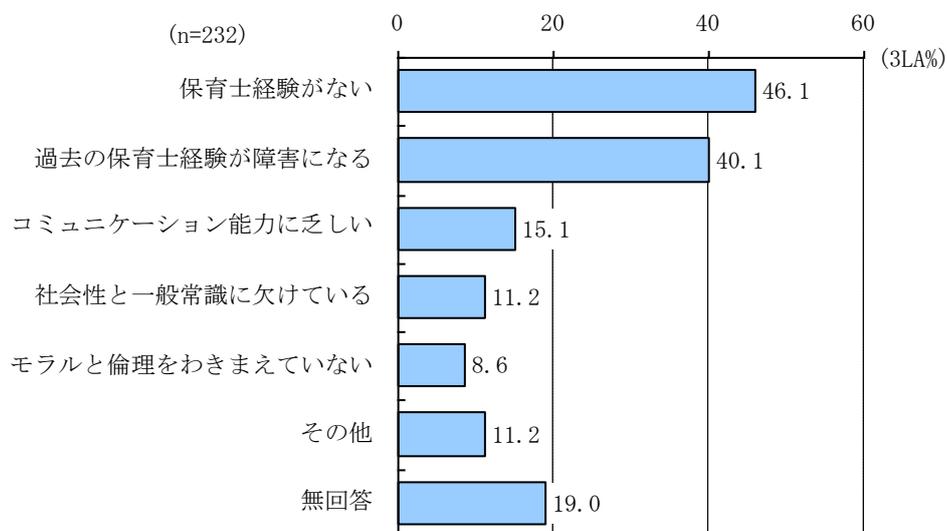
(5) 潜在保育士を雇用することによるデメリット

問18 潜在保育士を雇用することによるデメリットは何だと思いますか。(〇は3つまで)

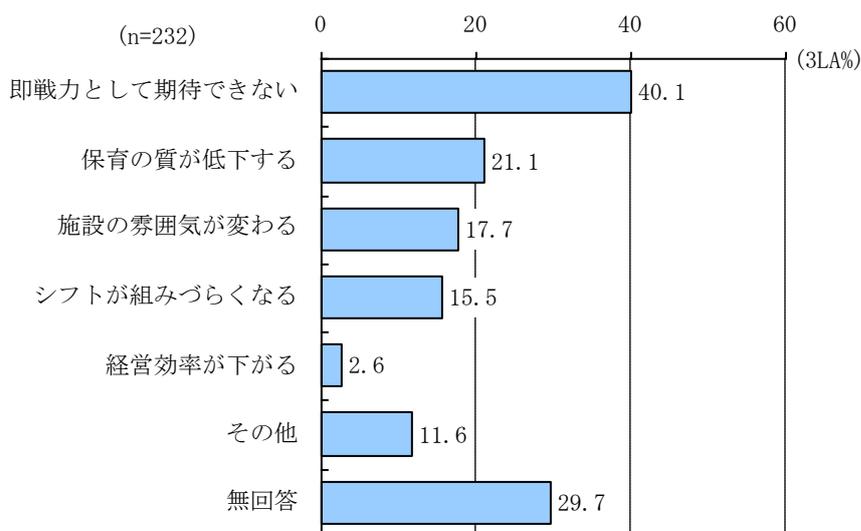
潜在保育士がもつ特性では、「保育士経験がない」が46.1%で最も多く、次いで「過去の保育士経験が障害になる」が40.1%、「コミュニケーション能力に乏しい」が15.1%となっている。(図Ⅲ5-16)

施設に与える影響では、「即戦力として期待できない」が40.1%で最も多く、次いで「保育の質が低下する」が21.1%、「施設の雰囲気が変わる」が17.7%となっている。(図Ⅲ5-17)

【図Ⅲ5-16 潜在保育士を雇用することによるデメリット<①潜在保育士がもつ特性>】



【図Ⅲ5-17 潜在保育士を雇用することによるデメリット<②施設に与える影響>】



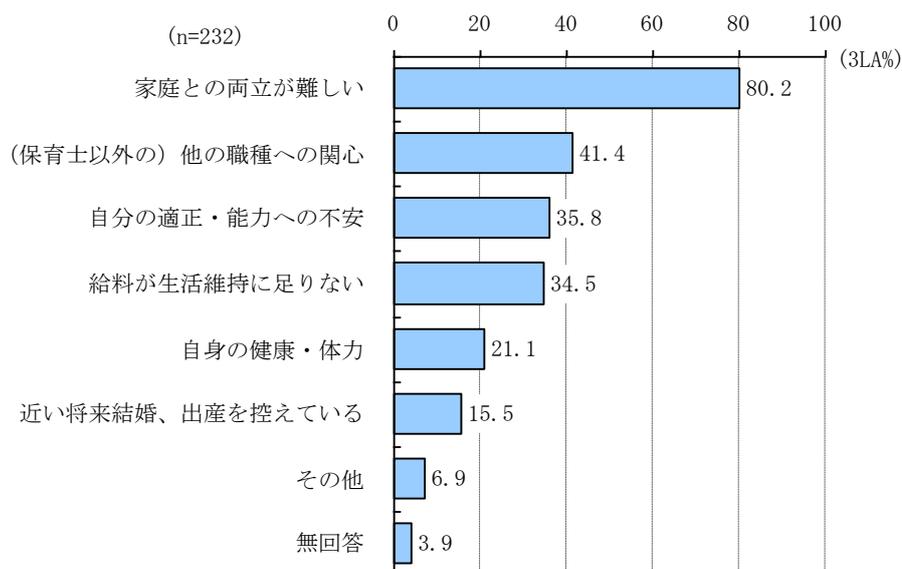
(6) 保育士資格取得者が保育士として就労しない理由

問19 保育士資格所有者が、保育士として就労しない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)

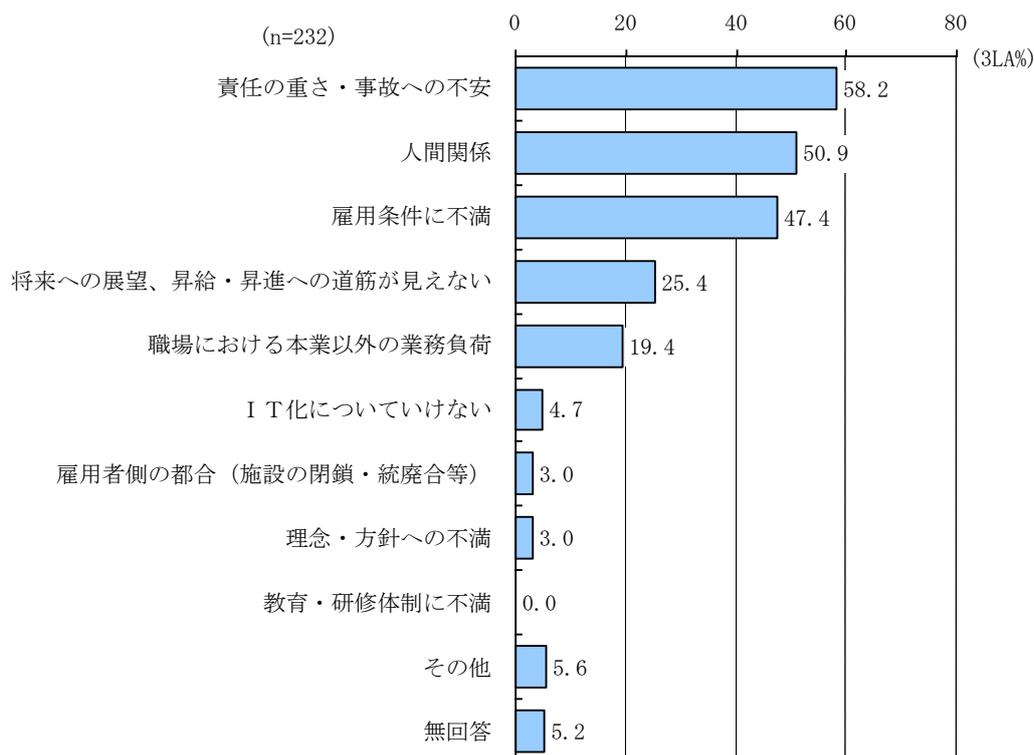
保育資格取得者が保育士として就労しない理由は、個人の状況では、「家庭との両立が難しい」が80.2%で最も多く、次いで「(保育士以外の)他の職種への関心」が41.4%、「自分の適正・能力への不安」が35.8%となっている。(図Ⅲ5-18)

職場環境では、「責任の重さ・事故への不安」が58.2%で最も多く、次いで「人間関係」が50.9%、「雇用条件に不満」が47.4%となっている。(図Ⅲ5-19)

【図Ⅲ5-18 保育士資格取得者が保育士として就労しない理由<①個人の状況>】



【図Ⅲ5-19 保育士資格取得者が保育士として就労しない理由<②職場環境>】



Ⅱ 奈良県指定保育士養成施設調査

Ⅱ 奈良県指定保育士養成施設調査

Ⅱ－１ 調査の概要

1. 調査目的

県内の保育士養成施設に通学する学生を対象に、保育士としての就職希望と、就職にあたっての阻害要因を把握することを目的に実施した。

2. 調査対象・回収結果

(1) 調査協力校

大阪樟蔭女子大学、畿央大学、帝塚山大学、奈良教育大学、奈良佐保短期大学、奈良文化女子短期大学、奈良保育学院、白鳳女子短期大学（五十音順）

(2) 調査対象・調査方法

施設用：上記協力校の就職支援を行っている窓口に調査票を配布し、記入後回収を行った。

学生用：上記協力校に通学する1年生～4年生に対し、各学校を通じ、アンケート調査票を配布し、自記入後、回収を行った。

(3) 回収結果

施設用：8校

学生用：回答者総数 1,287人

(内訳 1年生 468人 2年生 418人 3年生 218人 4年生 183人)

Ⅱ－２ 調査結果

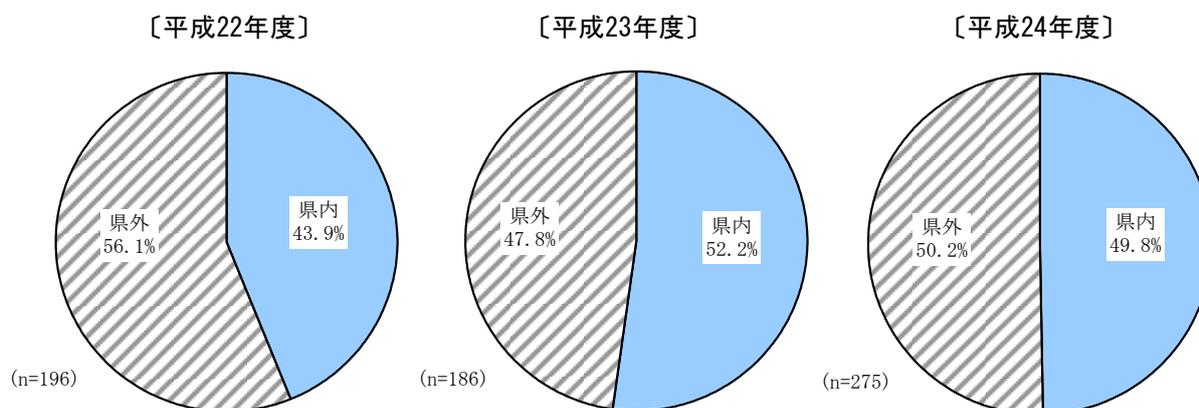
1 施設用調査

1. 認可保育所に就職した学生の状況

1 認可保育所に就職した学生の内訳（県内・県外）について人数をご記入ください。

認可保育所に就職した学生の状況については、平成24年度では「県内」が49.8%、「県外」が50.2%となっている。「県内」は平成22年度より5.9ポイント高いが、平成23年度より2.4ポイント低くなっている。（図Ⅱ1-1①）また、「県内」の認可保育所に就職した学生の人数は年々増加しており、平成24年度で137人となっている。（表Ⅱ1-1②）

【図Ⅱ1-1① 認可保育所に就職した学生の状況】



【表Ⅱ1-1② 認可保育所に就職した学生の状況】

年度	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外
人数（人）	196	86	110	186	97	89	275	137	138
構成比	100.0%	43.9%	56.1%	100.0%	52.2%	47.8%	100.0%	49.8%	50.2%

2. 実施している就職支援策

2 学生に対して実施している就職支援策について、あてはまるもの全て回答してください。

学生に対して実施している就職支援策については、「早い時期での個別のキャリアガイダンス」(7校)が最も多く、次いで「インターンシップ(学外実習)」(3校)となっている。また、その他には、“模擬試験”、“保育士を目指す3年生を対象とした学内講座を開催”があげられた。

【表Ⅱ1-2 実施している就職支援策】

項目	実施校
1 早い時期での個別のキャリアガイダンス	7校/8校中
2 現場見学会	実施なし
3 インターンシップ(学外実習)	3校/8校中
4 就職フェア	実施なし
5 その他	2校/8校中

3. 卒業生に対する就職支援策

卒業生に対する就職支援策については、以下の意見があげられた。

【表Ⅱ1-2 実施している就職支援策】

支援策の内容
・未就職者や離職者への求人斡旋
・問合せに対する個別の求人提供
・模擬試験
・採用活動中の保育所の照会
・相談に対する個別指導、就職先紹介
・進路先訪問による追指導

4. 自由意見

4 保育士としての就労や労働環境について、県に期待する施策も含め、ご意見・ご提案などご自由にご記入ください。

主な意見は、次のとおりである。

支援策の内容
・公立保育所はまだしも、民間保育所の場合、もう少し給与面での改善が図れないものかと思えます。男子学生が将来家庭を担うとなるとせつかく保育士資格をとっても民間企業就職を考えざるを得ない状況があります。
・大阪では、保育所・園の方と保育士養成校との懇談会があり、意見交換が行われています。奈良でも、保育所・園の方との意見交換会があれば、双方にとって、より良い関係が築けるのではないかと思う。
・県内保育所の合同就職説明会の実施、潜在保育士の再教育等、養成施設と連携した就職支援を望んでいる。また、サービス残業等、環境の悪さが人手不足の一端であると思う。
・保育士の求人を集約し、求職者が閲覧できるような人材バンク制度があればいいと思う。
・他府県では私立保育園の団体が合同説明会を開催しており、多くの学生が参加している、奈良県内の私立保育園ではそのような機会が無いので、就職説明会を施策として取り組んでほしい。県内の保育園の採用情報を集約し、HP上で情報を公開してほしい。

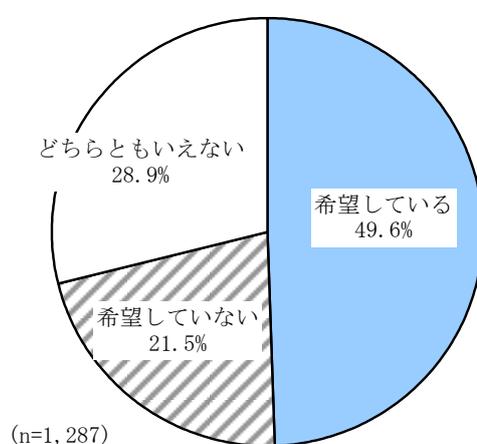
2 学生用調査

1. 保育士としての就職希望

◆ あなたは保育士としての就職を希望していますか。

調査時点で保育士として就職を希望する学生は、回答者全体の49.6%に対し、希望していないが21.5%で、希望割合のほうが高い。一方、「どちらともいえない」が28.9%で態度を保留とする学生も少なくない。(図Ⅱ2-1①)

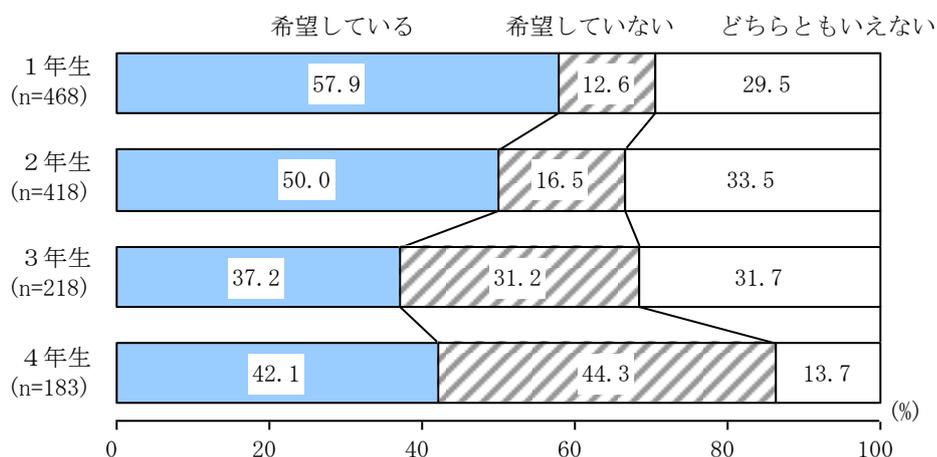
【図Ⅱ2-1① 保育士としての就職希望】



【学年別】

学年別でみると、保育士としての就職希望の割合は1年生が57.9%で最も高く、希望していない割合は12.6%と低くなっている。就職希望の割合は学年が上がるるとともに低下し、就職を目の前に控えた4年生になると、その割合は上昇しているものの、希望していない割合(44.3%)のほうが高くなっている。また、1年生の時点で「どちらともいえない」が29.5%で、2・3年生においても3人に1人を占めている。(図Ⅱ2-1②)

【図Ⅱ2-1② 学年別 保育士としての就職希望】



2. 保育士としての就職を希望しない理由と今後の希望

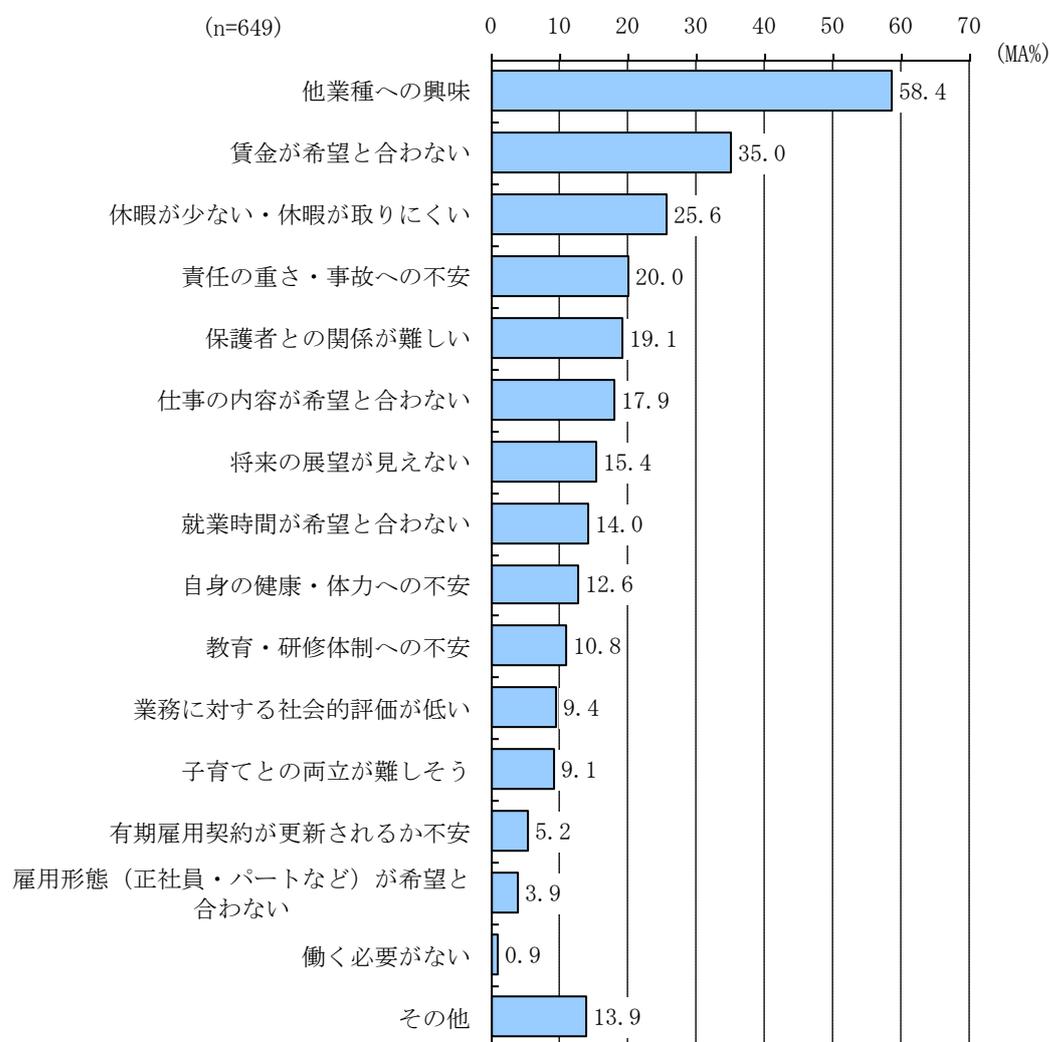
(1) 保育士としての就職を希望しない理由

◆保育士としての就職を「希望していない」または「どちらともいえない」と回答された方にお伺いします。

(1) その理由は何ですか。

保育士として就職を希望していない、もしくはどちらともえないと回答した学生に、その理由をたずねた。「他業種への興味」が58.4%で最も多い。これに次いで「賃金が希望と合わない」(35.0%)で、以下「休暇が少ない・休暇が取りにくい」(25.6%)、「責任の重さ・事故への不安」(20.0%)、「保護者との関係が難しい」(19.1%)、「仕事の内容が希望と合わない」(17.9%)などが続いている。(図Ⅱ2-2①)

【図Ⅱ2-2① 保育士としての就職を希望しない理由】

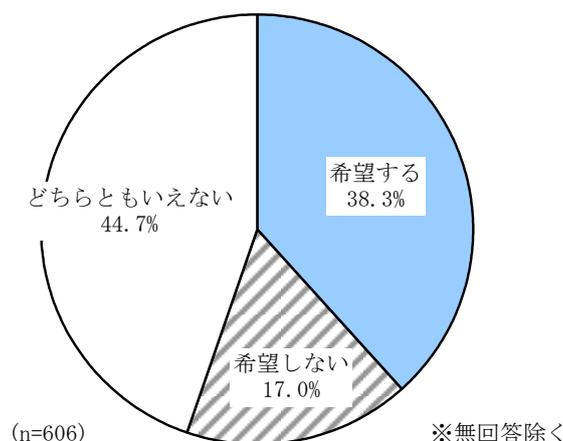


(2) 就職を阻害している要因が解消された場合の就職意向

◆ (1) (就職を希望しない理由) が解消された場合には保育士としての就職を希望しますか。

保育士として就職を希望していない、もしくはどちらともえない理由が解消された場合、保育士として就職を希望する学生が38.3%に対し、希望しない学生は17.0%となっている。しかし「どちらともいえない」が44.7%を占め、就職を阻害する要因が解消されたとしても就職するかどうかを決めかねている学生が多くなっている。(図Ⅱ2-2②)

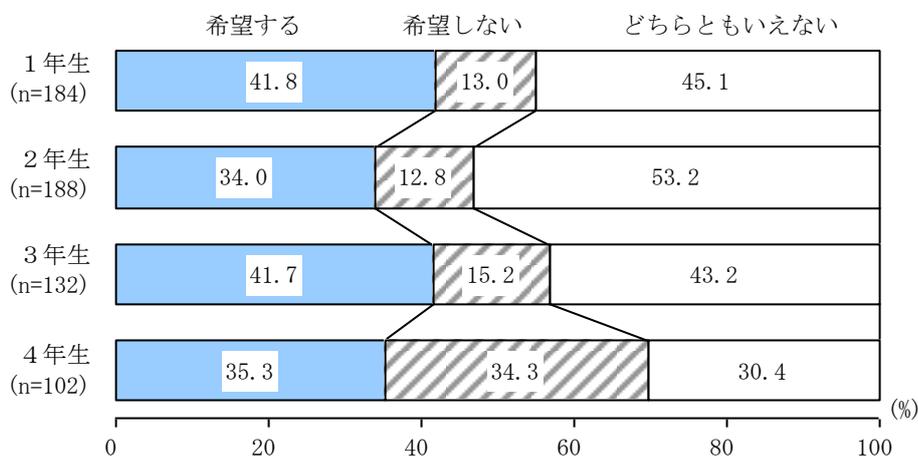
【図Ⅱ2-2② 就職を阻害している要因が解消された場合の就職意向】



【学年別】

学年別でみると、保育士としての就職を阻害する要因が解消された場合、1年生から3年生までは就職を希望する割合のほうが高くなっているが、4年生では希望する割合が35.3%となっているものの、希望していない割合も34.3%とほぼ同程度となっており意向が二分している。また、「どちらともいえない」の割合は4年生で大きく低下しているものの、1年生から3年生の各年代では5割前後を占めている。(図Ⅱ2-2③)

【図Ⅱ2-2③ 学年別 就職を阻害している要因が解消された場合の就職意向】



3. 保育士の就労や労働環境についての意見等

◆ 保育士の就労や労働環境についてご意見・ご提案などご自由にご記入ください。

主な意見は、次のとおりである。

・保育士の採用試験の時期をもっと早めて欲しい。（8月以前）
・ボランティアに行くと講師が多いと感じた。
・業務や精神的に負担に見合った賃金にすべきだと思います。
・仕事が時間も精神的にも技術的にも大変なのに、給料がそれに伴っていないと思います。
・保育士の数が少ないという割りに、就職試験などが厳しいのでどうなのかなと思ったりします。
・保育所、保育士不足のこの世の中で、現在の形式では働きにくい。働きやすい環境を作ってほしい。
・責任ある仕事なので、もっとふるいの目を細かくしても良いのではないのでしょうか？
・就業時間に対して賃金が低すぎると感じます。（他多数）
・休みはしっかりと欲しい。
・待機児童が増えていると良く聞くので、待機児童専用の園をもっと増やすと親としては助かるのではないかと思う。
・採用を増やして交代制でできるようにしたらよいと思います。
・男性保育士が働ける環境がほしい。
・私立の保育所では若いうちにしか雇ってもらえない。続く職にならない。
・労働時間が不規則と聞いているので、改善部分があるのではないかと思う。また、どのような改善がなされているのか知りたい。
・延長保育の仕事の深刻化、待機児童の増加に伴う定員数の拡大などが解決されること。
・障害を抱えている子に対する対応、環境。
・賃金と社会的地位の向上は重要だと思う。

Ⅲ 保育施設ヒアリング調査

Ⅲ 保育施設ヒアリング調査

Ⅲ－１ ヒアリング調査の概要

1. 調査目的

保育士職員の人材確保から雇用後の職場定着、研修・キャリアアップ等に関する県内保育施設での取組み状況を調査し、今後の保育士の確保・育成に必要な環境や支援方策などを検討するための基礎資料を把握することを目的に実施した。

2. 調査対象施設

ヒアリング調査の対象施設は、保育施設用調査票に回答した施設の中から、現任保育士の勤務年数や潜在保育士の雇用実績、職場定着への取組みの実施状況等を踏まえ、地域性をはじめ、運営主体や施設規模等を考慮し選定を行った。

ヒアリング対象施設は下記のとおりである。

所在地	名称	種別	設置主体	運営主体
田原本町	こどもの森阪手保育園	認可保育所	社会福祉法人	社会福祉法人
奈良市	極楽坊保育園	認可保育所	社会福祉法人	社会福祉法人
生駒市	キンダーキッズインターナショナルスクール奈良登美ヶ丘校	認可外保育施設	株式会社	株式会社
天理市	やまだこども園	幼保連携型認定こども園	市町村	市町村
大和郡山市	治道認定こども園	幼保連携型認定こども園	市町村	市町村
香芝市	ハルナ保育園	認可保育所	社会福祉法人	社会福祉法人
御所市	秋津鴻池病院	認可外保育施設(院内保育施設)	医療法人	医療法人
十津川村	十津川村役場	認可外保育施設(へき地保育所)	市町村	市町村
五條市	ちべん保育園	認可保育所	社会福祉法人	社会福祉法人

(訪問順)

3. ヒアリング実施時期

平成25年12月から平成26年1月

Ⅲ－２ ヒアリング調査結果

各対象施設に対するヒアリングにより聴取した意見等の要旨は次に示すとおりである。

①こどもの森阪手保育園

所在市町村	田原本町
施設種別	認可保育所（民設民営）
設置主体	社会福祉法人
運営主体	社会福祉法人
設置年月日	平成15年4月
定員	100名

■施設の特長

- ・保育所も「園児を保育するところ」という考えだけでなく一般企業と同様に経営的、多角的に捉え、魅力的な空間、安全で清潔な環境、施設などハード面へのこだわりは必須であるとともに、利用者のニーズに応じた質の高い保育サービスの提供に努めている。
- ・利用者に対し、日頃のきめ細かい対応が保育園の評判となっている。
- ・職員一人ひとりが、仕事にやりがいを感じ、公私ともに充実し成長できるようにサポートを行い、人間形成のできる職場づくりに努めている。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・新卒者・中途採用者に関わらず、人間性を重視し採用している。
- ・新卒採用は、求人依頼の際には求人担当者が養成校を訪問し、近況報告や園状況などを身近な情報を具体的に提供している。
- ・法人として説明会を実施し、実技体験や映像鑑賞、卒業生とのグループ茶話会などにおいて「この保育園で働く楽しさ」を知ってもらう。
- ・中途採用求人は、実際にハローワークに行かず、ネットによる検索が多いようであり反響が感じられない。
- ・求人情報誌は利用していない。（給与の価格競争も懸念される）当園では卒園児の保護者からの問い合わせにより採用する場合も多い。
- ・現在、新卒・中途採用とも順調に応募があり、保育士は余剰人員を配置できるよう充足しているが、将来的には保育士不足、養成校の学生減少を考慮すると早い段階から求人活動に取り組む必要があると思われる。そのため公的に人材バンク等の設置が必要であり、応募者、登録者が気軽に利用し、保育園とのミスマッチを防げるような機能的な環境づくりが早急に必要であると考えます。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・園内研修として、保育実技のみではなく、人間（ひと）としての魅力を向上できるような内容を実施している。また、法人においてJALやANAのプロによるマナー接客研修を実施している。
- ・採用5年後、10年後のキャリアプランを考えられるように、主任・副主任以外のポスト等を増やし役割を位置づけすることにより自分自身の価値観・仕事観を明確にするしくみを検討している。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・採用前は事前に実務や実技等をアルバイトとして研修している。
- ・保育日誌等の事務的な負担を軽減するため、パソコン等を利用するなど簡略化を進めている。
- ・子育て中の職員に対し、子どもの急病時の急な休みに対し、他の保育士が職務をカバーできるようにしくみを取っている。また、参観等の学校行事においても積極的に出席できるように調整している。

■国・県への要望・提案など

- ・国の制度への要望として扶養控除の上限を引き上げてほしい。パート職員として常勤勤務を希望するが、少額でも控除が外れた場合であれば手取り収入額が減少することが非常に懸念される。
- ・職員の処遇面等においても公民の格差をなくしてほしい。

②極楽坊保育園

所在市町村	奈良市
施設種別	認可保育所（民設民営）
設置主体	社会福祉法人
運営主体	社会福祉法人
設置年月日	昭和24年9月
定員	300名

■施設の特長

- ・大規模園のため、秋以降の児童の受け入れも多い。
- ・0歳児は3年以上勤務の保育士が担当しすることになっている。
- ・障害児の受け入れは、同法人の他の施設と連携している。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・実習に来ていて、採用の募集に応募する学生は多い。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・最近の新卒者は学校で習ってきたことと現実とのギャップを感じるのか、打たれ弱いと感じる。
- ・夏に自分でテーマを決めての研修など研修参加を促進している。
- ・法人としてキャリアアップに取り組んでおり、人事考課にも反映している。
- ・給与、賞与への反映が今後の課題である。
- ・各保育士がそれぞれに目標を立て、その後の達成状況を各チーフがヒアリングを行っている。
- ・今後求められるスキルとしてコミュニケーションが円滑にとれることが一番大事と感じる。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・複数の保育士でクラス担任をもつことにより、個々の負担を軽減している。
- ・乳児棟と幼児棟が分かれており、自分の子どもを預けても顔を合わせることがない。そのため、子どもを預けやすく、小さい子どもがいても保育士の仕事を続けやすいのではないかと。
- ・以前と比べ書類を書く量が増えており、事務処理が大変である。
- ・一部コピーを可としたり、書式を工夫し、箇条書きでできるようにしている。
- ・パソコンの利用の促進を行い、事務処理の負担を軽減している。

■国・県への要望・提案など

- ・新制度に向けた要望として、給料面の改善、保育以外に求められる書類の低減、配置基準の改善等がある。

③キンダーキッズインターナショナルスクール奈良登美ヶ丘校

所在市町村	生駒市
施設種別	認可外保育施設（一般）
設置主体	株式会社
運営主体	株式会社
設置年月日	平成19年4月
定員	95名

■施設の特長

- ・英語教育は付加価値であり保護者の希望も多い。
- ・学童向けのクラスもあり、卒園生にも対応している。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・英語に堪能な保育士資格所有者は大変少なく、確保に苦労している。
- ・今後は幼児教育を専門で学んだネイティブも確保していきたい。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・研修は、すべてのスタッフが受けることができる基本的な研修と、各学校のヘッドティーチャーと言われるリーダー対象にした研修を実施している。外部研修も受講する場合があるが、クラスの先生が日中受けることは難しいので、エリアマネージャーが受けて、各先生にフィードバックしている。
- ・日本人スタッフに対しては、毎週土曜日に研修を行う体制を作っている。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・現任の職員の定着を図るため「退職者ゼロ」作戦を実施している。
- ・今年度は退職者はゼロである。
- ・保育経験のあるエリアマネージャーを配置し、各施設を巡回し相談できる体制をとっている。
- ・保育施設では、週1回職員のミーティングを実施している。
- ・休みの取りやすいを整備している。
- ・職員の子どもを預かることで、職場復帰しやすい。
- ・外国人スタッフと日本人スタッフの衝突を避けるため、外国人側にも主任を置く等の配慮をしている。

④やまだこども園

所在市町村	天理市
施設種別	幼保連携型認定こども園
設置主体	市町村
運営主体	市町村
設置年月日	平成24年4月
定員	75名

■施設の特長

- ・過疎化が進行しており、保育所が隣接区の幼稚園を統廃合する形で認定こども園化した。統廃合にあたり、隣接区に幼稚園がなくなり、そのことに対する地域の住民の反対が強かった。
- ・当初は保護者も子どもも幼稚園組と保育園組に分かれていたが、1年でだいぶ溶け込んだ
- ・園も自区だけでなく、隣接区の地域の行事にも参加し、地域とのつながりを大事にしている。
- ・現在は遠隔地からは一人だけ通園している園児がいるが、定員の余裕もあるので、広域の利用者が増えるとよい。
- ・園児の名簿も幼稚園、保育所で別々に作成する必要がある。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・求人募集・採用・配属決定は、市が所管。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・研修や会議については、勤務時間内で時間の確保がしにくい状況。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・施設種別は幼稚園、保育所両方の位置づけのため役所への提出書類は、それぞれの書類が必要になり作成等が大変である。

■国・県への要望・提案など

- ・保育士と幼稚園教諭で給料表が異なっているのは、合わせて欲しい。

⑤治道認定こども園

所在市町村	大和郡山市
施設種別	幼保連携型認定こども園
設置主体	市町村
運営主体	市町村
設置年月日	平成23年4月
定員	24名

■施設の特長

- ・当園では、0～2歳を保育園部、3～5歳を幼稚園部として運営している。
- ・幼稚園部の保育に欠ける子は預かり保育で対応している。
- ・預かり保育を実施している公立幼稚園は1か所なので遠隔地からも利用がある。
- ・認定こども園になる前と比べると、利用者が大幅に増え、地域の活性化につながった。
- ・子どもの様子については、3歳にあがったとき一つの壁がくる。今までみんな一緒だったのに、3歳になると、お昼で帰る子の存在を知ることとなり、そのうち自分はイチゴ組（長時間保育）なんだと自覚していく。
- ・隣接小学校は特認校であり、他校区であっても入学できるので、当園からのつながりを活かして入学後も安定した生活ができる。
- ・保育所の一部や学童も隣接小学校の空き教室を使用しており、小学校との結びつきが強い。昨年までは運動会も隣接小学校と一緒にやっていた。
- ・公民館も隣にあり、いろんな行事に相互に参加し、地域とのつながりが大変強い園である。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・求人募集・採用・配属決定は、市が所管。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・保育士が希望する研修は、「保育技術」、「特別支援」、「保護者対応」が多い。
- ・若い保育士には特技を活かし保育に携わって欲しいと願っている。
- ・中堅以上は、特別支援や新制度の動向、メンタル相談など自分以外のことにも関心を広げてほしいと思っている。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・認定こども園化にあたり、統一できる書式は統一している。
- ・職員の連絡伝達を密にするとともに、朝は職員ミーティングを実施。
- ・保育の教育的な側面に焦点を当てることで保育士の社会的評価を高めることにつながるのでは無いかと感じる。

⑥ハルナ保育園

所在市町村	香芝市
施設種別	認可保育所（民設民営）
設置主体	社会福祉法人
運営主体	社会福祉法人
設置年月日	昭和51年4月
定員	139名

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・保育士の雇用は、以前は県内の養成校だけで足りたが、最近は近畿府県全ての養成校に声をかける。
- ・新卒はどうしてもやめてしまうので、あらかじめ1～2名多めにとる。
- ・運動会や発表会の練習や準備段階で実習に来た場合、成果が目に見えるので感動を共有できる。
- ・年間5～6回の採用試験を行うが、その都度園で説明会をする。実際の現場を見てもらい質問事項に答える。
- ・幼稚園教諭もあわせて採用しているが、保育士を希望する人は小さい子が好きという理由が大半。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・携帯電話やSNSの普及により言葉遣いに問題のある人が多い（敬語が使えない）。
- ・最初は連絡帳の文面なども問題がないかチェックしている。
- ・年度当初に1年間の目標をたて、年度末に面談を行っている。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・クラス担任を負担と感じて辞めた人もいる。
- ・小さいときから保育士になることが夢だった人はやめないように思う。
- ・とりあえず資格をとって保育士になってみたという人は、他のことに興味がいき、やめることが多い。
- ・保育士の職場定着のために、休暇をとりやすい体制をとっている。
- ・残業は、園長や主任が業務内容を把握し、できるだけしない、させないよう取り組んでいる。
- ・書類はパソコンで簡素化するようにしている。
- ・保育士に対する社会的評価に関しては、昔よりかなり理解は進んだのではないかと感じる。

⑦秋津鴻池病院

所在市町村	御所市
施設種別	認可外保育施設（院内保育施設）
設置主体	医療法人
運営主体	医療法人
設置年月日	昭和50年4月
定員	55名

■施設の特長

- ・もともと病院のスタートが精神科であり、職員の定着が病院の課題であった。
- ・認可外保育施設のため、年齢別の保育になっていないが、それもいいところもある。
- ・年齢別保育は、子どものためにはもちろんよいことがだが、全体を考えるとそこまでできない。
- ・職員は新卒グループと35歳以上グループに分かれ、間が空いている。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・職員の勤続年数が長く、先日一人やめた際もすぐ採用でき人材は足りている。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・研修の案内は少なく、もっと案内してほしいし、もっと行ってほしいと思っている。
- ・認可保育所で働いていた人は年齢別に保育にこだわり、そこがネックになることがある。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・どうしても結婚、出産での退職がある。
- ・病院職員の夜勤対応のため、毎週土曜日のみ24時間保育している。
- ・職員のシフト作成の際には援助ソフトを活用している。
- ・勤務経験が長い人たちの輪に新しい人が入っていきやすい環境づくりを心掛けている。
- ・看護師長も院内保育所に子どもを預けていたので、子育て中の看護師に理解がある。
- ・保育士の責任の重さに対しては、問題や課題は職場全体が事業体として受けるということを徹底し負担感を軽減している。

⑧十津川村役場

所在市町村	十津川村
施設種別	認可外保育施設（へき地保育所）
設置主体	市町村
運営主体	市町村
設置年月日	—
定員	—

■施設の特長

- ・村内にはへき地保育所が4箇所あり、各園正規職員が最低2名ずつの計9名配置している。通常は3歳児から受け入れている。
- ・発達障害児が増えてきており、常に加配が必要のため、非常勤職員で対応している。
- ・村の保健事業においてスペクトラム支援士の関わりがあり、保育への助言ももらえる。
- ・発達障害等気になる児童については、県リハビリセンターで診断をしてもらっている。
- ・4つのへき地保育所の内1園が、平成26年度から閉所を考えていたが、要望があったため1歳6か月児から受け入れを行うこととなった。低年齢児の受け入れについては、ノウハウが無いため、五條市・大淀町の保育所で研修を受ける予定。
- ・乳児保育についても今後の課題である。
- ・出生数の減少から、保育所の存続自体が課題となっており、保護者のニーズに合わせて、預かり保育等の実施を検討する必要がある。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・職員の勤続年数が長く、現在は人材は足りているが、50歳代が4名おり、この方達が退職するときに、どのようにするかが課題である。
- ・雇用の際の工夫としては、希望する勤務時間への対応を行っている。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・職員の研修は、所長会で話し合い各園に振り分けている。

■国・県への要望・提案など

- ・人材確保のため、求める支援は、村外居住者を雇用する際の住宅支援。
- ・また、村では発達障害児に対し、1：1の加配を行っているが、へき地保育所に対しても補助対象として欲しい。

⑨ちべん保育園

所在市町村	五條市
施設種別	認可保育施設（民設民営）
設置主体	社会福祉法人
運営主体	社会福祉法人
設置年月日	昭和48年1月
定員	120人

■施設の特長

- ・園の特徴として、保護者と保育所の関係は非常に近い。それを活かして、保護者と一緒に何かできればよいと思う。

■保育士の求人募集、人材確保について

- ・求人手段として、今年は母体である宗教本部の機関誌に掲載した。反響があった。
- ・雇用に対する工夫は、希望する勤務時間への対応を行っている。
- ・人材バンクは、給料等の条件だけでなく、園が力を入れている福利厚生の部分でも選んでもらえるように検討してもらいたい。
- ・人材バンクのコーディネーターは、保育の分野で経験を積んだ方が望ましいと考える。

■保育士の人材育成・キャリアアップに向けた取り組みについて

- ・研修は、保育のレベルを上げるため、専門的な方を招いて行いたい。
- ・奈良市等で行われる研修は、遠方で参加しにくいいため、専門的な先生を園に招いて研修を行った。
- ・保育士のキャリアアップに関し、経験や技術の差が表に出にくいので、難しい。1級、2級というような、なにか制度ができるとやりがいにつながると思う。
- ・新規雇用の場合は、園から課題を提示し、その課題に向けて努力されている。

■保育士の職場定着のための取り組みについて

- ・社会保険労務士に入ってもらって、就業規則を全体的に見直した。（子育て支援、働きやすい等）
- ・給料の引き上げについては、ボーナスを手厚くしたり一時金的に支給したりしている。
- ・課題としては、長期の休みが取りにくいこと。休暇を取りやすくするため、保育士は多めに雇用している。
- ・親睦会を設置し、職員同士が顔を合わせることができる機会を持つ。
- ・しかし、有給休暇の消化率は低い。
- ・保育士は、保護者対応に悩んでいる。保育士の悩みを受け止める仕組みの検討が課題。
- ・職員間のミーティングをどのように持つか課題。

IV 奈良県保育士実態調査有識者検討会

IV 奈良県保育士実態調査有識者検討会

各調査の結果及び効果的な対策について検討するため、関係諸分野の方より意見や提言を得ることを目的に実施した。

1. 第1回検討会

(1) 開催概要

- 開催日時：平成25年12月27日（金）10：00～12：00
- 開催場所：奈良県経済倶楽部4階会議室
- 出席者：学識経験者、奈良労働局、県内保育士養成校、市、県内保育関係者等
- 議題：
 - (1) 奈良県保育士等実態調査の結果について
 - (2) 結果から見えてくる課題及び本県の保育士確保対策について
 - ①当面の県の保育士確保対策について
 - （仮称）奈良県保育士人材バンク
 - ・就職支援コーディネーターの役割、求められる資質・資格等
 - ・人材マッチングシステムの機能について
 - ・効果的な再就職支援研修のカリキュラムについて
 - ・就職フェアの実施について（時期、場所、規模、広報手段等）
 - ・その他バンクに求められる効果的な役割・機能について
 - 子育て女性の保育士資格取得に対するチャレンジへの支援
 - ・学科試験、実技試験への効果的な支援策について
 - その他
 - ②中長期的な視点からの保育士の確保・資質の向上について
 - 保育士のキャリアパス
 - 保育士のワーク・ライフ・バランス
 - 保育士の定着支援や資質向上について
 - 保育士の仕事の魅力を高め、発信する取組について

(2) 有識者からの主な意見・提案等

1 当面の県の保育士確保対策について

【全般について】

- ・人材バンクでは、再就職支援コーディネーターの何を評価のポイントとするかが大事。この施策、取組を定期的に評価していくシステムまで作っていったら一番良い。

【コーディネーターについて】

- ・横浜市保育コンシェルジュの様に、きめ細かいニーズを把握できるようなコーディネーターであることが望ましい。
- ・時間的なものだけでなく、保育の内容に関しても分かれる方でないといこの仕事は大変難しいものであると感じる。
- ・コーディネーターの役割として理想は、マッチングも非常に重要だが、就職後のフォローも重要。
- ・調査結果でも、相談相手は、友人や知人が多く、職場の中の相談体制がない。コーディネーターは、相談にも対応し、スーパーバイザー的に関わることが理想。
- ・派遣会社に保育士の派遣をしてもらったが、時間的な調整が非常に上手。何度も連絡してくれ、ヒアリングも行ってくれる。
- ・コーディネーターは必ず相談事業というものを一緒にしないと、就職斡旋した人が相談できず、退職してしまったりと悪循環になってしまう。
- ・コーディネーターが重要なポイントになってくる。保育の実務経験がある方がいいのでは。そういう意味では、コーディネーターは、現場をよく知っている人が良い。
- ・また、人事労務管理に関する知識の経験を有する方やキャリアコンサルタント、産業カウンセラーなどの資格を有する方。

【人材バンクの機能・役割について】

- ・学生から保育所の雰囲気知ってから就職したかったと聞く。人材バンクの役割として実習体験が含まれるといいのでは。
- ・自分自身が園とあっているのか気にする子が多い。大阪の私立の保育園では3～5日間のインターンシップなども取り入れられている。実際に何日が行かせてもらって研修をしつつ、いいなと思ったらそこへ就職という制度があると定着もしていくのかなと感じる。
- ・人材バンクの中にメールマガジンを入れると、携帯でも見ることで情報交換ができるのでは。
- ・労働局では面接の受け方等に関し、再就職支援研修しているが、ブランクのある方の不安を取り除き、自信を持って再就職するという研修は出来ないのでは、人材バンクと連携してやっていきたい。
- ・現場と保育士のマッチングでは、インターンシップをどう使うか。現場を見ないと分からない。
- ・コーディネーターだけでなく、登録されたデータをいかにシステムで細かく分離をしておいて、要望のデータをすぐに提示できるような高度なシステムを作った方がいいのでは。

【ハローワークとの連携について】

- ・ハローワークの特性、人材バンクの特性を活かしつつ、その方の早期の就職支援をしていかなければいけない。
- ・ハローワークでは履歴書の記載方法、面接の受け方といった基本的なセミナーも定期的にやっているのでは、人材バンク登録者に周知して頂く等の連携も考えられる。
- ・厚生労働省が発表した保育士マッチング強化プロジェクトをうまく利用されると加速していくのでは。

2 中長期的な視点からの保育士の確保・資質の向上について

【保育士の研修・キャリアパスについて】

- ・保育士研修体系は、（県と保育所が）共通理解を得て進めていく方が良い。
- ・現場では、保育士の数が足りないが、数の穴埋めだけではダメ。養成校にお願いしたいのは、専門職としての自覚持たせて送りだしてほしい。受け入れる側の保育所としても保育所側も育てる仕組みが必要。
- ・保育士の育成は保育士個人ではなく、組織の問題として捉えるべき。
- ・特に、民間保育所の園長や経営者に対する研修も大きな問題であり、これからそれは重要なことだと思う。
- ・研修をするのであれば、キャリアパスと連動させて実施していくことによって、非常に合理的で効果的になるのでは。
- ・どこがどんな研修をやっているかというのを整理したうえで、もし奈良県で求める能力のなかで足りないものがあれば、新規で立ち上げ、重なっているものがあれ整理する。
- ・研修がキャリアパスに添ってやっていない。研修体系を作るというのはなかなか難しいので、保育に特化したものを県でモデルとして出してくれるというのはありがたい。

【ワーク・ライフ・バランスについて】

- ・ワーク・ライフ・バランスについて、昨年調査した。ワーク・ライフ・バランスの満足度が高い人は、保育の評価点も高い。ワーク・ライフ・バランスを高めることは、保育の質を高めることにつながる。
- ・休暇がとりにくいという課題を解決するためには、国レベルで取り組む必要がある。



(第1回検討会)

2. 第2回検討会

(1) 開催概要

- 開催日時：平成26年2月7日（金）13：30～15：30
- 開催場所：奈良商工会議所3階特別会議室
- 出席者：学識経験者、奈良労働局、県内保育士養成校、市、県内保育関係者等
- 議題：
 - (1) 奈良県保育士人材バンクについて
 - (2) 保育士の資質向上、キャリアパス、ワーク・ライフ・バランスの確立に向けて
 - (3) 奈良県保育士実態調査報告書の構成について
 - (4) その他

(2) 有識者からの主な意見・提案等

1 奈良県保育士人材バンクについて

【人材バンクの運営（運営委員会）について】

- ・県社会福祉協議会の人材センターも就職のあっせん等を行っているので連携していくことも非常に重要。
- ・人材バンクが委託になると、コーディネーターへの直接の指揮ができなくなる。コーディネーターの質によって運営がうまくいくか、いかないか左右される。そのため、業務委託仕様書は作成の段階で、内容をしっかり詰めたものにしておいてほしい。

【評価指標の設定・評価の実施について】

- ・評価指標の一つとして量的な指標（例えば、何人に対応したのか等）の記録をしっかりと取ることで、コーディネーター間の連携が取りやすくなるし、今後、組織が発展していく中で、次の人も同じことができるよう繋げられるよう、記録を積み重ねていってほしい。
- ・その記録を見ていくことで運営委員会が評価を実施することができる。いかに良い記録を取るのかについて考えていただけると良い。
- ・再就後の定着から人材育成というところまで考えたうえで指標を構築していく必要がある。
- ・評価指標は、コーディネーターの業務内容、役割を示すものとなることから、コーディネーターが指標の中身を理解し、それを活用できるように、事前に研修等を綿密に行うことが大切。

【人材バンクの設置場所について】

- ・人材バンクは県内主要駅より徒歩1km以内に1箇所ということだが、県全体の地域性やどう網羅していくのかについては今後の検討課題。

【再就職支援研修について】

- ・研修を今後作成するキャリアパスに取り込むことでメリットが発生してくる。
- ・再就職研修は、再就職の人だけではなく、現役の保育士にも使えるような研修制度にしてはどうか。

【その他】

- ・保育士として、なぜ長く続けにくいのか、また一旦結婚や子育て等で退職した人がリターンしにくいことなど、実態調査の中で明らかにしたことを改善していかないと、人材バンクだけで対応できるのか疑問。
- ・ハローワークでは、「保育士マッチング強化プロジェクト」を行っている。ハローワークでは職務経歴書の書き方や面接等に関する研修を行い、人材バンクでは、保育士として復帰される方の不安を取り除くような最新の現場の状況を提供するなど、連携できるところは共同してやっていければよい。
- ・保育協議会としても、人材バンクの研修に何らの形で関わっていききたい。

2 保育士の資質向上、キャリアパス、ワーク・ライフ・バランスの確立に向けて

【保育士の資質向上について】

- ・まずは、保育現場での実態を把握する必要がある。例えば、ある調査では保育記録や教材研究の時間が取れず、資質向上につながっていないケースがある。研修を行えばそれなりに資質は向上すると考えられるが、そのような研修を活用できるのかを考える必要がある。
- ・また、研修を行ったり事務的な負担軽減を行うことで保育がどう変わっていったのかについても評価の視点として取り入れられるとよい。
- ・保育ニーズが多様化する中、一人の先生がすべてに対応できるような状況ではない。色々な特徴・資質を持った保育士が集まりチームとして対応できるような体制を築くことが必要。保育士には園内・地域との調整役も求められる。
- ・経験を積んだ30歳前後の保育士に対する研修の持ち方について、効果を上げるといいうことが逆に潰してしまうことにつながらないよう考えてほしい。
- ・園長研修など入れ、もっと下の人たちを育てることができればいい。スーパーバイザー的な保育士が大切。
- ・臨時職員の処遇改善や資質の向上も必要。

【キャリアパスについて】

- ・研修を現場で使える研修とするためには、キャリアパスを策定するという前提で考えると、キャリアパスで定める能力項目、目標から現状を引いたものが研修ニーズとなる。保育士のキャパシティの視点からの評価を踏まえた上で、研修内容・研修ニーズというものを明確化していく必要がある。
- ・研修は、キャリアパスの各段階に対応したものを体系化していくことになることから、キャリアパスの整備が最初に議論すべき分野・内容ではないか。

- ・キャリアパスは、保育技術の専門性だけではなく、マナーや一般常識など社会人基礎力を評価する視点も取り入れ、保育現場で構築していくことが必要。
- ・目標管理制度にも活用できるよう、キャリアパスに基づき目標設定し、その達成度を評価する等、研修だけでなくいろいろな活用方法が考えられる。

【ワーク・ライフ・バランスについて】

- ・事務の負担軽減ができるような体制づくり、保育士の社会的地位の向上について方向性を明確に示すことが必要。
- ・ワーク・ライフ・バランスは、単に休みを取れば良いということを目指すのではなく、それによってワーク・ライフ・シナジー、相乗効果（例えばリフレッシュできることで新しい仕事への意欲、次のキャリアアップを望もうというような意欲）をもたらすものにすることが大切。
- ・保育士の負担軽減策やワーク・ライフ・バランスも同時進行になることから、やはり働きやすい環境を整備していくことも必要。（くるみんマーク取得の保育所を増やし働きやすいイメージアップを図る。）
- ・保育の現場がワーク・ライフ・バランスの形を整えていけば、かなりマッチングが進んでいくのではないかと、潜在的な就職希望者を取り入れることができるのではないかと。

【その他】

- ・適正管理による組織のスリム化により正職の保育士が退職しても補充できず、臨時職員やアルバイト保育士を雇用せざるを得ないのが現状。正職と同様の仕事をしてもらっていることから、給与面等処遇改善の検討が今後の課題。
- ・書類の体系化など、効率的な事務負担の軽減
- ・関係者、関係団体間で課題の共有をし、何を優先して解決していくのかを考える機会として継続的にこのような場を持つことは大変有効である。



(第2回検討会)

【参考】奈良県保育士等実態調査有識者検討会名簿

氏 名	所 属
石田 裕子	奈良佐保短期大学地域こども学科准教授
岡崎 利彦	奈良市こども園推進課長
岡山 弘美	公立学校法人奈良県立医科大学なかよし保育園長
糸田 恵美子	生駒市立ひがし保育園長(奈良県保育協議会 副会長)
栗木 裕幸	よのもと保育園長(奈良県保育協議会 会長)
米田 恵美子	いこま保育園長(奈良県保育協議会 副会長)
坂本 珠延	香芝市福祉健康部子ども支援課長
佐藤 和順	岡山県立大学教授
清水 益治	帝塚山大学教授
高橋 美和子	奈良佐保短期大学キャリア支援センター係長
辰谷 健一	奈良労働局職業安定課地域職業安定監察官
田中 三千穂	ふたば保育園長(奈良県保育協議会 副会長)
玉置 達夫	奈良公共職業安定所次長
鶴 宏史	武庫川女子大学准教授
富田 豊	大和郡山市こども福祉課長
永田 理香	高崎健康福祉大学講師
西川 直哉	畿央大学 キャリアセンター
吉川 和博	生駒市こども健康部こども課長

(50音順)

V 奈良県の保育士確保対策について

V 奈良県の保育士確保対策について

1. 基本的な考え方

前述の「Ⅰ 保育士実態調査」・「Ⅱ 指定保育士養成施設調査」、「Ⅲ 保育施設ヒアリング調査」の結果及び「Ⅳ 奈良県保育士実態調査有識者検討会」における議論・検討を踏まえ、奈良県の保育士確保対策について検討する。

また、検討にあたっては、次の3点をバランス良くかつ総合的に推進することに留意する。

- 潜在保育士の（再）就職を支援する。
- 現任保育士の定着を促進する。
- 新規の就業者を増加させる。

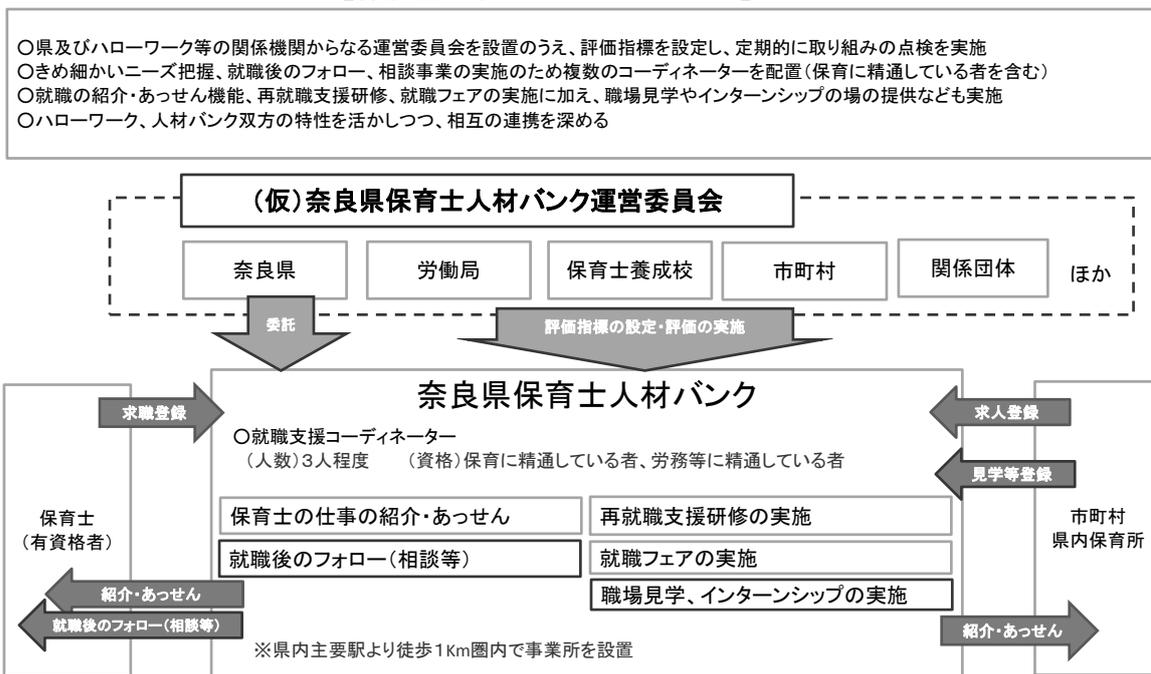
なお、保育士確保対策をより効果的なものとするため、保育士の「資質向上」、「キャリアパスの整備」及び「ワーク・ライフ・バランスの確立」についても、あわせて検討を行う。

2. 具体的な取組み方策

(1) 保育士人材バンクの設置運営

- 平成27年度から始まる子ども・子育て支援新制度の導入を背景に、保育ニーズが高まる
ことが予想され、それに伴い保育士に対する需要も増えることが見込まれる。そのため、
保育士資格を有していながら保育士として就労していない、いわゆる「潜在保育士」の
就労ニーズに応えることができるよう、就労機会を確保することが課題である。
- 保育士登録者を対象とした調査結果では、現在保育士として就労していない人が、今
後、「保育士として働きたい」割合は31.7%に対し、「保育士以外として働きたい」は23.3%、
「未定」26.6%となっており、潜在保育士の3人に1人に就業意向がある。
- また、人材バンクについては、「活用したい」が83.9%に対し、「活用したいとは思わな
い」は8.2%で、活用意向が圧倒的に高い。
- 一方、保育施設を対象とした調査結果で、今後の潜在保育士雇用に求める支援として、
「登録してもらい、県内の保育所に斡旋する仕組み」が59.5%で最も多く、次いで「再
就職支援研修」が44.4%、「就職相談会」が39.2%となっている。
- 今後、保育士として職場復帰したい人の就業ニーズと、保育施設の人材ニーズをうま
くマッチングさせ、保育士としての就労機会の確保を効果的に進めることができるシ
ステム（例 保育士人材バンク）を構築することが、潜在保育士の有効活用を図るう
えで効果があると考えられる。
- また、仕事の紹介・あっせんだけでなく、再就職を支援する研修や就職フェアの実施、
職場見学（インターンシップ等）の実施、就職後のフォローや相談などにもあわせて
対応していくことが保育士の確保及び職場定着に効果的である。
- なお、保育士人材バンクの運営にあたっては、透明性及び客観性を担保するため、県
及び関係機関からなる（仮称）運営委員会のもと、活動の評価指標を設定し、定期的
に評価を実施していくことが求められる。

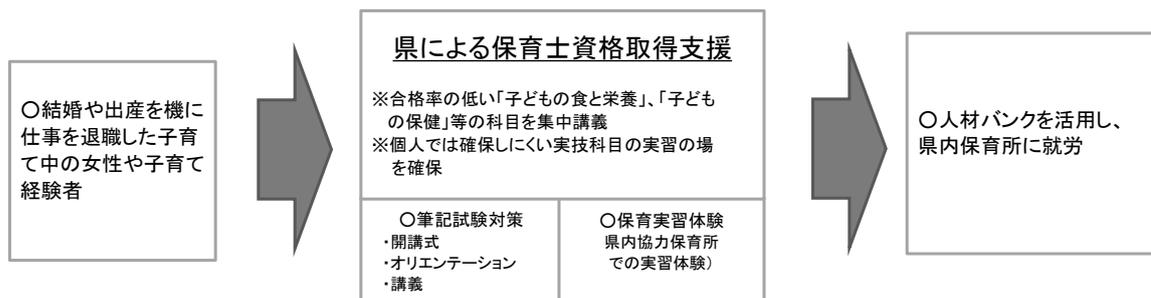
【保育士人材バンクのイメージ】



(2) 県における保育士資格取得支援

- 新任保育士は、主に県内の養成施設において育成を行っているが、保育施設に対するヒアリング調査では、実務経験が少ないことによる自信の喪失や一般常識や社会人としてのマナー・常識の欠如、コミュニケーション能力不足などを最近の新任保育士にみられる問題点として指摘する施設が少なくなかった。
- 一方、保育施設を対象に実施した調査の結果で、新卒以外で採用した保育士の経歴は、「保育士経験者」が74.6%で、以下、「子育て経験者」26.3%、「保育・教育関係の職業経験者」が21.6%となっている。
- また、潜在保育士を雇用するメリットの上位は、「保育士経験がある」が70.3%、「子育て経験がある」56.5%、「他業種での社会人経験がある」31.5%である。
- 今後、子育て経験をキャリアとして活かすことができるよう、県において子育て中の主婦を対象に保育士資格の取得を支援することにより、新規就業者の増加による保育士の確保につながるとともに、女性の（再）チャレンジの後押しともなり、就業率の向上も期待できる。

【子育て女性の保育士資格の取得支援のイメージ】

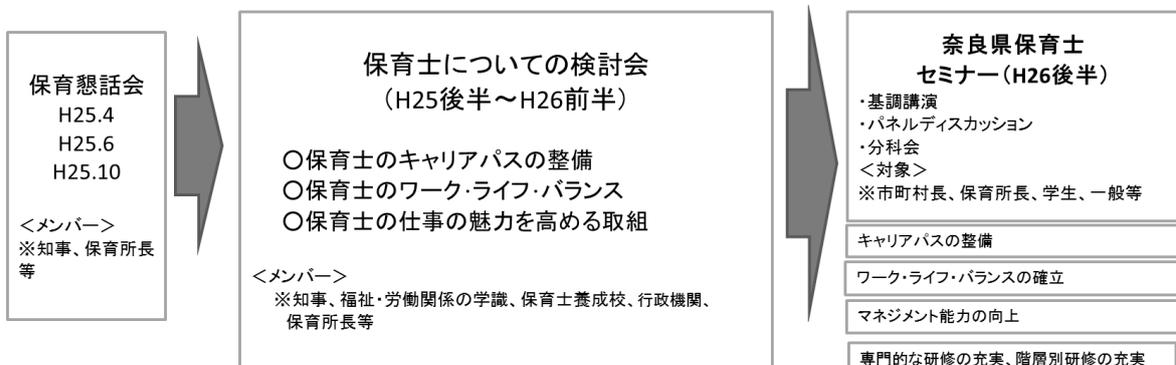


3. 継続的な検討が必要な事項

～保育士の「資質向上」、「キャリアパスの整備」及び「ワーク・ライフ・バランスの確立」について～

- 保育士登録者を対象とした調査の結果では、現在保育士として就労している人が現在の施設で働きたくない理由は、「給与に不満」39.8%、「休暇が取れない、取りづらい」36.2%、「身体的な負担が大きい」30.6%などが上位となっている。
- また、現在も保育士として就労している人のうち、過去に保育施設の退職経験がある場合の退職理由は、「職場の人間関係が良くない」19.8%、「休暇が取れない、取りづらい」19.3%、「身体的な負担が大きい」17.2%などが多くなっている。
- 一方、保育士として「やりがい」に感じることの上位3項目は、「子どもの育ちに関わることができた」88.5%、「収入が得られている」39.6%、「信頼できる仲間ができた」30.2%で、収入よりも子どもとの関わりの大きさを感じ保育の仕事に従事する人が多い。
- しかし、現在保育士の資格を持ちながら無職の人が、再就職で最も不安に思うことの上位は、「家事と子育てと仕事の両立」39.0%、「体力的に仕事を続けられるか」14.4%、「職場の人間関係」12.2%となっている。
- 子どもの成長に関わりながら保育士として職務を続ける人が多い一方で、収入や休暇の取得のしにくさ等を理由に、退職する人も少なくない。
- 今後、現任保育士の職場での定着を進めるためにも、また新規就業者や潜在保育士の（再）就職を増加させるためにも、保育士の処遇の改善をはじめ、保育士の専門性を高める取組、キャリアアップの仕組みづくりや仕事と家庭の両立が可能な職場環境づくりの推進が必要である。
- そのため、保育の現場をはじめ、有識者、行政、保育士養成機関等から十分に意見を聴取し、県として継続的に検討していく必要がある。
- また、その検討の成果を、様々な機会・媒体を通じ情報発信していくなど、県として保育士の仕事の魅力を高めていく取組みが求められる。

【保育士についての継続的な検討のイメージ】



資 料

資 料

1. 保育士登録者用調査票

奈良県保育士実態調査へのご協力をお願い

(保育士登録者用)

初秋の候、ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

奈良県では、保育所待機児童の解消をはじめ今後も見込まれる保育ニーズの増大に対応するため、保育士資格をお持ちでいながら就労されていない「潜在保育士」の方への再就職や、保育士として就労されている方の職場定着のための支援が重要な課題となっています。

このため、県内で保育士登録されている方のうち約6,000人を対象に、保育士としての再就職や就労の継続にあたって、期待することや保育士としてのやりがい、また一方で不安に感じることや必要と感じるサポートなどをお聞きし、保育士確保対策を進めていく参考とさせていただきたく考えています。

皆様にはお忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年9月

奈良県知事 荒井 正吾

(回答の方法)

1. 回答は、本年9月1日現在の状況をご記入ください。
2. 回答は、選択肢の中から当てはまる番号に○を付けてください。質問によっては具体的に数字等をご記入いただく場合がありますので、質問文をよくお読みになりご回答ください。また、回答で「その他」を選ばれた場合は、その内容をカッコ内にできるだけ具体的に書いてください。
3. 回答が終わりましたら、記入漏れや記入間違い等がないか確認し、平成25年9月20日(金)までに、同封の返信用封筒（切手は不要）でご返送ください。

※なお、調査は無記名で行い、結果は数値として取り扱いますので個人が特定されることはございません。

(調査に関する問い合わせ先)

奈良県 健康福祉部 こども・女性局 子育て支援課 保育・放課後児童対策係
電 話 0742-27-8604

問1 あなたご自身のことについておうかがいします。

①年代	1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳以上
②性別	1 男 2 女
③保育士資格取得年月と資格取得方法	取得年月⇨ 昭和・平成 ()年 ()月 取得方法⇨ 1 専門学校 2 大学 3 短大 4 保育士試験
④現在の住所地	()都・道・府・県 ()市・町・村
⑤配偶者の有無	1 いる 2 いない
⑥家計の主たる生計者	1 あなた自身 2 あなた以外(配偶者等)

問2 お子さんがいる場合はその人数と末子の年齢をご記入ください。

1 いない → 問3へ	2 いる → 人数 ()人 / 末子の年齢 ()歳
-------------	-----------------------------

問2-1 小学校就学前のお子さんがいる方におうかがいします。末子のおさんの日中の主な保育者はどなたですか。(休日を除く。○は1つ)

1 あなた	2 あなたの配偶者	3 子の祖父母	4 保育所の保育士
5 幼稚園の先生	6 ベビーシッターや保育ママ	7 その他 ()	

問3 あなたは家族の介護を担っていますか。

1 担っている	2 担っていない
---------	----------

問4 あなたが保育士以外に取得している資格・免許は次のどれですか。(○はあてはまるものすべて)

1 幼稚園教員免許	2 小学校教員免許	3 中学校・高等学校教員免許
4 社会福祉士・介護福祉士	5 ホームヘルパー	6 その他 ()
7 なし		

問5 あなたが保育士として働いたことがある場合、通算就業年数はどれぐらいですか。(○は1つ)

1 働いたことはない	2 1年未満	3 1～2年未満	4 2～3年未満
5 3～5年未満	6 5～10年未満	7 10年以上	

(注) 保育所以外での勤務も含まれます。また就業年数には、産休、育休、長期研修等の期間を含みます。

問6 あなたが、これまで保育士として勤務した認可保育所は何か所ですか。(○は1つ)

1 0か所	2 1か所	3 2か所	4 3か所以上
-------	-------	-------	---------

問7 あなたは、現在、所得を伴う仕事(パート、アルバイト等を含む)に就いていますか。(○は1つ)

1 保育士として認可保育所で勤務している	→ 問8	にお進みください
2 保育士として認可保育所以外で勤務している	→ 問9	へお進みください
3 保育士以外の仕事に就いている	}	→ 問33
4 家事に従事している		
5 その他 ()		

問8～23は、現在、保育士として仕事に就いている方におうかがいします。
 ※それ以外の方は、問33へお進みください。

問8 問7で「1 保育士として認可保育所で勤務している」と回答した方におうかがいします。
 現在の就業先はどちらですか。(主たる勤務場所について○は1つ)

- | | | |
|---------|--|----------------------------|
| 1 公立保育所 | 2 社会福祉法人等(学校法人、宗教法人NPO法人等公益法人)が運営する私立保育所 | 3 上記以外の株式会社または個人が運営する私立保育所 |
|---------|--|----------------------------|

問8-1 担当クラス等に○を付けてください。(○は主なもの1つ)

- | | | | |
|-------|-------|---------|------------|
| 1 0歳児 | 4 3歳児 | 7 混合クラス | 9 延長・休日保育等 |
| 2 1歳児 | 5 4歳児 | (歳～ 歳) | 10 障害児保育 |
| 3 2歳児 | 6 5歳児 | 8 フリー | 11 その他() |

(問10にお進みください。)

問9 問7で「2 保育士として認可保育所以外で勤務している」と回答した方におうかがいします。
 現在の就業先はどちらですか。(主たる勤務場所について○は1つ)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 公立認定こども園 | 7 私立幼稚園(預り保育等) |
| 2 私立認定こども園 | 8 地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設 |
| 3 事業所内保育施設(院内保育施設含む) | 9 乳児院・児童養護施設・障害児施設 |
| 4 3以外の認可外保育施設 | 10 保育ママなどの家庭託児所・ベビーシッター |
| 5 へき地保育所 | 11 放課後児童クラブ |
| 6 公立幼稚園(預り保育等) | 12 その他() |

問10 あなたは現在の職場で何年程度働いていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|----------|------------------------------|----------|
| 1 1年未満 | 2 1～2年未満 | 3 2～3年未満 | 4 3～5年未満 |
| 5 5～10年未満 | 6 10年以上 | ※就業年数には、産休、育休、長期研修等の期間を含みます。 | |

問11 現在の雇用形態についてお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|-------------|--|
| 1 正職員(「短時間正職員」を除く) | 3 パート・アルバイト | 注: 短時間正職員とは、正職員と比べて所定労働時間が短い正規型の労働者であって労働契約に期間の定めがなく、時間当たりの基本給、賞与、退職金等の算定方法等が正職員と同等である者。 |
| 2 短時間正職員 | 5 派遣社員 | |
| 4 嘱託 | 6 その他() | |
| 6 その他() | | |

問12 昨年度の時間外勤務を含めた、1週あたりの平均的な労働時間は何時間ですか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1 週20時間未満 | 2 週20時間～30時間未満 | 3 週30時間～40時間未満 |
| 4 週40時間～50時間未満 | 5 週50時間～60時間未満 | 6 週60時間以上 |

問13 あなたの勤務地と通勤時間について(1)現在の状況と、(2)今後の希望(通勤時間は許容できる上限)を、それぞれ該当する番号を下の選択肢の中から選んで枠内に○を付けてください。

(1) 現在の状況……	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	通勤方法は 問いません
(2) 今後の希望……	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	

1 自宅近く	2 居住市町村内	5 15分以内	6 30分以内
3 奈良県内	4 奈良県外	7 1時間以内	8 1時間以上

問14 現在の給与について年収ベースでお答えください。(○は1つ)

1 103万円未満	4 300～400万円未満	7 700万円以上
2 103～200万円未満	5 400～500万円未満	
3 200～300万円未満	6 500～700万円未満	

問14-1 現在の給与は勤務内容に比べ妥当だと感じていますか。(○は1つ)

1 高いと思う	2 やや高いと思う	3 妥当と思う
4 やや安いと思う	5 安いと思う	6 わからない

問14-2 問14-1で「4 やや安いと思う」「5 安いと思う」と回答した方におうかがいします。(それ以外の方は問15へお進みください。) その主な理由は次のどれですか。(○は1つ)

1 仕事の量が多い	5 保護者との対応が大変
2 職務内容のレベルが高い	6 体力的にきつい
3 責任が重い	7 生計を維持するのに足りない
4 勤務時間が長い	8 その他 ()

問15 現在の労働条件や労働環境について、(ア) 特にご不満に感じておられることを下のアの選択肢の中から3つまで選び枠内に記入してください。また、(イ) それらについて相談した相手についてイの選択肢の中から該当する番号を選んで、それぞれの該当枠内に記入してください。

(ア) 不満に感じていること…

番	番	番
---	---	---

(下のアから3つ選んで記入)
※不満がない場合は「19番」を1番左枠に記入

↓ ↓ ↓

(イ) (ア) の相談相手……………

番	番	番
---	---	---

(下のイから選んで記入)

(ア 不満に感じていること)

1 給与	11 パソコン操作についていけない
2 勤務時間	12 職場内の人間関係
3 仕事内容	13 職場内で相談できる相手がいない
4 雇用形態	14 教育・研修体制
5 休日・休暇取得	15 勤め先での将来への展望が見えない
6 年度途中で長期休暇・退職ができない	16 勤め先の理念・方針
7 勤務施設の環境	17 保護者への対応
8 通勤時間	18 その他 ()
9 仕事の責任の重さ	19 特に不満はない
10 事故への不安	

(イ 不満の相談相手)

1 職場の上司	5 家族 (パートナー)・親族
2 職場の同僚	6 友人・知人
3 職場の人事担当者	7 その他 ()
4 産業医	8 相談していない・相談先がない

問16 あなたは、仕事に関する不満や悩み・困ったことなどについて、外部で相談できる機関があれば利用したいと思いますか。(○は1つ)

1 ぜひ利用したい	2 相談内容によっては利用を考えたい	3 利用するつもりはない
-----------	--------------------	--------------

問17 あなたが保育士として働いてこられた中で、やりがいに感じることは何ですか。(○は主なもの3つまで)

1 自己実現が得られている	5 自分の子育ての役に立った
2 信頼できる仲間ができた	6 収入が得られている
3 社会の役に立っている	7 特にない
4 子どもの育ちに関わることができた	8 その他 ()

問18 あなたは、現在保育の現場で対応が難しいと感じていることは何ですか。(あてはまるものすべて)

1 保護者への対応	6 衛生管理
2 地域の子育て支援	7 体力づくり
3 食物アレルギーへの対応	8 防災対策
4 障害児保育	9 事故対応
5 発達の遅れのある児童への対応	10 その他 ()

問19 保育士になってからこれまでに受けた支援・活用した制度等を、それぞれの時期①～④について、主なもの3つまでを以下の1～14の中から選んで記入してください。

また、受けたかったが受けられなかった支援・制度等についても、それぞれの時期①～④について以下の1～14の中から3つまで選んで記入してください。

*①～④の状況がなかった場合は空欄としてください。

	これまでに受けた支援・活用した制度等 (3つまで記入)	受けたかったが受けられなかった支援・制度等 (3つまで記入)
① 第1子の妊娠・出産・育児の際……	[] [] []	[] [] []
② 第2子以降の妊娠・出産・育児の際……	[] [] []	[] [] []
③ 家族の介護の際……	[] [] []	[] [] []
④ その他 () …	[] [] []	[] [] []

【支援・制度等】

1 時間外勤務の免除	8 認可保育所
2 時差出勤・フレックスタイム	9 認可外保育施設
3 休日労働の免除	10 病児・病後児保育
4 短時間勤務	11 ベビーシッター・保育ママ
5 育児休業	12 放課後児童クラブ (学童保育)
6 子の看護休暇	13 両親等、家族による育児の支援
7 介護休業・介護休暇	14 支援は受けていない・特にない

問20 上記項目以外で受けたかった支援、あれば良かったと思われる支援があれば、その時期と具体的内容を下記にお書きください。

時期	具体的内容

問21 今後の就業意向について、あなたの考えにもっとも近いもの1つに○をつけてください。

- | | | | | |
|---|--------------------|---|-----|----------|
| 1 | 現在の施設で保育士として働き続けたい | → | 問22 | へお進みください |
| 2 | 他施設で保育士として働きたい | → | 問23 | へお進みください |
| 3 | 保育士以外の仕事で働きたい | → | 問23 | へお進みください |
| 4 | 仕事はしない | → | 問23 | へお進みください |
| 5 | 未定 | → | 問24 | へお進みください |

問22 問21で「1 現在の施設で保育士として働き続けたい」と回答した方におうかがいします。
現在の施設で保育士として働きたい理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | | | |
|---|------------------|----|----------------------|
| 1 | 福利厚生が充実している | 10 | 保育士配置が充実している |
| 2 | 子育て中の職員への配慮がある | 11 | メンタル面でのケアが充実している |
| 3 | 通勤が便利 | 12 | 教育・研修体制が充実している |
| 4 | 職場の人間関係がよい | 13 | キャリアアップの機会がある |
| 5 | 勤務時間が希望に合っている | 14 | 仕事に関する相談支援体制が充実している |
| 6 | 休暇が取りやすい | 15 | 定年後も働ける仕組みがある |
| 7 | 給与が希望に合っている | 16 | 保育理念、方針が自分の考えと一致している |
| 8 | 時間外勤務を軽減する体制がある | 17 | 保護者との関係が良好である |
| 9 | 事故予防や安全対策が充実している | 18 | その他 () |

(問24にお進みください。)

問23 問20で「2 他施設で保育士として働きたい」「3 保育士以外の仕事で働きたい」「4 仕事はしない」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | | | |
|----|-----------------|----|-----------------------|
| 1 | 出産・育児のため | 12 | 給与に不満があるため |
| 2 | 結婚のため | 13 | 身体的な負担が大きいため |
| 3 | 本人の健康問題のため | 14 | 責任の重さ・事故への不安があるため |
| 4 | 家族の健康問題・介護のため | 15 | 教育・研修体制が充実していないため |
| 5 | 通勤が困難なため | 16 | キャリアアップの機会がないため |
| 6 | 進学のため | 17 | 雇用期間が満了するため |
| 7 | 他施設への興味 | 18 | 定年退職のため |
| 8 | 他分野(保育以外)への興味 | 19 | 保育の理念・方針が自分の考えと合わないため |
| 9 | 職場の人間関係がよくないから | 20 | 保育士に向かないのではないかと感じるため |
| 10 | 時間外勤務が多いため | 21 | 保護者との関係が良くないため |
| 11 | 休暇が取れない・取りづらいため | 22 | その他 () |

問24～32までは、現在も保育士として働いている方のうち、これまでに勤務先（保育に関する仕事に限る）を退職した経験がある方におうかがいします。
 ※保育士として勤務先を退職した経験がない方は、問49へお進みください。

問24 直近の退職から現在の勤務先に就業するまでの期間についてお答えください。(○は1つ)

- | | | | | | | | |
|---|---------|---|------|---|--------|---|--------|
| 1 | ブランクはない | 2 | 1年未満 | 3 | 1～2年未満 | 4 | 2～3年未満 |
| 5 | 3～5年未満 | 6 | 5年以上 | | | | |

問24-1 再就職までの期間が1年以上の方におうかがいします。(それ以外の方は問25へお進みください。)再就職した最大の理由は何ですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------------|---|-----------------|
| 1 | 収入を得る必要が生じた | 5 | 子育てにめどがついた |
| 2 | 保育の知識や技術を生かしたい | 6 | 空いている時間を有効に使いたい |
| 3 | 社会に出て仕事がしたい | 7 | 学校を卒業した |
| 4 | 生きがいを持ちたい | 8 | その他 () |

問25 直近に退職した勤務先はどちらですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------------------------|----|-----------------------|
| 1 | 公立保育所 | 8 | 事業所内保育施設 (院内保育施設含む) |
| 2 | 社会福祉法人等の公益法人が運営する
私立保育所 | 9 | 8以外の認可外保育施設 |
| 3 | 上記以外が運営する私立保育所 | 10 | へき地保育所 |
| 4 | 公立認定こども園 | 11 | 地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設 |
| 5 | 私立認定こども園 | 12 | 乳児院・児童養護施設・障害児施設 |
| 6 | 公立幼稚園 (預り保育) | 13 | 保育ママなどの家庭託児所・ベビーシッター |
| 7 | 私立幼稚園 (預り保育) | 14 | 放課後児童クラブ |
| | | 15 | その他 () |

問26 勤務先を退職した理由は何でしたか。(あてはまるものすべて)

- | | | | |
|----|-----------------|----|-----------------------|
| 1 | 出産・育児のため | 12 | 給与に不満があるため |
| 2 | 結婚のため | 13 | 身体的な負担が大きいため |
| 3 | 本人の健康問題のため | 14 | 責任の重さ・事故への不安があるため |
| 4 | 家族の健康問題・介護のため | 15 | 教育・研修体制が充実していないため |
| 5 | 通勤が困難なため | 16 | キャリアアップの機会がないため |
| 6 | 進学のため | 17 | 雇用期間が満了するため |
| 7 | 他施設への興味 | 18 | 定年退職のため |
| 8 | 他分野 (保育以外) への興味 | 19 | 保育の理念・方針が自分の考えと合わないため |
| 9 | 職場の人間関係がよくないから | 20 | 保育士に向かないのではないかと感じるため |
| 10 | 時間外勤務が多いため | 21 | 保護者との関係が良くないため |
| 11 | 休暇が取れない・取りづらいため | 22 | その他 () |

問27 現在の職場を選んだ理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

1 福利厚生が充実している	10 保育士配置が充実している
2 子育て中の職員への配慮がある	11 メンタル面でのケアが充実している
3 通勤が便利	12 教育・研修体制が充実している
4 職場の人間関係がよい	13 キャリアアップの機会がある
5 勤務時間が希望に合っている	14 仕事に関する相談支援体制が充実している
6 休暇が取りやすい	15 定年後も働ける仕組みがある
7 給与が希望に合っている	16 保育理念、方針が自分の考えと一致している
8 時間外勤務を軽減する体制がある	17 過去に働いたことがある職場だから
9 事故予防や安全対策が充実している	18 その他 ()

問28 現在の職場を探す際、①利用した施設や媒体は何ですか。(あてはまるものすべて)

また、②実際に就職に結びついた主な施設や媒体はどれですか。(○は主なもの1つ)

	ハローワーク (公共職業安定所)	民間の職業紹介所	保育施設等の ホームページ	求人広告・求人情報誌	保育施設等の 就職説明会	友人・知人による紹介	出身学校・先生に よる紹介	過去に勤務していたの 職場による紹介	派遣会社からの派遣	福祉人材センター	(その他)
①利用した施設や媒体 (あてはまるものすべて)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
②実際に就職に結びつ いた主な施設や媒体 (主なもの1つ)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

問29 現在の職場において利用した支援や制度等がありますか。(あてはまるものすべて)

1 時間外勤務の免除	9 認可外保育施設
2 時差出勤・フレックスタイム	10 病児・病後児保育
3 休日労働の免除	11 ベビーシッター・保育ママ
4 短時間勤務	12 放課後児童クラブ(学童保育)
5 育児休業	13 両親等、家族による育児の支援
6 子の看護休暇	14 その他 ()
7 介護休業・介護休暇	15 利用した支援や制度はない
8 認可保育所	

問30 現在の職場への再就職前後に1日(全日)以上の研修を受けましたか。(○は1つ)

1 受けた	2 受けていない → 問31へお進みください
-------	------------------------

問30-1 問30で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。どちらで研修を受けましたか。(○は主なもの1つ)

1 就職する施設	4 社会福祉協議会
2 保育士養成施設(大学・短大・専門学校等)	5 民間企業・団体
3 県等の行政機関	6 その他 ()

問30-2 問30で「1 受けた」と回答した方におうかがいします。どのような内容の研修を受けましたか。

(あてはまるものすべて)

1 保育実技	11 保護者とのコミュニケーション
2 事故防止・安全対策	12 児童の家族への支援について
3 救命救急	13 面接準備
4 小児保健	14 社会としてのマナー
5 衛生管理	15 クレーム対応
6 発達心理学	16 I Tに関する知識・技術
7 保育所保育指針	17 保育施設での見学実習
8 食育	18 保育計画・保育日誌・お便り帳等の書き方
9 職員間のコミュニケーション	19 児童福祉行政・制度に関する知識
10 子どもとのコミュニケーション	20 その他 ()

問31 現在の職場への再就職時に希望した雇用形態を次の中から選んでください。(○は1つ)

1 正職員(「短時間正職員」を除く)	4 嘱託
2 短時間正職員	5 派遣社員
3 パート・アルバイト	6 その他 ()

問32 現在の職場への再就職時に希望した1週間あたりの労働時間はどれくらいでしたか。(○は1つ)

1 10時間程度	2 20時間程度	3 30時間程度	4 40時間程度
----------	----------	----------	----------

(問49にお進みください。)

問33~48-2は、現在、仕事に就いていない方または保育士以外の仕事に就いている方におうかがいします。

問33 あなたは、過去に保育に関する仕事をしたことがありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない→問34へお進みください
------	------------------

問33-1 問33で「1 ある」と回答した方におうかがいします。保育に関する仕事で直近に勤めていた就業先はどちらですか。(主たる勤務場所について○は1つ)

1 公立保育所	8 へき地保育所
2 社会福祉法人等の公益法人が運営する 私立保育所	9 事業所内保育施設(院内保育施設含む)
3 上記以外が運営する私立保育所	10 9以外の認可外保育施設
4 公立認定こども園	11 地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設
5 私立認定こども園	12 乳児院・児童養護施設・障害児施設
6 公立幼稚園(預り保育)	13 保育ママなどの家庭託児所・ベビーシッター
7 私立幼稚園(預り保育)	14 放課後児童クラブ
	15 その他 ()

問33-2 問33で「1 ある」と回答した方におうかがいします。

問33-1の就業先を退職した理由は何でしたか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 出産・育児のため | 12 給与に不満があるため |
| 2 結婚のため | 13 身体的な負担が大きいため |
| 3 本人の健康問題のため | 14 責任の重さ・事故への不安があるため |
| 4 家族の健康問題・介護のため | 15 教育・研修体制が充実していないため |
| 5 通勤が困難なため | 16 キャリアアップの機会がないため |
| 6 進学のため | 17 雇用期間が満了するため |
| 7 他施設への興味 | 18 定年退職のため |
| 8 他分野（保育以外）への興味 | 19 保育士に向かないため |
| 9 職場の人間関係がよくないから | 20 保護者との関係が良くないため |
| 10 時間外勤務が多いため | 21 保育士に抱いていた理想と現実が違っていた |
| 11 休暇が取れない・取りづらいため | 22 その他（ ） |

問34 現在、保育士の仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 自宅に近い施設が見つからない | 9 子育ての負担が大きい |
| 2 希望の給料に合う施設が見つからない | 10 家事の負担が大きい |
| 3 希望の勤務時間に合う施設が見つからない | 11 親や家族の介護・看護 |
| 4 希望の雇用形態に合う施設が見つからない | 12 他の仕事に就いている |
| 5 趣味など仕事以外にやりたいことがある | 13 働きたくない |
| 6 健康上の理由 | 14 その他（ ） |
| 7 家族が反対する | 15 特に理由はない |
| 8 経済的に働く必要がない | |

問35 今後の就業希望について、あなたの考えにもっとも近いもの1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 保育士として働きたい | → 問37以降の全ての質問に回答してください |
| 2 保育士以外として働きたい | -----> 問36へお進みください |
| 3 就業希望はない | |
| 4 未定 | |

問36 問35で「2 保育士以外として働きたい」「3 就業希望はない」「4 未定」と回答した方におうかがいします。その最大の理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 家事・育児のため仕事が続けられそうにない | 8 希望の給料に合う施設がない |
| 2 家族の理解が得られない | 9 希望の勤務時間の施設がない |
| 3 本人の健康問題 | 10 希望の雇用形態の施設がない |
| 4 家族の健康問題・介護のため | 11 知識・能力に合う仕事がない |
| 5 保育の仕事から離れていたため不安がある | 12 急いで仕事に就く必要がない |
| 6 保育所の求人情報が得にくい | 13 他分野（保育以外）に興味がある |
| 7 自宅に近い施設がない | 14 その他（ ） |

(問49にお進みください。)

問37 今後、保育士として働きたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 収入を得る必要が生じた | 5 子育てにめどがついた |
| 2 保育の知識や技術を生かしたい | 6 空いている時間を有効に使いたい |
| 3 社会に出て仕事がしたい | 7 学校を卒業した |
| 4 生きがいを持ちたい | 8 その他（ ） |

問38 いろいろ再就職を希望していますか。最も希望する時期を1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1 既に再就職が決まっている | 4 (回答者本人の) 学校卒業後に再就職したい |
| 2 すぐにでも再就職したい | 5 未定 |
| 3 数年後に再就職したい | |

問39 勤務施設について、最も希望するものを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 公立保育所 | 8 へき地保育所 |
| 2 社会福祉法人等の公益法人が運営する
私立保育所 | 9 事業所内保育施設 (院内保育施設含む) |
| 3 上記以外が運営する私立保育所 | 10 9以外の認可外保育施設 |
| 4 公立認定こども園 | 11 地域子育て支援拠点等市町村の子育て関連施設 |
| 5 私立認定こども園 | 12 乳児院・児童養護施設・障害児施設 |
| 6 公立幼稚園 (預り保育) | 13 保育ママなどの家庭託児所・ベビーシッター |
| 7 私立幼稚園 (預り保育) | 14 放課後児童クラブ |
| | 15 その他 () |

問40 雇用形態について、最も希望するものを1つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|-------------|---|
| 1 正職員 (「短時間正職員」を除く) | | 注：短時間正職員とは、正職員と比べて所定労働時間が短い正規型の労働者であって労働契約に期間の定めがなく、時間当たりの基本給、賞与、退職金等の算定方法等が正職員と同等である者。 |
| 2 短時間正職員 | 3 パート・アルバイト | |
| 4 嘱託 | 5 派遣社員 | |
| 6 その他 () | | |

問41 希望する1週間あたりの労働時間はどれくらいですか (○は1つ)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 10時間程度 | 2 20時間程度 | 3 30時間程度 | 4 40時間程度 |
|----------|----------|----------|----------|

問42 希望する勤務地と通勤時間 (許容できる上限) について、それぞれ該当する番号を下の選択肢の中から選んで枠内に○を付けてください。(○は1つ)

- 通勤方法は
問いません
- (1) 希望する勤務地 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 (2) 希望する通勤時間 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| 1 自宅近く | 2 居住市町村内 | 5 15分以内 | 6 30分以内 |
| 3 奈良県内 | 4 奈良県外 | 7 1時間以内 | 8 1時間以上 |

問43 再就職に際して、最も不安に思うことを1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 家事・子育てと仕事の両立 | 7 体力的に仕事を続けられるか |
| 2 保育など育児支援が得られるか | 8 保護者への対応 |
| 3 家族の健康問題・介護への対応 | 9 職場の人間関係 |
| 4 時間外勤務への対応 | 10 その他 () |
| 5 最新の保育の知識・技術への対応 | 11 不安はない |
| 6 再就職者に対する教育・研修が受けられるか | |

問44 再就職のために必要だと思う支援や制度等は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 時間外勤務の免除 | 8 認可保育所 |
| 2 時差出勤・フレックスタイム | 9 認可外保育施設 |
| 3 休日労働の免除 | 10 病児・病後児保育 |
| 4 短時間勤務 | 11 ベビーシッター・保育ママ |
| 5 育児休業 | 12 放課後児童クラブ(学童保育) |
| 6 子の看護休暇 | 13 両親等、家族による育児の支援 |
| 7 介護休業・介護休暇 | 14 特になし |

問45 あなたは、再就職のために登録すると、県内の保育所への就職斡旋や情報提供を受けられる仕組み(例：人材バンク)があれば活用したいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|---------------|
| 1 活用したい | 2 活用したいとは思わない |
|---------|---------------|

問46 再就職時に研修受講を希望しますか。(○は1つ)

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 希望する | 2 希望しない → 問49へお進みください |
|--------|-----------------------|

問46-1 問46で「1 希望する」と回答した方におうかがいします。どのような内容の研修を希望しますか。(○は主なもの3つまで)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 保育実技 | 11 保護者とのコミュニケーション |
| 2 事故防止・安全対策 | 12 児童の家族への支援について |
| 3 救命救急 | 13 面接準備 |
| 4 小児保健 | 14 社会としてのマナー |
| 5 衛生管理 | 15 クレーム対応 |
| 6 発達心理学 | 16 ITに関する知識・技術 |
| 7 保育所保育指針 | 17 保育施設での見学実習 |
| 8 食育 | 18 保育計画・保育日誌・お便り帳等の書き方 |
| 9 職員間のコミュニケーション | 19 児童福祉行政・制度に関する知識 |
| 10 子どもとのコミュニケーション | 20 その他 () |

問47 再就職先を探す際、利用している施設や媒体は何ですか。またはどのような施設や媒体を利用したいですか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 ハローワーク(公共職業安定所) | 7 出身学校・先生による紹介 |
| 2 民間の職業紹介所 | 8 前の職場による紹介 |
| 3 保育施設等のホームページ | 9 派遣会社 |
| 4 求人広告・求人情報誌 | 10 福祉人材センター |
| 5 保育施設等の就職説明会 | 11 その他 () |
| 6 友人・知人による紹介 | |

問48 現在、求職活動をしていますか。(○は1つ)

1 している	2 していない →問48-2にお進みください
--------	------------------------

問48-1 問48で「1 している」と回答した方におうかがいします。求職活動をしているが、就職できない最大の理由は何ですか。(最も大きな理由に○を1つ)

1 賃金・給料が希望と合わない	5 希望する職場が近くにない
2 勤務時間・休日が希望と合わない	6 保育所など子どもの預け先が見つからない
3 保育所の求人情報が得にくい	7 その他 ()
4 自分の技術や能力が求人要件に合わない	

問48-2 問48で「2 していない」と回答した方におうかがいします。就職を希望しているのに求職活動をしていない最大の理由は何ですか。(最も大きな理由に○を1つ)

1 保育所の求人情報が得にくい
2 求職活動の仕方がわからない
3 保育所など子どもの預け先がないので求職活動ができない
4 勤務時間・賃金などが希望に合う仕事がありそうにない
5 自分の知識・能力に合う仕事がありそうにない
6 保育の経験がないことによる不安
7 保育現場から長く離れていることによる不安
8 本人の健康問題
9 家族の健康問題・介護のため
10 その他 ()

問49 すべての方に、おうかがいします。保育士としての就労や労働環境などについてご意見・ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数ですが、調査票は同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、9月20日(金)までに返送してください。

2. 保育施設用調査票

奈良県保育士実態調査へのご協力をお願い

(保育施設用)

日頃より、保育行政の推進に御協力を賜り誠にありがとうございます。

奈良県では、保育所待機児童の解消をはじめ今後も見込まれる保育ニーズの増大に対応するため、保育士資格をお持ちでいながら就労されていない「潜在保育士」の方への再就職や、保育士として就労されている方の職場定着のための支援が重要な課題となっています。

このため、県内の保育施設における保育士の就労状況等を調査することにより、保育士確保対策の参考とすることといたしました。

本調査は、奈良県内の私立保育所、公立保育所及び認可外保育施設を対象に行うものです。

なお、先駆的な取り組みをされている保育所については、調査票回収後にヒアリング調査を予定しております。

皆様にはお忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年9月

奈良県知事 荒井 正吾

(回答の方法)

1. 回答は、本年9月1日現在の状況をご記入ください。
2. 回答は、選択肢の中から当てはまる番号に○を付けてください。質問によっては具体的に数字等をご記入いただく場合がありますので、質問文をよくお読みになりご回答ください。また、回答で「その他」を選ばれた場合は、その内容をカッコ内にできるだけ具体的に書いてください。
3. 回答が終わりましたら、記入漏れや記入間違い等がないか確認し、平成25年9月20日(金)までに、同封の返信用封筒（切手は不要）でご返送ください。

※ご回答いただきました内容は集計し取り扱いますので、貴施設名を公表することは一切ございません。

(調査に関する問い合わせ先)

奈良県 健康福祉部 こども・女性局 子育て支援課 保育・放課後児童対策係
電 話 0742-27-8604

◎貴施設の名称、電話番号等をご記入ください。なお、電話番号は必ず保育所の代表番号をご記入ください。
 ※ヒアリング調査において使用しますのでお手数ですが以下の項目をご記入ください。

貴施設名			
記入者の 職名・氏名		電話番号	() —

問1 貴施設の設置・運営主体の種類などについておうかがいします。

①施設の所在市町村	() 市・町・村	
②施設の種類 (番号に○)	認可保育所 (認定こども園含む)	1 公営 2 公設民営 3 民設民営
	認可外保育施設	4 認可外保育施設 (5～7を除く) 5 事業所内保育施設 (6を除く) 6 院内保育施設 7 へき地保育所 8 その他 ()
③設置主体	1 市町村 2 社会福祉法人 3 宗教法人 4 医療法人	5 株式会社 6 個人 7 その他 ()
④運営主体	1 市町村 2 社会福祉法人 3 宗教法人 4 医療法人	5 株式会社 6 個人 7 その他 ()
⑤設置年月	昭和・平成 () 年 () 月	

問2 貴施設の定員、現員とその内訳についておうかがいします。

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定員	名	名	名	名	名	名	名
現員	名	名	名	名	名	名	名

※現員については、本年4/1現在の年齢区分における9/1現在の人数を記入してください。

貴施設の職員についておうかがいします。

問3 貴施設の職員体制についておうかがいします。各職種別の職員数をご記入ください。

職種	保育士 (資格あり)		保育職員 (資格なし)		保健師・ 看護師		栄養士・ 管理栄養士		調理員		事務職員		その他職員	
	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規	正 規	非 正 規
常勤 (人数)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
非常勤 (人数)	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

※常勤＝一日6時間以上かつ月20日以上

※上記に無い職種は全て「その他職員」に含めてください。ただし、専任所長は記載の必要はありません。

問4 貴施設の正規職員（常勤）である保育士（主任を含む）についておうかがいします。

週あたりの平均的な（時間外労働を含む）実働時間は何時間ですか。（○は1つ）

1 週30時間～40時間未満	3 週50時間～60時間未満
2 週40時間～50時間未満	4 週60時間以上

問5 貴施設における正規職員（常勤）の待遇について、該当する数字をご記入ください。（記入にあたっては、下記の注意書きを参照してください）

※当設問のご回答は、今後、保育所職員の労働条件の向上をはかるための基礎データとして活用させていただきます。趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようお願いいたします。

	(1) 平均年齢 (例：26.5歳)	(2) 勤続年数 (例：10年4か月)	(3) 給与等(年間) (例：538万円)
①初任保育士	/		万円
②保育士（初任・主任を含む）	. 歳	年 か月	万円

注1) ②保育士（初任・主任を含む）には、施設長は除いて記入してください。年齢と勤続年数は平均値をご記入ください。（1）平均年齢は小数点以下第2位を四捨五入してご記入ください。

注2) (2) 勤続年数とは、貴施設を運営する法人等における勤続年数とします。公立保育所の場合は、当該自治体における保育所での勤務経験年数（他保育所での勤務も含む）をお答えください。

注3) 初任保育士の（3）給与等については、貴施設の給与表にある短大卒新任保育士の額を用いて、およその年間額をお答えください。

注4) ②保育士（初任・主任を含む）の（3）給与等は、賞与を含む昨年の給与支給総額を計算してください。なお、社会保険料、所得税等の控除前の額となります。

問6 貴施設の非正規職員（常勤）についておうかがいします。

問6-1 雇用形態が非正規（常勤）である保育士（資格あり）を配置していますか。（○は1つ）

1 配置している	2 配置していない --> 問7へ
----------	-------------------

問6-2 問6-1で「1. 配置している」と回答した方におうかがいします。

貴施設に勤める非正規職員のうち、保育士資格を持つ保育士について、雇用形態別に(1)平均年齢、(2)勤続年数、(3)給与等をお答えください。（数字は小数点以下第1位を四捨五入して記入してください。）※なお、回答にあたっては問5の注）を参考にしてください。

	(1) 平均年齢 (例：26.5歳)	(2) 勤続年数 (例：10年4か月)	(3) 給与等(年間) (例：538万円)
①直接契約 パート・アルバイト・ 契約職員・嘱託職員	. 歳	年 か月	万円
②間接契約 派遣職員	. 歳	年 か月	

保育職員の職場定着に向けた取組状況についておうかがいします。

問7 貴施設で、昨年度中に自己都合で退職した保育士がいる場合、人数をご記入ください。

1 正規	人	2 非正規	人 (うち常勤 人・うち非常勤 人)
------	---	-------	--------------------

問8 貴施設で、現在、保育士の職場定着のために取り組んでいることは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

問9 貴施設で、今後、保育士の職場定着のために取り組みたいと思うことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

- 1 給与水準の引き上げ
- 2 給与体系の構築
- 3 労働時間の短縮
- 4 休暇を取得しやすい環境の整備
- 5 職員の子育て支援体制の充実
- 6 キャリアアップの仕組みの構築
- 7 施設外研修受講環境の改善
- 8 施設内研修内容の充実
- 9 作成書類の軽減、事務作業の効率化
- 10 福利厚生 of 充実
- 11 腰痛対策
- 12 メンタルヘルス対策
- 13 パワーハラスメント防止策の充実
- 14 セクシャルハラスメント防止策の充実
- 15 相談窓口の設置
- 16 社会的な評価の向上
- 17 職場のなごやかな雰囲気づくり
- 18 職員間のミーティングの充実
- 19 その他 ()
- 20 特にない

- 1 給与水準の引き上げ
- 2 給与体系の構築
- 3 労働時間の短縮
- 4 休暇を取得しやすい環境の整備
- 5 職員の子育て支援体制の充実
- 6 キャリアアップの仕組みの構築
- 7 施設外研修受講環境の改善
- 8 施設内研修内容の充実
- 9 作成書類の軽減、事務作業の効率化
- 10 福利厚生 of 充実
- 11 腰痛対策
- 12 メンタルヘルス対策
- 13 パワーハラスメント防止策の充実
- 14 セクシャルハラスメント防止策の充実
- 15 相談窓口の設置
- 16 社会的な評価の向上
- 17 職場のなごやかな雰囲気づくり
- 18 職員間のミーティングの充実
- 19 その他 ()
- 20 特にない

問10 貴施設において、保育士を安定的に雇用していくために望む公的支援は何ですか。(〇はあてはまるもの5つまで)

1 職員の給与改善に関する公的支援の充実	8 教育・研修制度の充実
2 非正規から正規への雇用を安定的に継続する	9 相談支援体制の充実
3 正規と非正規の均衡(均等)待遇の促進	10 技術・技能評価制度の整備
4 社会保険・雇用保険の事業主負担の軽減	11 保育士の社会的評価を高める取り組み
5 保育士の人材バンクの充実	12 助成金や法令等のPR・解説の充実
6 保育・介護サービスなどの福祉制度の充実	13 その他()
7 教育訓練に関する助成金制度の充実	

保育士の確保に向けた採用の状況についておうかがいします。

問11 昨年度の(1)「新卒」及び(2)「新卒以外」の採用状況について、該当する数字をご記入ください。(記入にあたっては、下記の注意書きを参照してください。)

	採用予定数		(1) 新卒			(2) 新卒以外
			採用数	うち県内養成施設	うち県外養成施設	採用数
正 規	人		人	人	人	人
非正規	常 勤	人	人	人	人	人
	非常勤	人	人	人	人	人
計	人		人	人	人	人

注1) 採用予定数について、あらかじめ正規・非正規の内訳が無い場合は、計のみご記入ください。

注2) (1)「新卒」は、保育士養成施設からの4月採用のみについてご記入ください。

注3) (2)「新卒以外」は、上記以外の全てについてご記入ください。(例として、4月における既卒者の採用や年度途中における新卒者の採用等)

問11-1 昨年度、貴施設において、(1)「採用したかった区分」及び(2)その「理由」について、選択肢より1つだけ選び記入してください。

(1)「採用したかった区分」 (〇は1つ)

1 新卒の正規	2 新卒の非正規(常勤)	3 新卒の非正規(非常勤)
4 新卒以外の正規	5 新卒以外の非正規(常勤)	6 新卒以外の非正規(非常勤)

(2) その「理由」 (〇は1つ)

1 経営上、合理的だから(賃金水準、雇用形態・条件等)
2 長期間就業してほしいから
3 保育を含め様々な経験や知識を備えているから
4 子どもの希望や保護者の意向に合うと考えられるから
5 その他()

問11-2 昨年度の採用において、募集に対する応募が、「なかった」または、「募集より応募が少なかった」場合があれば、選択肢より選び記入してください。(○はあてはまるものすべて)

1 新卒の正規	2 新卒の非正規 (常勤)	3 新卒の非正規 (非常勤)
4 新卒以外の正規	5 新卒以外の非正規 (常勤)	6 新卒以外の非正規 (非常勤)

問12 どのようなスタッフを求めているかについて、選択肢より3つまで選び記入してください。

(1) 新卒での採用 () () ()

(2) 新卒以外での採用 () () ()

1 常勤スタッフ	4 正規職員の休業代替スタッフ (例:産休、病休)
2 早番・遅番ができるスタッフ	5 担任補助・加配
3 正規職員の休暇代替スタッフ	6 その他 ()

問12-1 採用する保育士に求める技術・知識についておうかがいします。(○は3つまで)

1 保育士としての基本的な実務経験	7 最近の子育て事情
2 熟練した実務経験	8 パソコンの基本的な操作
3 施設管理経験	9 社会性・一般常識
4 乳児保育の経験	10 コミュニケーション能力
5 集団保育の経験	11 その他 ()
6 保育に関する幅広い知識・実技能	12 施設内で養成するため何も求めない

問12-2 新卒以外で採用した保育士の経験についてお答えください。(○はあてはまるものすべて)

1 保育士経験者 (実務経験年数を下記から選んでください)						
<table border="1" style="border-style: dashed;"> <tr> <td>1 1年未満</td> <td>2 1～3年未満</td> <td>3 3～5年未満</td> </tr> <tr> <td>4 5～10年未満</td> <td>5 10年以上</td> <td></td> </tr> </table>	1 1年未満	2 1～3年未満	3 3～5年未満	4 5～10年未満	5 10年以上	
1 1年未満	2 1～3年未満	3 3～5年未満				
4 5～10年未満	5 10年以上					
2 保育士未経験者						
3 子育て経験者						
4 一般企業経験者						
5 保育・教育関係の職業経験者 (ベビーシッター、小学校教諭など)						
6 職務経験がない						
7 その他 ()						

問12-3 採用に至らない方、あるいは採用するには心配な方はどんな方ですか。(○は3つまで)

1 保育士としての基本的な実務経験がない	7 最近の子育て事情を知らない
2 熟練した実務経験がない	8 パソコンの基本的な操作ができない
3 施設管理経験がない	9 社会性・一般常識がない
4 乳児保育の経験がない	10 コミュニケーション能力がない
5 集団保育の経験がない	11 その他
6 保育に関する幅広い知識・実技能がない	()

- 問12-4 (1) 実施している求人手段をお答えください。(○はあてはまるものすべて)
 (2) その効果について4段階で評価してください。(○はそれぞれ1つつ)

	(1) 実施して いるもの	(2) 効果に対する評価			
		高い	やや 高い	やや 低い	低い
①ハローワーク	1 →	1	2	3	4
②求人広告(媒体名:)	2 →	1	2	3	4
③県内の保育士養成施設への求人	3 →	1	2	3	4
④県外の保育士養成施設への求人	4 →	1	2	3	4
⑤自施設・自社の掲示板またはHP	5 →	1	2	3	4
⑥人材派遣・紹介会社に依頼	6 →	1	2	3	4
⑦就職説明会	7 →	1	2	3	4
⑧友人・知人の紹介	8 →	1	2	3	4
⑨退職した職員への情報提供	9 →	1	2	3	4
⑩その他 ()	10 →	1	2	3	4

- 問12-5 現在、保育士の採用に困難を感じていますか。(○は1つ)
 その理由はどんなことですか。

1 はい (理由:) 2 いいえ

潜在保育士(※)についておうかがいします。

※本調査では、保育士資格を有していながら、連続した5年以上の期間にわたり保育士として勤務していない方(就労経験の無い方を含む)を「潜在保育士」として扱います。

- 問13 貴施設において、直近の3年間(平成22年4月以降、現在まで)で潜在保育士を雇用したケースがありますか。(○は1つ)

1 はい----▶問13-1へ 2 いいえ----▶問14へ

問13で「1. はい」と回答した施設におうかがいします。

雇用した潜在保育士に関し具体的にお答えください。なお、複数名いる場合は直近の方に関してお答えください。

- 問13-1 雇用した潜在保育士の雇用形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 正職員(「短時間正職員」を除く) 4 嘱託
2 短時間正職員 5 派遣社員
3 パート・アルバイト 6 その他()

問13-2 雇用した潜在保育士は次のうちどのスタッフですか。(○は1つ)

1 保育スタッフ (担任)	4 職員の休日代替スタッフ
2 保育スタッフ (担任以外)	5 その他 ()
3 早番・遅番スタッフ	

問13-3 性別についてお答えください。(○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

問13-4 年代についてお答えください。(○は1つ)

1 20歳代	4 50歳代
2 30歳代	5 60歳代
3 40歳代	6 それ以上

問13-5 雇用した潜在保育士の実務経験等についてお答えください。(○はあてはまるものすべて)

1 保育士経験者 (実務経験年数を下記から選んでください)		
↳ 1 1年未満	2 1～3年未満	3 3～5年未満
4 5～10年未満	5 10年以上	
2 保育士未経験者		
3 子育て経験者		
4 一般企業経験者		
5 保育・教育関係の職業経験者 (ベビーシッター、小学校教諭など)		
6 職務経験がない		
7 その他 ()		

問13-6 潜在保育士の雇用の際、工夫したことはありますか。(○はあてはまるものすべて)

【雇用条件】	1 給与の引き上げ
	2 勤務時間の対応 (短時間勤務、残業時間の短縮、隔日勤務等)
	3 雇用形態の対応 (パート・アルバイト等希望の雇用形態での採用等)
	4 再雇用制度 (退職者が一定の条件を満たせば復職を認める制度) の整備
	5 その他 ()
【職場環境】	6 就業のための実務研修制度
	7 人間関係 (例: 潜在保育士への積極的サポート)
	8 相談窓口の設置
	9 キャリアアップの仕組み
	10 事務作業の効率化
	11 その他 ()

→問15へお進みください。

問14 問13で「2.いいえ」と回答した施設におうかがいします。

雇用しない（またはできない）理由は何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 人員が足りている |
| 2 | 経営的な余裕がない |
| 3 | 施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない --> 問14-1へ |
| 4 | 保育士雇用へ向けた財政支援（補助金）がない |
| 5 | 求人したいがノウハウがない |
| 6 | その他（) |

問14-1 問14で「3 施設の雇用条件、形態等と応募者の希望とがマッチしない」と回答した施設におうかがいします。

雇用するにあたって障害となっているものは何ですか。（○は3つまで）

- | | | |
|---------------|----|----------------------------------|
| 【雇用条件】 | 1 | 給与の水準 |
| | 2 | 勤務時間の対応（短時間勤務、残業時間の短縮、隔日勤務等） |
| | 3 | 雇用形態の対応（パート・アルバイト等希望の雇用形態での採用等） |
| | 4 | 再雇用制度（退職者が一定の条件を満たせば復職を認める制度）の整備 |
| | 5 | その他（) |
| 【職場環境】 | 6 | 就業のための実務研修制度 |
| | 7 | 人間関係（例：潜在保育士への積極的サポート） |
| | 8 | 相談窓口の設置 |
| | 9 | キャリアアップの仕組み |
| | 10 | 事務作業の効率化 |
| | 11 | その他（) |

→問15へお進みください。

すべての施設におうかがいします。

問15 今後、潜在保育士を雇用するにあたって、効果があると思われる取組についてお答えください。
（○は3つまで）

- | | | |
|---------------|----|----------------------------------|
| 【雇用条件】 | 1 | 給与の引き上げ |
| | 2 | 勤務時間の対応（短時間勤務、残業時間の短縮、隔日勤務等） |
| | 3 | 雇用形態の対応（パート・アルバイト等希望の雇用形態での採用等） |
| | 4 | 再雇用制度（退職者が一定の条件を満たせば復職を認める制度）の整備 |
| | 5 | その他（) |
| 【職場環境】 | 6 | 就業のための実務研修制度 |
| | 7 | 人間関係（例：潜在保育士への積極的サポート） |
| | 8 | 相談窓口の設置 |
| | 9 | キャリアアップの仕組み |
| | 10 | 事務作業の効率化 |
| | 11 | その他（) |

問16 今後、保育士の雇用に関する支援でどのようなものを求めますか。(〇は3つまで)

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 潜在保育士の再就職に向けた研修の実施 -----▶ 問16-1へ |
| 2 | 再就職意向のある方を対象にした就職相談会の実施 |
| 3 | 潜在保育士に登録してもらい、県内の保育所に斡旋する仕組み(人材バンク) |
| 4 | 潜在保育士の再就職を支援するコーディネーターの配置 |
| 5 | ファミリーサポート利用促進 |
| 6 | 常勤職員条件の緩和(ワークシェアでの常勤職員カウント) |
| 7 | その他() |

問16-1 問16で「1 潜在保育士の再就職に向けた研修の実施」と回答した施設におうかがいします。
潜在保育士を現場に受け入れる際に、受けさせたい研修をお選びください。(〇は5つまで)

- | | | | |
|----|----------------|----|---------------------|
| 1 | 保育実技 | 11 | 保護者とのコミュニケーション |
| 2 | 事故防止・安全対策 | 12 | 児童の家族への支援について |
| 3 | 救命救急 | 13 | 面接準備 |
| 4 | 小児保健 | 14 | 社会人としてのマナー |
| 5 | 衛生管理 | 15 | クレーム対応 |
| 6 | 発達心理学 | 16 | ITに関する知識・技術 |
| 7 | 保育所保育指針 | 17 | 保育施設での見学実習 |
| 8 | 食育 | 18 | 保育計画・保育日誌・お便り帳等の書き方 |
| 9 | 職員間のコミュニケーション | 19 | 児童福祉行政・制度に関する知識 |
| 10 | 子どもとのコミュニケーション | 20 | その他() |

問17 潜在保育士を雇用することによるメリットは何だと思えますか。

① 潜在保育士が持つ特性では(〇は3つまで)

- | | | | |
|---|----------------|---|-------------------|
| 1 | 保育士経験がある | 5 | モラルと倫理をわかまえている |
| 2 | 他業種での社会人経験がある | 6 | コミュニケーション能力に長けている |
| 3 | 子育て経験がある | 7 | その他() |
| 4 | 社会性と一般常識に優れている | | |

② 施設に与える影響では(〇は3つまで)

- | | | | |
|---|-------------|---|------------|
| 1 | 即戦力として期待できる | 4 | 経営効率が上がる |
| 2 | シフトが組みやすくなる | 5 | 施設の雰囲気が変わる |
| 3 | 保育の質が向上する | 6 | その他() |

3. 保育士養成施設用調査票

アンケート調査（施設用）

奈良県では、今後の保育士の確保や資質の向上のための施策を検討する参考とさせていただくため、以下のアンケートを実施します。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

平成25年10月 奈良県子ども・女性局子育て支援課

TEL 0742-27-8604

問1 貴校より認可保育所に就職した学生の内訳（県内・県外）について人数をご記入ください。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
県内保育所	人	人	人
県外保育所	人	人	人
合計	人	人	人

問2 貴校で学生に対し実施している就職支援策について、あてはまるもの全てに○をつけてください。（ ）には該当する数字、内容をご記入ください。

1 早い時期での個別のキャリアガイダンス

2 現場見学会

3 インターンシップ（学外実習）

4 就職フェア

参加保育所数：県内（ ）か所 県外（ ）か所

5 その他（ ）

問3 卒業生に対する就職支援策について、あてはまるもの一つに○をつけてください。

1 実施している 2 実施する予定（H 年 月 頃～） 3 実施予定なし

※1 または2の場合の具体的内容

問4 保育士としての就労や労働環境について、県に期待する施策も含め、ご意見・ご提案などご自由にご記入ください。

--

(2) 問3(1)が解消された場合には保育士としての就職を希望しますか。(どれか一つ)

1 希望する

2 希望しない

3 どちらともいえない

問4 保育士の就労や労働環境についてご意見・ご提案などご自由にご記入ください。

奈良県保育士実態調査等報告書

平成26年 3月

編集・発行 奈良県健康福祉部こども・女性局
子育て支援課

〒630-8501 奈良市登大路町30
電話 0742-27-8604